

平成24年度

大学院生による授業評価結果報告書
(前期分)

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
9	教職共通科目	30031000	学校教育の人間形成的役割	木内 陽一、山崎 勝之、皆川 直凡
10	教職共通科目	30031000	学校教育の人間形成的役割(夜間開講)	木内 陽一、山崎 勝之、皆川 直凡
11	教職共通科目	30032100	現代の諸課題と学校教育 I	小西 正雄
12	教職共通科目	30033000	子ども理解と生徒指導	小倉 正義、葛西 真記子、吉井 健治
13	教職共通科目	30034000	子どもの発達支援	田村 隆宏、島田 恭仁、津田 芳見、 塩路 晶子、木村 直子
14	人間形成	30111000	人間形成文化史研究	梶井 一暁
15	人間形成	30113000	教育哲学研究	木内 陽一
16	人間形成	30116000	発達健康心理学研究	山崎 勝之
17	人間形成	30120000	比較教育社会学研究	伴 恒信
18	幼年発達支援	30513000	幼年期福祉研究	木村 直子
19	幼年発達支援	30513000	幼年期福祉研究(夜間開講)	木村 直子
20	幼年発達支援	30518000	幼年発達心理研究	田村 隆宏
21	幼年発達支援	30522000	幼年期教育学研究	湯地 宏樹
22	幼年発達支援	30524000	幼年発達と幼児教育内容論	塩路 晶子
23	現代教育課題総合	30637000	文化間教育総論	小西 正雄、太田 直也
24	現代教育課題総合	30638000	文化間教育演習 I (基礎研究)	小西 正雄
25	現代教育課題総合	30639000	文化間教育演習 II (地域研究)	太田 直也
26	現代教育課題総合	30643100	情報教育総論	谷村 千絵、藤村 裕一
27	現代教育課題総合	30646100	情報教育特論Ⅲ (実践論)	谷村 千絵、藤村 裕一
28	現代教育課題総合	30647100	環境教育総論	田村 和之、近森 憲助

頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
29	現代教育課題総合	30649100	環境教育特論Ⅱ（授業開発）	田村 和之、近森 憲助
30	現代教育課題総合	30652000	現代の子どもと学校教育	谷村 千絵
31	臨床心理士養成	30424000	臨床心理学研究Ⅰ	吉井 健治
32	臨床心理士養成	30425000	臨床心理学研究Ⅱ	葛西 真記子
33	臨床心理士養成	30432000	学校精神保健学研究	今田 雄三
34	臨床心理士養成	30433000	臨床心理査定演習Ⅰ	久米 禎子、佐藤 亨、今田 雄三、 粟飯原 良造、中津 郁子、吉井 健治、 小倉 正義、新見 員子
35	臨床心理士養成	30444000	臨床心理学研究法特論(前期集中分)	田中 秀紀
36	臨床心理士養成	30446000	臨床心理面接演習	中津 郁子、粟飯原 良造、今田 雄三、 葛西 真記子、吉井 健治、小倉 正義
37	臨床心理士養成	30449000	社会心理学研究	佐藤 健二
38	臨床心理士養成	30452000	心理臨床特別研究	後藤 秀爾
39	特別支援教育	31150000	特別支援教育コーディネーター概論	井上 とも子
40	特別支援教育	31153000	特別支援教育コーディネーター実地教育	井上 とも子
41	特別支援教育	31160000	特別支援教育学研究論Ⅰ	八幡 ゆかり
42	特別支援教育	31161000	特別支援教育学研究論Ⅱ	大谷 博俊
43	特別支援教育	31164000	特別支援教育臨床心理学研究論	高原 光恵
44	特別支援教育	31166000	特別支援教育学習心理学研究論	島田 恭仁
45	特別支援教育	31168000	発達障害児病理・病態生理学研究	田中 淳一
46	特別支援教育	31171000	発達障害児生理・発達学研究	津田 芳見
47	言語系	32138000	言語教育基礎論Ⅰ	原 卓志、茂木 俊伸
48	言語系	32140000	日本語Ⅰ	永田 良太

頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
49	言語系	32141000	日本語Ⅱ	妹尾 春子
50	言語系	32144000	日本古典語研究	原 卓志
51	言語系	32146000	現代日本語研究	茂木 俊伸
52	言語系	32148000	日本文学研究Ⅰ	野口 哲也
53	言語系	32150000	日本文学研究Ⅱ	小島 明子
54	言語系	32154000	社会言語学研究	ロング ダニエル
55	言語系	32155000	対照言語学研究	山川 太
56	言語系	32156000	日本語文法研究	永田 良太
57	言語系	32161000	日本語音声表現研究	永田 良太
58	言語系	32175000	国語科授業研究	幾田 伸司
59	言語系	32179000	国語科教材開発研究	余郷 裕次
60	言語系	32216000	英米文化研究Ⅱ（現代文化研究）	前田 一平
61	言語系	32220000	英米文学応用演習Ⅱ	太田 直也
62	言語系	32224000	言語教育基礎論Ⅱ	藪下 克彦、眞野 美穂
63	言語系	32226000	英語学研究Ⅰ（英文法理論）	藪下 克彦
64	言語系	32227000	英語学研究Ⅱ（言語表現）	眞野 美穂
65	言語系	32228000	英米文化研究Ⅰ（文化史）	杉浦 裕子
66	言語系	32276000	英語科教育特論Ⅰ	伊東 治己
67	言語系	32277000	英語科教育特論Ⅱ	山森 直人
68	言語系	32278000	英語科教育特論Ⅲ	畑江 美佳

頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
69	社会系	33158300	歴史学研究Ⅱ	町田 哲
70	社会系	33158500	歴史学研究Ⅲ	原田 昌博
71	社会系	33158700	地理学研究Ⅰ	木原 克司
72	社会系	33158800	地理学演習Ⅰ	木原 克司
73	社会系	33159300	法学・政治学研究	麻生 多聞
74	社会系	33171000	社会科教育学研究	梅津 正美
75	社会系	33177000	現代の諸課題と社会認識教育	井上 奈穂
76	社会系	33179000	社会科教材開発演習Ⅱ（歴史領域）	梅津 正美
77	自然系	34123000	数理科学研究	宮口 智成
78	自然系	34124000	数理科学演習	宮口 智成
79	自然系	34125000	代数学研究	平野 康之
80	自然系	34126000	代数学演習	平野 康之
81	自然系	34172000	数学科教育学研究	服部 勝憲
82	自然系	34175000	数学科教材開発研究	秋田 美代
83	自然系	34212000	エネルギー・物質と環境特論	粟田 高明
84	自然系	34217000	有機化学特論	胸組 虎胤
85	自然系	34228500	宇宙科学特論	西村 宏
86	自然系	34230000	地球科学特論Ⅱ	村田 守、香西 武
87	自然系	34233000	地質学・古生物学特論	香西 武、村田 守、小澤 大成
88	芸術系	35112000	音楽劇総合演習	草下 實

頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
89	芸術系	35113000	声楽発声法	頃安 利秀
90	芸術系	35115000	ピアノ演奏基礎演習	森 正、田中 巳穂
91	芸術系	35116000	学校教材ピアノ伴奏法	森 正
92	芸術系	35117000	ピアノ演奏法	森 正
93	芸術系	35120000	管弦打楽器総合演習	山根 秀憲
94	芸術系	35129000	管弦打楽器演奏基礎	山根 秀憲
95	芸術系	35130000	指揮法基礎演習	山田 啓明
96	芸術系	35131000	楽曲分析研究	松岡 貴史
97	芸術系	35171000	音楽教育史研究	長島 真人
98	芸術系	35172000	音楽科教育研究	長島 真人
99	芸術系	35174000	音楽科授業演習	宮下 俊也
100	芸術系	35211000	絵画制作研究	鈴木 久人
101	芸術系	35214000	版画制作演習	武市 勝
102	芸術系	35217000	石彫制作演習	野崎 窮
103	芸術系	35222000	陶芸制作演習	栗原 慶
104	芸術系	35224000	総合造形研究	池垣 禎彦
105	芸術系	35227000	芸術学研究	小川 勝
106	芸術系	35273000	美術科授業研究	山木 朝彦
107	芸術系	35274000	美術科教材開発研究	山田 芳明
108	芸術系	35276000	美術科教育研究法演習	山木 朝彦、山田 芳明

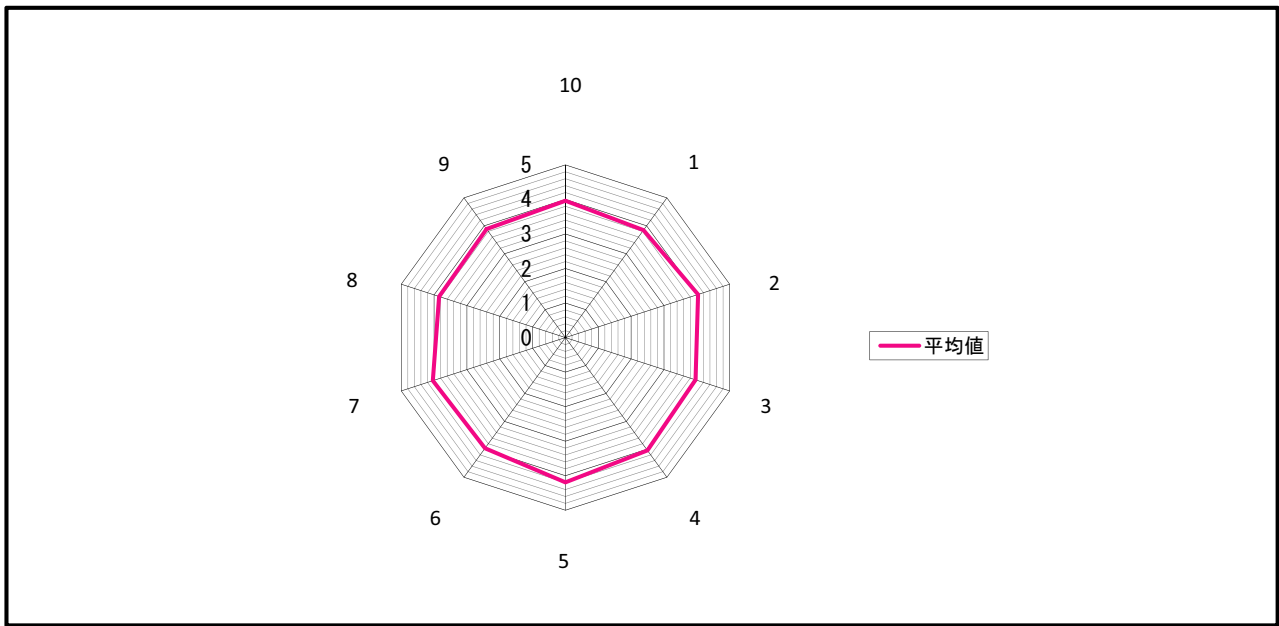
頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
109	生活・健康系	36115000	スポーツ社会学研究	木原 資裕
110	生活・健康系	36117000	学校体育経営研究	藤田 雅文
111	生活・健康系	36119000	体育・スポーツ心理学研究	賀川 昌明
112	生活・健康系	36121000	運動学研究	乾 信之
113	生活・健康系	36123000	スポーツ・バイオメカニクス研究	松井 敦典
114	生活・健康系	36125000	スポーツ・トレーニング研究	南 隆尚
115	生活・健康系	36129000	学校保健学研究	吉本 佐雅子
116	生活・健康系	36131000	健康科学研究	廣瀬 政雄
117	生活・健康系	36133000	運動生理学研究	田中 弘之
118	生活・健康系	36171000	保健体育科教育学研究	梅野 圭史
119	生活・健康系	36211000	情報処理研究	菊地 章
120	生活・健康系	36215000	コンピュータ科学研究	宮本 賢治
121	生活・健康系	36219000	機械工学研究	宮下 晃一
122	生活・健康系	36221000	材料及び加工学研究	米延 仁志
123	生活・健康系	36222000	材料及び加工学演習	米延 仁志
124	生活・健康系	36224000	情報科学研究	伊藤 陽介
125	生活・健康系	36227000	信号情報処理研究	菊地 章
126	生活・健康系	36231000	シミュレーション研究	高曾 徹
127	生活・健康系	36232100	計算力学研究	畑中 伸夫
128	生活・健康系	36232100	計算力学演習	畑中 伸夫

頁数	科目区分	科目コード	科目	担当教員名
129	生活・健康系	36235000	木質材料加工法演習	米延 仁志、尾崎 士郎
130	生活・健康系	36271000	技術科教育研究	尾崎 士郎、宮下 晃一
131	生活・健康系	36278000	教育と情報活用	益子 典文
132	生活・健康系	36311000	家族・ジェンダー研究	黒川 衣代
133	生活・健康系	36315000	衣生活学研究	福井 典代
134	生活・健康系	36317000	食生活学研究	前田 英雄、西川 和孝
135	生活・健康系	36319000	住生活学研究	金 貞均
136	生活・健康系	36371000	家庭科教育学研究	速水 多佳子
137	国際教育	37130000	国際教育人間論	近森 憲助、石村 雅雄、小澤 大成、 石坂 広樹
138	国際教育	37133000	教育研究・調査	石坂 広樹、小澤 大成
139	国際教育	37181000	国際理解教育特論 I	近森 憲助、小澤 大成
140	国際教育	37184000	国際教育総合セミナー I	近森 憲助、石村 雅雄、小澤 大成、 石坂 広樹
141	国際教育	37136000	国際教育協力研究	石坂 広樹
142	国際教育	37136000	国際教育協力演習	石坂 広樹、近森 憲助

結果報告書

授業科目名 学校教育の人間形成的役割
 評価実施日 平成24年7月18日
 担当教員名 木内 陽一, 山崎 勝之, 皆川 直凡 回答者数 26 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	13	5	1	1	3.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	9	8			4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	9	6	2		4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	9	6		1	4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	13	7	5		1	4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	8	8	1		4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	9	5	2		4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	7	7	3		3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	7	6	2	1	3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	8	8	1		4.0



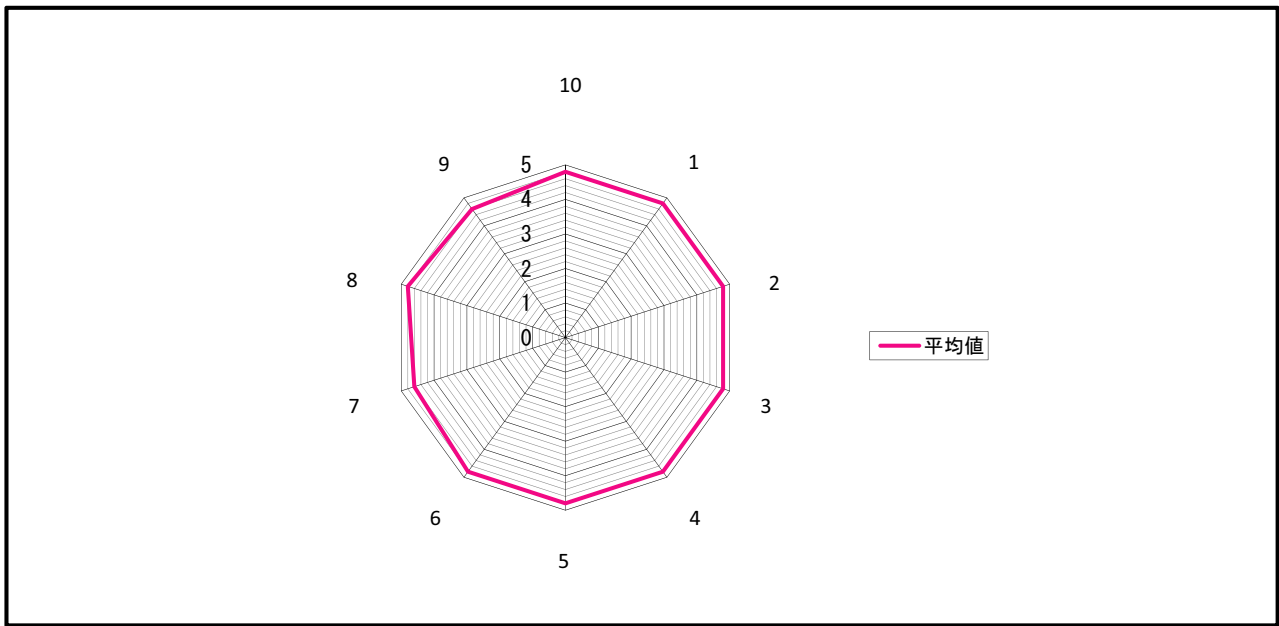
教員のコメント

アンケートの結果は、授業の評価に大きなばらつきがあることを示していると受け止めた。これは、オムニバス形式の授業の長所と短所、そして、受講生の多岐にわたる問題関心に対応する難しさを示していると考えられる。
 第一の点であるが、教員3人で担当するオムニバス形式では、一人5回程度の担当となる。
 記述内容を見ると、さまざまな事を学べる、と言った肯定的な意見が多い半面、更に突っ込んだ詳しい内容を知りたいという要望も出されている。
 次に第二の点であるが、とくに心理学の立場からの教育実践に対するアプローチに高い評価と関心が寄せられているが、授業に対し、特段のコメントもない受講生も多い。
 後者の受講生の場合、おそらくは、自分の問題意識と交わる点が、ほとんどなかったのではないかと危惧する。
 今後、オムニバス形式の授業は続行するが、受講生の問題関心に対応できるような授業になるように努力したいと思う。

結果報告書

授業科目名 学校教育の人間形成的役割(夜間開講)
 評価実施日 平成24年7月18日
 担当教員名 木内 陽一, 山崎 勝之, 皆川 直凡 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4		1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

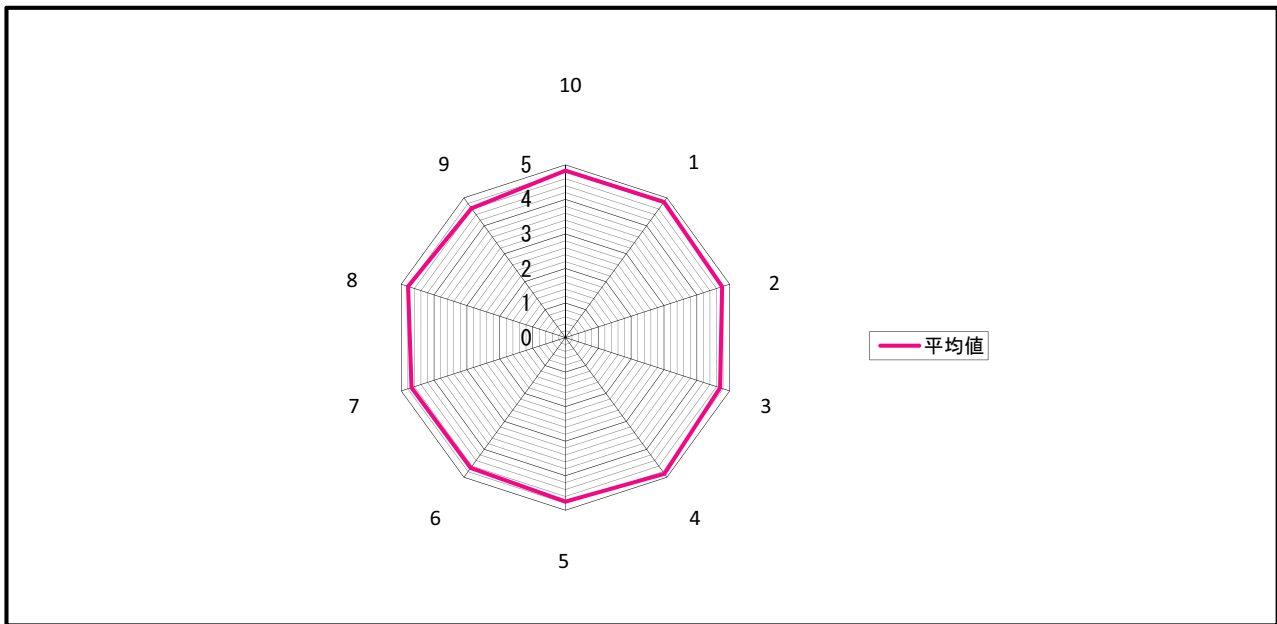
夜間の授業では、5名の極めて熱心な受講生を迎えた。
 明確な問題意識、強い学習意欲と積極性は、授業者にとっても印象的で、大学院生を教える喜びを感じさせた。
 受講者側からの評価を見ても、極めて高い評価をしており、授業に十分満足していただいているのが見て取れる。
 アンケートの記述内容を見ると、ディスカッションを取り入れて、日々の実践と大学での授業内容を結び付けることができ、学びの喜びが記されている。また、本学の昼夜開講制自体に対する高い評価もなされている。さらには、この授業を前期(I)、後期(II)として、通年の開講の要望まで出されている。
 夜間の受講生5人にとって、本講義が十分満足できるものであったことを、担当教員一同喜びたいと思う。

結果報告書

授業科目名 現代の諸課題と学校教育 I
 評価実施日 平成24年7月31日
 担当教員名 小西 正雄

回答者数 48 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	41	7				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	40	5	3			4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	38	6	4			4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	43	4	1			4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	38	8	2			4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	35	10	3			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	36	9	3			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	40	6	2			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	35	8	5			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	40	8				4.8



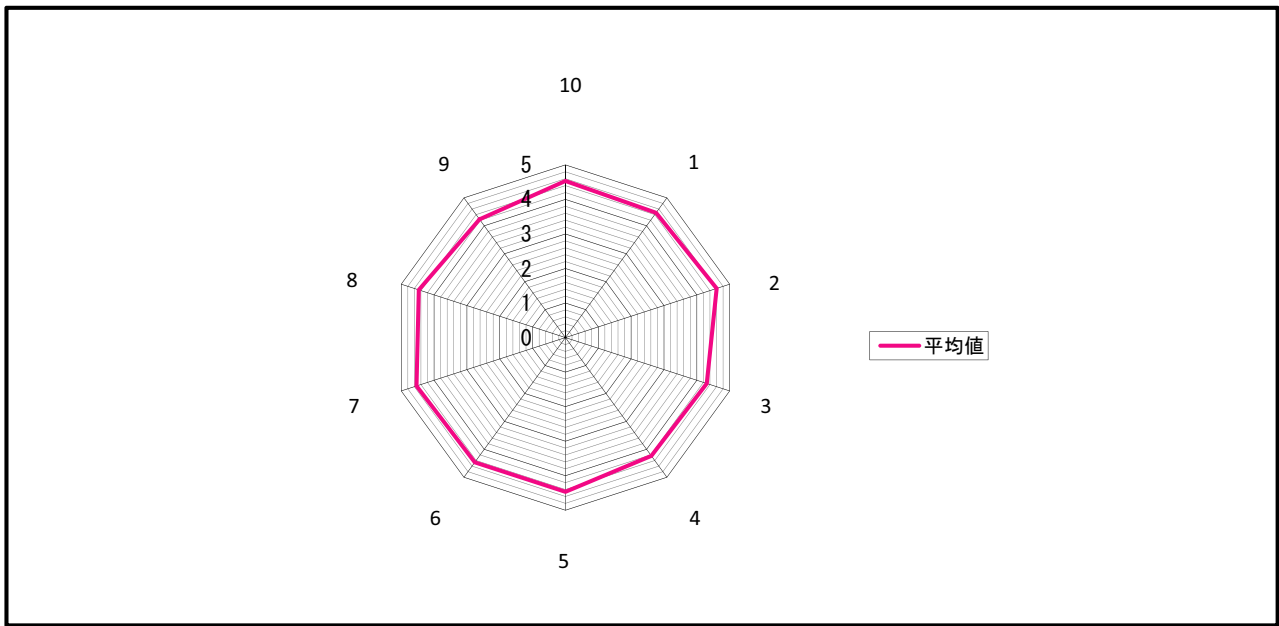
教員のコメント

例年以上に好評価を得ることができた。講義内容についても長年の試行錯誤を経て、ほぼ過不足ないようなものに仕上がってきたし、ハンドルネーム方式や評価方法などの進め方についてもほぼ完成形に至ったと考えている。試験を2回、レポートも2回だったが、受講生から「評価機会が多かったのでよかった」という声もあった。一発勝負のレポートで評価が決まるケースが多いが、学生にとってはリスク軽減のためには評価機会を増やすのもむしろ歓迎されることかもしれない。
 なお、この内容、形式の授業は今年度で終了。来年度は従前とは異なる内容、形式で実施せざるを得ず、周到に準備はしたいとは考えているが来年度はかなり厳しい授業評価結果となるであろうことは目に見えている。

結果報告書

授業科目名 子ども理解と生徒指導
 評価実施日 平成24年7月25日
 担当教員名 小倉 正義, 葛西 真記子, 吉井 健治 回答者数 43 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	22	19	2			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	26	17				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	18	21	3	1		4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	18	17	8			4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	24	15	4			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	23	17	3			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	24	18	1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	25	13	5			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	18	18	6	1		4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	25	16	2			4.5



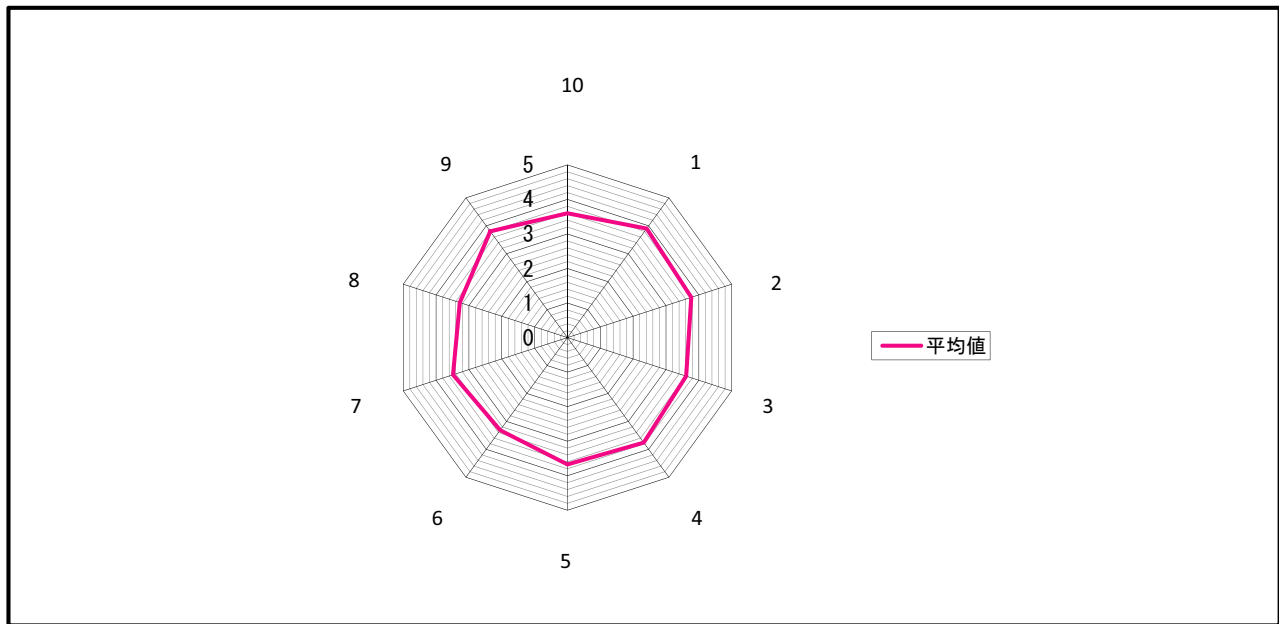
教員のコメント

自由記述等でも書かれていたように、複数の教員がそれぞれの視点から講義を行うことで、内容に深まりをつくることができたのではないかと考えています。このような複数の教員で講義を担当することのメリットを最大限に活かしつつ、教員間での連携をより密にして、さらに内容の充実に取り組んでいきたいと思えます。また、主体的に取り組めたかどうかのところの評価がやや低い学生が多いことを踏まえ、より主体的に取り組むことができるように授業内容や指導方法を工夫する必要性を感じました。

結果報告書

授業科目名 子どもの発達支援
 評価実施日 平成24年7月24日
 担当教員名 田村 隆宏, 島田 恭仁, 津田 芳見, 塩路 晶子, 木村 直子 回答者数 162 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	41	78	32	8	3	3.9	
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	46	58	37	17	4	3.8	
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	34	59	41	18	6	4	3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	40	64	43	9	6	3.8	
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	33	71	37	14	7	3.7	
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	26	51	46	26	13	3.3	
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	26	62	43	24	6	1	3.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	26	45	52	26	13	3.3	
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	43	62	41	14	2	3.8	
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	33	65	35	24	5	3.6	



教員のコメント

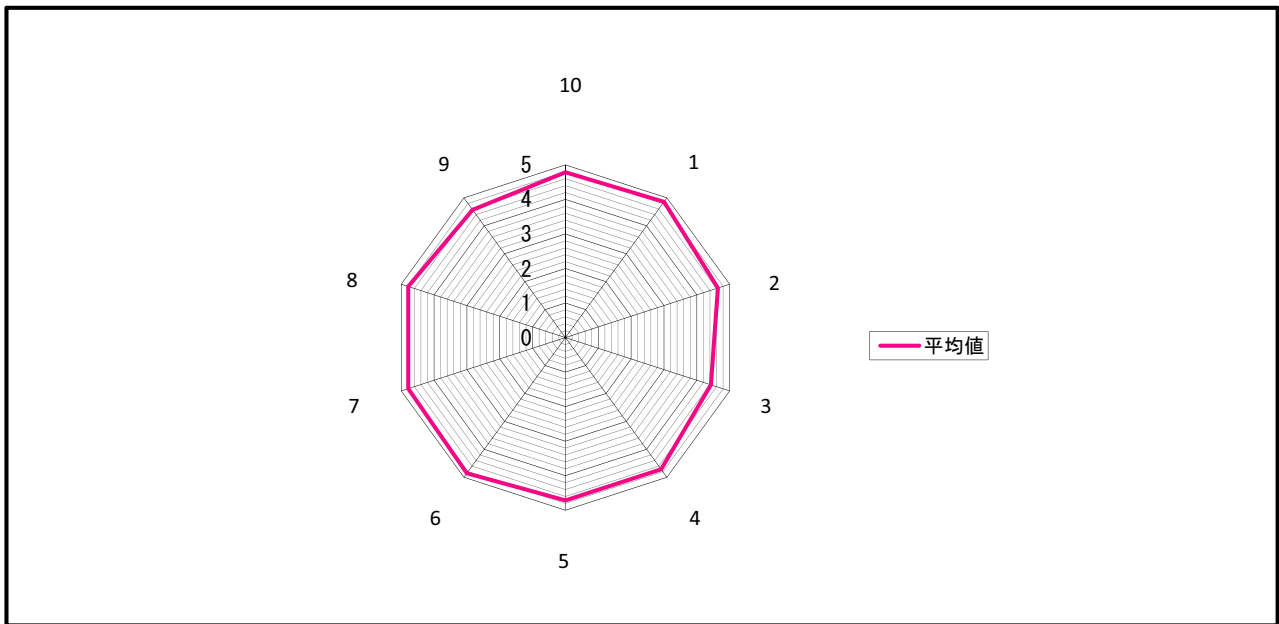
すべての質問項目で中央値の3を超えていたことから、学生からの評価は概ね肯定的であったことが示唆される。ただし、平均値が最も低い数値を示した「(6)受講生に分かりやすく説明した」「(7)教科書や配布された資料は、適切であった」「(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった」については、最低評価である1と評定した者が10名を超えている項目もある。今後の講義では、特に受講生に対するよりわかりやすい説明を心がける必要がある。また、講義の内容に対応した適切な教科書、配付資料、及び適切な提示資料を準備する必要があることが重要であることが示唆された。今後、これらの点について改善していく必要があろう。

結果報告書

授業科目名 人間形成文化史研究
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 梶井 一暁

回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	2				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	3	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	4	2			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	1		1		4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	11	2	1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	12	2				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	11	3				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	3				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	4	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	1	1			4.8



教員のコメント

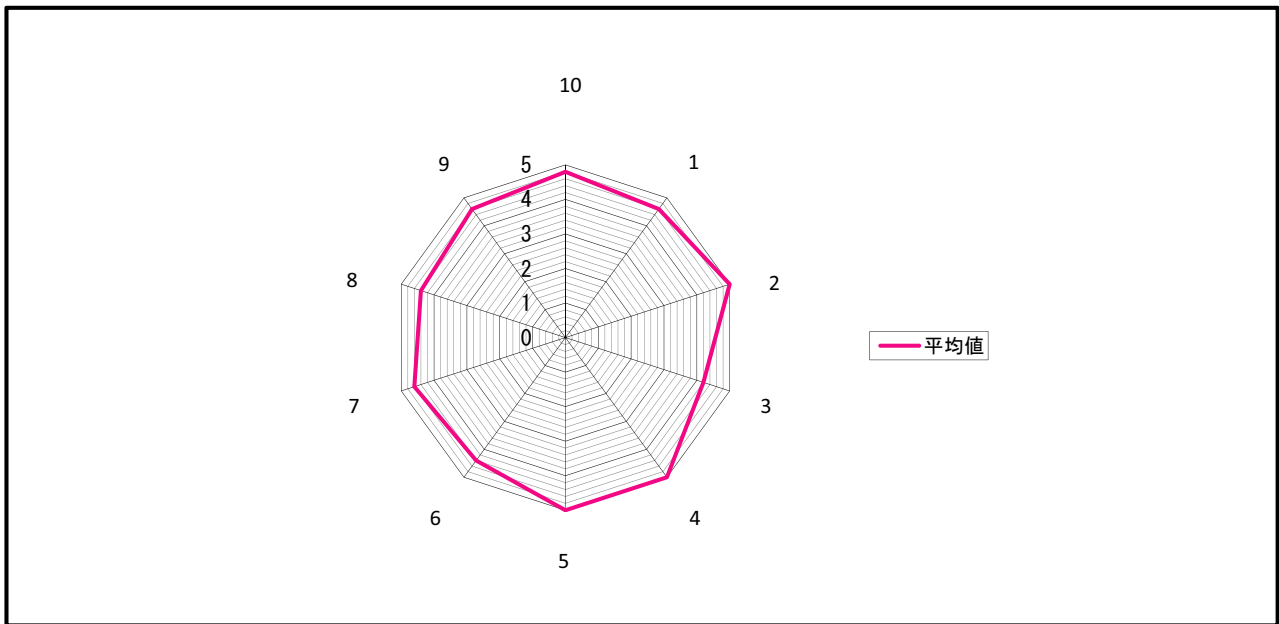
おおむね受講者から満足を得られた評価といえる。
 課題は、教師の実践力の育成につながる内容にかかわることだと考える。歴史研究をベースに教育や文化の変化の相貌を考察する授業であるから、直接の教授技術開発に関する授業ではない。歴史の角度から現象を批判的に分析できる「目」を少しでも育てたいと思う。
 なお、成績評価の方法等について、うまく理解できなかった受講生がいる。1週目に成績評価の方法を含むガイダンスを行っている。説明を聞き逃したか、1週目の授業に出なかった学生であろうか。大学院の授業として、どの程度フォローを厚くすべきか、考えさせられる。

結果報告書

授業科目名 教育哲学研究
 評価実施日 平成24年7月12日
 担当教員名 木内 陽一

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4		1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3		2			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	3				4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4		1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

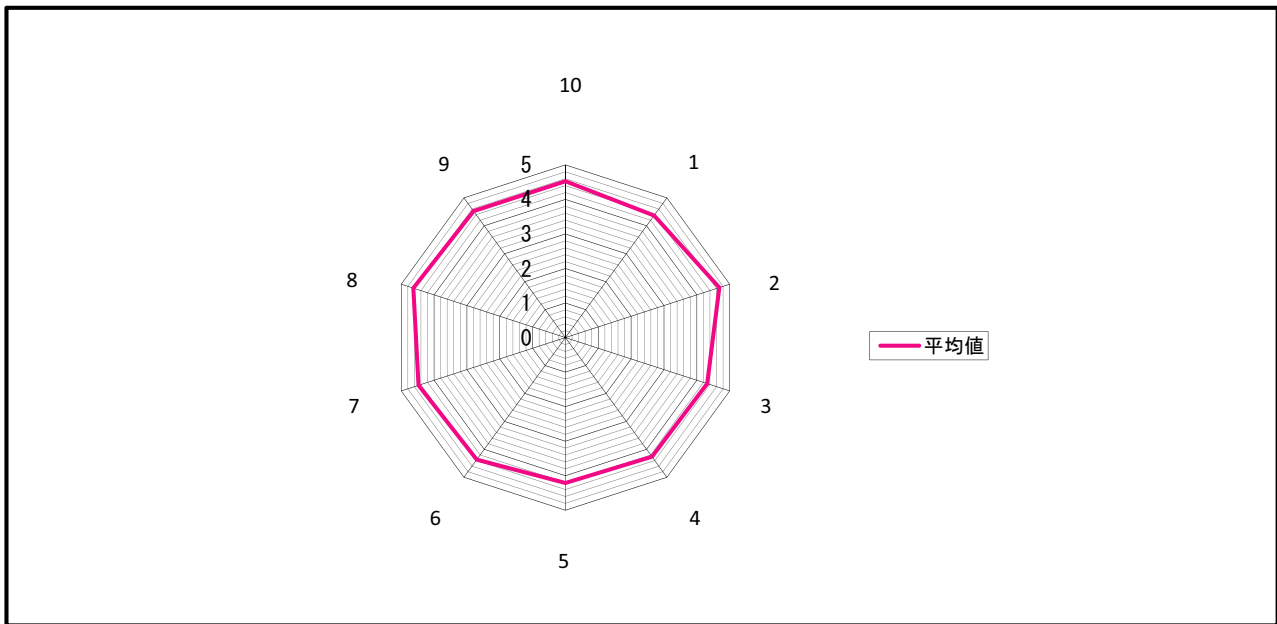
この授業では、西田幾多郎著『善の研究』を精読することを通して、哲学の基礎知識、哲学的な考え方の特質を明らかにしようとしている。また、毎回、受講生の発表、その際の受講生の司会を課している。
 受講者のアンケートを見ると、すべての項目で③以上の評価を得ている。また総合評価も、5が4人、4が1人となっており、全体としては、この授業の評価は、肯定的と考えられる。
 内容的にも、議論をして意見の交換ができて良かった点、あるいは、レジュメの書き方、司会者の進行方法など、指導に力を入れた点を評価してもらえたのは大変ありがたい。アンケートで西田幾多郎を西田幾「太」郎、西田幾「田」郎と書いている受講者がいるので、今後、注意を促したい。「木内先生がいつもステキでいやされた。」と言う感想があり、担当者も癒されたことを付け加えておきたい。

結果報告書

授業科目名 発達健康心理学研究
 評価実施日 平成24年7月31日
 担当教員名 山崎 勝之

回答者数 19 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	5	2	1		4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	4	1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	5	4			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	4	5			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	8	2	1		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	5	2	1		4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	11	7		1		4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	13	5	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	7	1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	4	1	1		4.5



教員のコメント

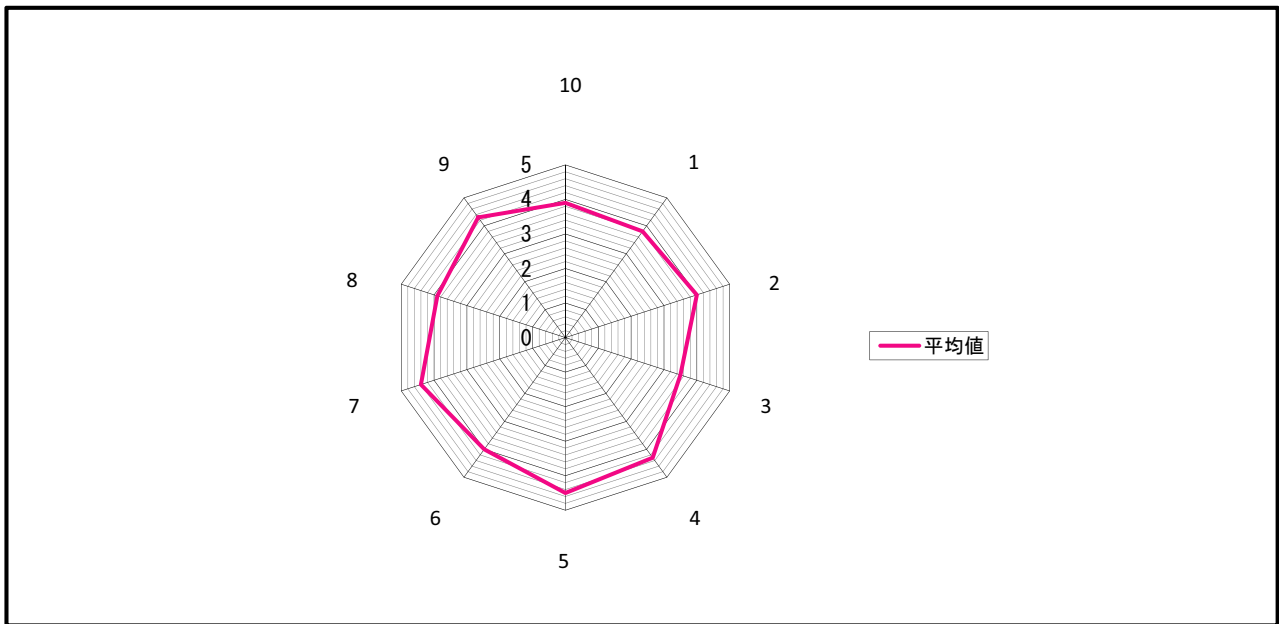
本学の学生の研究意欲は全般的に低下している。その中でも、この授業を受講生している学生は研究意欲が高い方であろう。それぞれ、真摯に受講していたと思う。
 大学院の授業は、学生が授業を聴いて、「少しむずかしい」「少しわからない」レベルに設定するのがベストだと考える。その上で、わからないことに向かわせる意欲づけが必須になる。創造性をかき立て、培うことが、大学院授業の最大使命だと考える。
 授業評価結果は高いが、この評価用紙は本当に授業の良し悪しを捉えているのであろうか。答えは、恐らく「ノー」であろう。近年の心理学では痛感していることであるが、人の心の状態はこのような自記式質問紙でとらえることはできない。この点を十分に考慮すると、この評価結果を分析することはきわめてむずかしい。しかし、これも一つの情報で、次年度の授業向上に生かしたい。

結果報告書

授業科目名 比較教育社会学研究
 評価実施日 平成24年7月29日
 担当教員名 伴 恒信

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	4	2		1	3.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	4	1		1	4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	4	2	1	1	3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	1	1		1	4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	5				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	4	1		1	4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2	2			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5		4	1		3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	3	2			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1	3		1	3.9



教員のコメント

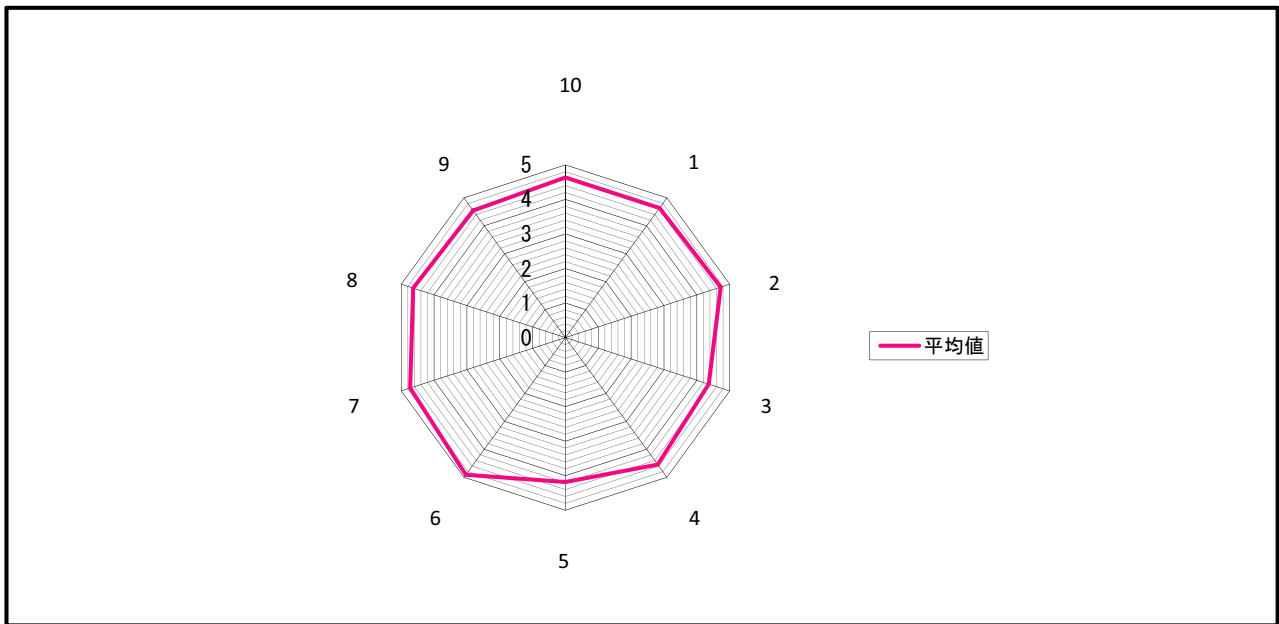
大学院定員確保のため定員以上に学生を取ること学部卒業院生の学力の低迷が問題となって久しいが、近年は教員免許取得を主たる目的に長期履修制度で入学する院生の中に研究はおろか勉学への動機付けや能力に欠ける者も増えている。それらの者は、講義の内容も理解できず、レポートについても書物を全く読まずにネットの情報の丸写ししたものを提出している。今年度は、そうした現状の実態を確認するためにも講義の後に講義の要点を問う小テストを何回か実施した。結果は悲惨なもので、平均正答率44%、低い者では、10%以下、20-30%という者もいた。授業理解度の低い者ほど、逆に授業評価については厳しい評価をしており、今回、総合評価で10名中5名が最高の5の評価をしているが、彼らは皆テストの正答率が平均以上に高い者で、1をつけた者は最低の10%以下の正答率の者であった。今回の試みを通して、授業評価が結局、授業そのものの内容を評価しているのではなく、受講者自身の理解能力や受講者側の受講態度を表現していることが明らかになったのである。

結果報告書

授業科目名 幼年期福祉研究
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 木村 直子

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	4				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1	1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3	2			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1	2			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	2	2	1		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	1	1			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1	2			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	2	1			4.6



教員のコメント

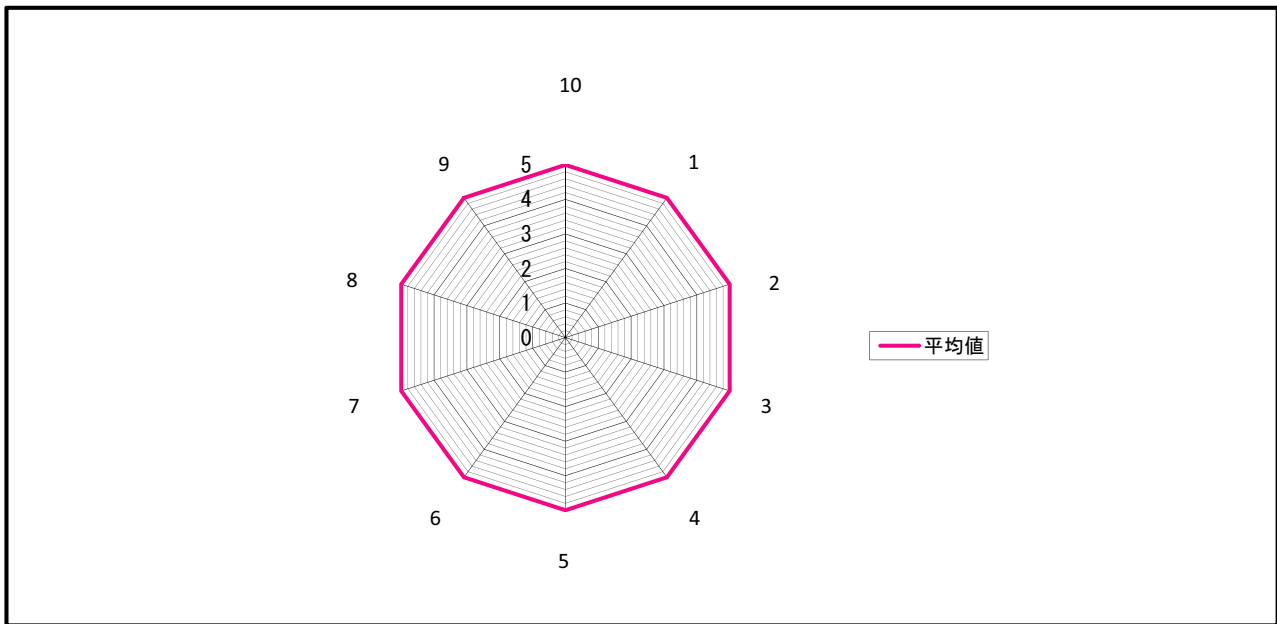
今年度も様々なコースの方が履修してくださった。アンケートを配布するのが遅く、全員にアンケートをとることができなかったことが残念である。授業の進め方や内容を受講生の状況に応じて、柔軟に対応することができ、そのことが、総合的に多くの院生の満足に繋がったように思う。また、今年度より講義科目においても対話型の授業を行っており、そのことが「授業内のディスカッションが多く、色々な考えや価値観を共有したり、知識の増大につながった」「現場に出てからも必要となりそうな価値観や問題提起をかんがえることができた」といった嬉しいコメントに繋がったと考える。しかし、授業の進め方等詳細に見ていくと、改善の余地が残る。板書や進むペースについては、より分かりやすい記述や院生のスピードに合った対応については以前から求められており、さらなる改善が必要といえる。また今後の課題として、テキストや参考書などを随時紹介することによって、授業内容を補足し、院生の主体的積極的な取り組みにつながる可能性を広げていかなければならないと感じた。

結果報告書

授業科目名 幼年期福祉研究(夜間開講)
 評価実施日 平成24年7月24日
 担当教員名 木村 直子

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

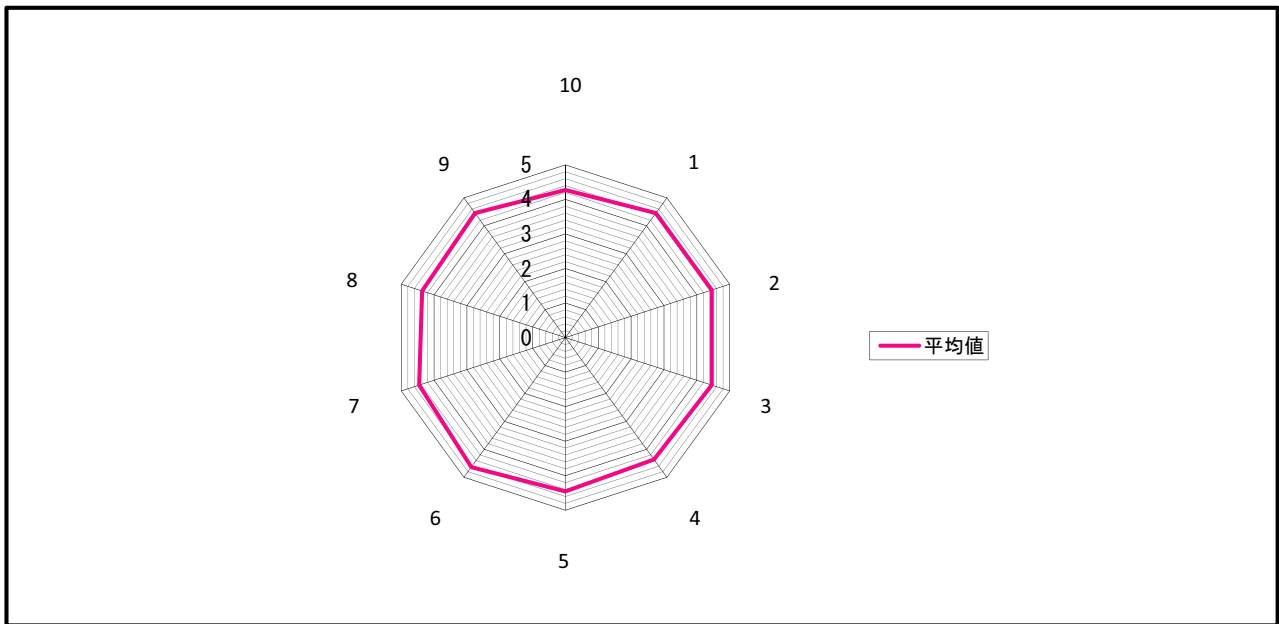
昼夜間開講の大学院生のための講義であったため、受講者は2名であった。いずれも現職の保育士であり、昼間の幼年期福祉研究と同様の枠組みをおさえつつ、保育現場での実践に直結する内容を盛り込みながら、対話型の授業を展開した。その結果、2名とも満足の高い講義だったと高く評価していただき、恐縮である。コメントの中にも「受講者が意見を出し合う中で、どのような意見をだしても、教員に認められたことができ、意見を出しやすい雰囲気だった」というものがあった。このコメントは貴重であり、対話型の授業を展開する際の一つの指針となりえると感じた。今後も授業展開をより工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名 幼年発達心理研究
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 田村 隆宏

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	4	1			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	4	1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	4	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	5	1			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	4	1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	4				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	4	1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	5	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4	1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	4	2			4.3



教員のコメント

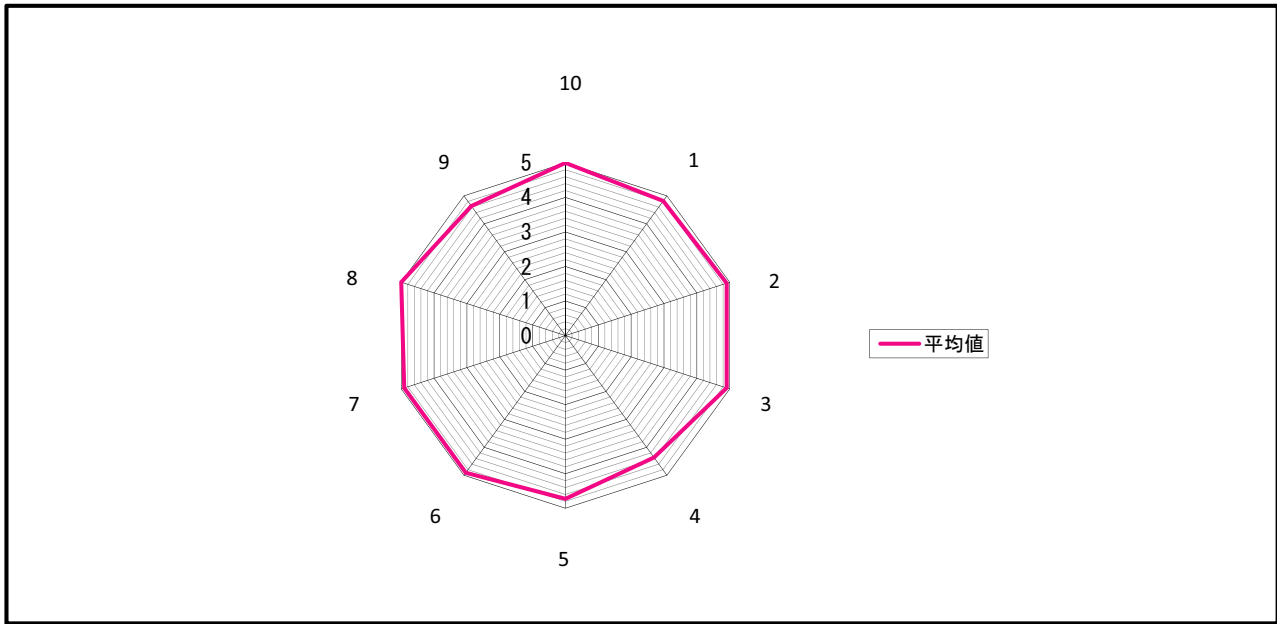
すべての評価項目で、9割以上の受講生が4以上の評定値を示していたことから、本授業は高評価を得たといえる。単に講義内容を一方的に伝えるだけでなく、受講生が参加する討論形式や発表形式を用いたことによって、専門的知識の獲得、実践力の育成に繋がる学びの深まりが達成されたものと考えられる。さらに、講義に対しても積極的に参加するという姿勢も育まれたものと考えられる。今後は、この従来の形式を踏襲しつつ、さらに受講生にとって意義のある内容を吟味し、講義として提供していくことが大切であろう。

結果報告書

授業科目名 幼年期教育学研究
 評価実施日 平成24年9月20日
 担当教員名 湯地 宏樹

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	3	2			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	3				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11					5.0



教員のコメント

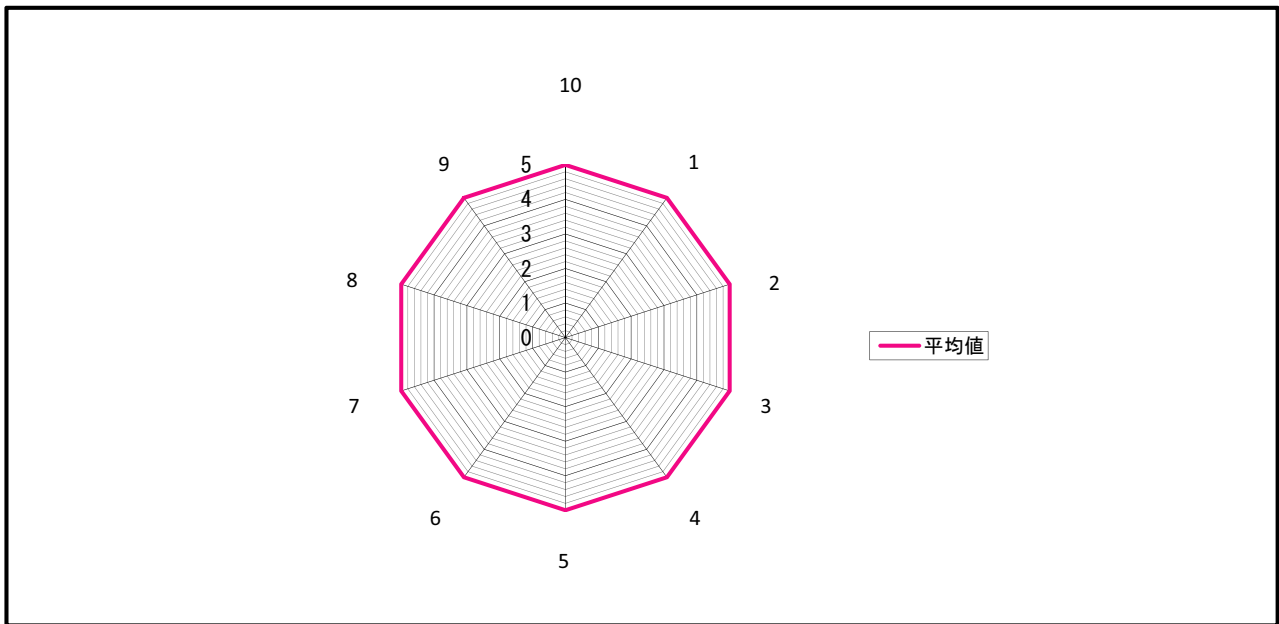
本授業は前期の科目であるが、今年度のみ集中で行った講義である。受講者数は13人であった。
 授業アンケートの質問項目「(1)授業概要」「(2)専門的知識」「(3)実践力育成」「(5)授業進度」「(6)分かりやすい説明」「(7)配布資料」「(8)板書・視聴覚機器」「(10)総合評価」のいずれも「5」>「4」で平均値も4.7以上であった。とくに「(10)総合評価」「(8)板書・視聴覚機器」は全員「5」評価で、コメントの記述でもパワーポイント、VTRなどの視聴覚機器の使用や授業内容の工夫などを肯定的に評価してもらっていた。
 しかし、改善点としては、「(4)成績評価」4.4と「3」評価も13人中2人いたように、シラバスやオリエンテーションでの成績評価の基準を明確に説明するべきだった。また、学生の授業への取り組みに関する「(9)主体性・積極性」が4.6だったので、来年度はアクティブ・ラーニングなどを多く取り入れるなど、この数字が5に近づくようにすることが目標である。

結果報告書

授業科目名 幼年発達と幼児教育内容論
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 塩路 晶子

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

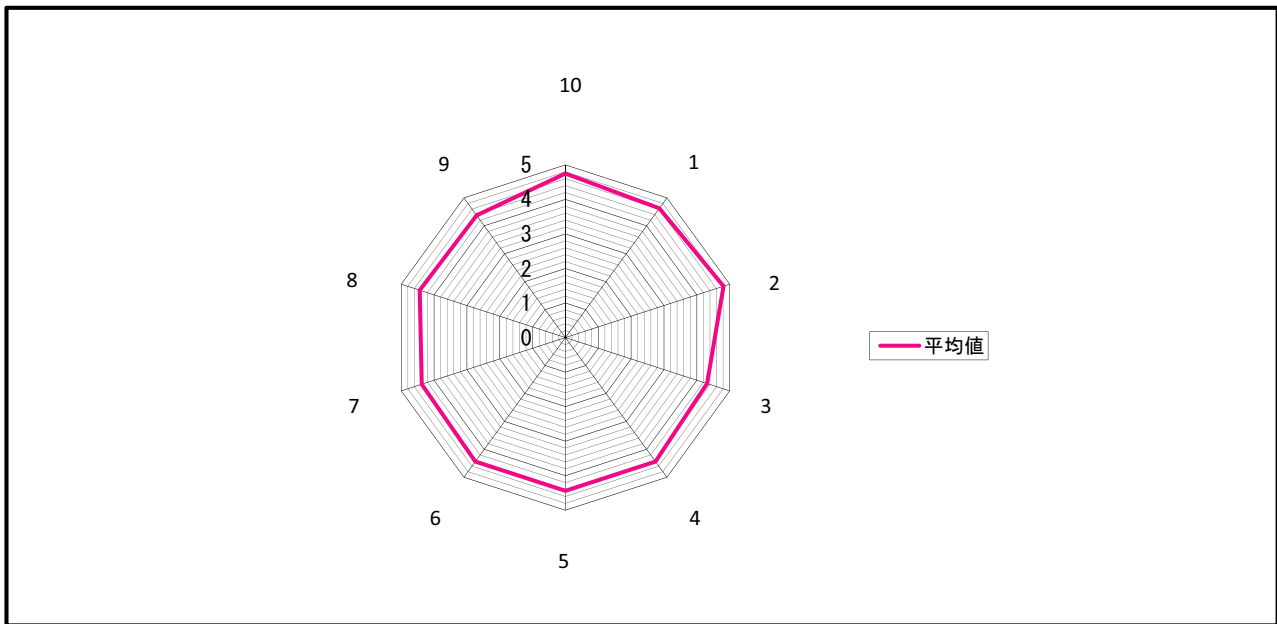
4人という、少数の受講生であり、良い評価をいただくことができた。
 本講義の今後の課題としては、受講生に対してそのつどコメントなどは求めてきたが、受講生がより主体的に講義に参加できるように、授業方法上の工夫をしていきたい。

結果報告書

授業科目名 文化間教育総論
 評価実施日 平成24年7月20日
 担当教員名 小西 正雄, 太田 直也

回答者数 16 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	6					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	3					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	7	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	3	3				4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	7	1				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	7	1				4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	6	2				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	5	2				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	6	2				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	2	1				4.8



教員のコメント

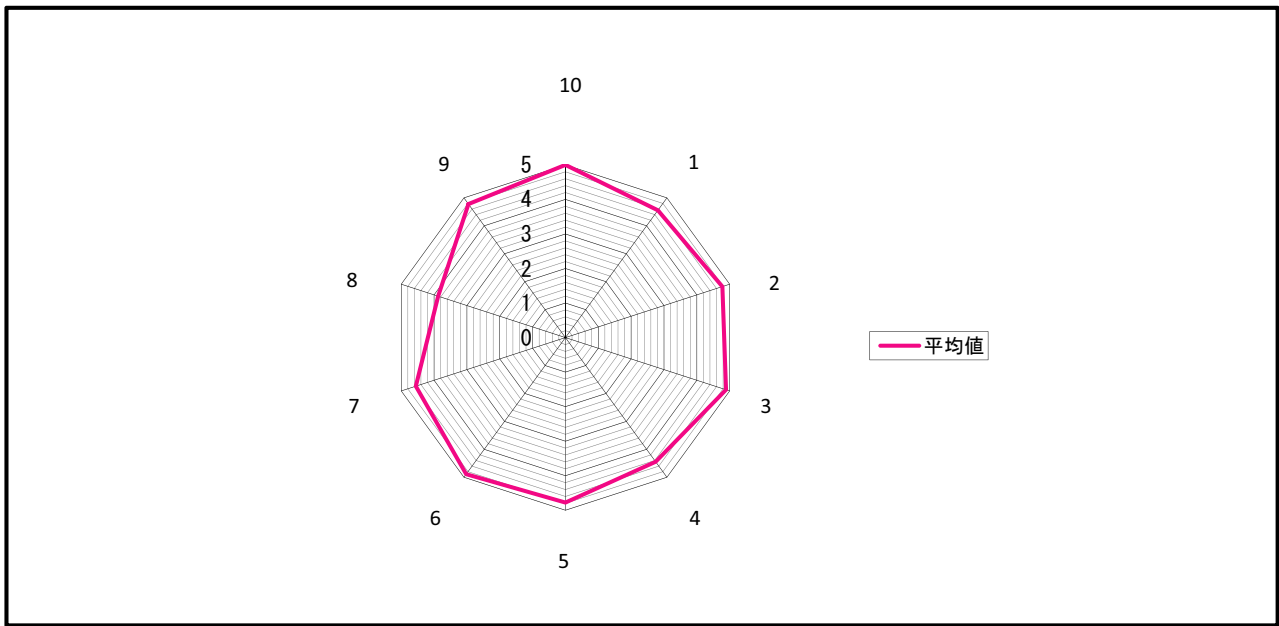
本授業は、様々な文化事象や文化論を言語と教育から考えてゆくというものである。当然、難解な授業になりうるのであるが、受講生からは例年、好評化を得ている。本年度も好意的に受け入れられたことを嬉しく思う。

結果報告書

授業科目名 文化間教育演習 I (基礎研究)
 評価実施日 平成24年7月24日
 担当教員名 小西 正雄

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	4				4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2				4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	3	1			4.4
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	7	2				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	8	1				4.9
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	5	4				4.6
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1	2		1	3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9					5.0



教員のコメント

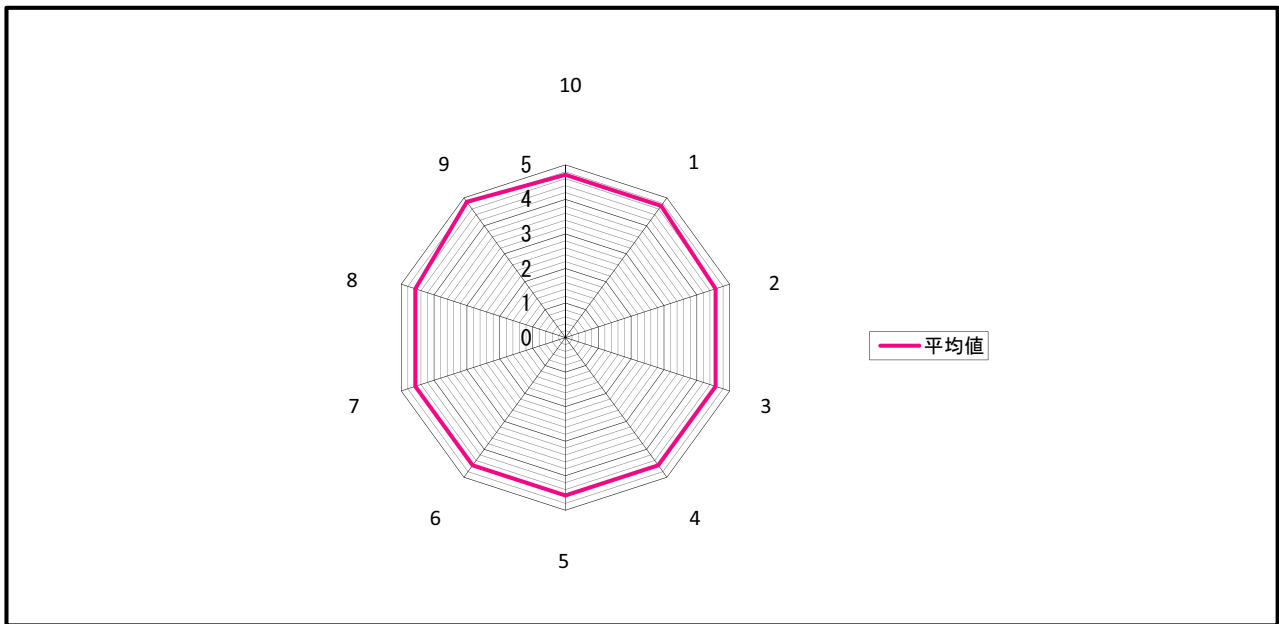
内容的には先行研究論文を読み知見を広げるというもので、例年と変わりはないが、今年度からは題材となった論文の要旨を1000字でまとめるという新しい形式をとった。この形式に対する評価はどのようなものかと楽しみにしていたが、驚くほど好評だったので、実際驚いている。主な感想としては、「毎回、悩まされて楽しかったです」「非常にエキサイティングな授業であった。ぜひ続けてほしい」「毎週が地獄でした。ただ、それがよかった。本当に意味のある授業でした」「大学院の授業とはこのような授業のことだと思う。このような骨のある授業を増やすべきだ」「文章を読む、書く、まとめるといった、修論を書く上で必要となる技能を養うことができた。しんどかったです、自分のためになりました」など。

結果報告書

授業科目名 文化間教育演習Ⅱ(地域研究)
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 太田 直也

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	3				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1	1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	3				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	3				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	2				4.7



教員のコメント

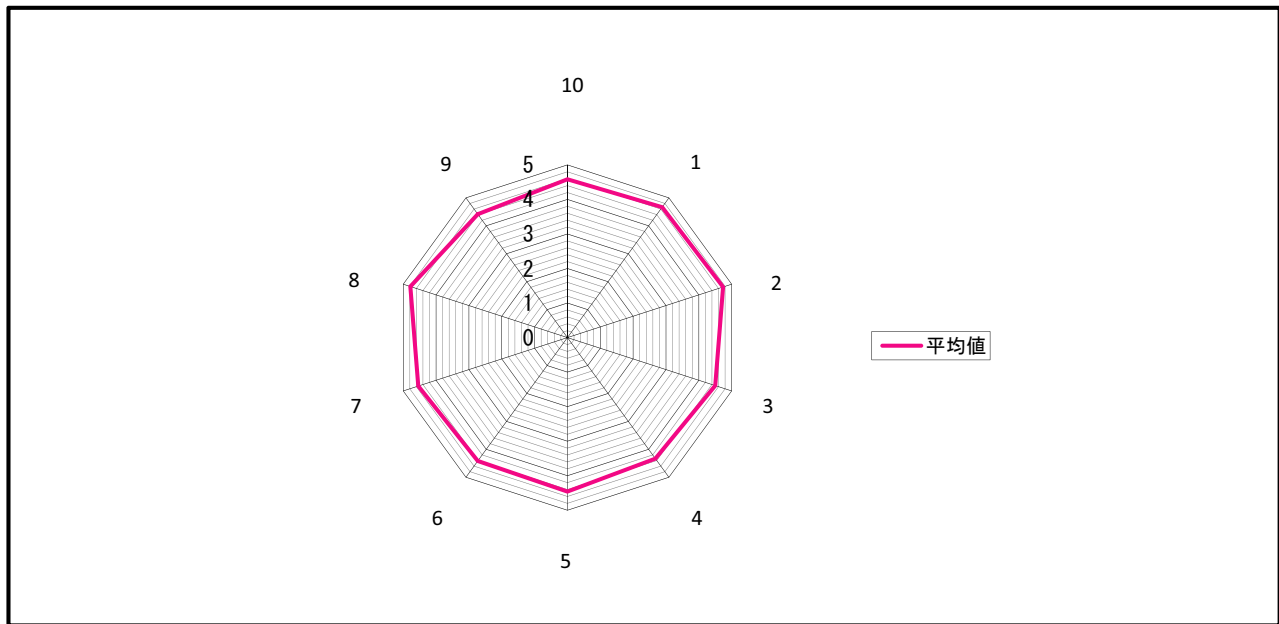
受講生は丁寧に資料を検討し、十分な考察を経たうえでプレゼンテーションを行った。優れた受講生たちから高評価を得て有難く思うが、授業担当者としては授業の進め方に幾分かの問題があったと考える。次年度の課題としたい。

結果報告書

授業科目名 情報教育総論
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 谷村 千絵, 藤村 裕一

回答者数 24 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	16	8					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	17	6				1	4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	10	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	10	3				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	14	8	1	1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	13	8	3				4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	16	5	3				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	18	5				1	4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	7	2	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	15	8	1				4.6



教員のコメント

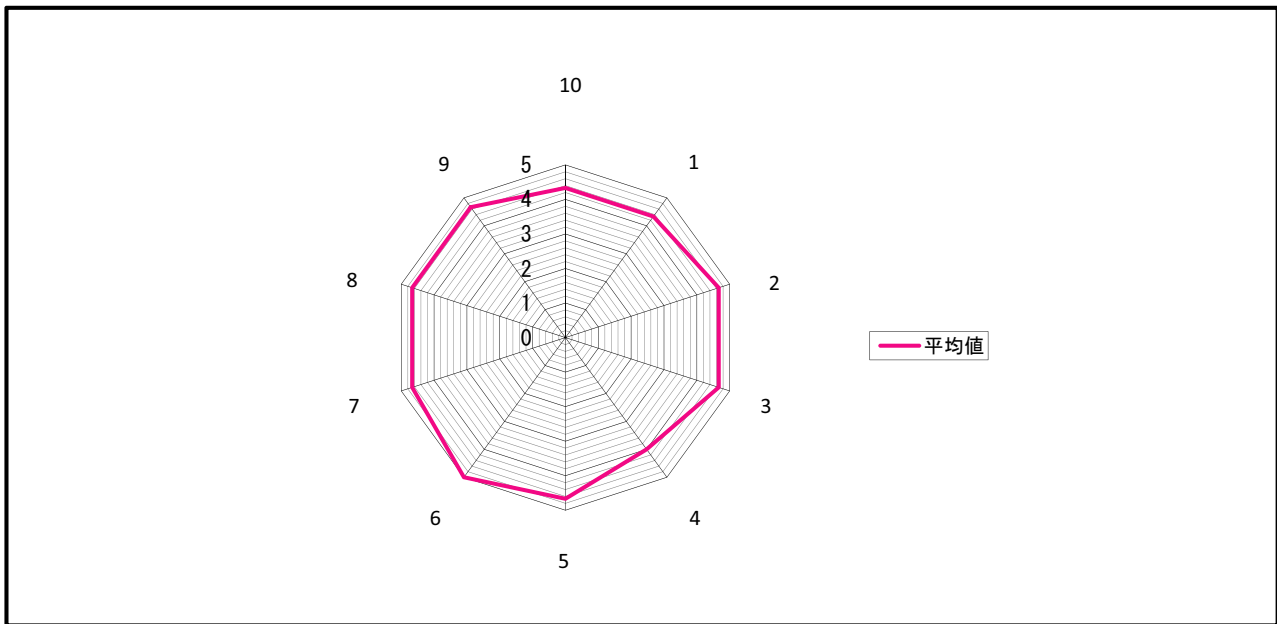
総合的によい評価がなされていると思われる。授業の内容について、「学校現場で活用可能な内容が多かった」、「現実味があった」、「最新の情報技術、メディアの活用から、昔から情報がどう変化していったかまで、幅広く知ったり、考えたりすることができた」、「授業内容がわかりやすく、これから情報教育にどのように取り組んでいったらよいかを考える参考になると感じた」等、この授業が「総論」としての役目を十分に果たしたことがうかがえるコメントが目立った。2名の教員による授業内容の違いを、うまく関係づけて説明することが昨年度の評価にみた課題であったが、十分に果たせたと思われる。本授業に限られることではないと想定されるが、パワーポイントの内容を最後にまとめて印刷・配布するのではなく、事前に配布してほしいという要望が2名からあった。

結果報告書

授業科目名 情報教育特論Ⅲ(実践論)
 評価実施日 平成24年7月19日
 担当教員名 谷村 千絵, 藤村 裕一

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2			1		4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	2				4.3



教員のコメント

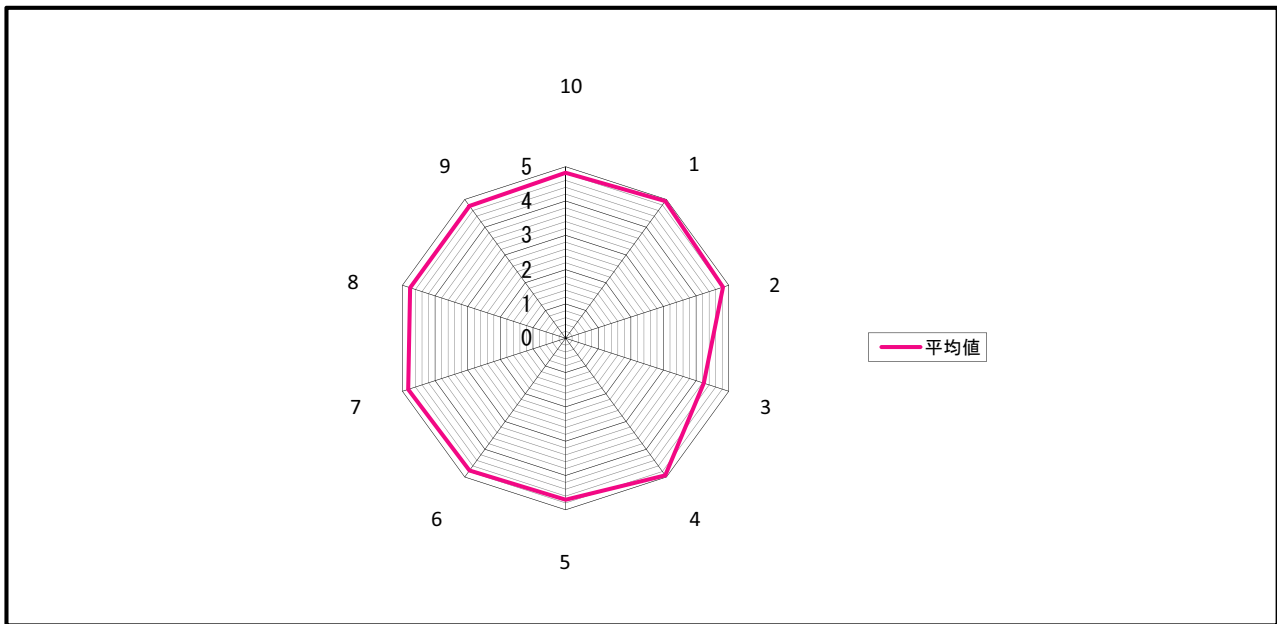
少人数のため、模擬授業の機会を複数回とることができ、また、授業後に相互に意見を述べ合うことで学習の効果が高まった。自由記述にもその点を評価するコメントが見られた。成績評価の説明について十分でなかったという指摘があるが、授業内では、模擬授業と討論を総合的に評価すると指示した。

結果報告書

授業科目名 環境教育総論
 評価実施日 平成24年7月24日
 担当教員名 田村 和之, 近森 憲助

回答者数 17 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	16	1					4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	3					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	4	3	1			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	16	1					4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	13	3	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	14	2	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	14	3					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	14	2	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	2	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	14	3					4.8



教員のコメント

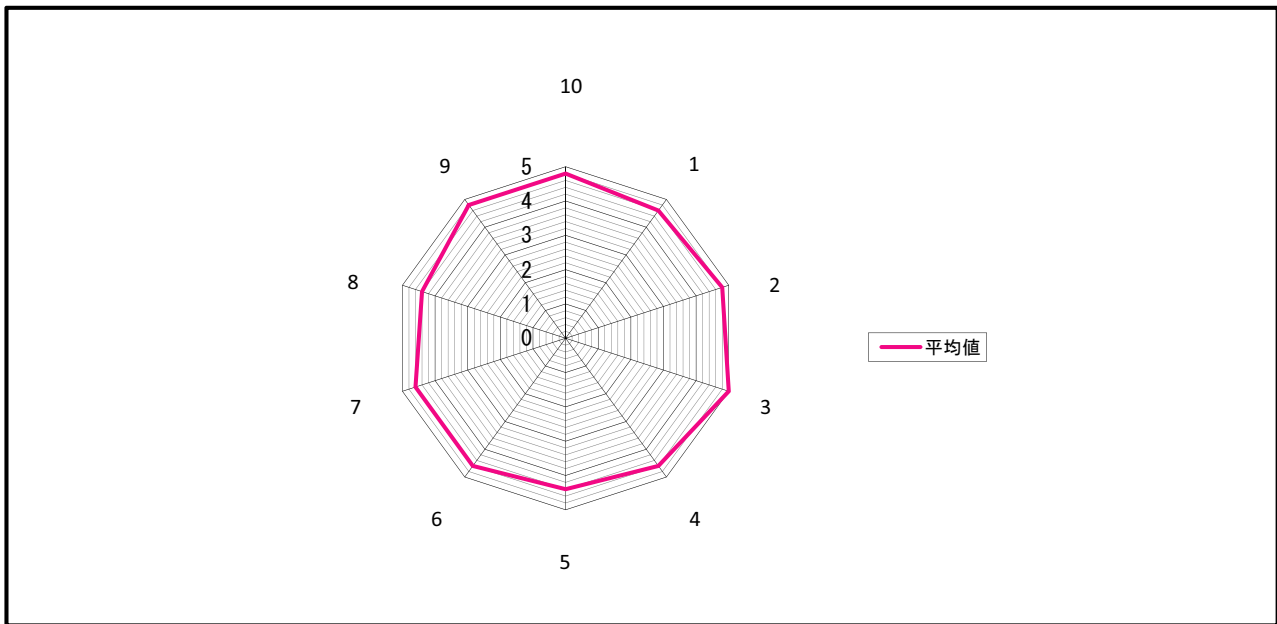
昨年度の反省点を踏まえて、本年度の講義は修正・改善を加えて行った。
 総論であるので、環境に関するトピックを幅広く、浅く取り入れたが、学生によってはもう少し深く掘り下げて欲しいとの要望も多少あった。
 講義によっては時間が多少時間が余ったりすることもあったので、来年度は内容に一工夫を加え、学生の満足のいく授業を行いたい。

結果報告書

授業科目名 環境教育特論Ⅱ(授業開発)
 評価実施日 平成24年7月24日
 担当教員名 田村 和之, 近森 憲助

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	3				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	3				4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

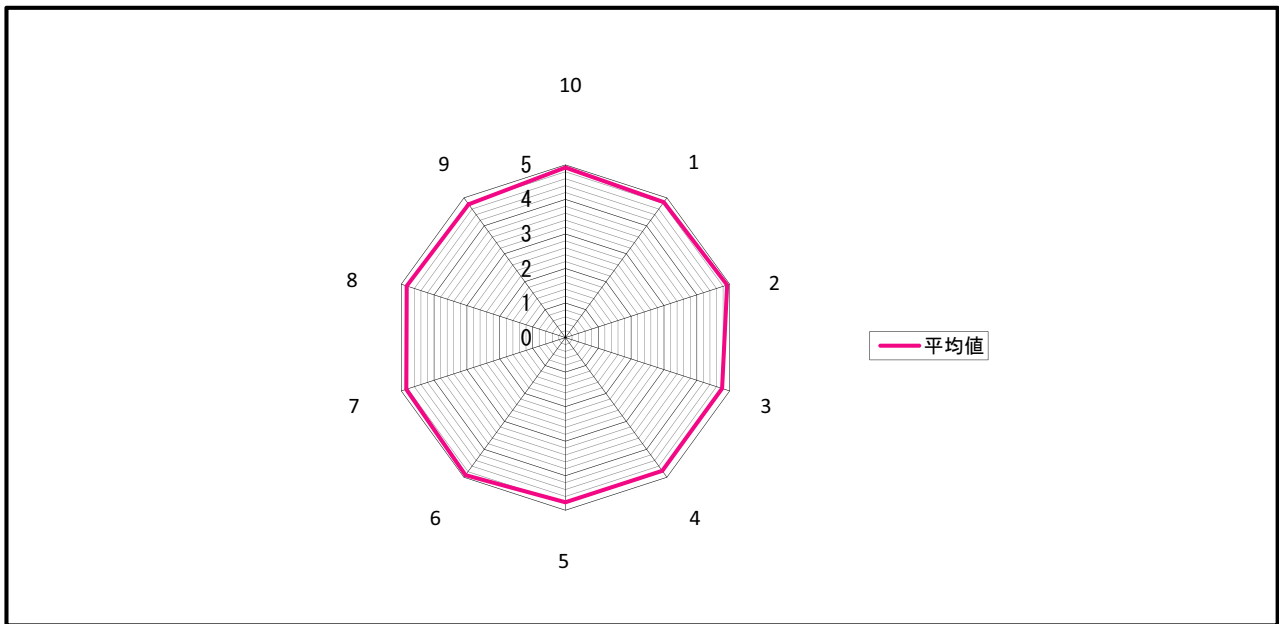
学生主体の授業で、全員が高い参加意欲を持って最後まで授業ができた。
 ただ、課題とした授業案作りで、内容の指示に多少曖昧さがあったため、最後に発表・提出した授業案は個人間の完成度に多少の差があった。
 来年度はその点ももう少し説明を加え、もう少し明確な指示を出せるように工夫をするよう心がける。

結果報告書

授業科目名 現代の子どもと学校教育
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 谷村 千絵

回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	3				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	3				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	3				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	12	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	11	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	2			1	4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	3				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12	1				4.9



教員のコメント

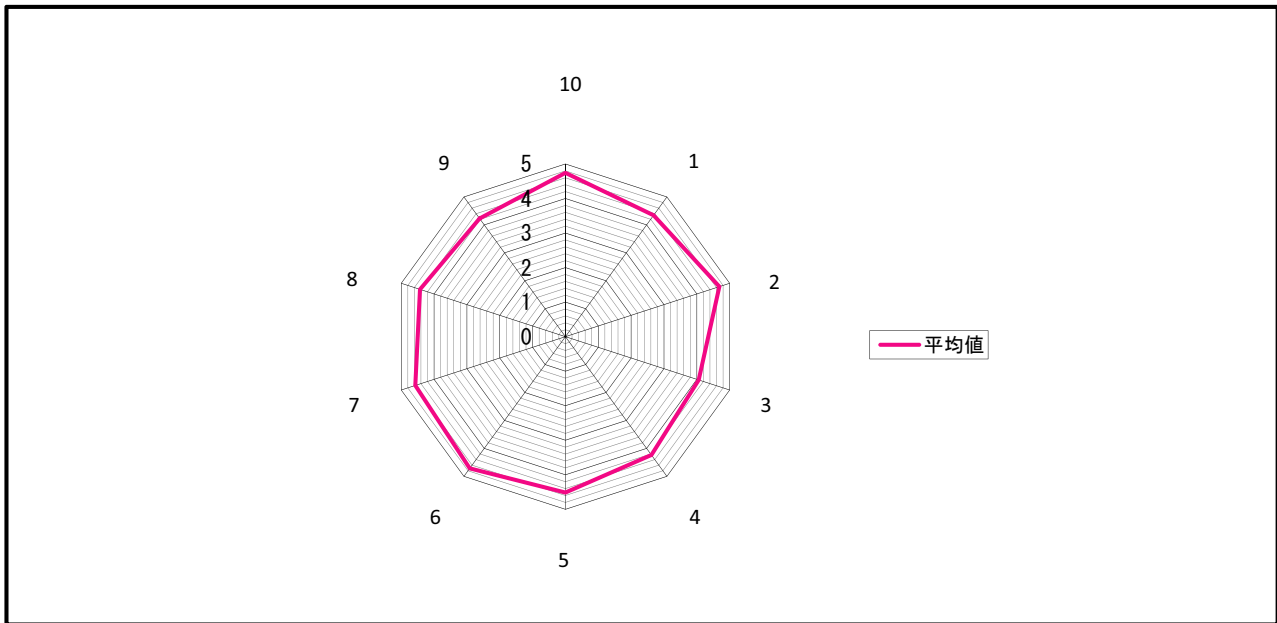
かなり高い評価がされていてよかった。昨年と同じスタイルの授業を行ったが、導入を丁寧にしてグループワークの意義を明確に伝えるようにしたこと、去年の経験から、早い段階でテーマの数を絞り込んだことが、時間的な余裕を生みだし、よかったと思われる。自由記述にも、「最初に全体の進め方について、受講生みんなで話し合い、その進捗によって弾力的に時間を割り当ててくださったこと」が良かった点に挙げられていた。また「一つのテーマに多くの時間をかけることができた」、「一つのテーマをじっくりと話し合うことができた」、「一つのお題に1、2週間かけて話し合うことによって、さまざまな考えが生まれ、よかったと思う。」とある。また、「もっと一つについて話したかった」という意見もあった。実際には、グループワークを2週行い、3週目に全体発表と討論を行った。このペースを基本としつつ、学生の反応をみながら調整していく姿勢で臨みたい。グループでの討論については、「有意義であった」、「いろいろな意見がきけてよかった」、「よい経験になった」というコメントが見られた。素朴ではあるが、教育について多様な意見を交えて話し合う「構え」の形成は、やはり大切なことであると考える。「活発になるようなお題、場の雰囲気づくりなどの工夫がよかった」という嬉しいコメントも頂いた。今後も、ひきつづき研鑽に努めたい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究 I
 評価実施日 平成24年7月19日
 担当教員名 吉井 健治

回答者数 35 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	16	16	2	1		4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	25	9	1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	10	10	1		4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	15	13	5	1	1	4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	18	17				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	25	10				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	21	13	1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	17	16	2			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	14	16	4	1		4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	26	9				4.7



教員のコメント

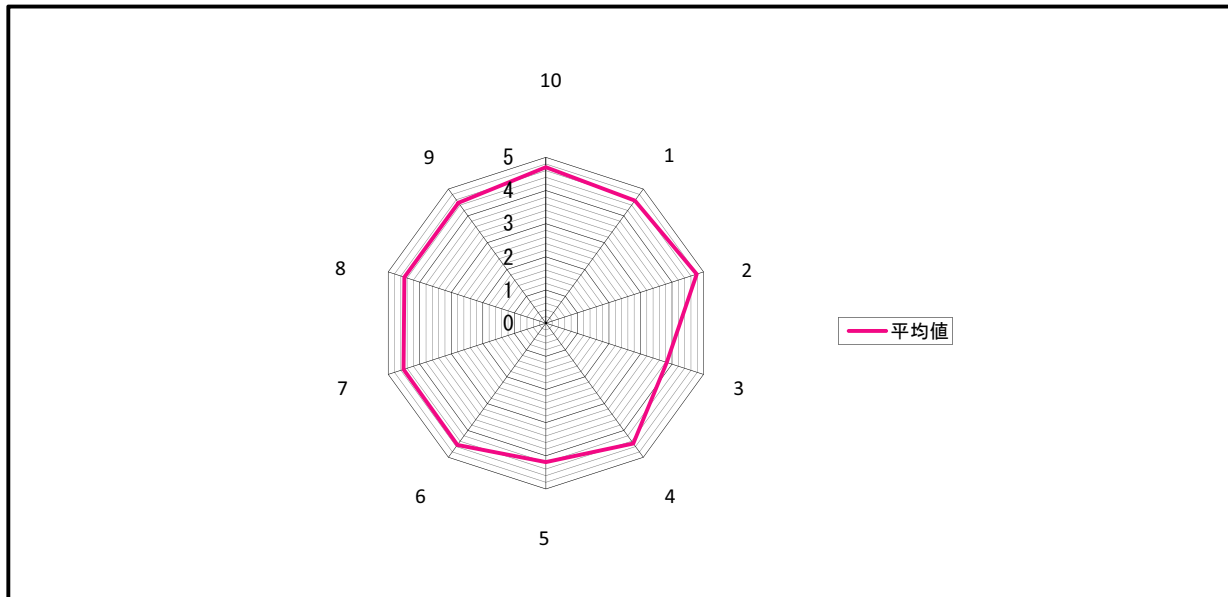
平均値は4.1から4.7の範囲で高かった。総合評価は4.7であり、かなり高かった。最も高かった項目は、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」(平均値4.7)、「(6)受講生に分かりやすく説明した」(平均値4.7)だった。このことは、「難しい話も具体例を挙げてとても分かりやすくお話してくださった」という自由記述の感想に端的に示されている。また、「実践を踏まえた授業だったので、今後の役に立てられると思った」という感想があった。このように理論と実践を結びつけ、具体的に分かりやすく講義することに今後も心掛けていきたい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究Ⅱ
 評価実施日 平成24年7月20日
 担当教員名 葛西 真記子

回答者数 37 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	23	12	2			4.6
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	30	6	1			4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	9	13	1	1	3.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	21	13	3			4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	16	14	5	2		4.2
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	24	10	2	1		4.5
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	23	10	4			4.5
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	22	11	4			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	20	15	2			4.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	28	7	2			4.7



教員のコメント

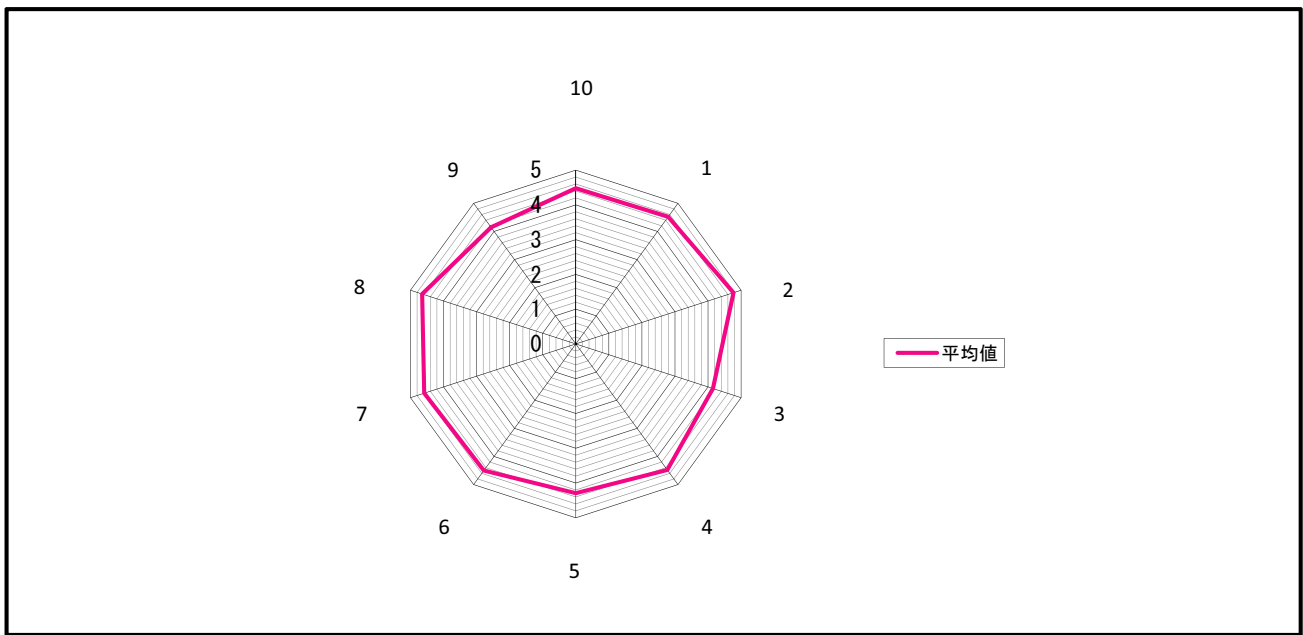
授業の総合評価が5点満点中4.7であったことを大変光栄に思います。特に高かった項目が、「専門的知識を深めるのに役立った」(4.8)というものであった。この授業は、シラバスにも記載しているとおり、修士課程1年で基本的な臨床心理学の理論を学び、2月から3月にかけて、実際に相談室においてケースを持ち始めたものが、より専門的な知識を得られ、自分のものとしてケースを担当したときに、実践的に使えるようになるということを目指しています。それが達成されたと感じている受講生が多かったということだと思つたので、授業の内容・構成についても評価されたと考えます。しかし、毎年のごとくであるが、「教師の実践力育成につながる内容であった」という項目について、教師でないものが大多数であること、今後も教師をめざしているものでないものが対象となっているコースであるので、この項目の評価が他の項目に比べて低いことは納得できるが、それでも57%の学生が「そう思う」「ややそう思う」と評価していることは意味があると思います。教師ではなくとも、学校現場でスクールカウンセラーとして働く場合、あるいは、相談室等で児童生徒を対象にする場合に役立つ内容を講義に含んでいるので、それが評価されたのだと思います。自由記述に関しては、「この授業でよかった点」として、実際の面接に関連した内容をわかりやすく説明していた、精神分析の理論的流れ、つながりが整理されたというものが多かった。これは、今後も継続して取り組みたい内容である。「改善点」として、時期的な問題(実際にケースを担当し始めているので、もっと早く聞きたかった。しかしケースを持っていないとわからない内容であるなどの葛藤)、話すスピード(難しい内容のときは早すぎてついていくのがやっとなかった)、時間が短い(もっと学びたい内容だった)などがあげられていた。今後改善点としては、内容の難易度や速度について検討していきたいと思つています。

結果報告書

授業科目名 学校精神保健学研究
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 今田 雄三

回答者数 48 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	27	19	2			4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	38	9	1			4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	21	15	9	1	1	4.1
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	29	14	4	1		4.5
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	20	24	2	2		4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	29	14	5			4.5
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	34	10	2	2		4.6
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	34	11	3			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	19	19	8	2		4.1
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	27	17	4			4.5



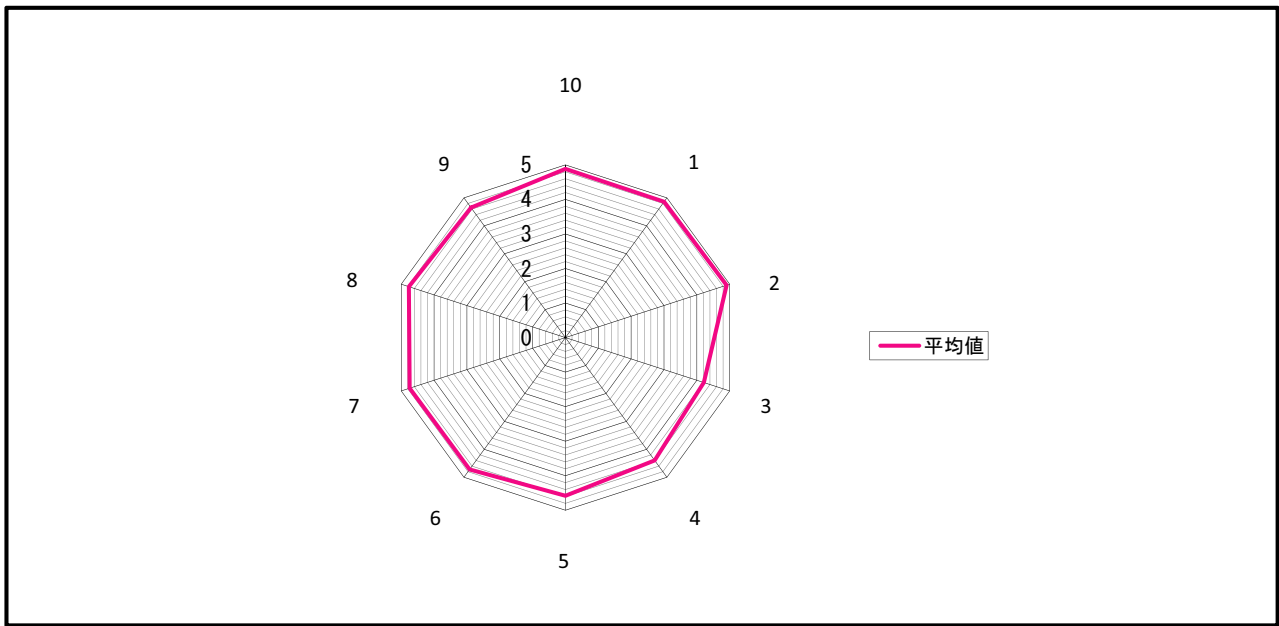
教員のコメント

総合評価「(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」に関しては4.5点を獲得したのをはじめ、(1)～(9)の各項目ごとの評価でも全て4点を超えており、本授業は受講生から非常に高い評価を得られたものと考えている。ただし授業の内容についての評価では「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」、教員の授業の進め方についての評価で「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった」「(5)授業の進む速さは、適切であった」「(7)教科書や配布された資料は、適切であった」、あなたの授業への取り組みについての評価で「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」の各項目に関しては、2点以下と評価した者がわずかだが認められた。(3)に関しては、自由記述で校内の予防的対応や連携について詳しく触れて欲しいとの指摘があり、今後その点についても充実を図りたい。また(4)(5)(7)の授業の進め方に関しては、自由記述でPowerPointの枚数が多い、情報量が多く何が重要か頭の整理がつかない、文字が小さく見づらいとの指摘があったので、次年度ではそれらの点に留意してよりわかりやすく授業を進めたい。なお(9)に関しては、講義形式の授業であるためどうしても受講生が受け身的になってしまう傾向があるため、今年度も授業内で短い演習や発表、事例の紹介なども取り入れたが、自由記述からは受講生からは概ね好評が得られていた。次年度以降授業の形式をさらに工夫し、受講生が積極的に参加できるようにしていきたい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理査定演習 I
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 久米 祐子, 佐藤 亨, 今田 雄三, 栗飯原 良造, 中津 郁子, 吉井 健治, 小倉 正義, 新見 員子 回答者数 43 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	37	6				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	39	4				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	21	9	12			1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	24	12	7			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	27	14	2			4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	33	8	2			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	34	7	2			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	34	8	1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	29	13	1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	38	5				4.9



教員のコメント

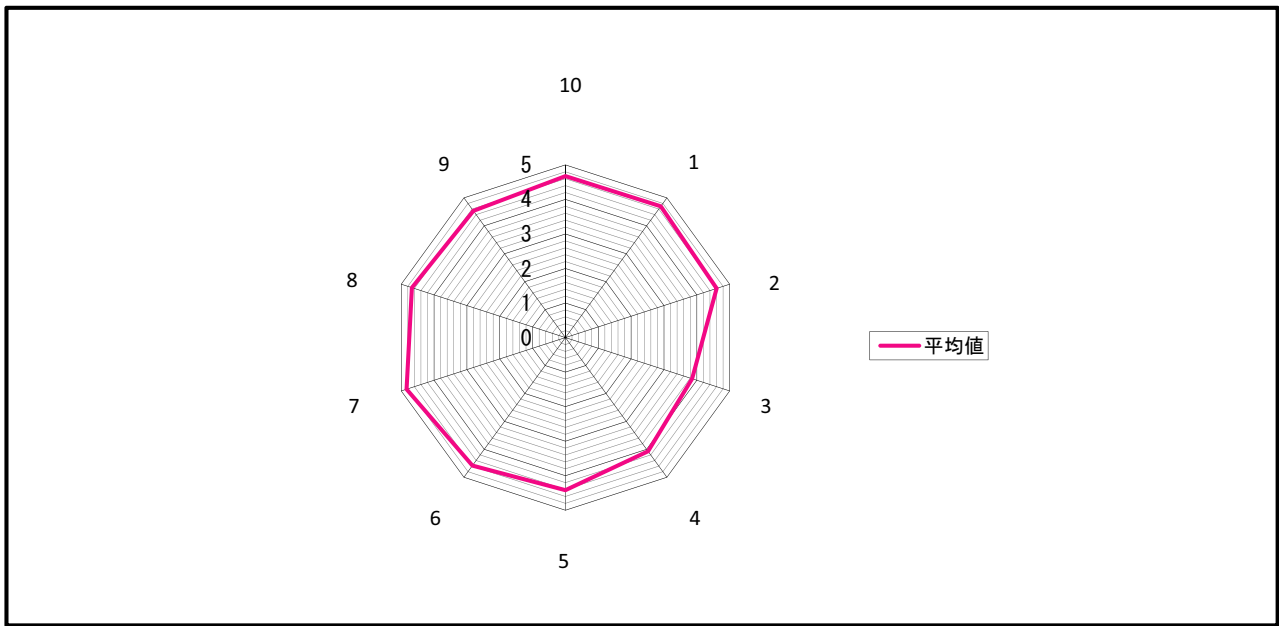
本授業は全体的に高い評価である。実際に被検者体験をしたり、事例やグループワークなどを通して実践的に学べる点が、こうした評価につながっているようである。複数の教員で担当している授業であるが、それぞれの教員の特色が出ている点もプラスに評価されていたようである。レポート課題が多く大変であるという感想がある一方で、力をつけるためにはレポート課題が必要という感想もあった。課題の出し方、返却の仕方等は、さらに工夫の余地があるかもしれない。

結果報告書

授業科目名 臨床心理学研究法特論(前期集中分)
 評価実施日 平成24年9月25日
 担当教員名 田中 秀紀

回答者数 43 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	33	7	3			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	29	11	3			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	13	14	1	1	3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	16	16	10		1	4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	24	14	4	1		4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	29	11	2	1		4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	36	7				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	30	12	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	24	18	1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	30	12	1			4.7



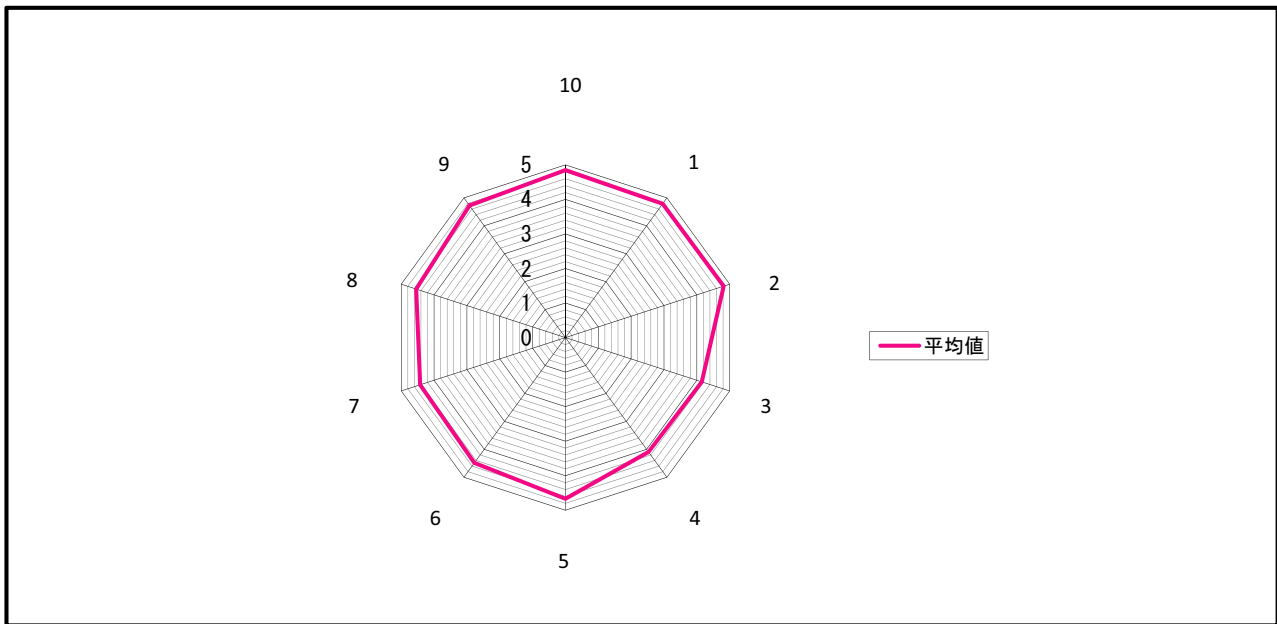
教員のコメント

本授業は修士論文作成および臨床心理士としての研究の基礎を学修する科目である。短時間で重要で基礎的な臨床心理学の研究および統計法について学修しなければならないため、受講生には集中力が求められる。今後も基礎的な内容を踏まえつつ、多様な研究法についてなるべく広く教授したい。

結果報告書

授業科目名 臨床心理面接演習
 評価実施日 平成24年7月19日
 担当教員名 中津 郁子, 粟飯原 良造, 今田 雄三, 葛西 真紀子, 吉井 健治, 小倉 正義 回答者数 33 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	27	5	1			4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	29	2	2			4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	11	7	1		4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	13	13	3	2	1	4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	24	8		1		4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	20	9	4			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	21	7	3	2		4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	22	7	4			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	26	5	2			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	29	3	1			4.8



教員のコメント

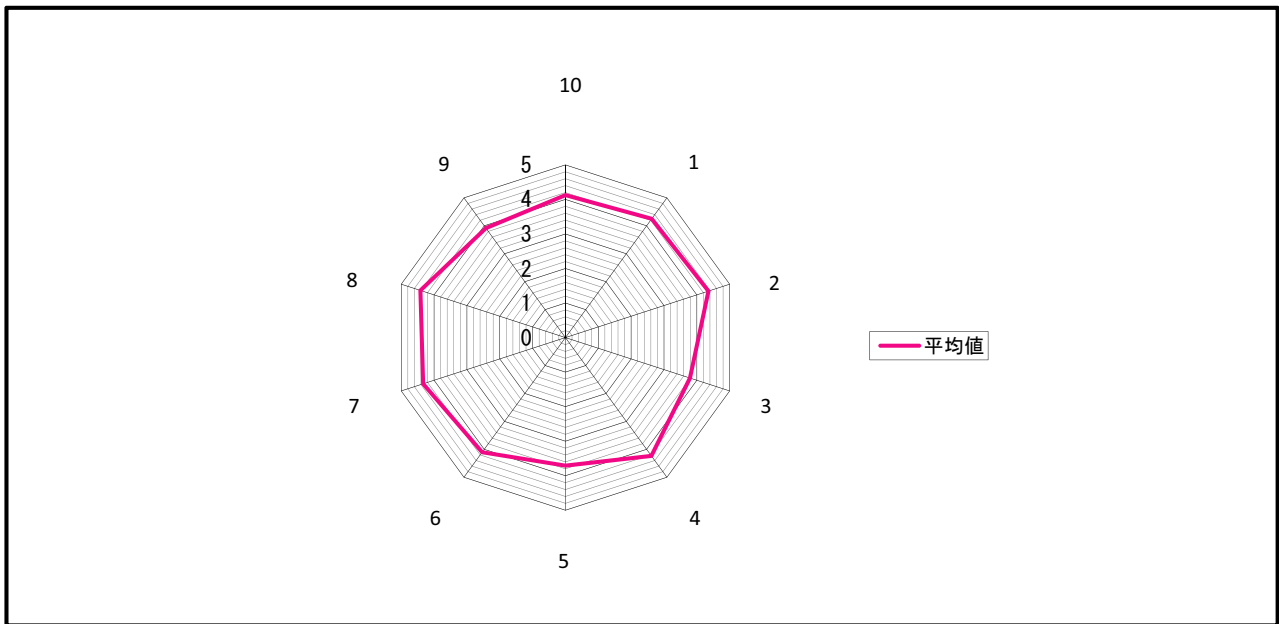
この授業は院生が6グループ(1グループが7~8人)に分かれて、ロールプレイを行いグループ討議をするという授業である。面接場面の傾聴技法の習得など、相談室での面接を担当する上では重要な授業である。前年同様、総合評価が4.8ととても高い評価になっている。院生にとって満足が行く授業であったと考えられる。最も低い評価の項目(成績評価の方法の説明)に関しては改善していきたいと考える。院生のコメントを見ると、「実践的で」あり、「自分自身の欠点に気づけたり」、「きびしさや難しさ」を感じる事が出来たことが良かったとしていた。また、「専門的な知識を身に着けることができ」「さらに勉強していこうという気持ちに」つながったことなどが良い点としてあげられていた。改善点として、「回数が少ない」などの意見が2、3見られた。授業の性質上改善しにくい内容でもあるが、今後検討していきたい。

結果報告書

授業科目名 社会心理学研究
 評価実施日 平成24年9月29日
 担当教員名 佐藤 健二

回答者数 48 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	23	17	6	1	1	4.3
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	26	16	4	1	1	4.4
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	17	16	3		3.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	22	17	6	1	1	4.2
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	13	18	8	8	1	3.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	21	14	11	1	1	4.1
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	24	19	3	1	1	4.3
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	27	16	4		1	4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	22	10	2	1	3.9
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	20	17	9	1	1	4.1



教員のコメント

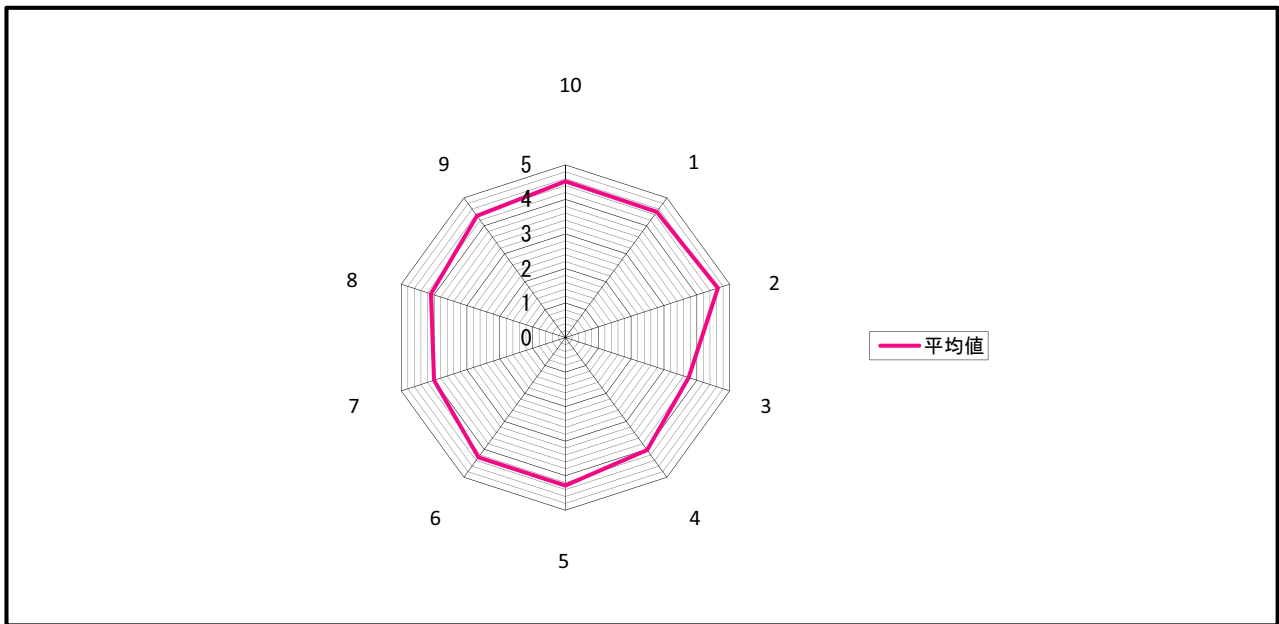
総じて、4点以上であり、大きな問題点は無いと思われる。記述式のコメントを読んでも、概して、内容は具体的で、興味深いものだったことが伺われた。ただし、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」と言う点については、3.8点であり、改善の余地がある(なお前回の調査結果からは0.2ポイント上昇している)。もっとも、「社会心理学」と言う学問分野の性質上、実践的な内容は元来、少なく、その点では、妥当な評価とも言える。今後は、より実践に生かせる内容とすることを考えたい。その他、時間配分への言及が見られ、集中力を保つべく、適切な時間配分をさらに行いたい。

結果報告書

授業科目名 心理臨床特別研究
 評価実施日 平成24年9月19日
 担当教員名 後藤 秀爾

回答者数 42 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	25	13	4			4.5	
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	31	7	4			4.6	
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	15	7	12	5	1	2	3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	16	10	13	1		2	4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	21	13	7	1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	22	12	6	2			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	16	11	14	1			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	16	15	10	1			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	22	14	5	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	29	6	7				4.5



教員のコメント

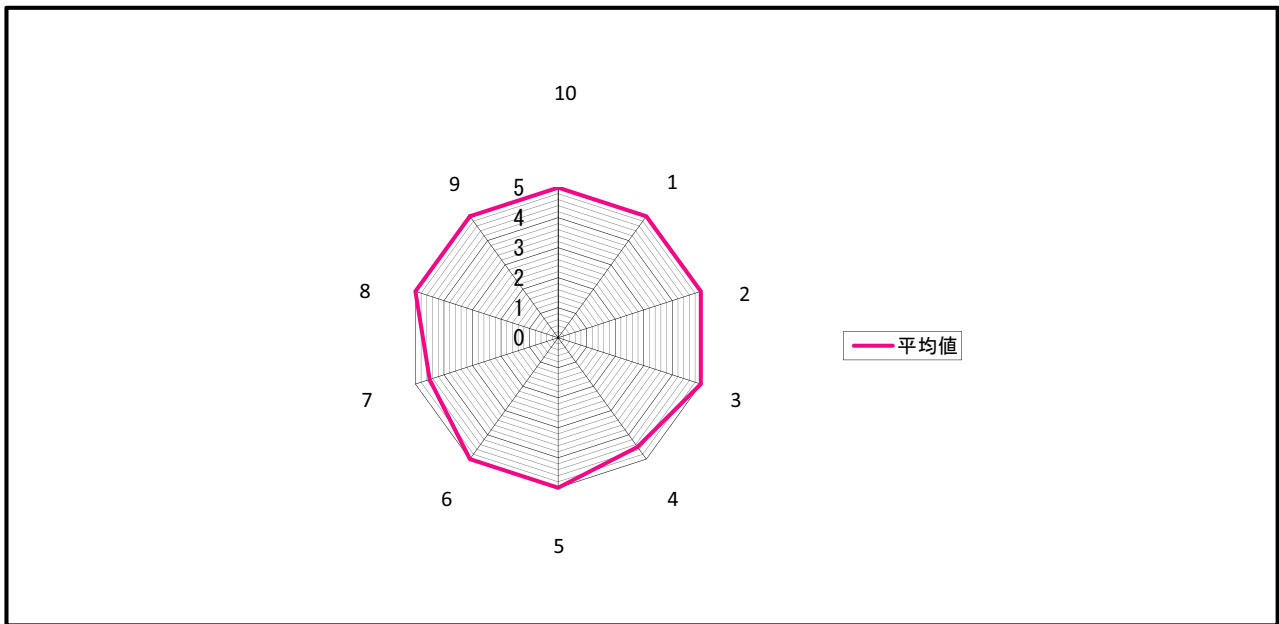
おおむね高い評価をしていただき、ありがとうございます。この講義を通して、自己研鑽の方向性を見つける手がかりが得られた学生が何人もいた、という点では、遠路を出かけて行って汗をかけた甲斐があったようです。ただ、受講生の皆さんには、改めて自覚していただきたいのですが、大学院の授業は、プロフェッショナルリティを確立するために、自己研鑽の基盤を固めるための時間です。すべての授業がそうなのですが、臨床心理士となるための学習に取り組むにあたって、それに相応しい知識と理解力と意欲を持ち合わせているかどうか、自己点検する機会ともなります。指導する側から言えば、責任を持って社会に送り出せるかどうかの篩にかけるという、側面があるものです。自己研鑽のためのチャンスを生かし切る、という意識を持って今後も精進してください。大学院を出てからも研修機会を継続して持っている人、またそれを生かすことの出来る人材のみが、臨床心理士として生き残っていきますから。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター概論
 評価実施日 平成24年7月24日
 担当教員名 井上 とも子

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

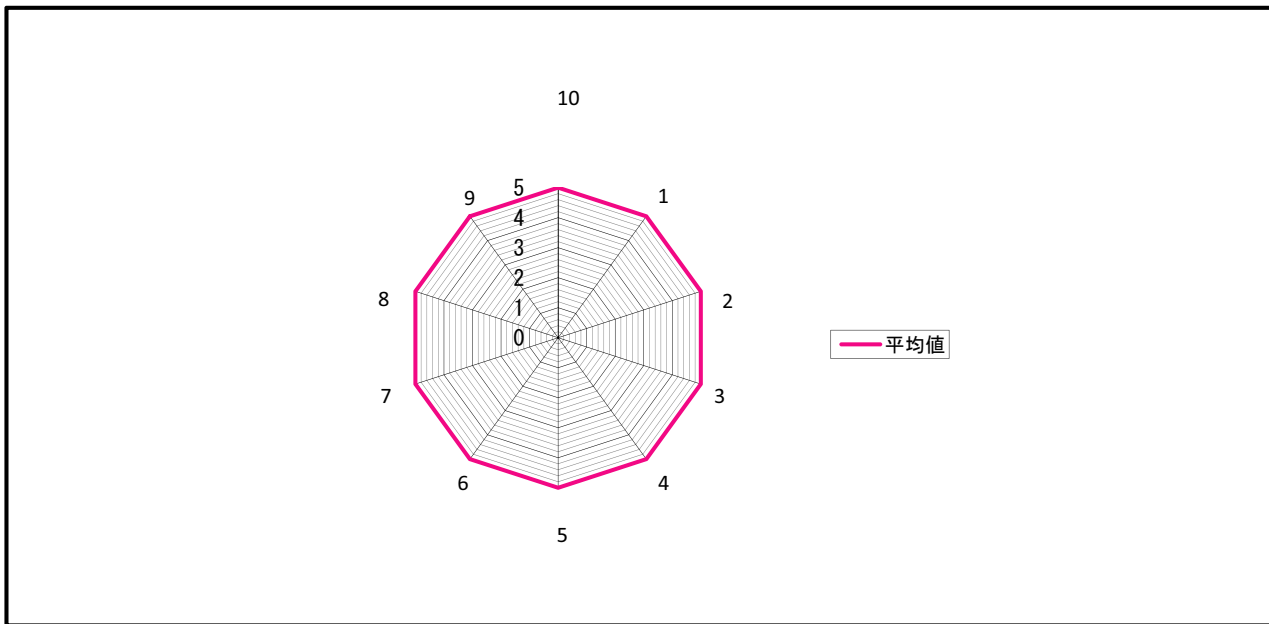
この授業では、授業の最後に「来週の協議内容」を知らせ、そのテーマで、各自レポートを書くことが宿題となる。従って、毎時間、授業の最初には、レポートを元にしたテーマに沿っての協議が30分間～小一時間行われる。どの受講生も、真剣に課題に取り組み、レポートに関しては論点が絞り込まれたり、要を得た文章となるなど、発展が見られた。また、このレポート作成は、課題研究の各段階、構想発表等のレジメ作成にも活かされていると思われる。加えて、協議に関しても、当初は、教員の意見を「答」のように聞き取る姿勢が中であつたものが、次第に、自身の意見を述べ、お互いに交換することもできるようになっていた。この経緯は、チームで話し合うこと、チームをリードすることなどが求められるコーディネーター分野では、欠かせない資質のはぐみにつながっているものと考えられ、今後もこの形で、授業を展開していきたい。成績評価方法に関しては、当初に確実な説明が必要であると思われ、教科書等、資料の配付に関しては、基本的に、書籍、資料の紹介に止めることを授業の冒頭に「大学院の授業として、自身の考えで自ら資料等の収集をすること」と告げてあるように、今後も、配布等は行うことなく、提示や紹介に止めたい。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター実地教育
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 井上 とも子

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

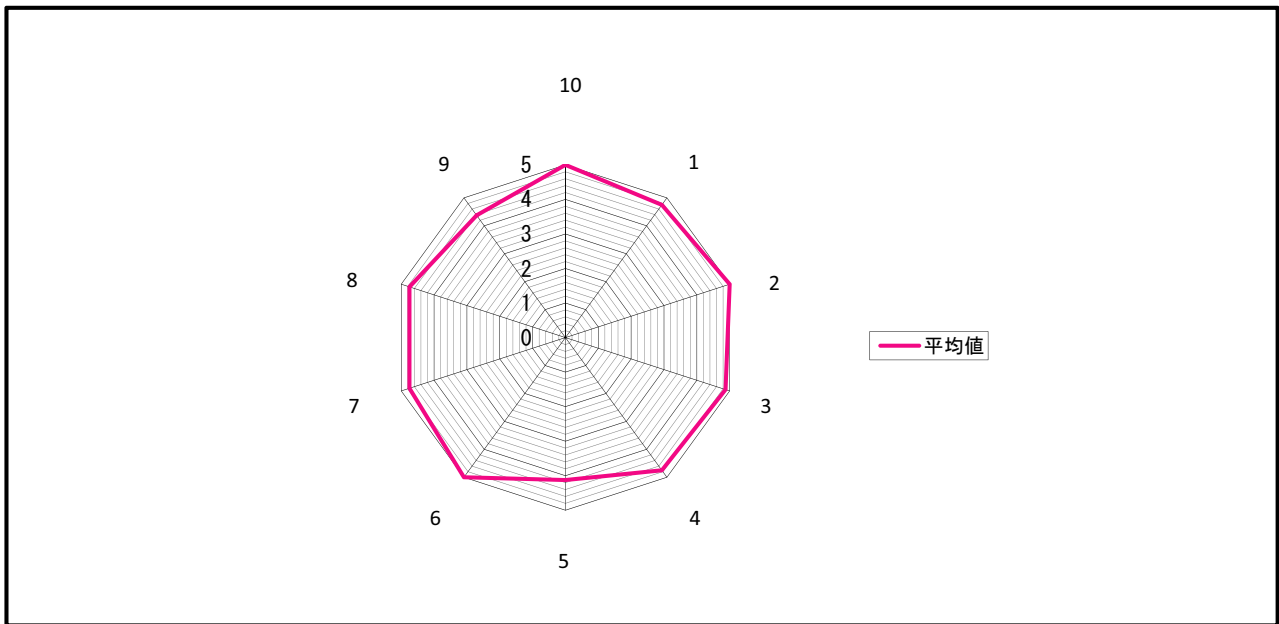
この授業は、90分の授業以外に、事前事後の授業内容の分析とプログラムの見直し、指導計画の立案、配慮事項の確認等々に多くの時間を要する。にもかかわらず、どの受講生も、時間を調整し、チームで幼児支援の実践に向き合えたことは、その積極性や意欲において高く評価できるものである。チームで支援や指導を検討する過程は、コーディネーター分野で学ぶものとして、非常に重要な学びの場・過程であり、今後、教育現場に復帰したときの活躍を期待したい。今年度も4組の親子に、授業協力を願ったが、どの子どもの個別の教育的ニーズをとらえた支援を計画することができ、授業者としても幼児の支援の実際場面を通して、院生一人一人のニーズを把握しながら、助言や指導をすることができるこの授業は、院生の教育技術他、資質向上を直接ねらうことのでき、授業としても実り多いものと言える。今年度は、受講者の数が多く、保護者支援の場を見学する機会を設けることができる体制が取れたことは、前年度に比べ、この授業は一層の情報提供ができたと言える。そのため、受講者数にもよるが、基本的には、来年度もこの形式を進めたい。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育学研究論 I
 評価実施日 平成24年7月31日
 担当教員名 八幡 ゆかり

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	3	2			4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



教員のコメント

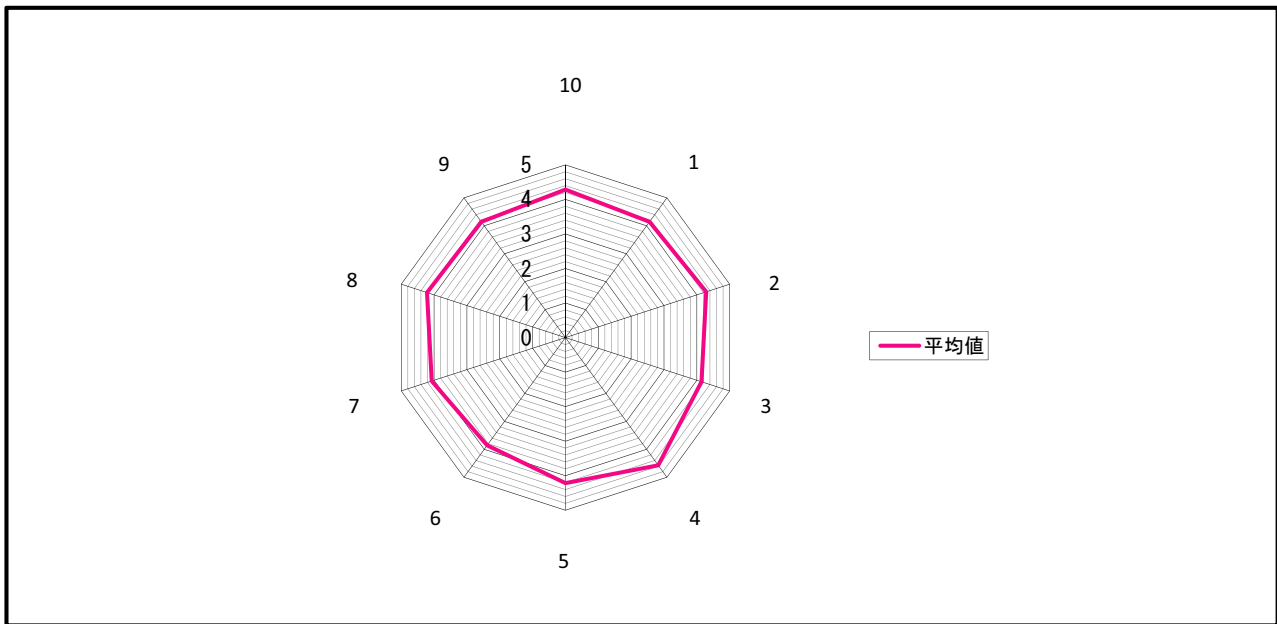
総合評価が5.0であったこと、授業に関するアンケートの記述内容から、本授業について受講者の満足度は高かったと考えられた。特に、本授業の目的である「専門的知識を深めて実践力を身につける」ことに関連した質問項目2「専門的知識を深めるのに役立つ内容」の平均値が5、質問項目3「教師の実践力の育成につながる内容」の平均値が4.9と高かったことが成果として挙げられる。このような成果は、「理論と実践の統合」を意図して専門用語の説明に終始しないで学校現場の課題と直結させて実践例を挙げたり、受講生の積極的発言を求めたことが効果的に働いたと考えられた。そして、受講者の大半が長期履修学生であったことから、受講生の理解度を確認しながら授業を進めたことで、質問項目6「受講生にわかりやすく説明した」の平均値が5.0になったと思われた。そのことが、アンケートに「基礎から応用までの内容であり、教育者を目指す上で大変学びになった」や「教員と受講生との討論が楽しかった」、「教師になったときに使える実践例や歴史から教師として必要なもの、実践力など幅広く学べた」などの回答につながったと考えられた。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育学研究論Ⅱ
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 大谷 博俊

回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	6	3			4.1
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	8	1			4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	7	1	1		4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	6				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	8		1		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	7	3	1		3.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	7	3			4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	5	3			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	8	2			4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	6	2			4.3



教員のコメント

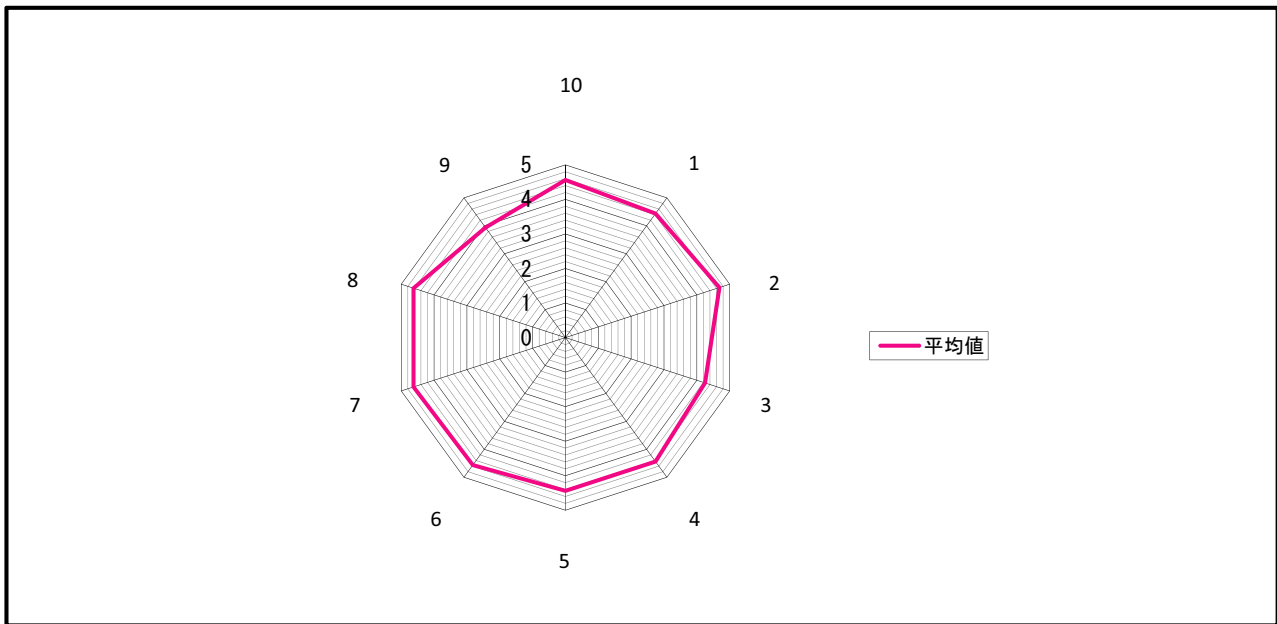
授業の内容に対する評価と、授業の進め方に対する評価を比較すると、後者を検討する必要があると思われる。受講生への説明、配付資料、説明のための機器については、受講生によって評価が異なるため、慎重に検討する必要がある点だと考える。一方、評価方法の説明については、適切であったと思われる。今後もオリエンテーションを通して、具体的に伝えるよう心がけたい。現職教員としての長年の経験を持っている受講生や特別支援教育に関する知識を十分持ってない受講生がいるため、講義に備えるための事前の予習などをこれまで以上に推奨していきたい。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育臨床心理学研究論
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 高原 光恵

回答者数 16 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	7	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	5				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	8	2			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	7	1			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	4	1	1		4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	3	2			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	6				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	6				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	12	1	1		3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	7				4.6



教員のコメント

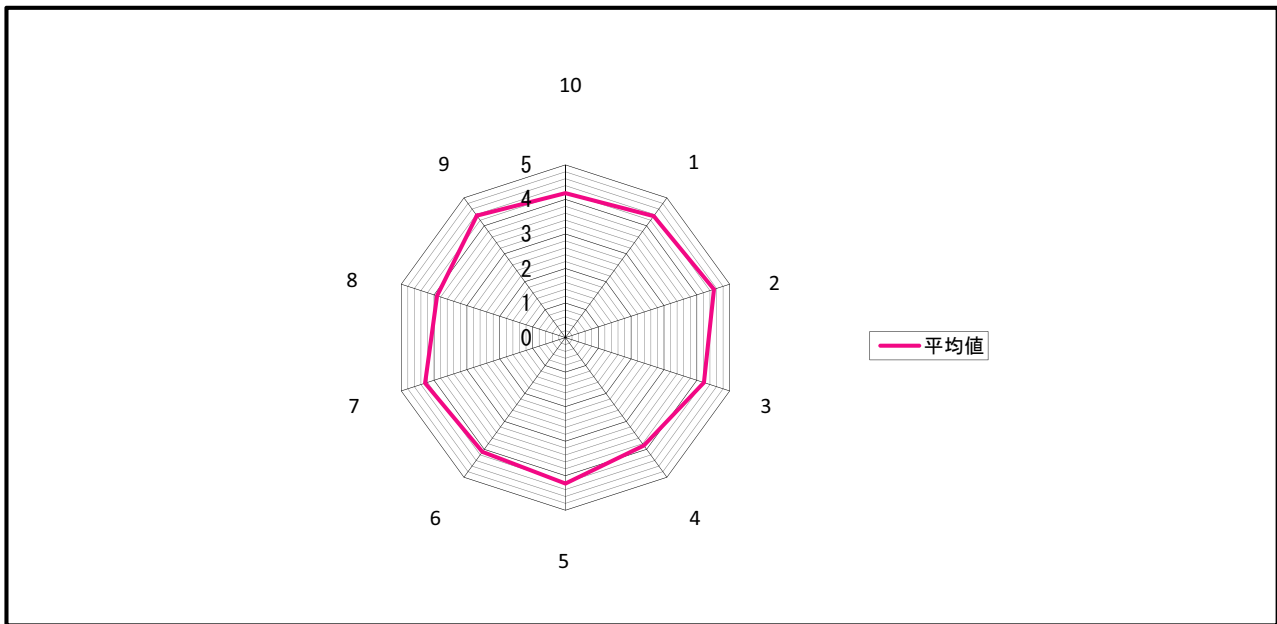
評価はおおむね良好であった。項目(9)の主体的、積極的に取り組めたかどうかについては、他の項目と比べ、若干数値が下がっている。これは、項目(1)の授業概要に対する評価との関連もあるが、内容が広がり進行を急ぐ部分もあったため、予習のしにくい授業であったと思う。次年度は、より内容を吟味し、詰め込まない形で進めたいと思う。

結果報告書

授業科目名 特別支援教育学習心理学研究論
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 島田 恭仁

回答者数 23 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	13	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	7	2			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	10	4			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	10	3	3	1	3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	9	4		1	4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	10	2	2	1	4.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	10	3		1	4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	12	3	2	1	3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	10	2		1	4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	11	2	1	1	4.2



教員のコメント

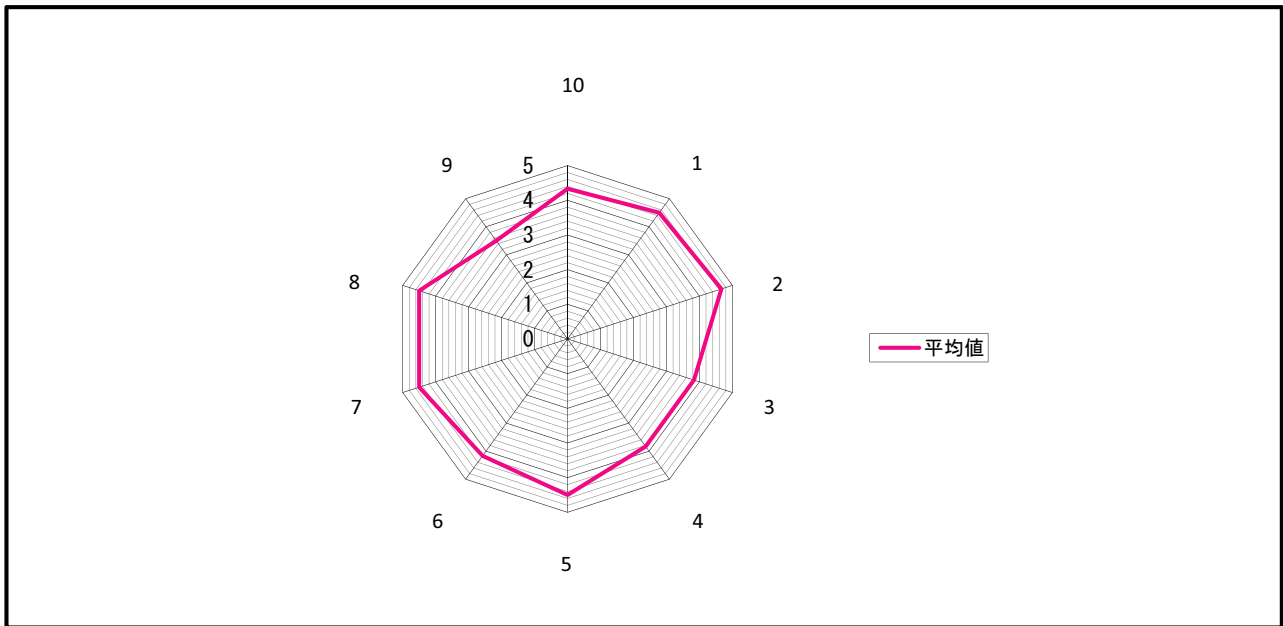
項目(1)(2)(9)で、大方の受講者が5又は4の高い評価を行ったことから、「授業概要は適切」であり、授業は「専門的知識を深めるのに役立つ内容」であり、受講生自身が「授業に主体的・積極的に取り組んだ」ことが分かった。とりわけ(2)では5の評価が多かったことから、専門的知識を深めることができたと感じている受講生が特に多かったことが分かった。項目(10)においても、NAの1名を除けば、大方の受講者が5又は4の高い評価を行ったため、総合的に評価して「この授業はよかった」と思っている受講生が多かったことが確かめられた。WISC-IVやDN-CASなど、通常学級に在籍する発達障害のある児童に対して用いられるようになった新しい認知能力検査について、詳しい紹介を行った上で、発達障害のある児童に対する心理アセスメントの流れを実情に即して説明したことが、知識を深めるのに役立ったのだと考えられる。さらに、終盤の授業において、アスペルガー障害の児童に関するアセスメントシートの作成、WISC-IVとDN-CASの結果の解釈、個別指導計画の作成、教材・指導法の考案等を実習的に行ったことが、意欲の喚起に役立ったのだと言える。しかしながら、項目(4)と(8)では3または2の評価を行った受講生が5～6名いたことから、「成績評価の方法」を分かりやすく説明すること、「板書や機器の使用」に工夫を加える必要があると考えられた。終盤の授業で構成したグループ別に評価を行う方法や、メディアを用いて教材作成の実習を行う方法等について考えたい。

結果報告書

授業科目名 発達障害児病理・病態生理学研究
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 田中 淳一

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	3				4.5
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2				4.7
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2	1	1		3.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	3	2			3.8
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	3				4.5
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2	3	1			4.2
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3	3				4.5
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	3				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。		4	1	1		3.5
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2	1			4.3



教員のコメント

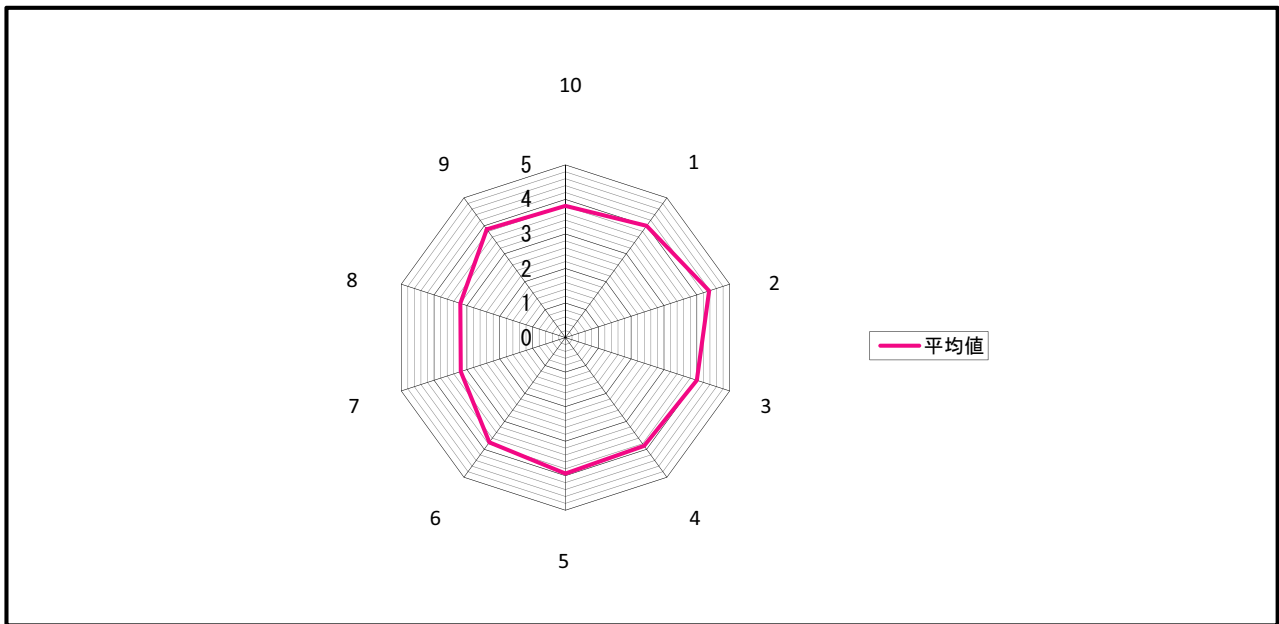
総合評価は4.3であり、ある程度の授業ができたものと考えられる。ただ、項目「授業に主体的・積極的に取り組んだ」の点数が低いことから、積極的に参加する様に指導する必要があることが指摘されている。授業中における質問等を多くして、改善をはかりたいと考えている。授業内容については専門性が高いだけに、丁寧な説明を行い内容の理解に努めたせいか、多くの学生が授業内容を理解してくれたことを伺うことができる。一方、項目「教師の実践力の育成につながる内容であった」において点数が低かったことから、授業内容についての改善が望まれる。学生からのアンケートのほとんどは受講してよかったとのな内容であり、「改善すべき点」についての記載は見られなかった。今後、上記の改善点等について検討し、より良い授業を行うようにしたいと考えている。

結果報告書

授業科目名 発達障害児生理・発達学研究
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 津田 芳見

回答者数 16 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	9	2	1		4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	6	2			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	7	3	1		4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	7	4	1		3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	9	4			3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	7	5	1		3.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	4	5	5		3.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	4	4	5	1	3.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	7	4	1		3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	9	5			3.8



教員のコメント

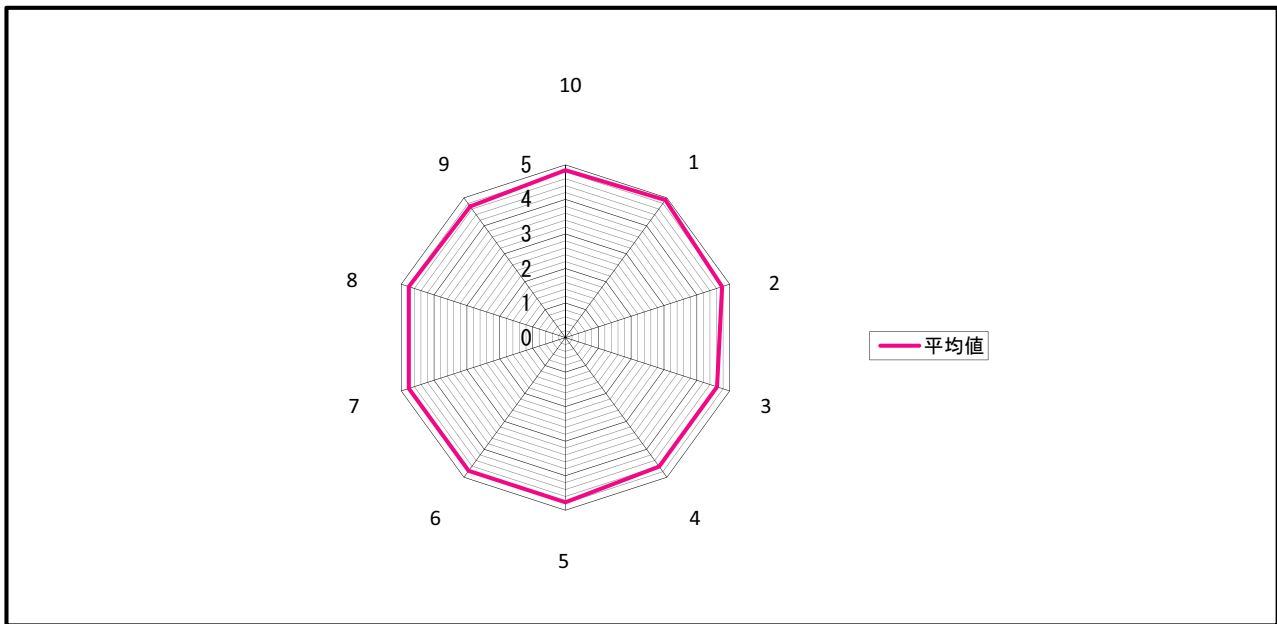
教員コメント| 授業の内容に関しては、授業概要、専門的知識の獲得、教師の実践力の育成などすべて、おおむね高い評価が得られた。しかし、教員の授業の進め方については、授業評価の方法の説明、授業のすすむ速さ、説明などは高い評価をした人もいるが、中間くらいの評価であった。配布した資料、視聴覚機器の使用などについては、高い評価をした人もいるが、低い評価をした人もあった。授業への主体的積極的取り組みについてもやや高い程度の評価であった。もう少し、参考図書文献を紹介し、自主的に積極的に取り組めるような工夫が必要と思われる。

結果報告書

授業科目名 言語教育基礎論 I
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 原 卓志, 茂木 俊伸

回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	3				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	3	1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	3	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	11	1	1			4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	1	1			4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	3				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	3				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	4				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	2				4.8



教員のコメント

本授業は、英語学教員と合同で開設し、身近な言葉の問題を取り上げて言語の本質について考えることを目的とし、受講生同士のディスカッションを中心に進めている。本年度は、受講生が大幅に増え、授業担当者として、新たな緊張感を持って取り組むことができたし、受講生同士の活発なディスカッションが実現した。しかし、人数の多さゆえに、受講生各自によるプレゼンテーションでは、それぞれの発表に対して十分な発表時間・質疑時間を確保できなかったことが課題となった。

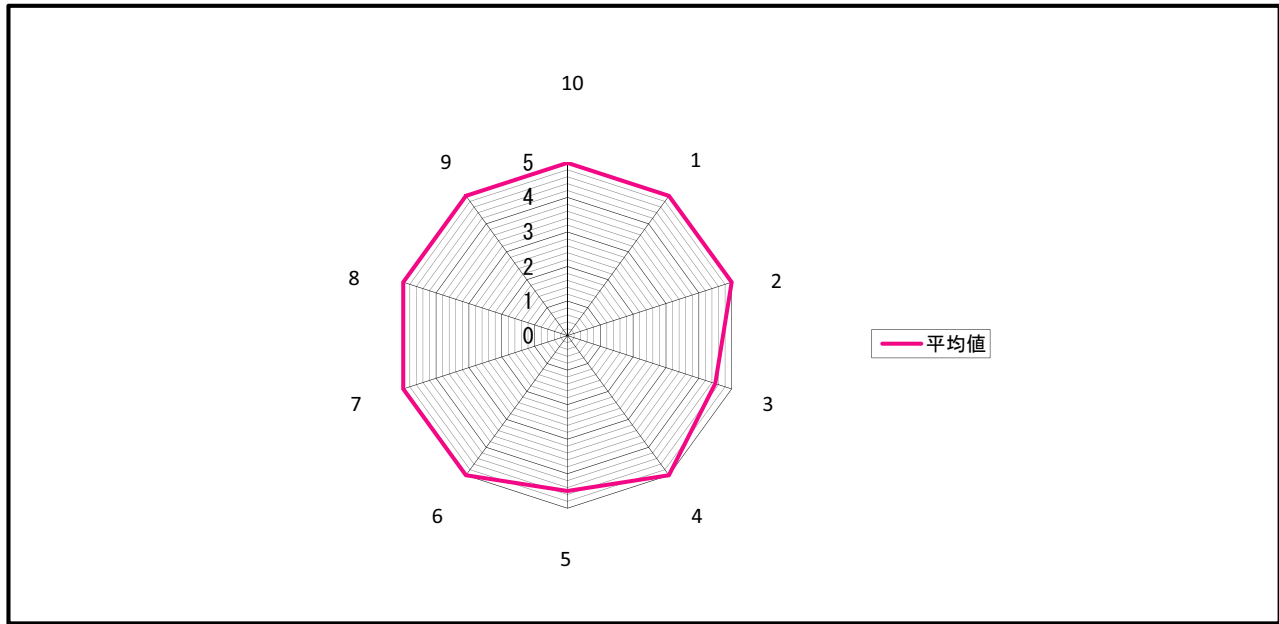
授業アンケートに見られる極めて高い評価は、受講生主体の授業を目指した授業担当者による工夫と、言語に対して真摯に向き合う受講生の姿勢と、自由な発想に基づいた独創的なプレゼンテーション力によるものである。受講生からは、「様々な視点から、言葉を見直したり、言葉について考えたりすることが興味深く、大変勉強になった。先生方の講義を受け、受講生がプレゼンテーションを行うスタイルもよかった。日本語や英語の特質を考察することから言語の本質に迫ることができ、言語に対する見方や姿勢が変わり、今後の実践の手がかりとなった」といううれしいコメントが寄せられた。

結果報告書

授業科目名 日本語 I
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 永田 良太

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

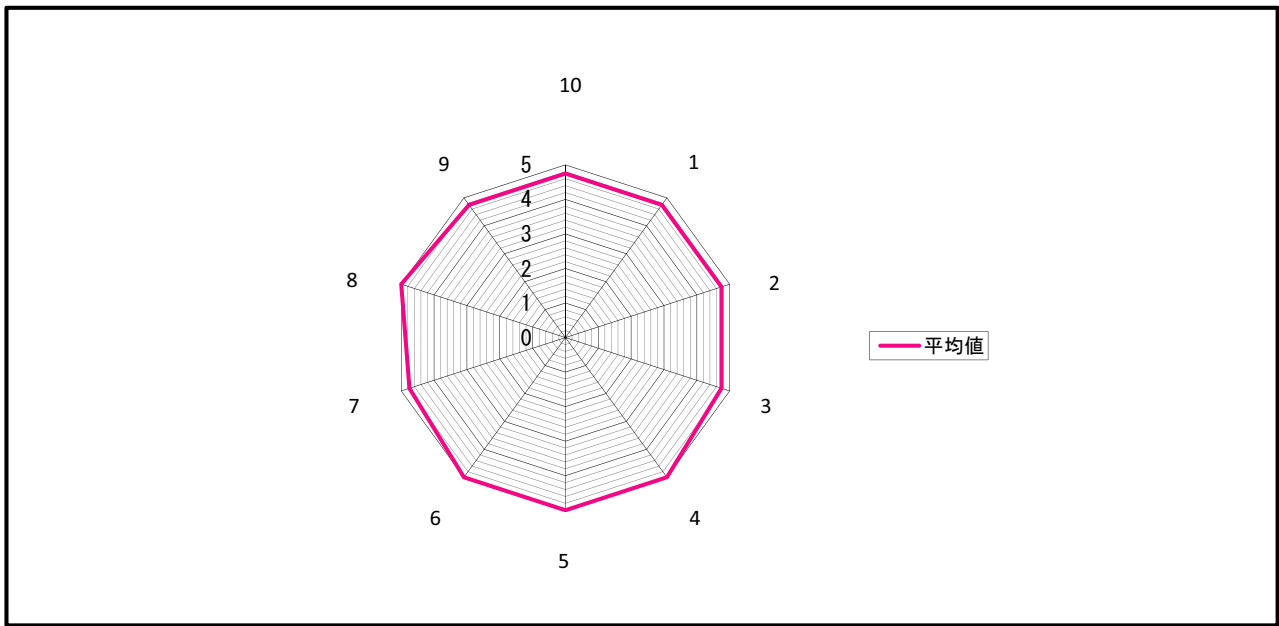
本授業では、レポートや論文を書くための日本語力を身につけることを目標とした。本年度の受講者はいずれも漢字圏の学習者であったが、レベルに違いが見られたため、授業の進め方や説明の仕方等に関して、困難さを感じる場面があった。「授業の進む速さ」に関する評価もこのことと関係していると考えられる。今後は、この点に一層配慮しつつ、さらなる授業改善に努めていきたい。

結果報告書

授業科目名 日本語Ⅱ
 評価実施日 平成24年7月25日
 担当教員名 妹尾 春子

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



教員のコメント

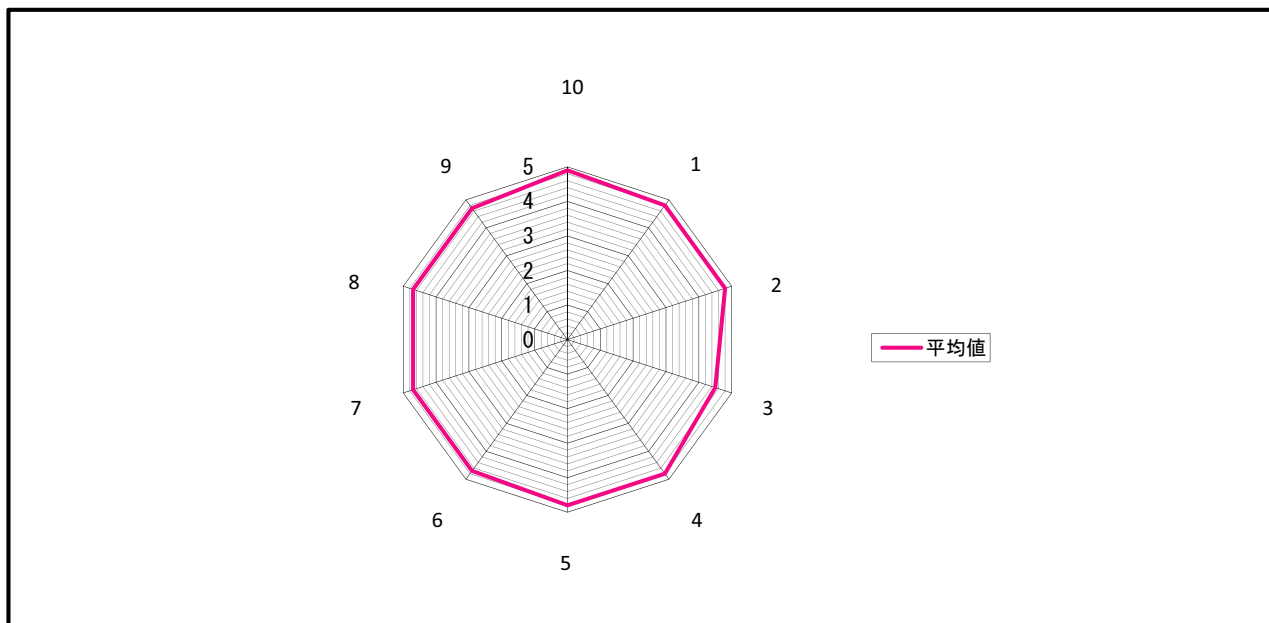
毎回、著名な作家の難しい論説文読解に取り組んだ。学生のみならず教員もまた、本文の核心を理解していくのは非常に難しい作業であったが、学生が知的好奇心を持ち積極的に質問、意見の発表ができたことは、この授業の一番の収穫だったと思う。授業後半では、学生が興味をもった分野の論文、論説文などを読み、それを他の学生に分かりやすく説明するという発表形式をとった。少し発表時間が長くなりすぎた反省点もあるが、学生同士で質問や感想・意見などの交換が活発であり、主体的に取り組んでいた姿勢が印象に残った。今後は読解の教材選びをもっと工夫したいと思う。

結果報告書

授業科目名 日本古典語研究
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 原 卓志

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9		1			4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1	1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	3				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	3				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1	1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	1				4.9



教員のコメント

昨年度後期から引き続き、願勝寺(徳島県美馬市美馬町の古刹)に伝わる古典籍の中から、江戸時代書写(天明二年成立)の「紀行餘所能春」を取り上げ、輪読形式で授業を進めた。本作品が旅程と風景の記述に終始しており、土地土地で出会った人々との交流や、心理的な描写に欠けるなど、文学性という面では優れた作品とは言えないことから、別の古典文学作品の読解も考えたが、これまで読んできた作品を途中で投げ出したいくないという意見を受け、継続させた。

現在の地図帳から、作者のルートをなぞりつつ、ともに旅をしているような雰囲気の中で、変体仮名とくずし字(漢字)の読解作業を進めていった。受講生諸君の努力の甲斐あって、変体仮名については、ほぼ読解が可能になった。

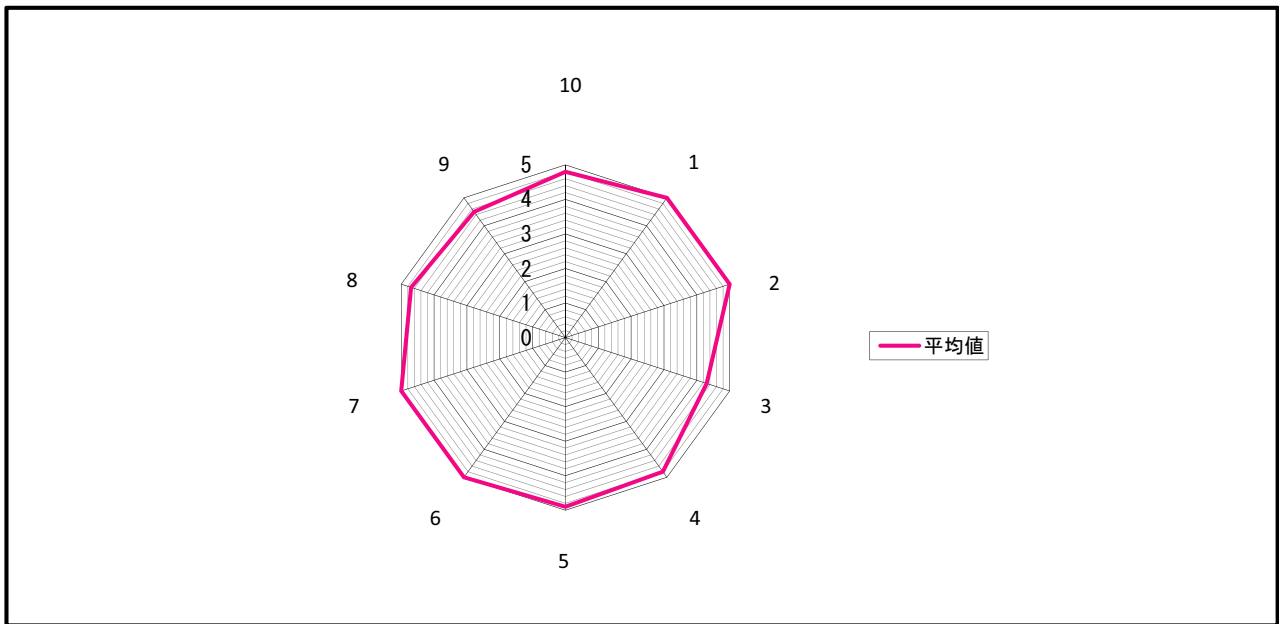
受講生からは「古典が好きになった」「江戸時代が平成によみがえったようで楽しかったです」「くずし字を読み解くことは新鮮であった。言葉の成り立ち、意味の奥行きを説明していただき、楽しかった」という肯定的なコメントが寄せられた。

結果報告書

授業科目名 現代日本語研究
 評価実施日 平成24年7月24日
 担当教員名 茂木 俊伸

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1	3			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	3				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3	1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	2				4.8



教員のコメント

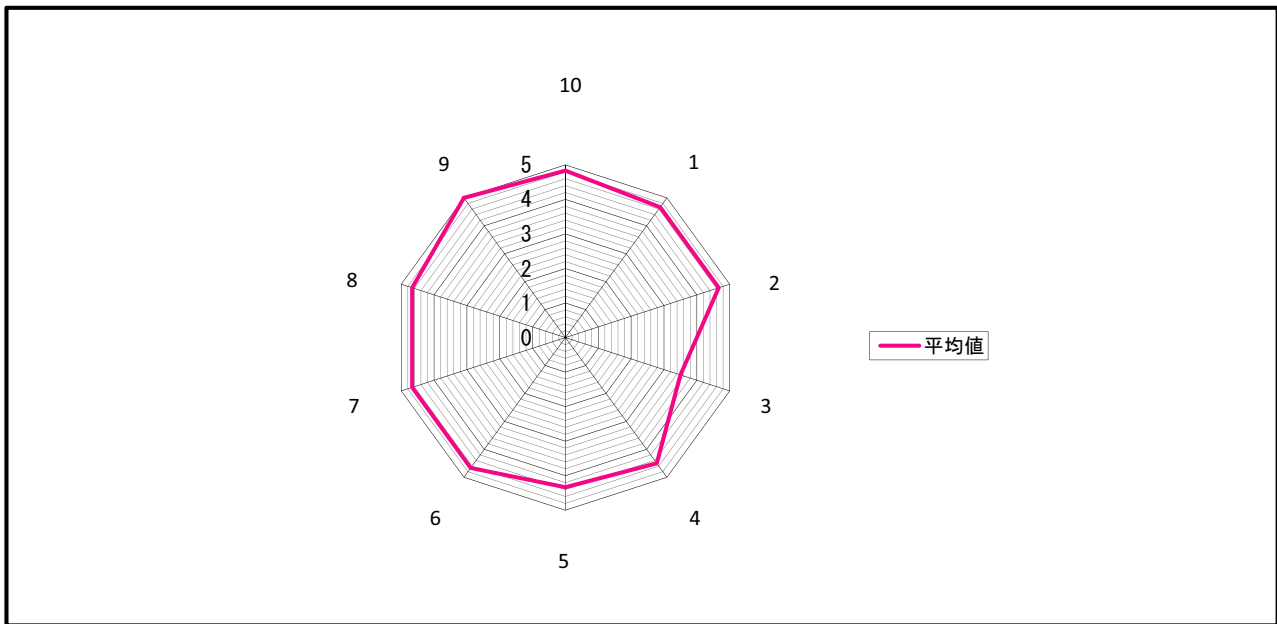
本授業では、現代日本語の語彙・文法などに関する諸問題を題材としながら、ことばの分析・研究において必要となる視点や技術に対する理解を深め、これらを獲得することを主な目標とし、講義を行った。受講者数は10名(＋聴講1名)であった。
 授業の総合評価の平均値は4.80、全項目の平均値も4.80である。昨年度と同様、項目3が最も低い評価(平均値4.30)であり、3人の受講者が「3」を選択している。ただし、全体的には、実践への還元が可能な授業内容として評価されているように思われる。
 改善点(記述式項目[3])として、「1限に授業をするのをやめてほしい」という意見があったが、授業配置の制約もあるため難しい要望である。(単に「朝早く起きるのが嫌」ということなら、それは甘えだと考える。)
 感想(記述式項目[4])の「国語科だけでなく院全員が受けた方が良いと思う」というコメントを励みにしつつ、よりよい授業を目指したい。

結果報告書

授業科目名 日本文学研究 I
 評価実施日 平成24年9月21日
 担当教員名 野口 哲也

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3		2		3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	3				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2	1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



教員のコメント

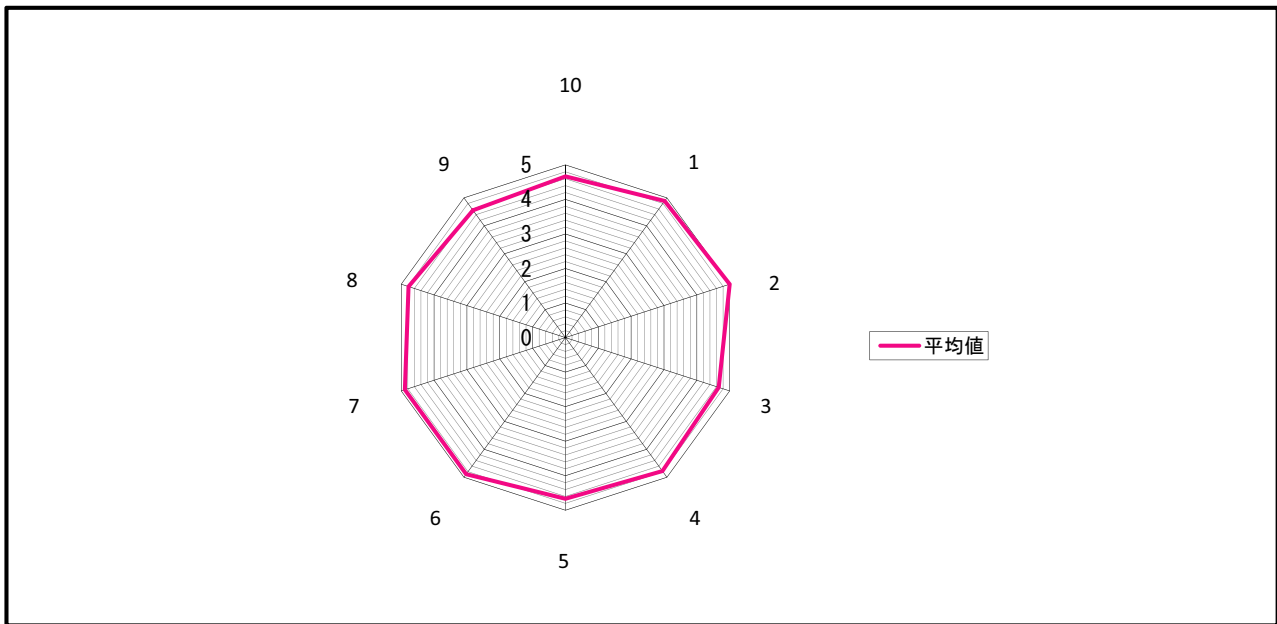
受講者が少数だったこともあり、概ね好評価を得られた。自由記述による回答においても、時間をかけて文学作品を読むという作業自体に高い満足度が示されている。
 昨年度に若干の課題を残していた(9)授業に対する主体的な取り組みという点でも好評価が得られた。受講者自身による発言・発表をはじめ、より積極的な学習活動という点で改善を図った。

結果報告書

授業科目名 日本文学研究Ⅱ
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 小島 明子

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1	1			4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	1	1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8		1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1		1		4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	1	1			4.7



教員のコメント

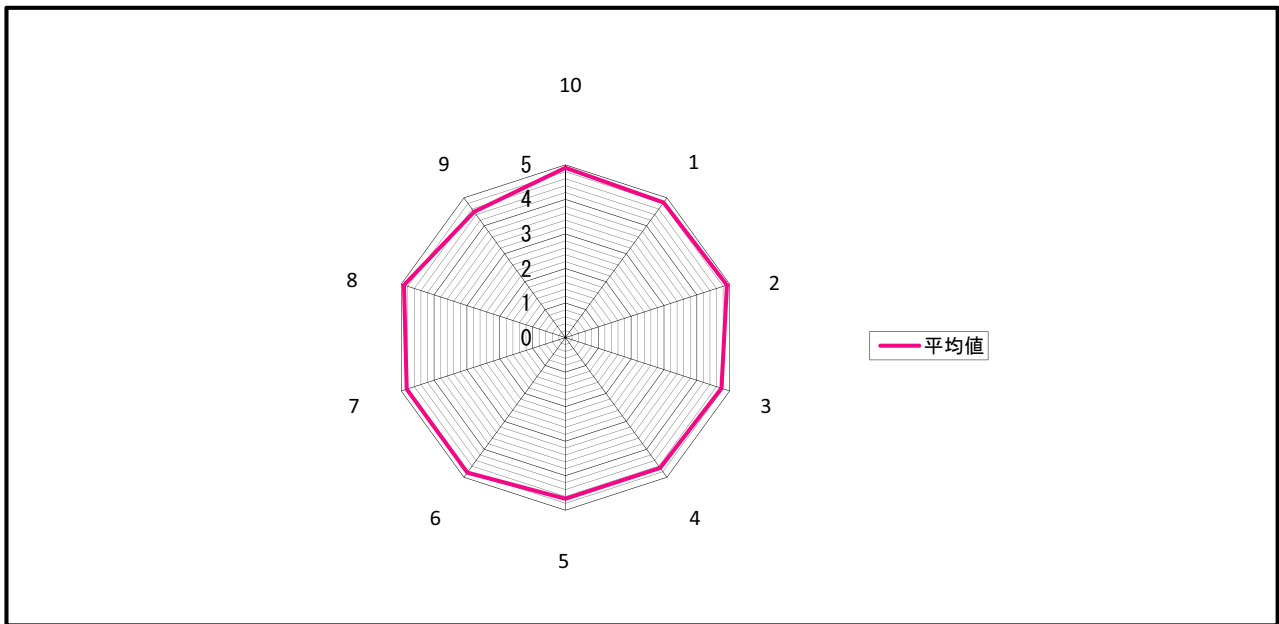
小島は昨年4月に本学に赴任してきたもので、この科目の担当は今回が2回目となる。昨年度は教員養成系の大学院の授業という目的からやや外れてしまった面もあったため、今年度は教材・教授法に改善を加えた。その結果、受講者のニーズにある程度、応えることができたと思われる。

結果報告書

授業科目名 社会言語学研究
 評価実施日 平成24年8月27日
 担当教員名 ロング ダニエル

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	3				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	4				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	2	1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	2				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	6				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	1				4.9



教員のコメント

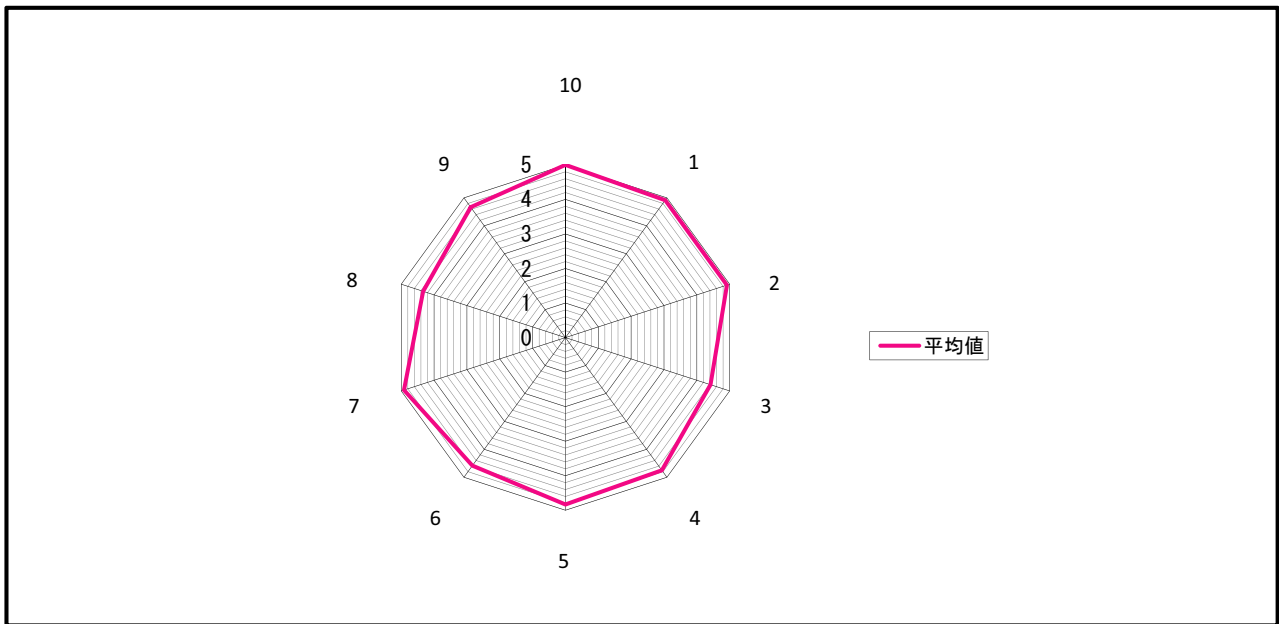
項目(4)の「成績評価の方法の説明は、適切であった」の評価はやや低いので少し反省しなければならないと思います。受講生の事項評価はやや控えめですが、実際のところ、今年度の受講生は非常に積極的に授業は進めやすかったです。

結果報告書

授業科目名 対照言語学研究
 評価実施日 平成24年8月10日
 担当教員名 山川 太

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	5	1			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	3				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	3	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	11	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	4	2			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12					5.0



教員のコメント

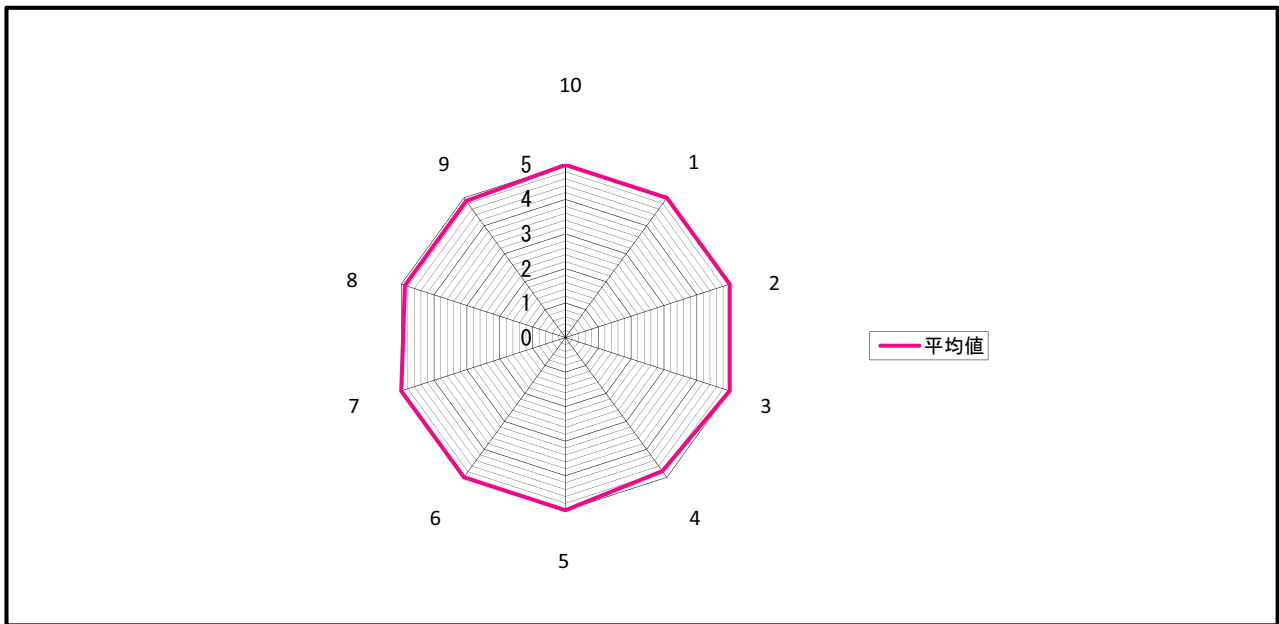
本授業では、動詞の意味構造と統語構造との関連を分析することによって、日本語と他言語との類似点・相違点が動詞の意味から導かれ得るということを見てきた。内容は理論言語学、特に「語彙意味論(Lexical Semantics)」と呼ばれる枠組みに沿ったものであったが、理論のみに偏重することなく、バラエティに富んだ言語事実の観察を行い、また、言語教育などの側面にも言及することによって、将来日本語教師や英語教師などを志す受講生にも資するように努めた。今回の評価結果を見るかぎり、いずれの項目においても高い評価を得ており、受講生にとっても一定の達成感を感じ得る授業であったと思量される。特に総合評価の項目において受講者全員から「5」を得ていることは教師として素直に嬉しく感じている。今後は、言語学分野での更に多くの研究成果を、教育分野を目指す受講生により一層効果的な手法で教授していくことを引き続き目指していきたい。

結果報告書

授業科目名 日本語文法研究
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 永田 良太

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9					5.0



教員のコメント

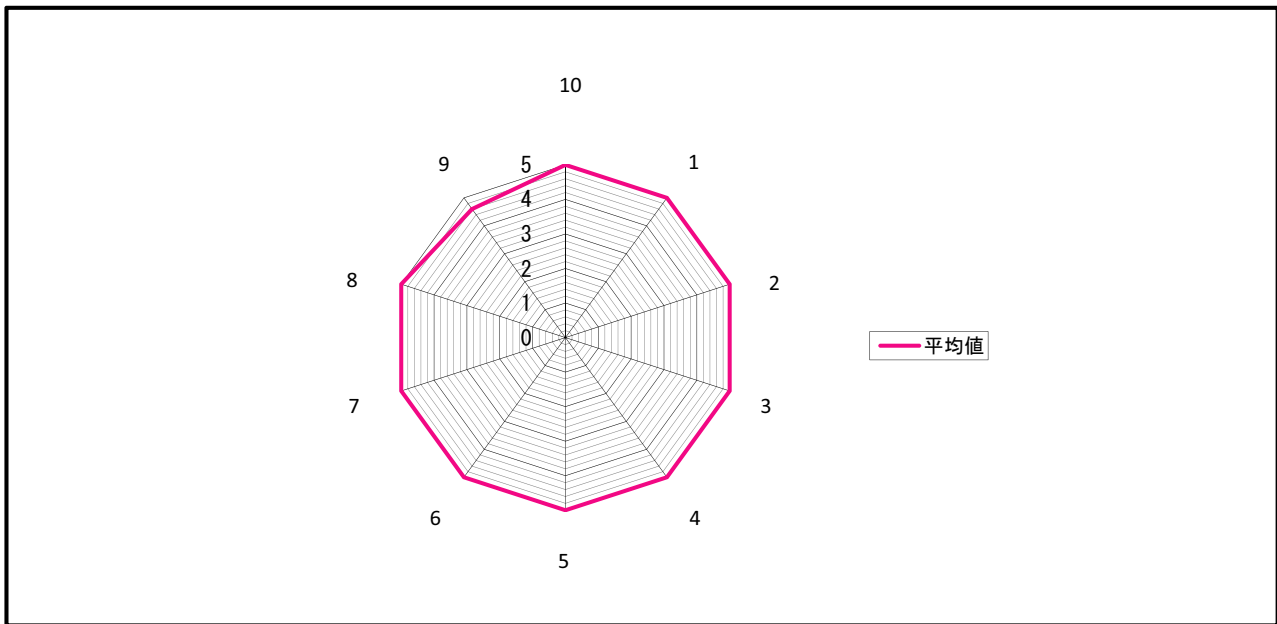
本授業は、日本語の文法規則を意識化するとともに、日本語教師として必要な文法的知識を身につけることを目標とした。今回の評価結果を見ると、いずれの項目も高い評価を得ており、本授業に対して受講者自身も達成感を感じているものと思われる。前年度に課題として残された「授業の進む速さ」についても本年度は改善されており、ディスカッションを交えながら適切な速さで授業を進めることができたと思われる。今後は、成績評価の方法をより明示的に示すことを意識しつつ、一層の改善を図っていきたい。

結果報告書

授業科目名 日本語音声表現研究
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 永田 良太

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4		1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

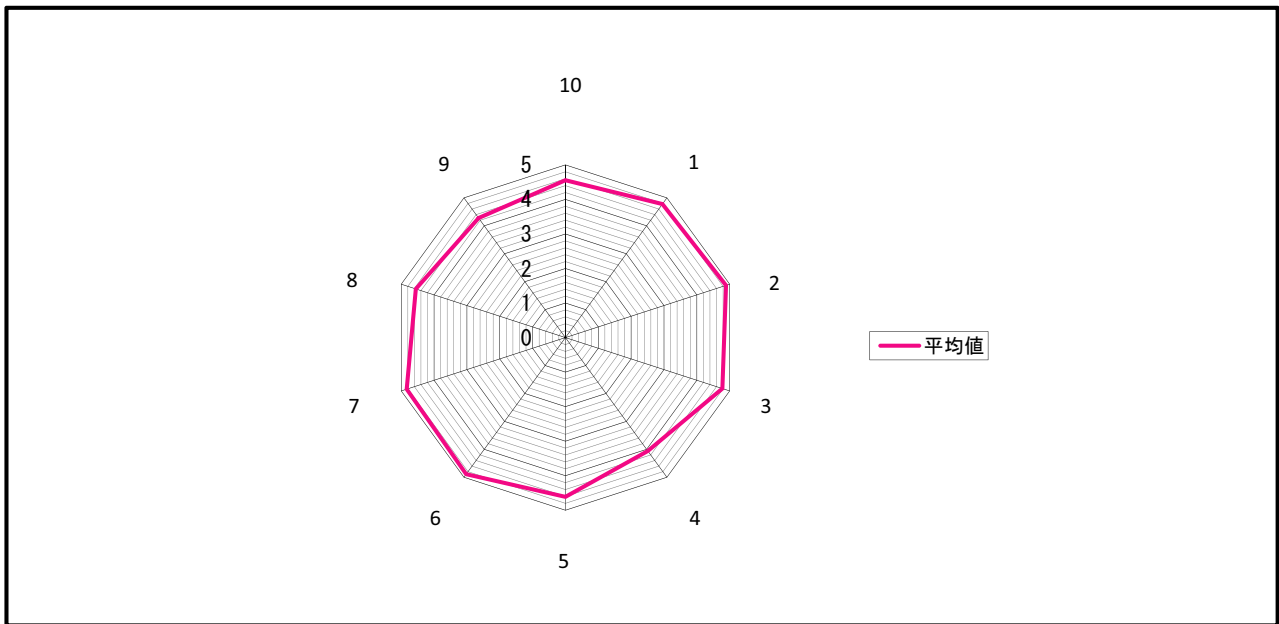
本授業は、普段無意識に発している日本語の音声を意識化するとともに、日本語教師として必要な音声学の知識を身につけることを目標とした。このような授業目標を達成する上で、留学生や様々な言語の学習経験を持つ学生の参加を得たことは有意義であった。他の言語と比較することで日本語の音声の特徴を明らかにすることができるとともに、日本語学習者としての視点からの留学生の発言により、習得上の問題点を確認することができた。このような受講者間の相互作用もあり、受講者自身も達成感を感じていると思われる。今後は、授業への主体的な参加を促しつつ、さらなる改善を図っていきたい。

結果報告書

授業科目名 国語科授業研究
 評価実施日 平成24年7月19日
 担当教員名 幾田 伸司

回答者数 18 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	14	4				4.8	
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16	2				4.9	
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	4				4.8	
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	6	3		1	1	4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	12	5	1				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	16	2					4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	15	3					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10	8					4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	6	2	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	3	1	1			4.6



教員のコメント

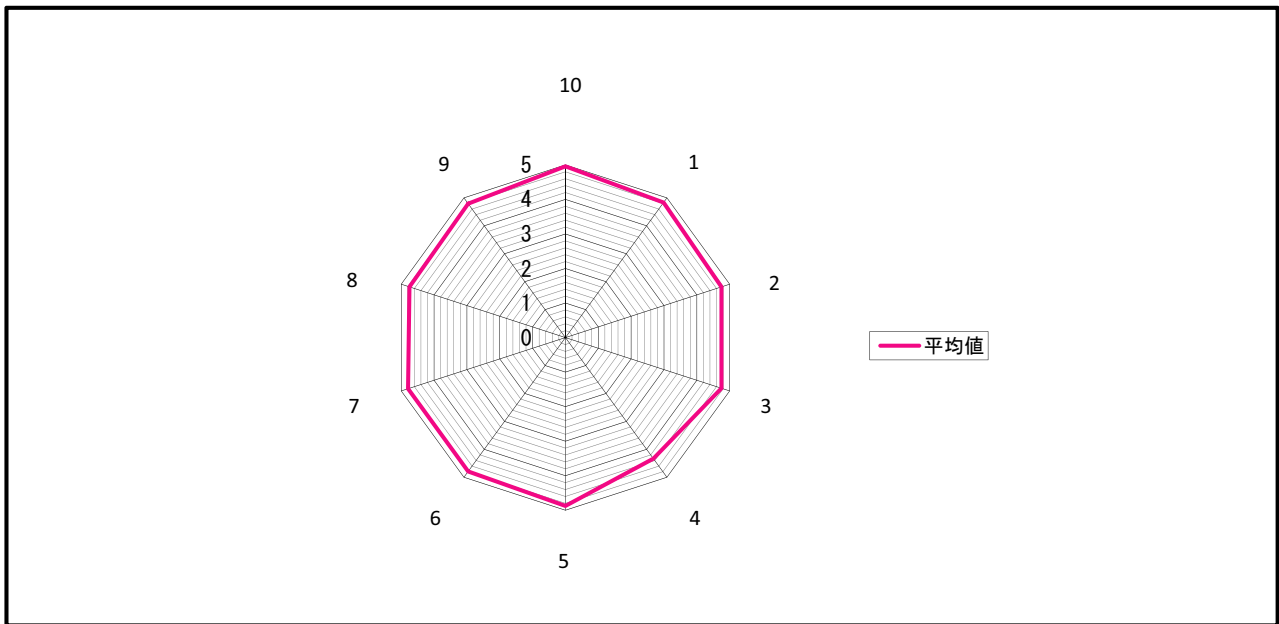
今期の受講者は18名と本授業としては大人数になり、また、所属コース、既有知識も多岐にわたっています。今回の評価については、そうした状況と合わせて考え、いろいろと成果と課題が見えるものとなりました。
 「授業の内容について」はおおむね肯定的にとらえられていました。専門的ありか、現職かストレートかを問わず肯定的に評価されていますので、対象とした話題はニーズに見合ったものであったと考えてよいと思います。
 「授業の進め方」については肯定的な評価も多くいただいているのですが、反省点も明確になりました。第一は、評価方法の説明が不明確であったことです。少人数であることに甘えて杜撰だった面があると思います。時期以降には改善したいと考えています。第二は、受講者の方の意見の拾い方です。私なりに解釈してとらえていますが、誤解、私の考えへの強引な誘導などが感じられた場面もあったようです。私の力量の課題ですのですぐによくなるわけではありませんが、研鑽したいと思います。
 様々な履歴の方が集い、活発に討議してくださったので、教材解釈や議論に広がりが生み出されました。全般的に肯定的に捉えられているのは、受講生の方たち自身が、主体的に関わった結果だと思えます。逆に言えば、進んでいる議論の活発さに惑わされて、あまり主体的に取り組めなかったと回答された受講生の方への配慮が行き届かなかったとも言えます。いただいた課題をふまえながら、時期以降の授業に生かしたいと思えます。

結果報告書

授業科目名 国語科教材開発研究
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 余郷 裕次

回答者数 24 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	21	2	1			4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	19	4	1			4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	19	4	1			4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	8	4			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	22	1	1			4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	19	5				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	19	5				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	19	4	1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	21	1	2			4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	23	1				5.0



教員のコメント

すべての評価項目について、5の評価が一番多かった。特に「総合評価」については、1名を除く残り全員が5の評価であった。この結果は、現職院生が同じ授業者の立場から、好意的な評価をしてくるとともに、ストレートの学生も、もともとこの分野に興味・関心のあった受講者が多かったことによるものと考えられる。

受講生のコメントとして「子どもの心に働きかける絵本の読み聞かせの大切さを学ぶことができました。」「1つ1つの絵本をくわしく分析して説明していただき、大変興味深かったです。」「絵本のすばらしさを再認識できて良かった。」「毎回、読み聞かせの練習があり、音読のよい練習になった。また、授業の最初に受講生の読み聞かせが聴けるのも魅力的であった。」など、講義内容を評価するものが多く見られた。

また、「腹式呼吸を意識するようになった。」「絵本の読み聞かせの練習が、自分の成長につながると信じ、ずっと続けていきたいと思う。」など、講義を離れた生活場面への影響を指摘するコメントも見られた。

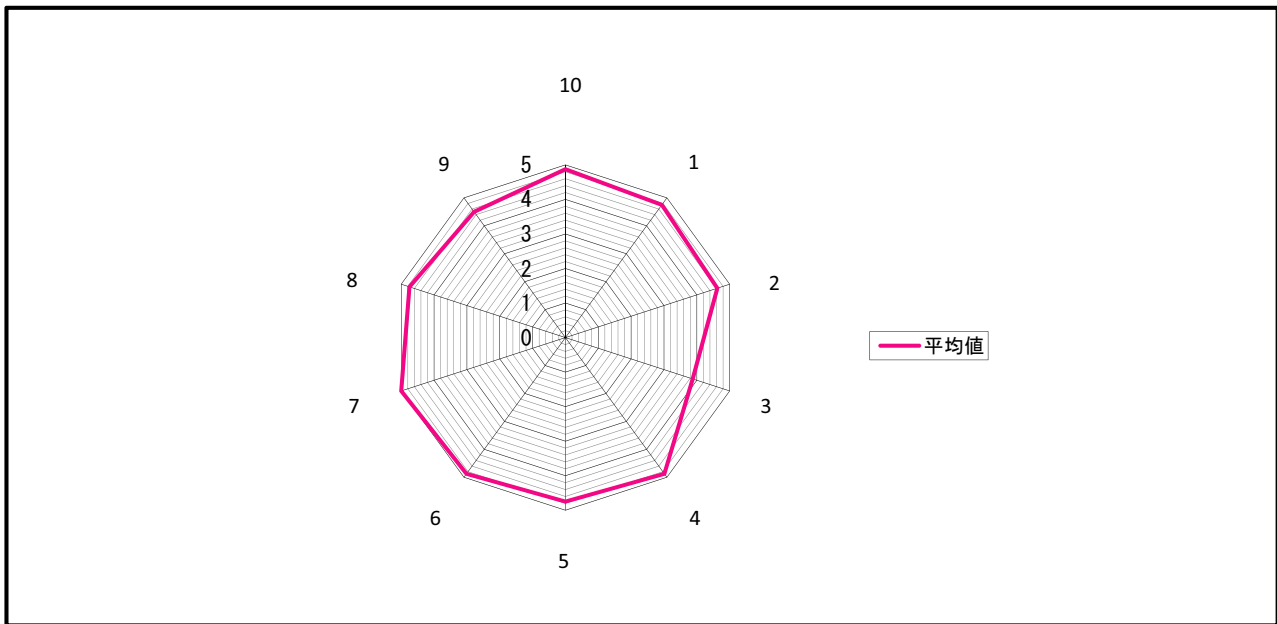
近年、受講生が10名程度にとどまっていたが、本年度は、26名の受講生があった。この程度の受講生が維持できることを願っている。

結果報告書

授業科目名 英米文化研究Ⅱ(現代文化研究)
 評価実施日 平成24年7月31日
 担当教員名 前田 一平

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	3				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3	3			3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	1				4.9



教員のコメント

総合評価が4.9という高い評価を受けたことには満足できるが、質問項目(3)の評価のみ3.9と比較的低い。今後の課題としなければならない。アメリカ文学の授業なので、文学をほとんど扱わない現在の英語教育に鑑みると、受講生の反応は当然かもしれない。だからこそ、特に読解力や文化理解という意味で実践力の養成に資する授業であることを今後は説得力をもって強調しなければならない。

自由記述は8名の受講生中7名が記述をしており、いずれも「今まで知らなかった日系人のことを知ることができた」「ふだん文学を読まないのがよい経験になった」「授業にじっくりついていけた」「ペーパーはコメントを付して返却されるので、振り返りができてよかった」など好評であった。消極的、否定的な記述はなかった。

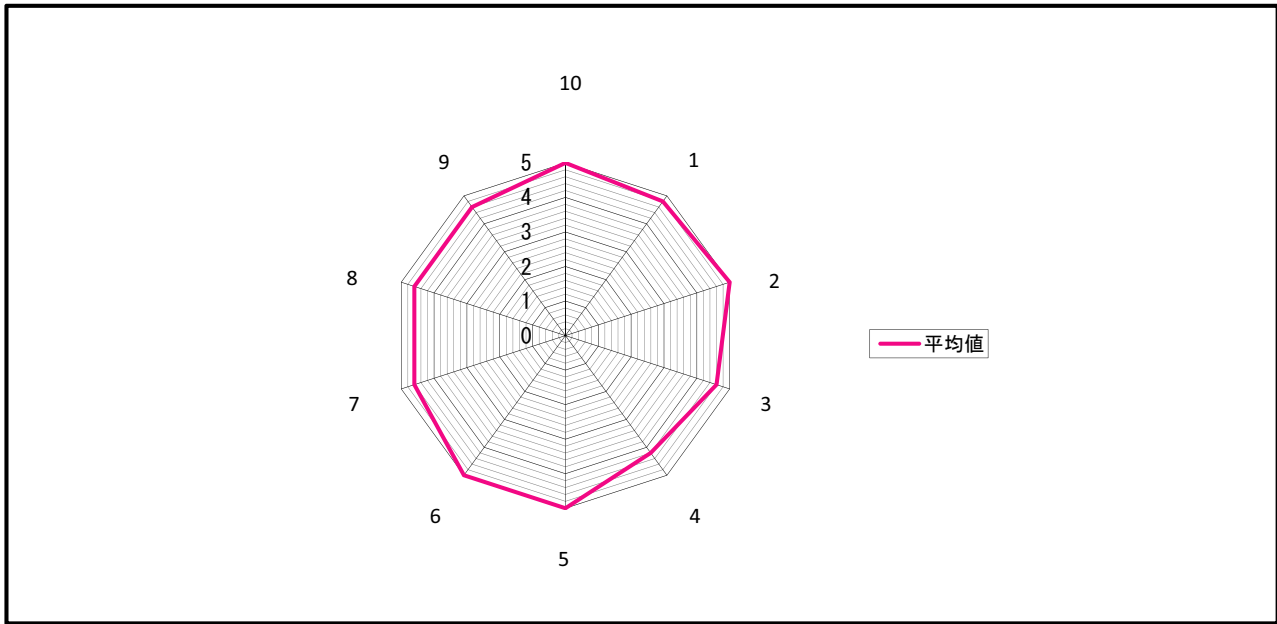
今後も、おおよそ現在の授業方法を踏襲すればよいか、と判断する。

結果報告書

授業科目名 英米文学応用演習Ⅱ
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 太田 直也

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1		1		4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4		1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4		1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4		1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

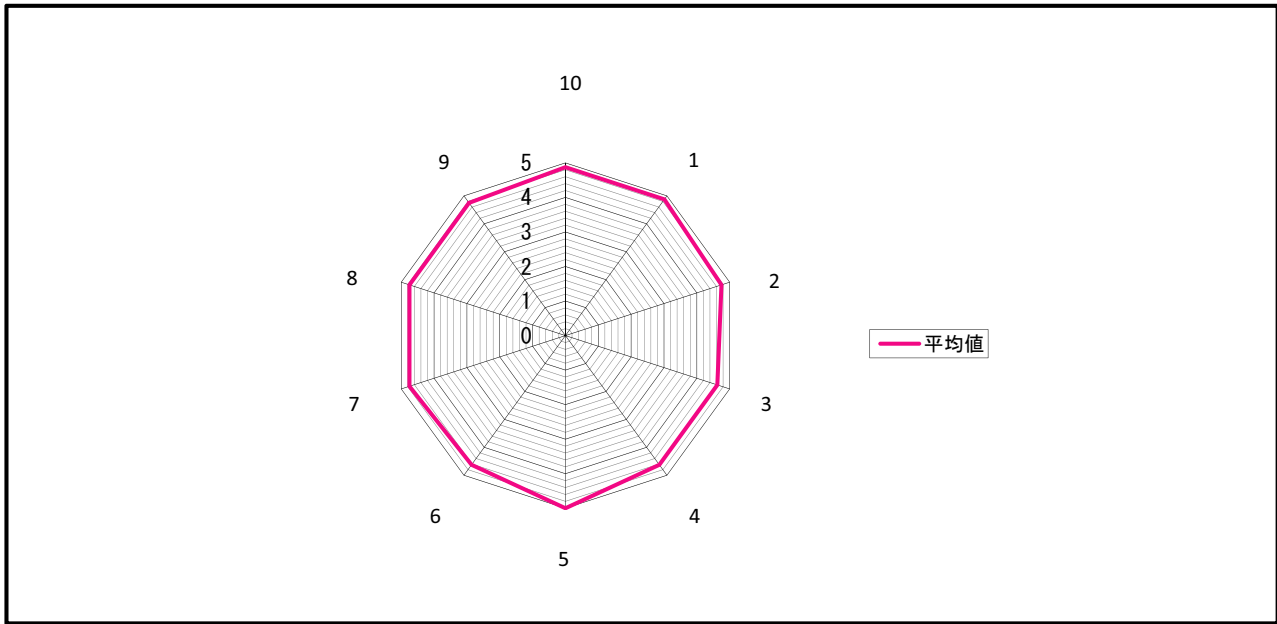
言葉の面白さ、詩の芸術性への関心を高めることと併せて英語の読解能力向上を本授業は目指していた。授業内での発表から、その目標は相当程度達成できたと考える。ただ、授業で取り上げる作品に関しては、担当者はよりシステムティックに準備するべきであったと反省している。

結果報告書

授業科目名 言語教育基礎論Ⅱ
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 藪下 克彦, 眞野 美穂

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	3				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7		1			4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	1				4.9



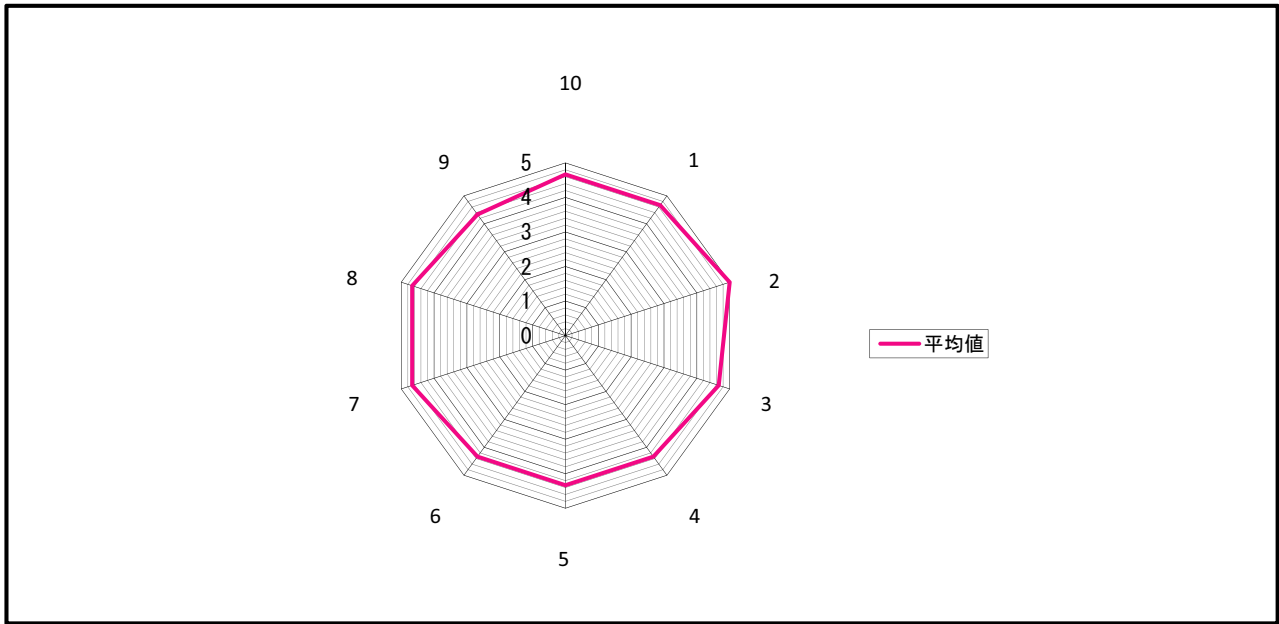
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 英語学研究 I (英文法理論)
 評価実施日 平成24年7月25日
 担当教員名 藪下 克彦

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2		1			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	2				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2				4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



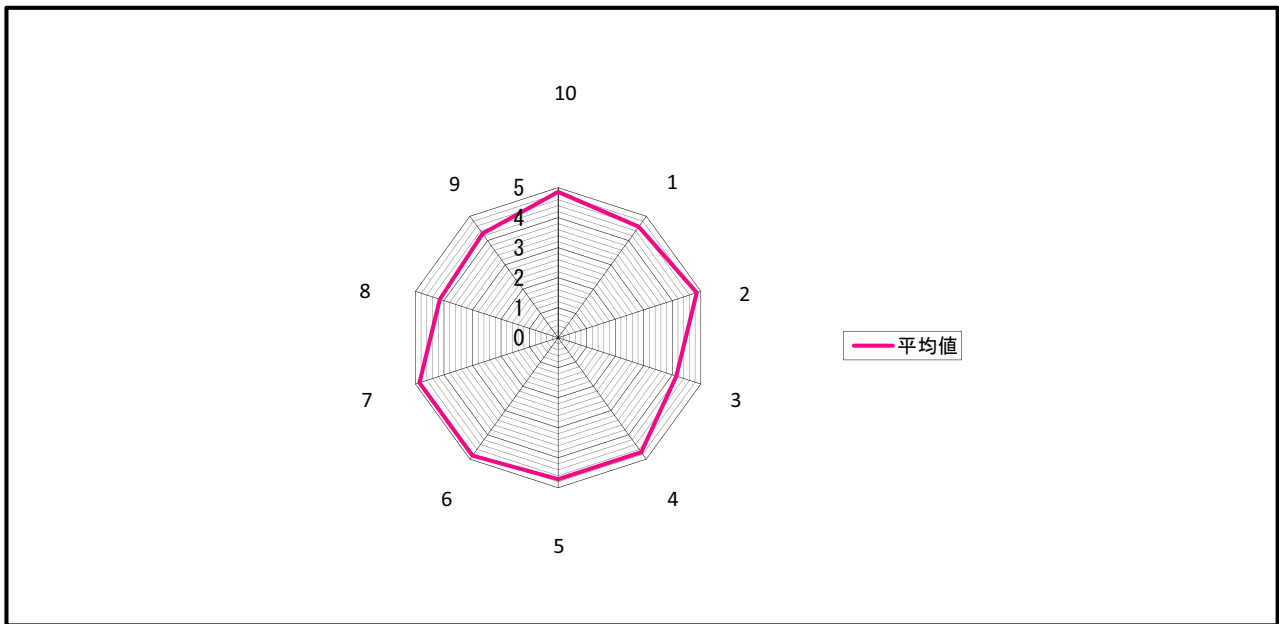
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 英語学研究Ⅱ(言語表現)
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 眞野 美穂

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	2			4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	2				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2	2			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	5				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



教員のコメント

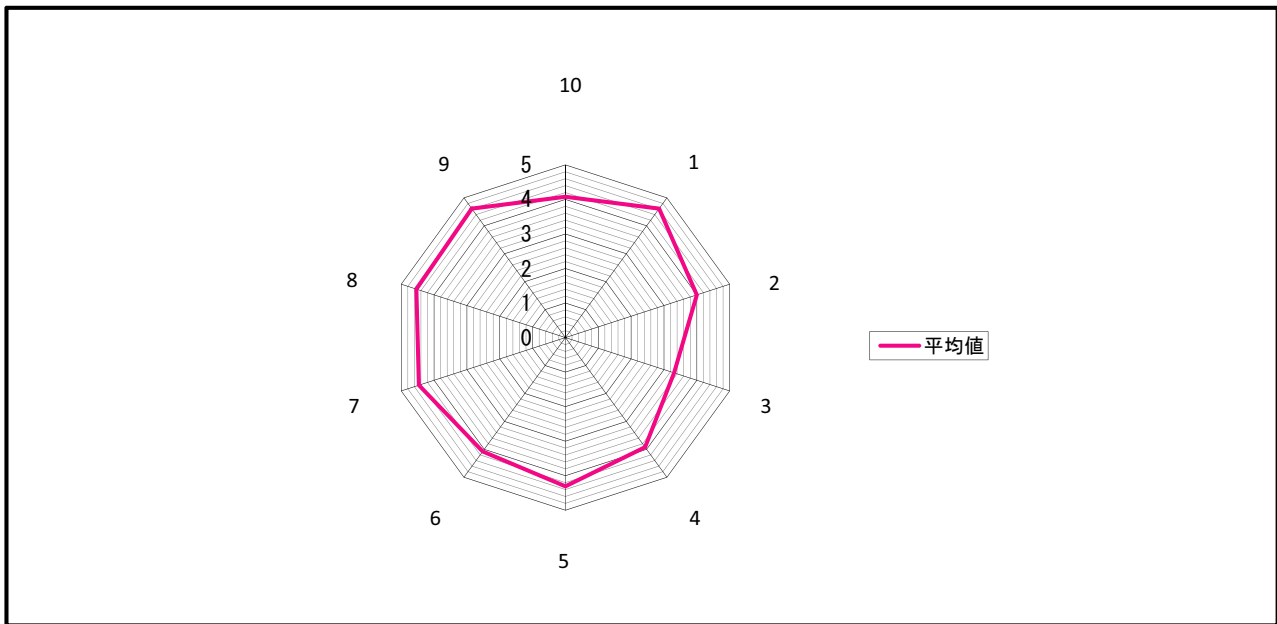
アンケート結果から概ね良い評価を受けたと考える。しかし、自由記述にあげられた意見を見ると、改善を要する点が明らかになって来た。今回は英語で論文を読むことだけではなく、英語学の分野の読みものが初めての受講生も多く、説明を丁寧に行ったことは理解につながったようであるが、今後論文の選択等検討し、よりよい授業につなげたい。

結果報告書

授業科目名 英米文化研究 I (文化史)
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 杉浦 裕子

回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10	1	2			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	8	1	1		4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	4	2	2	2	3.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	3	4	1		3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	7	1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	4	4			4.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	7				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	4	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	3	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	6		2		4.1



教員のコメント

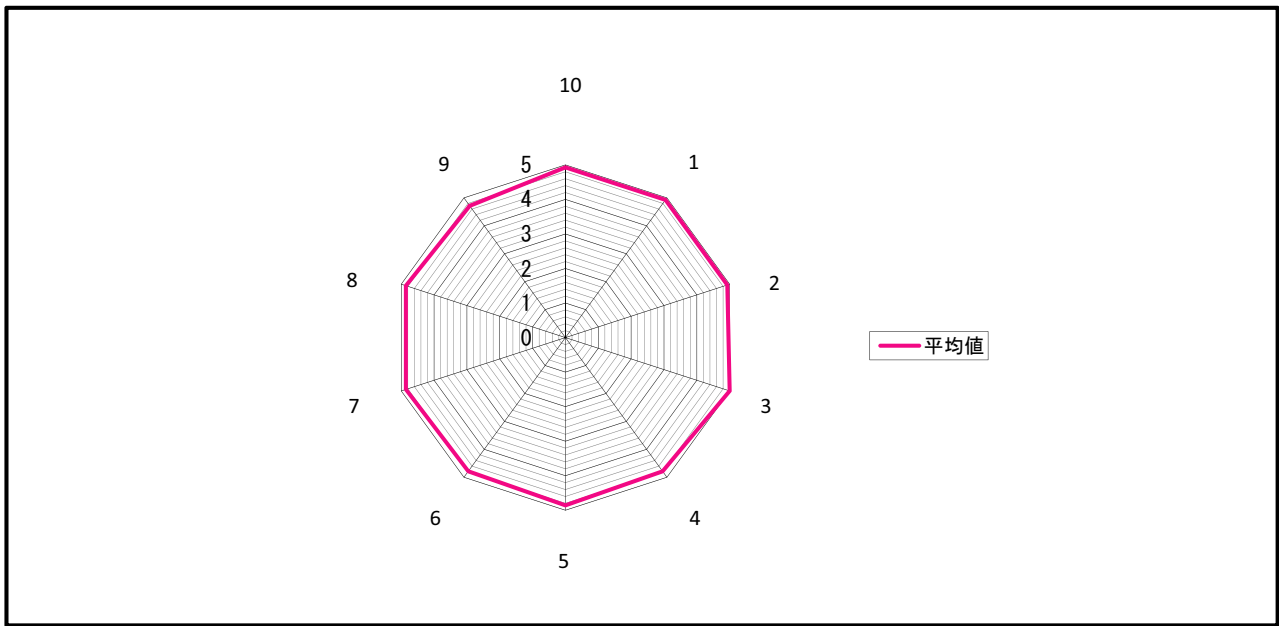
この前期は、例年にない数の受講生がいたので最初は喜んでしたが、予習や課題を含めてまじめに取り組んでくれたのは現職の先生達で、長期履修生の一部の学生はこちらが求める予習をほとんどしていなかった。どうも彼らは2年生になっても受講する授業数が非常に多く、一つ一つの授業を丹念に予習して取り組むという、大学院の授業への基本的な心構えができていないことが残念であった。昨年はうまくいった授業が、今年はあまりうまくまわらなかった。今後は現状を踏まえ、授業のやり方の変更も考えていきたい。

結果報告書

授業科目名 英語科教育特論 I
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 伊東 治己

回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	3				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	13		1			4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	12	1	1			4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	12	2				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	2				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	10	4				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	1				4.9



教員のコメント

本授業の目的は、社会の国際化・情報化が急速に進展していく中で、学校での英語教育においても国際社会で通用する実践的コミュニケーション能力の基盤作りが重要な課題となっているという現状認識に立脚し、小・中・高を問わず教室において英語コミュニケーションを誘発し、英語コミュニケーションに対する積極的態度を育てていくための方略について、実習形式を交えて多角的に検討していくことであった。受講生からの評価値(総合評価が4.9)や自由記述の形で寄せられたコメントから判断する限り、当初の目的は概ね達成できたと思われる。その中でも特に、授業の2本柱のうちのひとつであるコミュニケーション活動を取り入れた模擬授業(マイクロティーチング)に対して

- ・教材作りのよい勉強になったし、文法説明やタスク作りの重要性を学べた。
- ・様々なCLTの使った模擬授業を受けることが出来て、参考になった。
- ・実際に自分たちでタスクなどを考え、実践できたので。
- ・マイクロティーチングで実際に授業をすることもできて、すぐに現場で役立つ知識や指導法なども学ぶことができました。

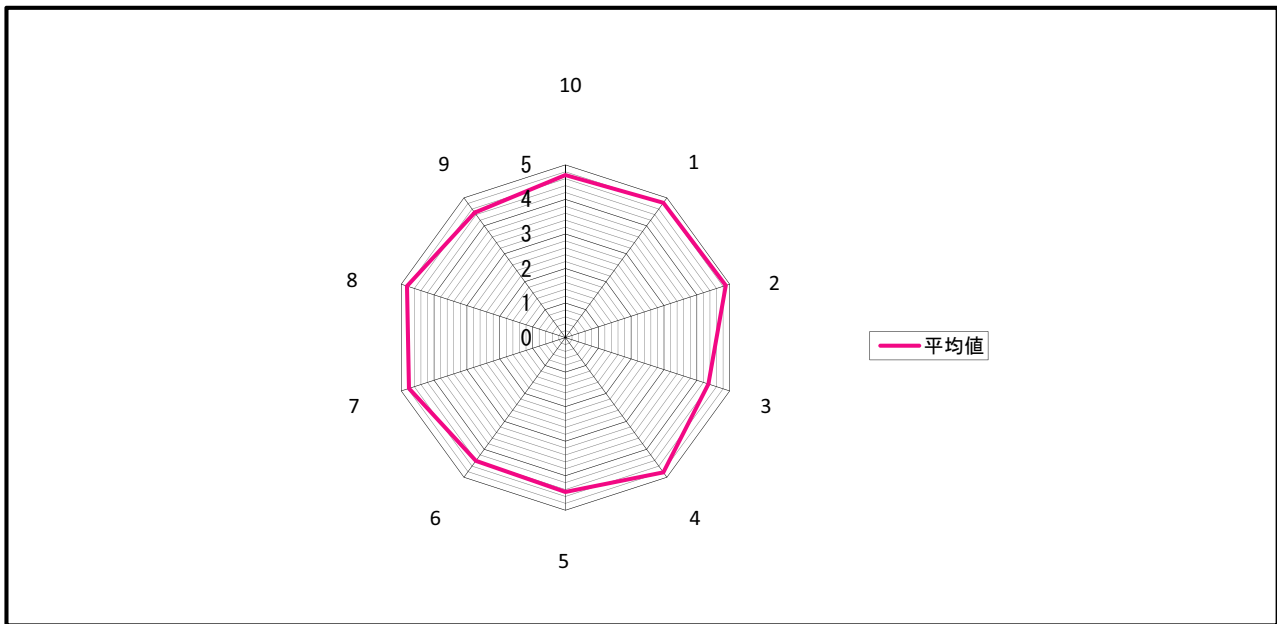
・I could learn important strategies and methodologies which I will be able to use in my classes.
 など、好意的評価を得ることができ、実践力の育成する上での模擬授業の有効性を再認識することができた。今後も、模擬授業を核としながら理論と実践を融合させた授業改善に取り組んでいきたい。

結果報告書

授業科目名 英語科教育特論Ⅱ
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 山森 直人

回答者数 17 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	14	3				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	15	2				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	5	3			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	14	3				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10	5	2			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	9	6	2			4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	13	4				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	14	3				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	3	3			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	3	1			4.7



教員のコメント

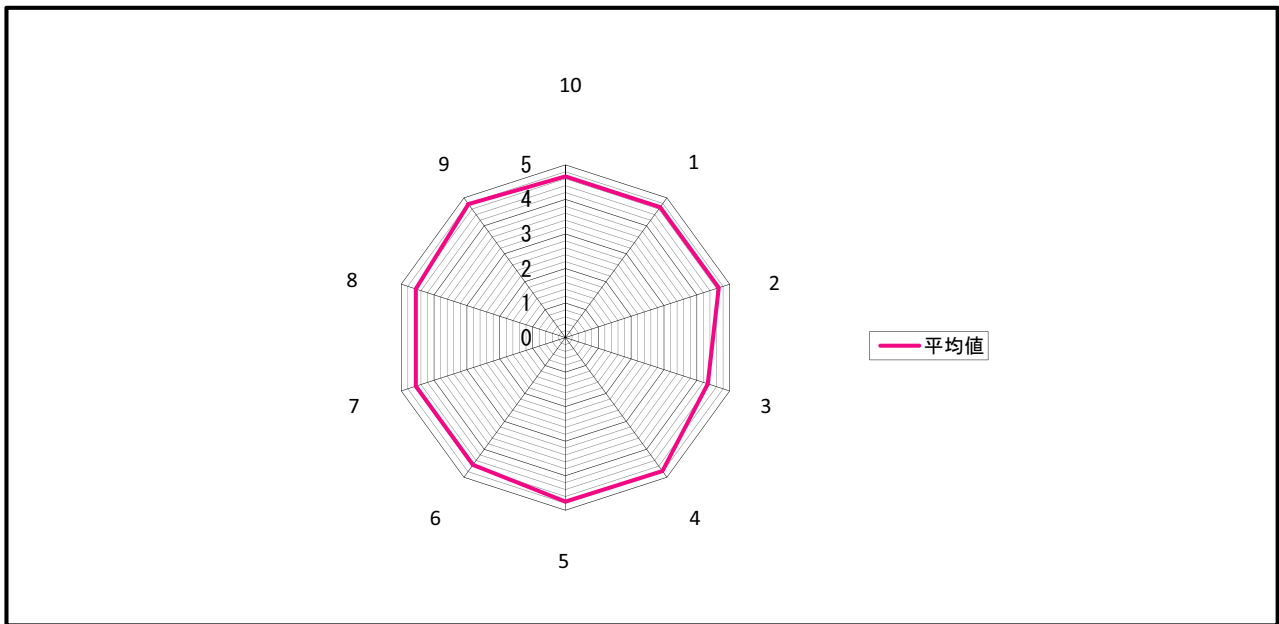
総合評価が4.7であること、また、全項目が4点台であることを考慮すると、授業は全体的に高評価を得たと考える。しかし、受講生間の評価にばらつきがみられる項目(項目3, 5, 6, 9)があり、これらは毎回相対的に得点が低い項目でもある。項目3(教師の実践力の育成につながる内容であった)については、昨年度同様、教育研究の教育実践上の意味合いについて考えるなど「教師の実践力」との関連を意識して授業を進めたが、実践経験があまりない受講生が多いためか、その関連性の理解は難しいのかもしれない。教育実践経験のない学生に対する、授業内容と「教師の実践力」との関連づけのあり方を追求する必要がある。次に、項目5(授業の進む速さは、適切であった)と項目6(受講生に分かりやすく説明した)は受講生の授業内容についての理解に関するものであるが、大学院レベルの授業内容であることを考慮すると、量的にも質的にも高度になることは必至であり、受講生間で理解にばらつきができることも自然であるとも考えられる。授業者の指導技術として授業進度や分かりやすさを工夫することも大切であるが、授業を通して受講生が獲得すべき知識や技能と格闘したかということや、それをどの程度獲得したかという受講生側の側面を考慮することも重要と考える。それが項目9(授業に主体的・積極的に取り組んだ)とも連動してくるのではないかと考える。以上の項目間の関連性をふまえて、授業を実施していきたい。

結果報告書

授業科目名 英語科教育特論Ⅲ
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 畑江 美佳

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	4	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	2			1	4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	4				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	4				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	4				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	3				4.7



教員のコメント

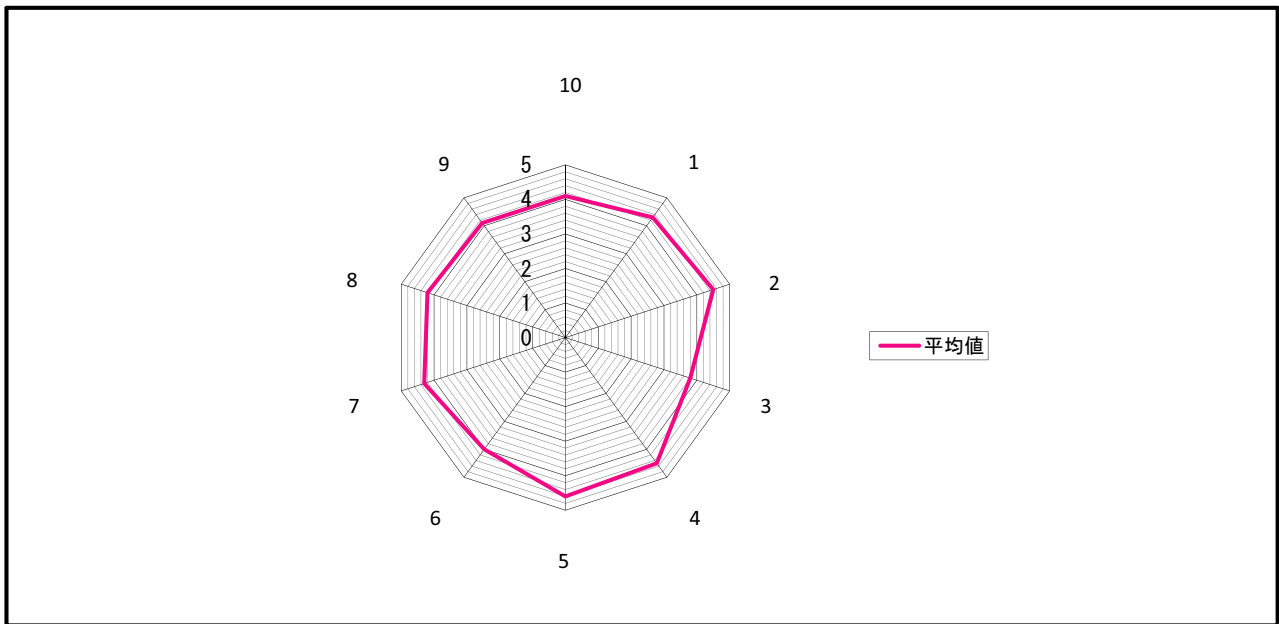
事前に課題を与え、授業の始めに一人一人に意見を求め、各自が問題意識をもって主体的に取り組む授業を心がけたので、(9)の評価には満足している。また、「英語科教育特論Ⅲ」はどちらかというと理論的なことを中心としたので、後期の「教育演習Ⅲ」の方では、より実践的な指導を盛り込んでいるので、それも併せて受講してもらって、理論及び実践力がつくようにデザインしている。今後も受動的な授業ではなく、能動的に学生が自分で考えるような授業を心がけたい。

結果報告書

授業科目名 歴史学研究Ⅱ
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 町田 哲

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	2	1	1		4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3	1			4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1	2	1	1	3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	5				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	4				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2	1	2		4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2	1	1		4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	3	1	1		4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	5	2			4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	3		2		4.1



教員のコメント

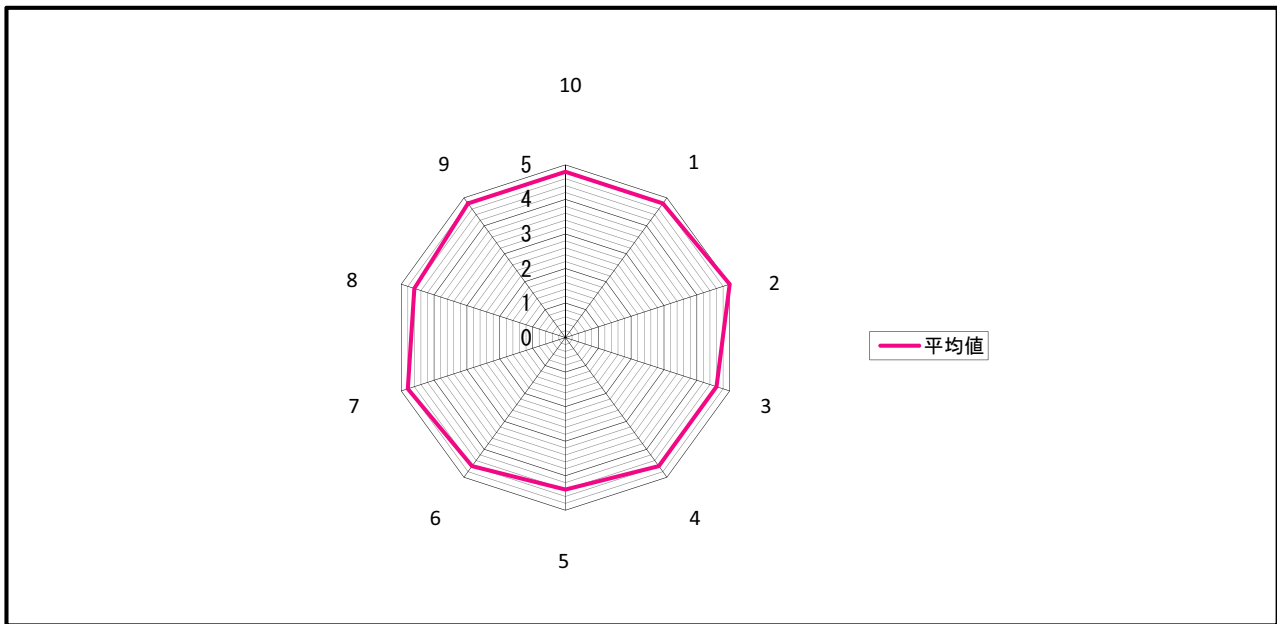
本講義では、日本の近世社会の成立と構造について、その基本的理解を深め、あわせて文献を読み込み理解する力量をつけることを目標とした。具体的には、山口啓二著『鎖国と開国』(岩波現代文庫、2006年)を取り上げ、戦後の近世史研究の到達点を、一般向けに記した本書を、徹底的に理解すること、また講義者による講義を含めながら、日本近世社会について、多角的な視座から捉える力量を習得できるよう、授業を構成した。ほとんどの学生は、大変熱心に受講し、事前の読了・まとめはもちろんのこと、授業中に積極的に質問するなど、講義内容から多くを吸収しようという姿勢がみられ、充実した数値に反映している。ただし、中に1~2名は、非常に消極的な評価をしていることから、こうした学生の姿にも注意しながら、講義をよりよいものにしていくよう、今後努力したい。

結果報告書

授業科目名 歴史学研究Ⅲ
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 原田 昌博

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4		1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

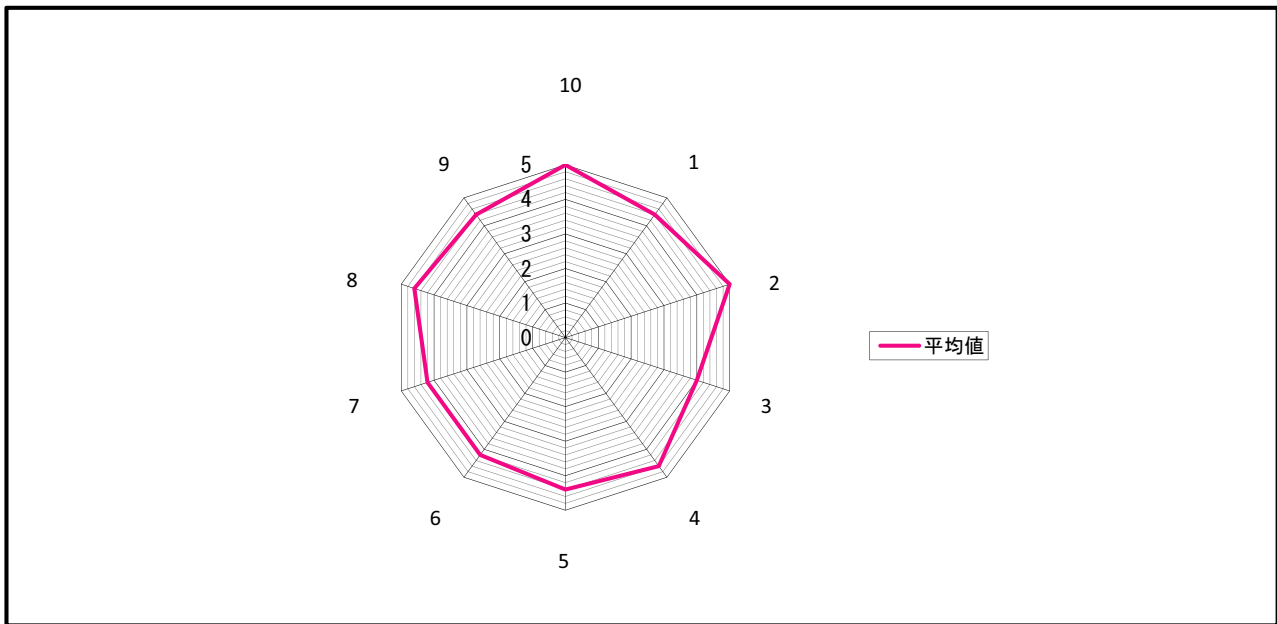
本授業はナチズムを事例に、新旧高等学校教科書の記述内容を比較しその変化の背景を歴史学上の研究史に基づいて検討することで、歴史学における「見解・解釈の変化」を明らかにすることを目的としている。今年度は受講生が5人と少なめであったが、全体的に見て、各質問項目とも「5」の評価が最も多く、この点から、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。質問10でも4名が「5」、1名が「4」と評価している点からも、受講生は本授業に満足していたと結論づけることができるだろう。来年度はさらに内容の精選を図り、受講生にわかりやすい講義を目指したい。

結果報告書

授業科目名 地理学研究 I
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 木原 克司

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1	1			4.4
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3	1			4.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4		1			4.6
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1	1			4.4
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2	2	1			4.2
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2	1			4.2
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4		1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3				4.4
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

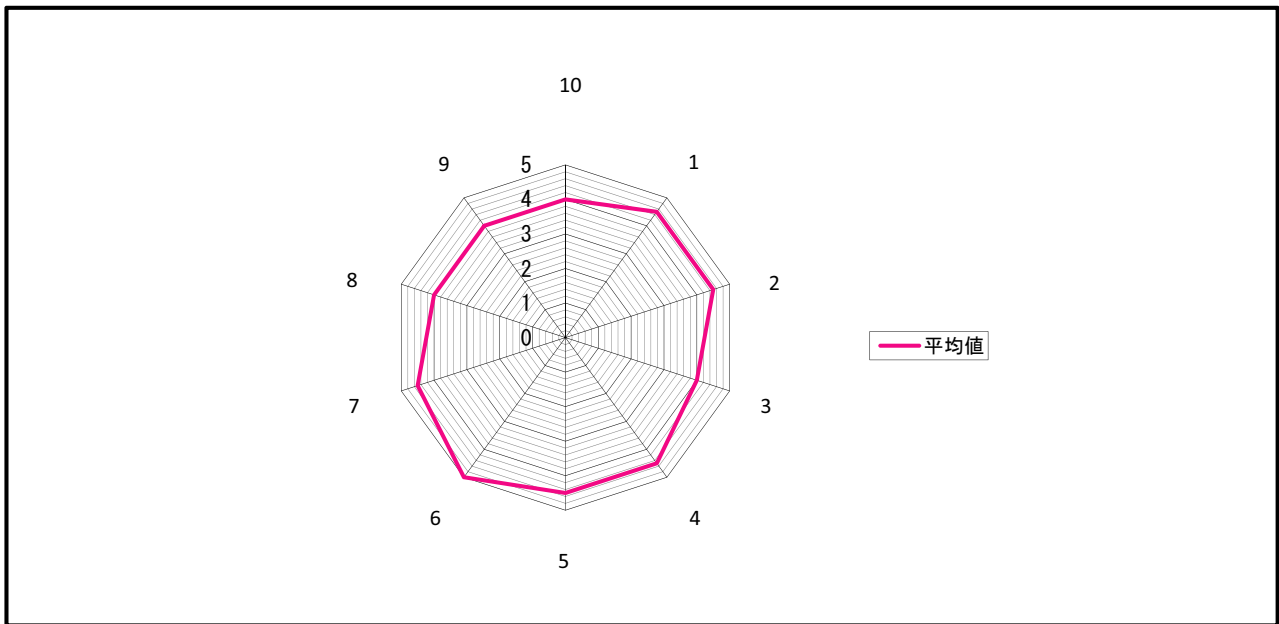
本授業の受講生は7名であり、受講生全員がシラバスに示した講義内容を十分に理解できる学生ではないと思えた。そのため、授業は用語の基礎的解説を挿入しつつ、こちらで準備した資料や視聴覚機器を用いて進めた。その結果、全体として4.5の高い評価が得られたと思う。授業終了後の8月に講義の中心の1つであった飛鳥地域の巡検を行い、現地で授業内容の復習を再度行った。巡検終了後に授業評価を実施しておれば、おそらくさらに高い評価を得ることができたと思われる。

結果報告書

授業科目名 地理学演習 I
 評価実施日 平成24年7月24日
 担当教員名 木原 克司

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1		1			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		2				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		2				4.0



教員のコメント

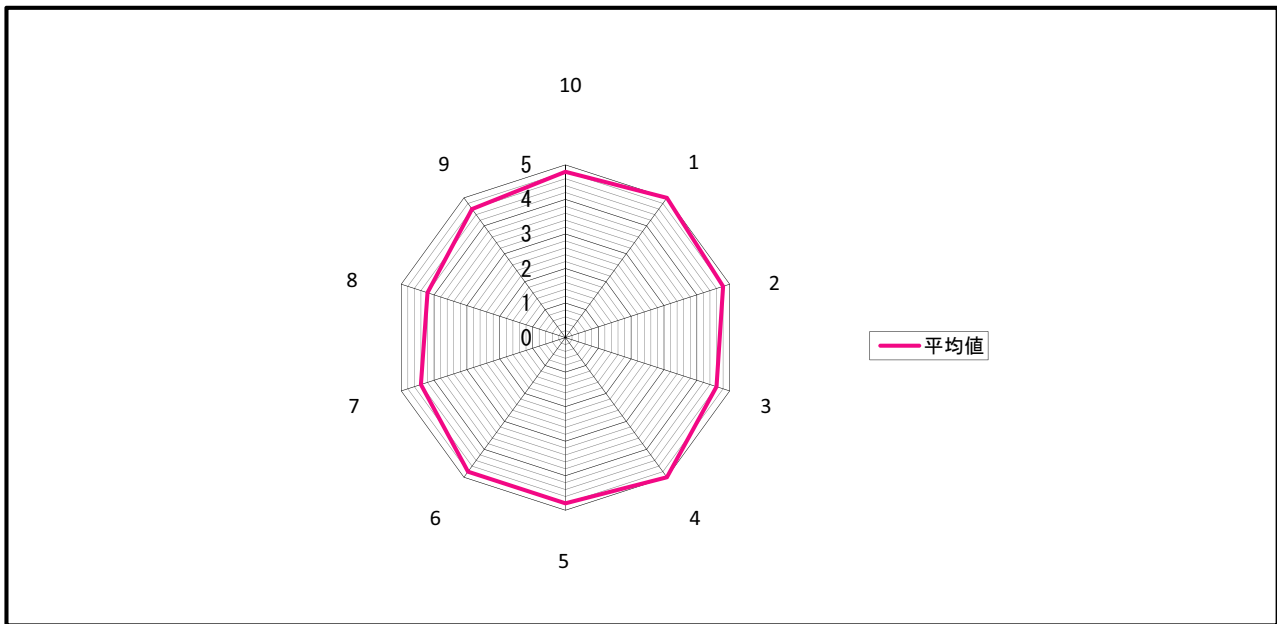
本授業の受講生2人は共に地理学専攻生であり、修士論文のテーマも明確ではないがおおむね定まっていた。授業は修士論文作成に向けて各人のテーマに関連する分野の論文をそれぞれがレジюмеを作成して紹介するという方法で進めた。ただ、学生の修士論文のテーマに対する学問的認識が浅く、紹介論文の内容も的確に理解できていない面が見られたため、教員側からは語句や論文内容の解説を重点に置いた指導を行った。学生にとっては学部時代には経験しなかったマンツーマンによる細かな授業であったこともあり面食らったようである。それゆえに、全体として4.4の評価が出ているものの、最後の総合的評価が4.0とやや低くなったと思える。後期の演習に期待するところが大きい。

結果報告書

授業科目名 法学・政治学研究
 評価実施日 平成24年7月29日
 担当教員名 麻生 多聞

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2	1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

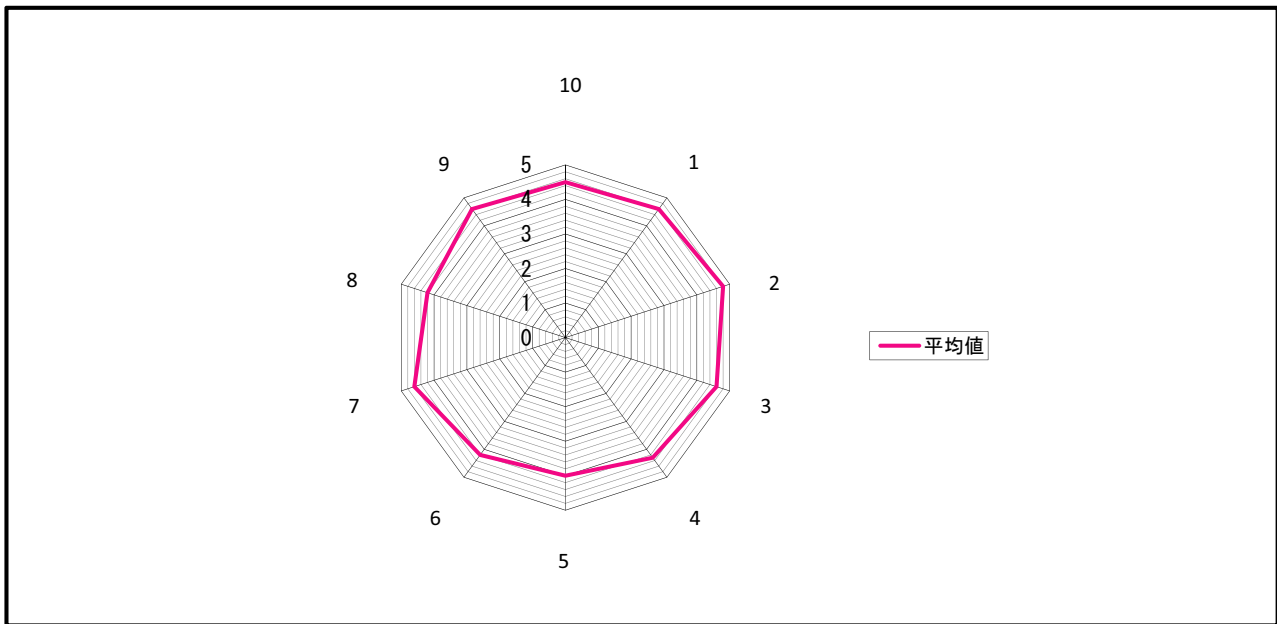
本講義は、「法学・政治学研究」という講義名の下、大学院生が読むにふさわしい、また教員志望の者にとって読んでおいてもらいたいと考えられる書物を一冊指定し、それを学生諸君による報告分担およびそれに続く討議にかけるとい形式で進められている。したがって、講義初回における書物の主体的な選定にはじまり、毎週の予習が欠かすことのできない重要な要素として位置づけられるのであるが、学生諸君の予習、分担された報告のレベルはきわめて高いものであり、本年度も十分な手ごたえを感じる事ができた。そのような学生諸君に感謝したい。

結果報告書

授業科目名 社会科教育学研究
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 梅津 正美

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	4				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2	1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	3	2			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	2	4			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	4	2			4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	4				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	4	2			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	4				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	3	1			4.5



教員のコメント

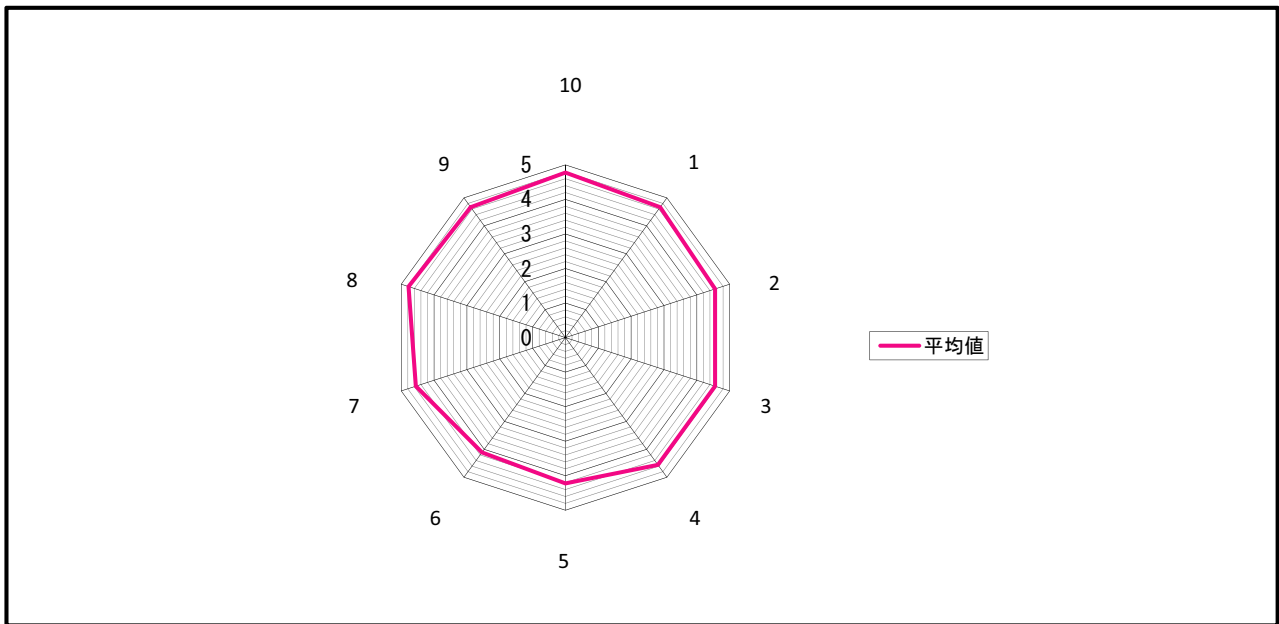
本講義は、①社会科教育研究の方法論を理解し活用できる、②社会認識形成論を視点にした社会科授業の類型・特質・限界を理解し説明できる、③社会的判断力育成型授業の類型・特質・限界を理解し説明できる、ことを到達目標に展開した。受講生は全部で11名であった。本講義では、県単位や学校単位で行われている小・中学校授業研究例を取り上げ、その授業研究の目標・内容・方法・評価の一貫性を視点に分析・評価するとともに、改善点を具体的に指摘するように議論していった。本講義は、総合評価が4.5であり、授業の内容・進め方・自己の授業への取り組みに関する評価項目について、4.0～4.8の範囲で概ね高い評価を得ている。こうした評価結果から、本講義が概ね受講生から意義あるものとして評価されたと判断できる。今後一層の授業改善に努めたい。

結果報告書

授業科目名 現代の諸課題と社会認識教育
 評価実施日 平成24年7月25日
 担当教員名 井上 奈穂

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	4				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	2	1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	3	2			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	2	3			4.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	4				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	3				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	2				4.8



教員のコメント

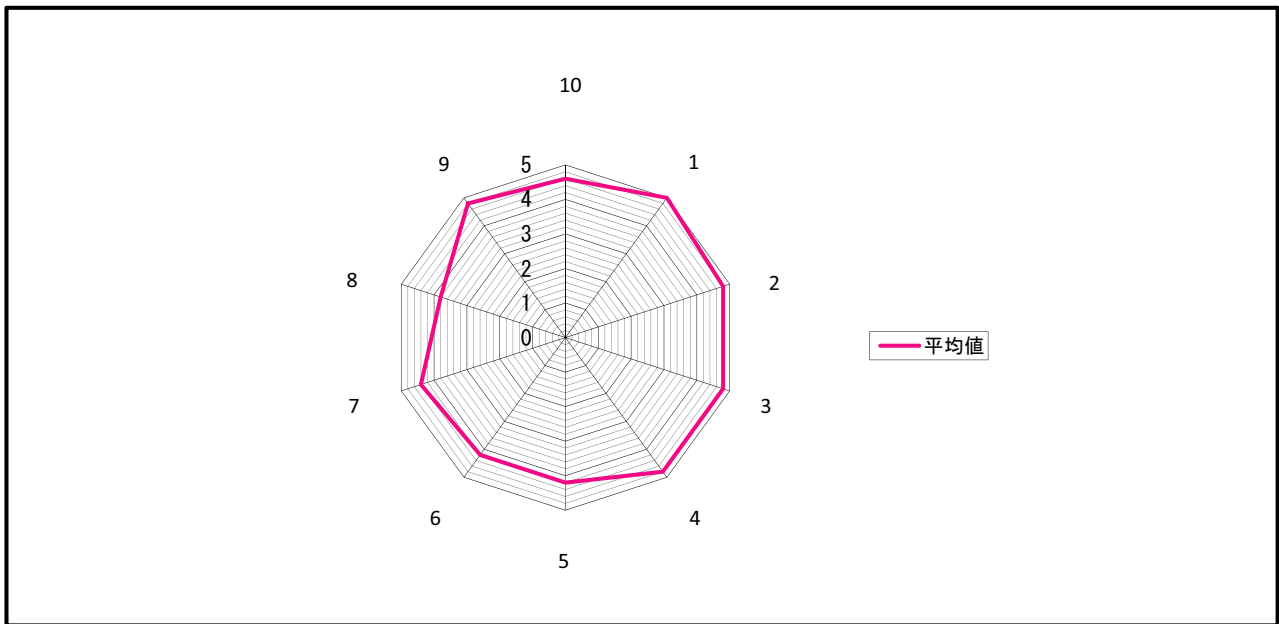
アンケートに示されている10項目全体の平均は4.8であり、昨年度(4.5)と比較し、授業改善がなされていると言える。カテゴリー別にみると、「教員の授業の進め方について」の項目が低い。このことから、特に、授業の評価、進め方の点での改善が必要と言える。また、昨年度、最も低かった「あなたの授業への取り組みについて」の項目は、4.1から4.7に上がっていた。昨年度に比べ、学生が参加する活動を増やしたことが要因である。今後も学生が取り組める場を積極的に設定していきたい。

結果報告書

授業科目名 社会科教材開発演習Ⅱ(歴史領域)
 評価実施日 平成24年7月19日
 担当教員名 梅津 正美

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	4				4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2	1			4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1	1	1		3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2				4.6



教員のコメント

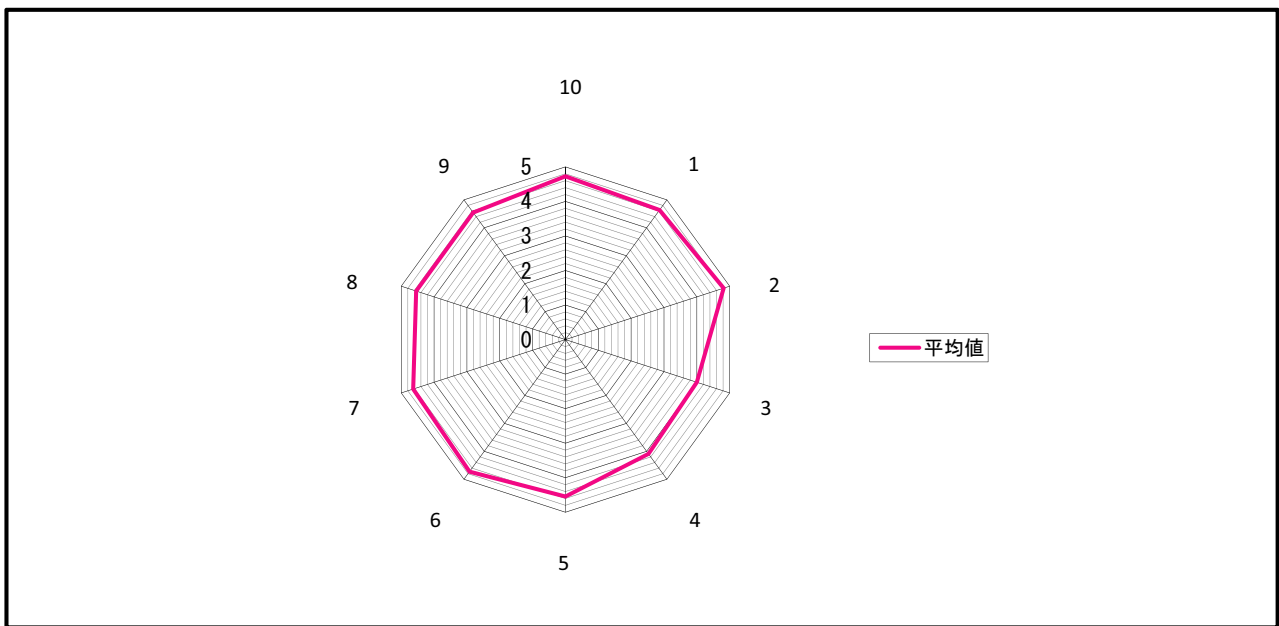
本講義は、複数の歴史授業の事実を分析・評価し、理論を類型化して、それぞれの授業の特質と限界を説明することを通して、社会科授業研究能力を育成することを目標に展開した。授業の方法は、教員による社会科授業研究方法論の講義をふまえて、学生が分担した歴史授業研究事例を分析し評価を加えてその内容を発表するとともに、相互の討議をすることであった。受講生は5名と少なかったが、総合評価は4.6であり、授業の内容・進め方・自己の取り組みに対して概ね4点以上の高い評価を与えている。本講義の目標とそれに応じた展開が、受講生から概ね意義あるものとして評価されたとみることができる。板書と視聴覚機器の使用に関する評価項目が3.8で相対的に低い評価であったことが反省材料である。パワーポイントを活用しながら説明したが、その手立てと教育効果について学生の視点から再度検討しなければならない。

結果報告書

授業科目名 数理科学研究
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 宮口 智成

回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	4				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	7	2			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	6	2			4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	5				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	3				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	4				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	5				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	5				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	3				4.7



教員のコメント

今年度は、確率・統計学、特に中心極限定理の理解を目的に授業を進めた。反省点として、

1. シラバスで予定していた確率過程に関する内容まで進めることができなかった。
2. 最初に解説をし、その後演習を行うというスタイルで授業を進めたが、演習問題を始めに一括して配布したため、早く解き終わる学生と時間がかかる学生の差が大きくなってしまった。学生の学力差に対するさらなる配慮と工夫が必要であった。
3. 期待値や分散に関する解説が天下り的であった(前提知識として扱ったため)。
4. アンケートにもあるように、教師としての実践力の育成という点でも不十分であった。今回の授業内容が、中学・高校の授業とどのように関連するのかについて、(確率・統計分野の体系的理解を深めるような)より詳しい解説と工夫が必要であった。

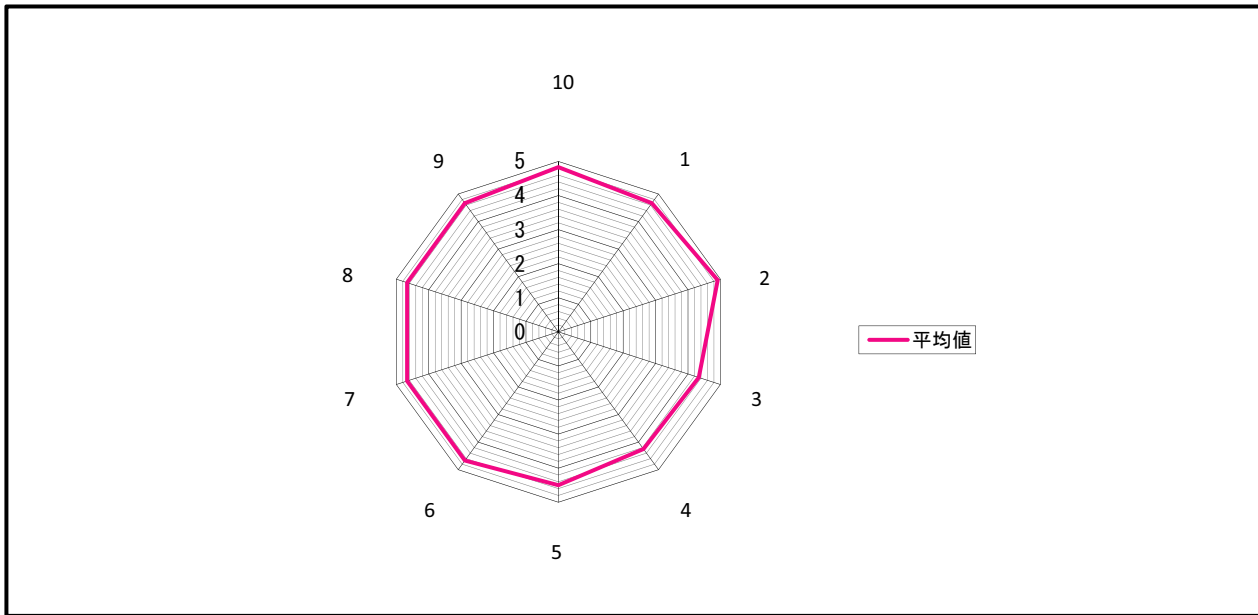
来年度は以上の点について、さらに改善を行っていきたい。

結果報告書

授業科目名 数理科学演習
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 宮口 智成

回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	4				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	11	1				4.9
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	6	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	5	2			4.3
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	6	6				4.5
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	8	4				4.7
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	8	4				4.7
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	4				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	2				4.8



教員のコメント

今年度は、確率・統計学、特に中心極限定理の理解を目的に授業を進めた。反省点として、

1. シラバスで予定していた確率過程に関する内容まで進めることができなかった。
2. 最初に解説をし、その後演習を行うというスタイルで授業を進めたが、演習問題を始めに一括して配布したため、早く解き終わる学生と時間がかかる学生の差が大きくなってしまった。学生の学力差に対するさらなる配慮と工夫が必要であった。
3. 期待値や分散に関する解説が天下りのであった(前提知識として扱ったため)。
4. アンケートにもあるように、教師としての実践力の育成という点でも不十分であった。今回の授業内容が、中学・高校の授業とどのように関連するのかについて、(確率・統計分野の体系的理解を深めるような)より詳しい解説と工夫が必要であった。

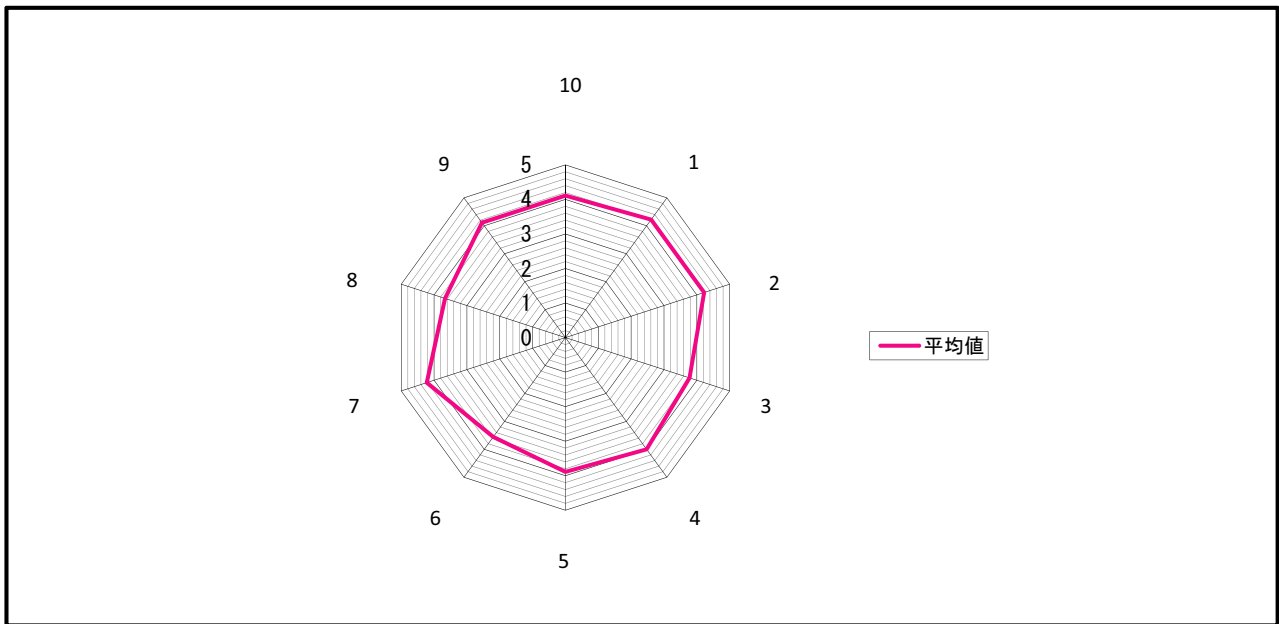
来年度は以上の点について、さらに改善を行っていきたい。

結果報告書

授業科目名 代数学研究
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 平野 康之

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	3	2			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2	1	1		4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	3	1		3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	3	3			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2	4			3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1	3	2		3.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	5	1			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2	5			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4	2			4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	4	2			4.1



教員のコメント

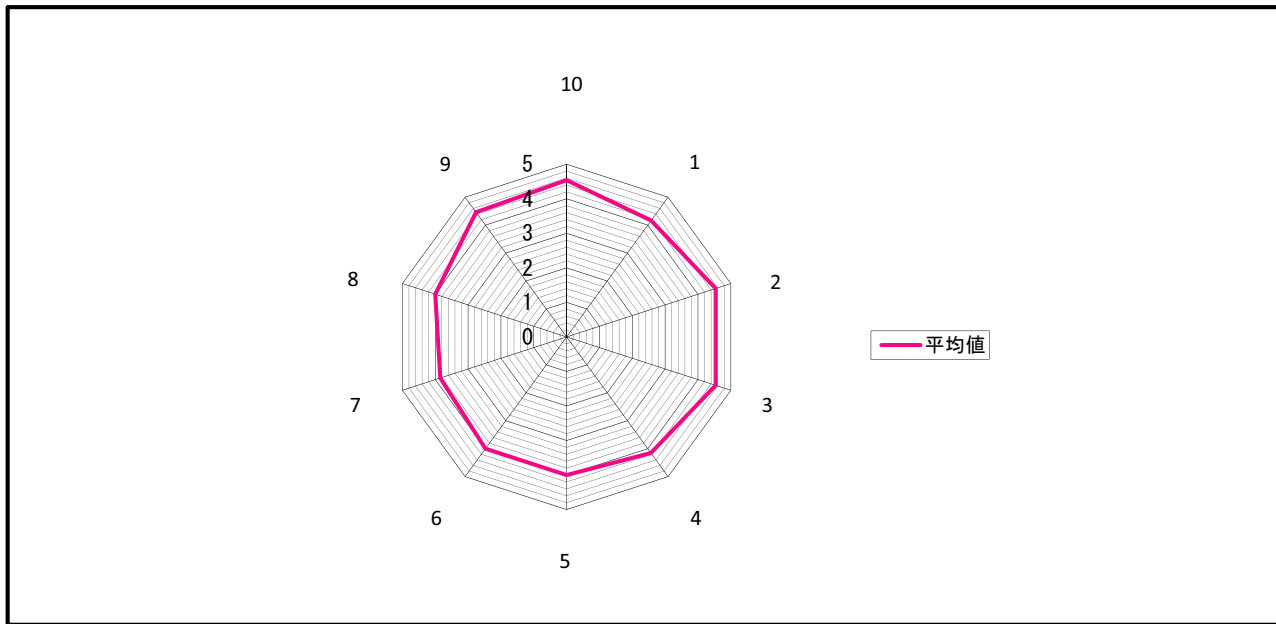
すべての平均値が3.6～4.2の範囲にあり、「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた」、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「(7)教科書や配布された資料は、適切であった」という問いに対して評価の平均値が4.2であったので、この授業が受講者に一律の評価は受けていると思われる。学生が授業によく出席し、教員の説明をよく聞いてくれて、自らの専門性を高めてくれたことに対しては感謝したい。しかし、「(6)受講生に分かりやすく説明した」に対する評価の平均値が3.6であり、「(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった」に対する評価の平均値が3.7であったので、今後、分かりやすく説明すること、適切に板書や視聴覚機器を使用することに心がけたい。総合評価として「(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う」という問いの平均値が4.1であったので受講者が概ね、この授業に満足しているものと思われる。

結果報告書

授業科目名 代数学演習
 評価実施日 平成24年7月19日
 担当教員名 平野 康之

回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	5	1	1		1	4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	4	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	2			1		4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	4	2	1			4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	2	5			1	4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	5	4				4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	5	5				3.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	5	4				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	4		1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	3		1			4.5



教員のコメント

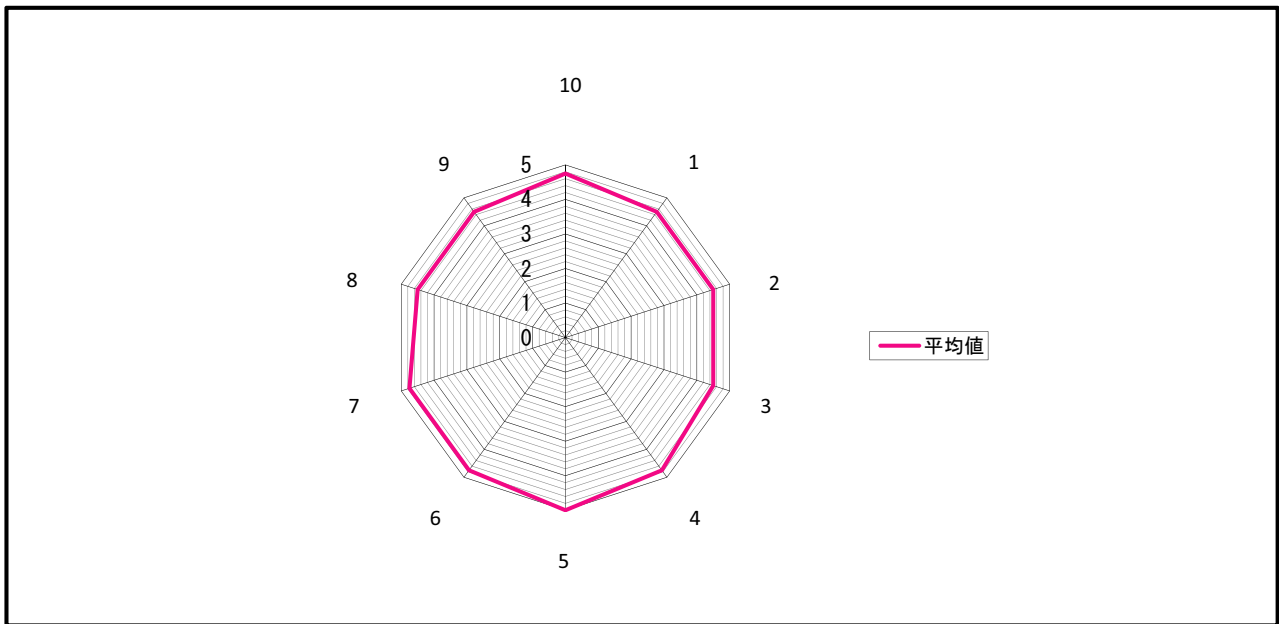
すべての平均値が3.8～4.5の範囲にあり、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」という問いに対して評価の平均値が4.5であり、「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」に対する評価も平均値4.5であったので、この授業を学生主体のものにしたことが評価されたと考える。学生が授業によく出席し、教員の説明をよく聞いてくれて、自ら教師の実践力を高めてくれたことに対しては感謝したい。「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった」という問いに対しても平均値4.2であり、「(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う」という問いの平均値が4.5であったので受講者が概ね、この授業に満足しているものと思われる。

結果報告書

授業科目名 数学科教育学研究
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 服部 勝憲

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	2				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



教員のコメント

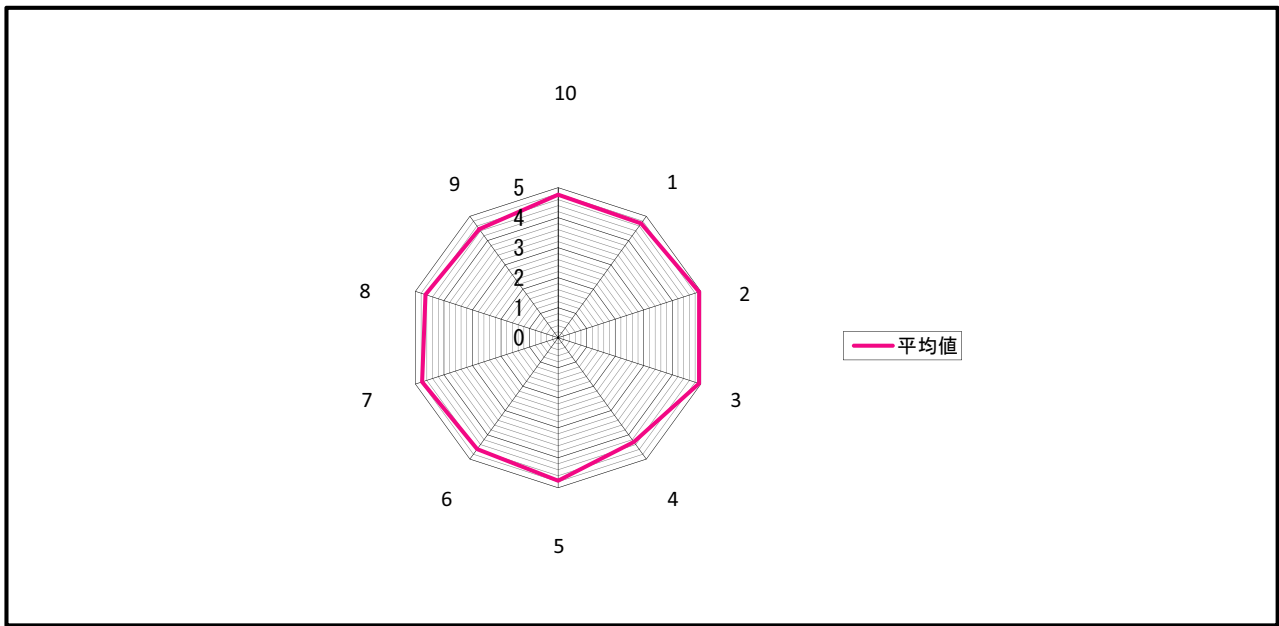
1.本授業では、受講生が主体的に授業に参加できるよう、次のような授業形態を採用した。
 (1)シラバスに示した内容を分担し、事前に調査・研究して発表・報告することとした。
 (2)発表・報告した内容について、受講者で討論し、担当教員も適宜コメントした。
 (3)発表・報告者はこれらの内容をレポートとしてまとめ提出した。
 2.受講者が少数であり、個々の受講者が2週に1度は発表・報告の分担を果たすことになり、その準備にはかなりの負担になることもあった。
 全般的に4名の受講者は積極的に授業に臨み成果を挙げたと考えている。

結果報告書

授業科目名 数学科教材開発研究
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 秋田 美代

回答者数 17 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	5				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	15	1				1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	7	1	1		4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	13	4				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	5	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	13	4				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	4	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	4	1	1		4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	4				4.8



教員のコメント

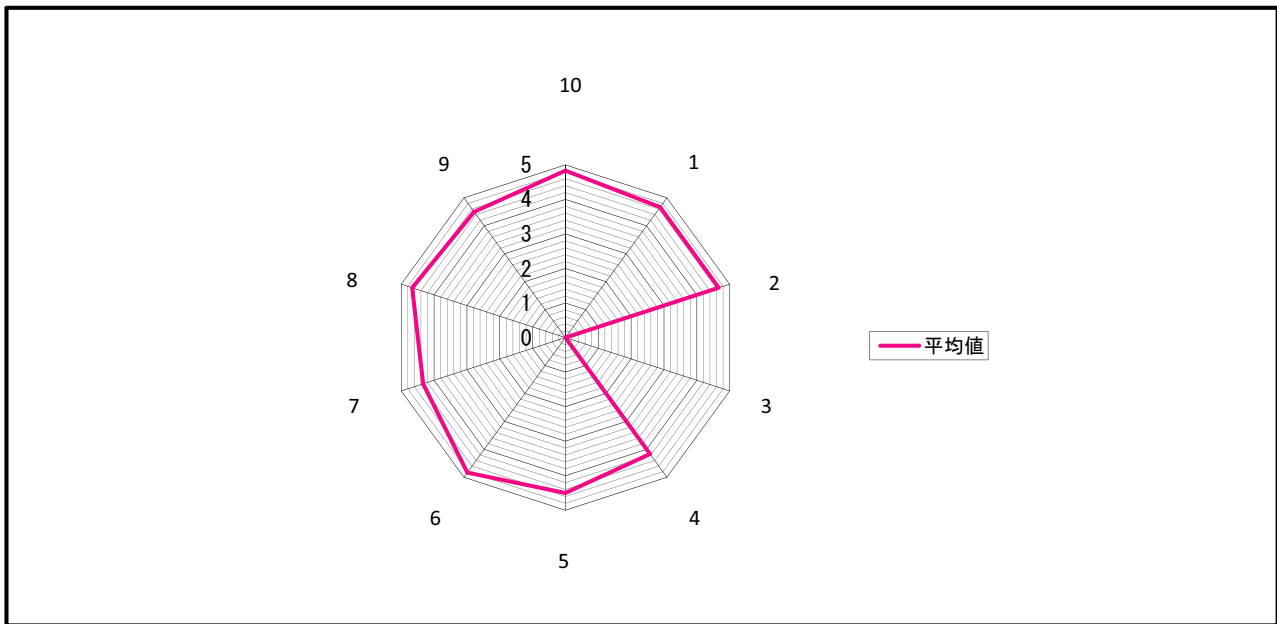
この授業では、数学教育において指導目標を達成するための教材の活用法・開発方法について概説し、生徒の思考力や創造性を育成するための、教材の構造について理論と方法を考察した。この授業に対する受講者の評価平均値は4.8であった。評価平均値が高かった項目は「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」「教師の実践力の育成につながる内容であった」「授業に主体的・積極的に取り組んだ」等であった。評価平均値が低かった項目は「成績評価の方法の説明は、適切であった」であった。受講者の記述では「数学についてのいろいろな考え方、教材の大切さを知ることができた」「毎回新しい発見があって考えさせられた」「研究とは何か考えさせられた」「自分で問題を作ることで、今まで見過ごしていたものが見えた」との内容が記載されていた。成績評価の方法について、学生が明確に理解できるように提示することが、次年度の課題である。

結果報告書

授業科目名 エネルギー・物質と環境特論
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 粟田 高明

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。						
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	3	1			4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	3				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



教員のコメント

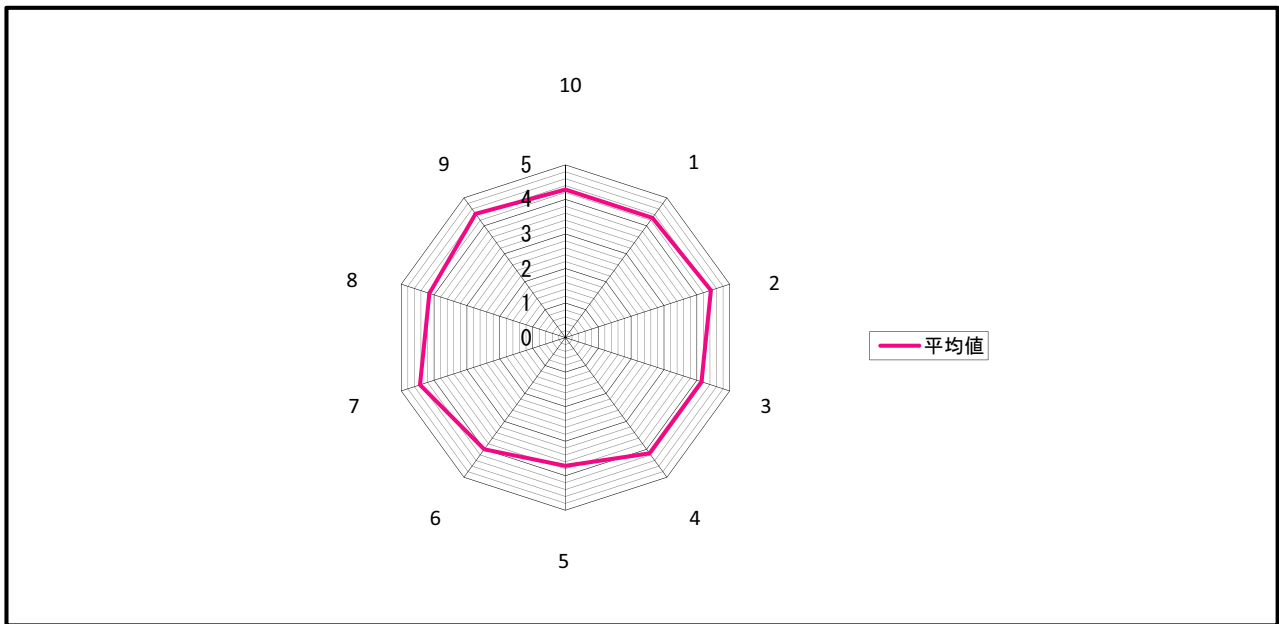
この授業科目は、エネルギー問題、特に原子力エネルギーに力点を置いて、現況を含めた(福一事故)様々な内容を多角的に講義するものである。最後の2回はゼミ形式で受講者に興味ある「新エネルギー」を発表してもらい、放射線の軌跡を可視化できる「霧箱」を製作してもらった。概ね評価が高かったが、成績評価の方法および配付資料の点で1人低いものがあった。今後の授業でいかせていきたい。

結果報告書

授業科目名 有機化学特論
 評価実施日 平成24年7月24日
 担当教員名 胸組 虎胤

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	5				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	4				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	4	1			4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2	2			4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	3	3			3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	3	2			4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	4	1			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	3	1			4.3



教員のコメント

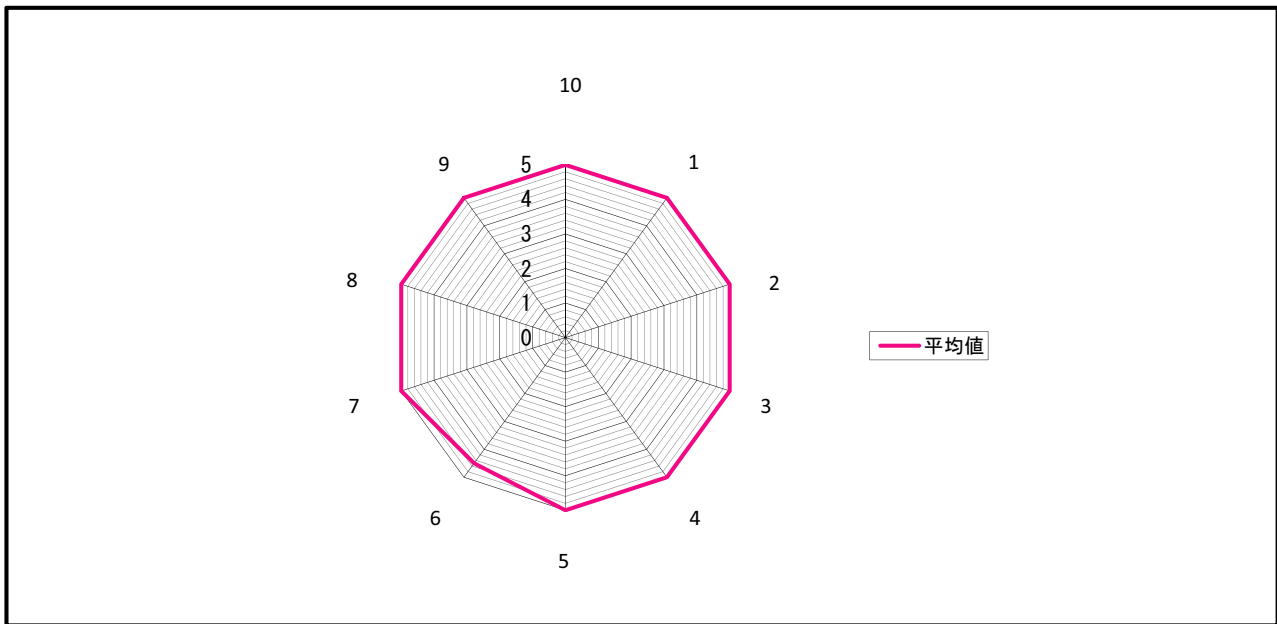
1. 平成24年度の授業評価についての概観： 授業開始の初年度ではあるが、高い評価を得ることができた。総合評価4.3は今までの教員生活では自己最高点である。今まで自分なりに工夫してきたことがうまく実施できて、評価されたのだと考える。
 2. 各評価項目について：授業の進む速度についての評価が3.7であった。受講者の知識レベル、学習歴が多岐にわたっているため、授業の進度を遅くしたつもりであるが、まだ速いと感じる学生、遅いと感じる学生がともにいたためではないかと思われる。
 3. 次年度以降に改善、工夫する点：授業が速いと感じる学生、遅いと感じる学生を早期に把握し、前者については基本理解を図るような説明を授業中に加え、後者には少しレベルの高い内容を紹介するなどして、授業全体への満足度を高めたいと考える。

結果報告書

授業科目名 宇宙科学特論
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 西村 宏

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

本講義の受講者は合計7人で、そのうちストレートマスターは2年次が1人、残りの6人は長期履修生であった。院授業のため筆記試験ではなく、レポート提出とした。また、7月中は各都道府県の教員採用審査があったため、三々五々授業の欠席を余儀なくされる受講者が出るという事態も少なからず見られた。こういう状況も影響したものと思われるが、アンケート回収・提出できた院生は2人とどまっている。学生が集めて事務に提出することとなっているので、授業者が強制すべきものではないと判断した。

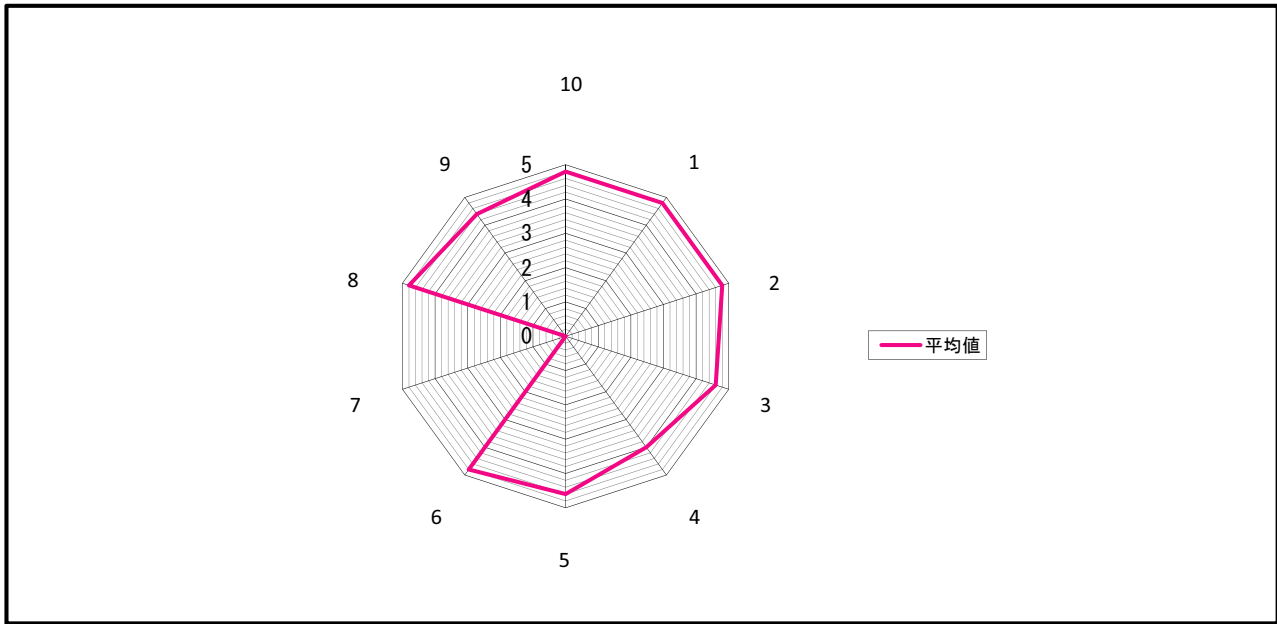
したがって、結果的にはレーダーチャートによる表示が意味を持たなくなっている。ただ、提出されたアンケートに書かれた事項に関する限りにおいては、所期の目的を果たすことができているものと推察できる。項目6では、「わかり易く説明した」かどうかを尋ねているが、宇宙科学という内容が内容だけに、すべての点で満足して納得のいく説明には至っていなかったようである。この点は、次年度に向けてベース配分も込みで少しばかり工夫してみるつもりである。

結果報告書

授業科目名 地球科学特論Ⅱ
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 村田 守, 香西 武

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1	2			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。						
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



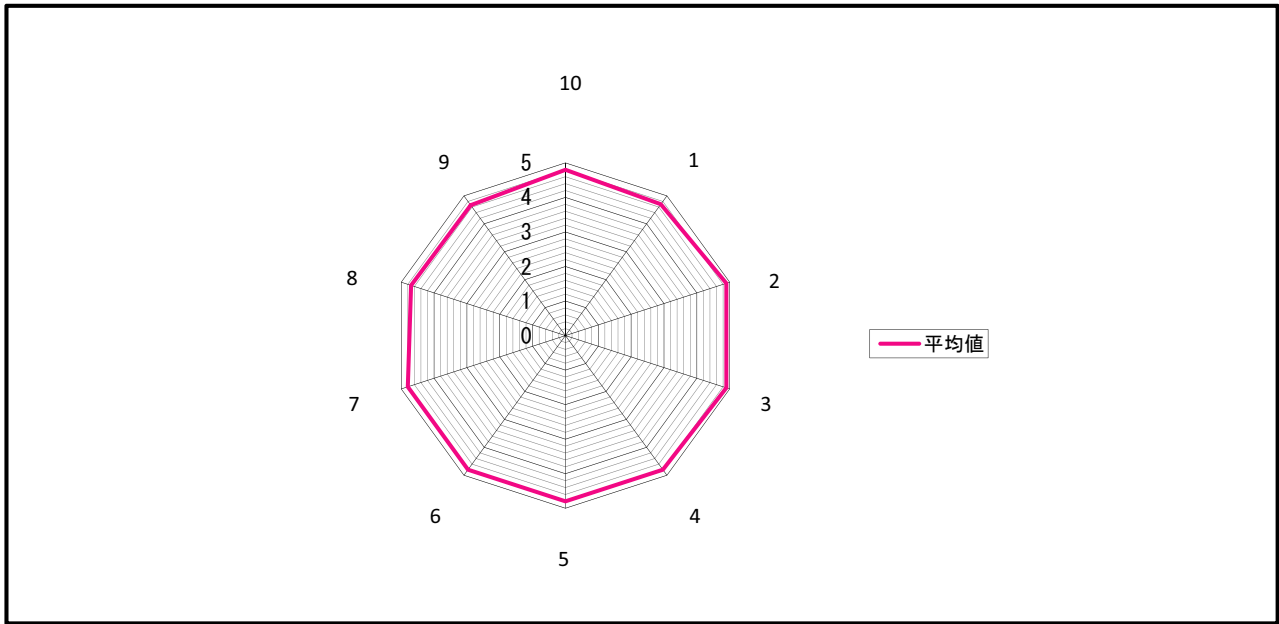
教員のコメント

自由記述欄に記入した院生は5名中2名であった。大学院生にもかかわらず、受講態度が学部生のように受動的であり、彼等の今後を憂慮している。

結果報告書

授業科目名 地質学・古生物学特論
 評価実施日 平成24年7月18日
 担当教員名 香西 武, 村田 守, 小澤 大成 回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9		1			4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	2				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9		1			4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1	1		1	4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	2				4.8



教員のコメント

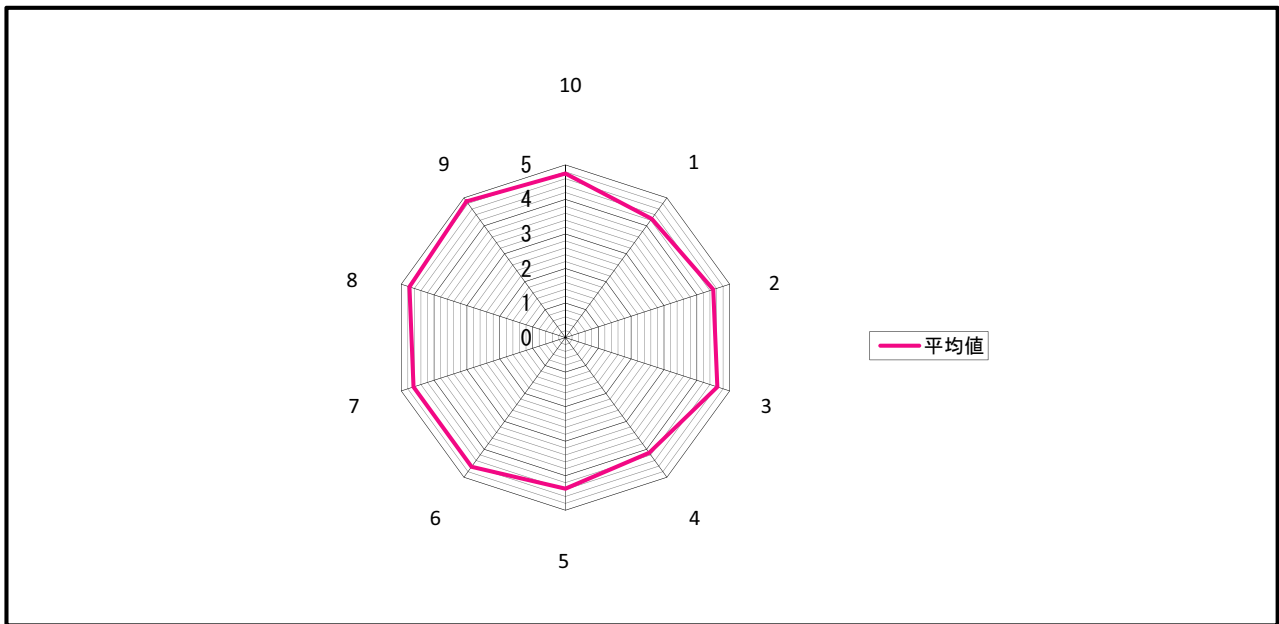
受講生の習熟度に合わせてじっくりと授業を進めることができた。この授業を通して、新たな地質学的知識を得ることができたものと思う。次年度も本年度同様に講義を行いたい。

結果報告書

授業科目名 音楽劇総合演習
 評価実施日 平成24年8月10日
 担当教員名 草下 實

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	4	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	4				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	3	2			4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	3	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	1	1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	2				4.8



教員のコメント

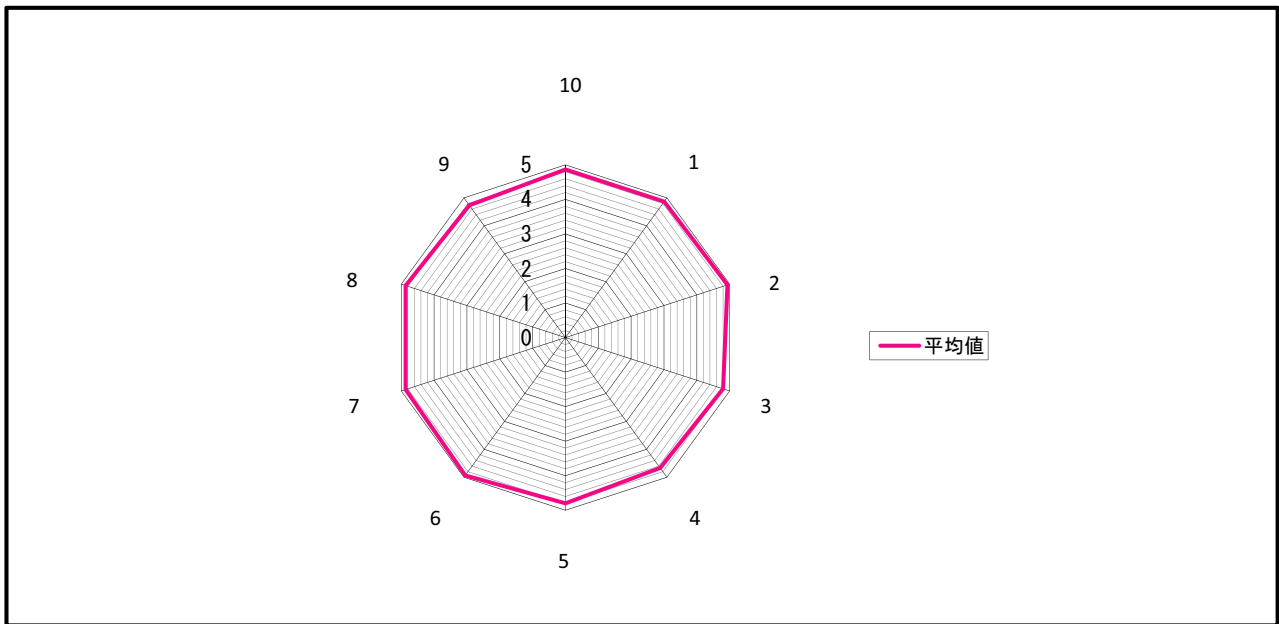
大学院生による授業評価の結果、授業概要に従って進めたが、この設問(1)の結果は4.3となっており、また、成績評価の方法に関する設問(4)の結果は4.1である。この点については初回の授業ガイダンスにおいて授業シラバスとともに明確に説明している。この授業は履修者の人数、能力に合わせ、授業開始後にオリジナルな脚本を制作し、音楽、衣装、舞台設定の全てを担当教員が制作する。そのため毎年、極めて過密な授業準備を行っている。授業は公開発表の形態で最後にその成果を検証する。総合評価では4.8となっていることから授業の目標には達しているものと考えられる。

結果報告書

授業科目名 声楽発声法
 評価実施日 平成24年7月31日
 担当教員名 頃安 利秀

回答者数 15 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13	2				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	14	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13	1	1			4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	1	2			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	12	3				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	14	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	13	2				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	13	2				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	2	1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	2				4.9



教員のコメント

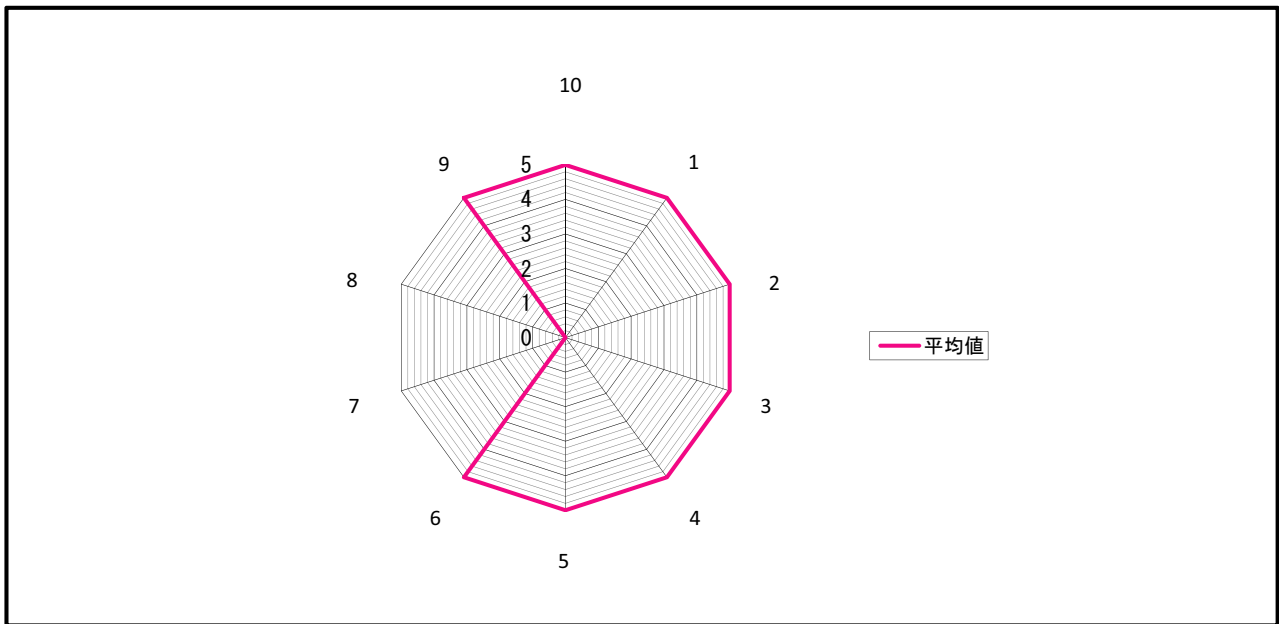
アンケート項目「この授業でよかったと思われる点について書いてください。」では、この授業が具体的であり、また基礎から丁寧に、しかも楽しみながら勉強ができた、とあった。またアンケート項目「その他、感想等があれば書いてください。」では、声楽がとても好きになった、また歌うことへの抵抗感が減った、さらにこの授業で学んだことが現場に返ってからの実践に役立つと思う、等々の記述があり、アンケートの総合評価4.9ポイントと合わせて、授業者としてはこの結果に大変満足している。成績評価については、実技を伴う授業でもあり難しい面もあったが、出席とレポートを重視し、個々の実技能力の差ができるだけ成績に影響しないようにした。

結果報告書

授業科目名 ピアノ演奏基礎演習
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 森 正, 田中 巳穂

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。						
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

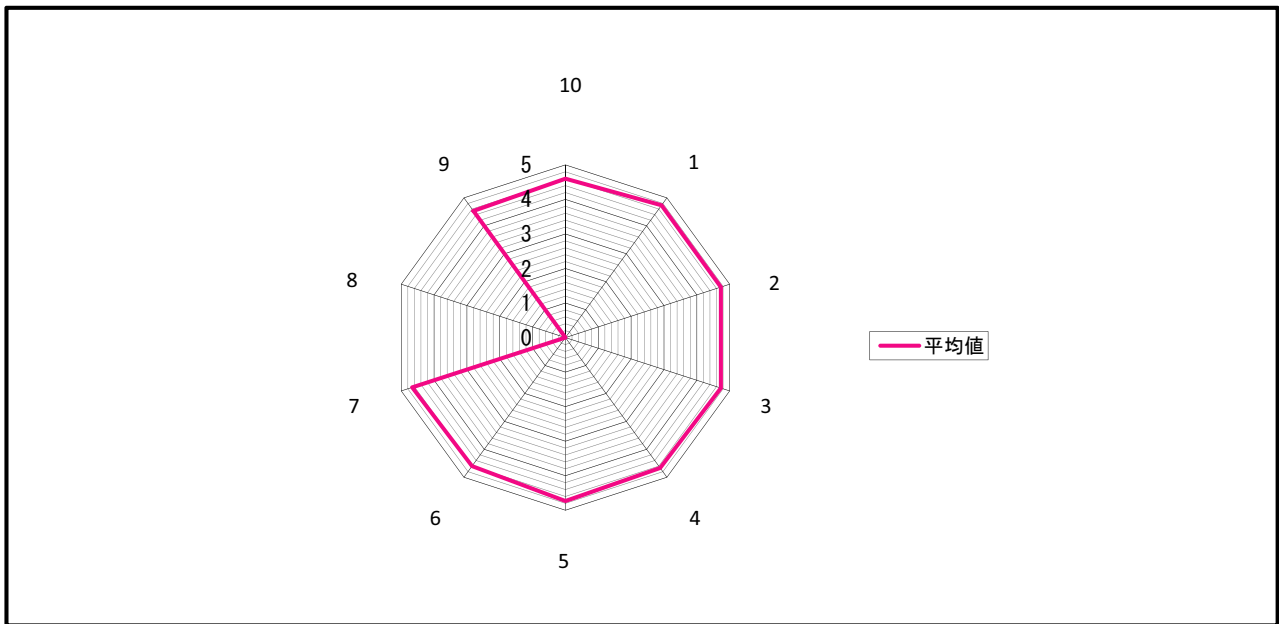
各学生の状況に応じた個人指導で授業は進められたが、それぞれの課題に即した指導により成果を上げることができたことが、学生の自由記述を読んでも感じられた。これからも、このような個人指導の形態で授業を行っていきたいと考えているが、学生のこれまでの学習経験等が多様化しており、その要望に応える為には新たな課題を探ることや、場合によっては教員採用試験に結びつくような新たな指導方法も必要となってきている。そのような現状のなか、個々の学生に応じた指導をするにはどのような点に配慮する必要があるのかを、囑託講師をお願いしている先生とも研究していく必要があると考えている。

結果報告書

授業科目名 学校教材ピアノ伴奏法
 評価実施日 平成24年7月24日
 担当教員名 森 正

回答者数 15 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	2	1			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	2	1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	2	1			4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	3	1			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	11	4				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10	4	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	5				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	5	1			4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	4	1			4.6



教員のコメント

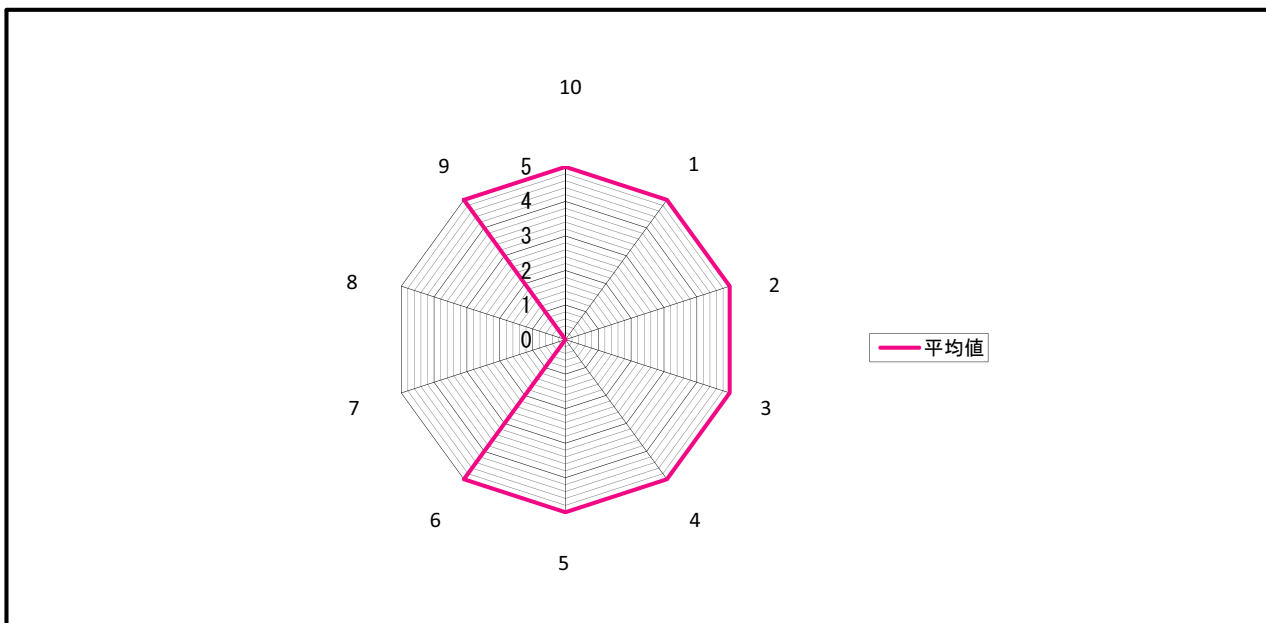
二人の受講生は、課題研究における修了演奏との関係でこの授業を受講した学生で、そのために目的意識も非常に高く、充実した授業であった。これからの課題研究における論文、演奏の両方にしかるべき成果が上げられることが期待できる。今後は、今回のようなピアノを専門とする学生だけでなく、音楽コースの他の分野を専門とする学生や、場合によっては他コースからの受講生も想定されるが、このような学生をどのように指導するのかが研究する必要があると考える。

結果報告書

授業科目名 ピアノ演奏法
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 森 正

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1				1	5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。						
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



教員のコメント

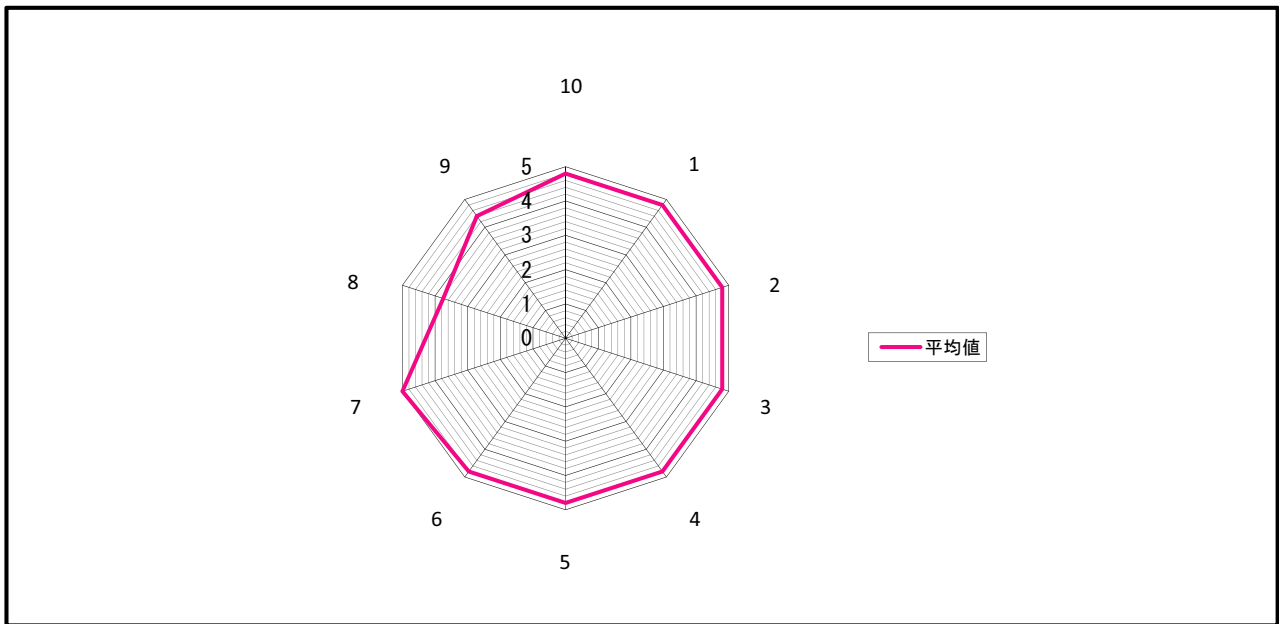
2年ぶりに担当した授業であったが、受講した学生から概ね高い評価を受けることができた。受講する学生が音楽コースに限らず多様であったこともあり、毎回クラス授業を行っていた一昨年の授業の進め方を変え、今回は個人指導のレッスンと受講生全員によるクラス授業とを交互に行なった。このように学生の状況に応じた指導が出来るようにしたことも、評価の高い一因であったと考える。自由記述欄を読むと、伴奏法の指導と同時に教材研究的内容を希望していた学生がいたが、シラバスへの記載からも、どのように伴奏を演奏するのが重視される授業である点は、重要であると考えます。

結果報告書

授業科目名 管弦打楽器総合演習
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 山根 秀憲

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	2			1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4			1		4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

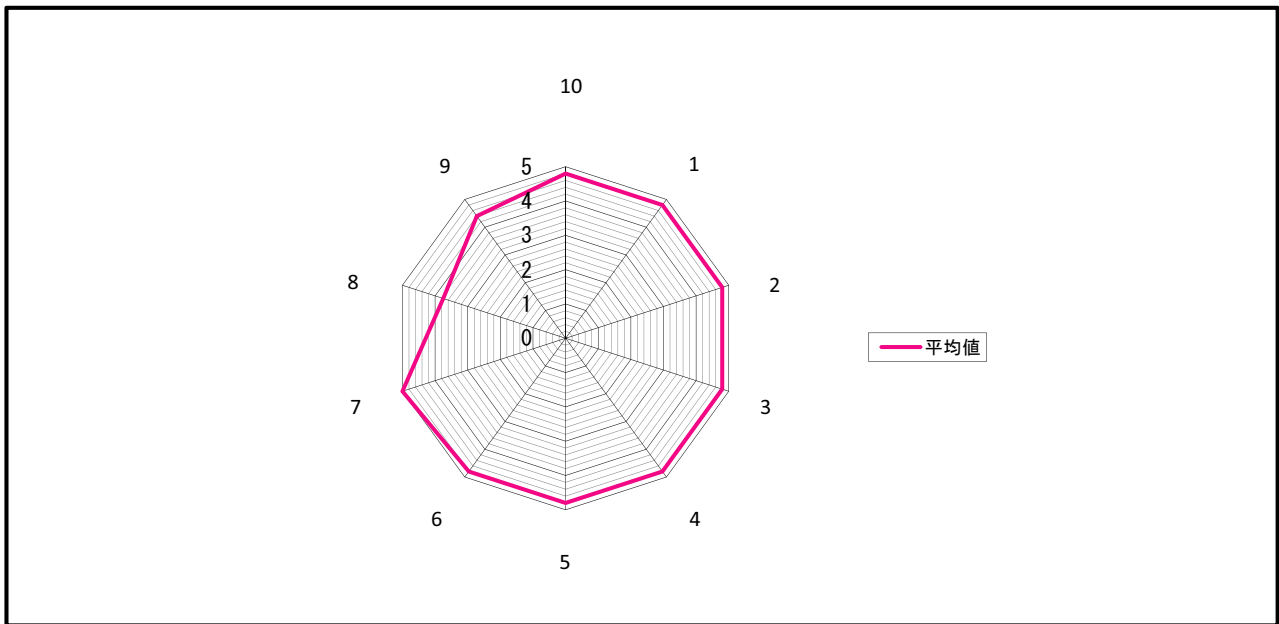
受講者は、5人で、例年より多かった。全ての評価項目について、ほとんどが⑤④であった。(9)「授業に主体的・積極的に取り組んだ」について②とするものが一人あった。これについて、[4]で、「当初希望していた楽器になれなかった」と書いていることから、積極的になれなかった背景がわかる。しかし、「この楽器が好きになった。そして、もっとこの楽器を深めたいと思った」とも書いているので、この授業に出席した意義を見いだしているように思われる。

結果報告書

授業科目名 管弦打楽器演奏基礎
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 山根 秀憲

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	2			1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4			1		4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

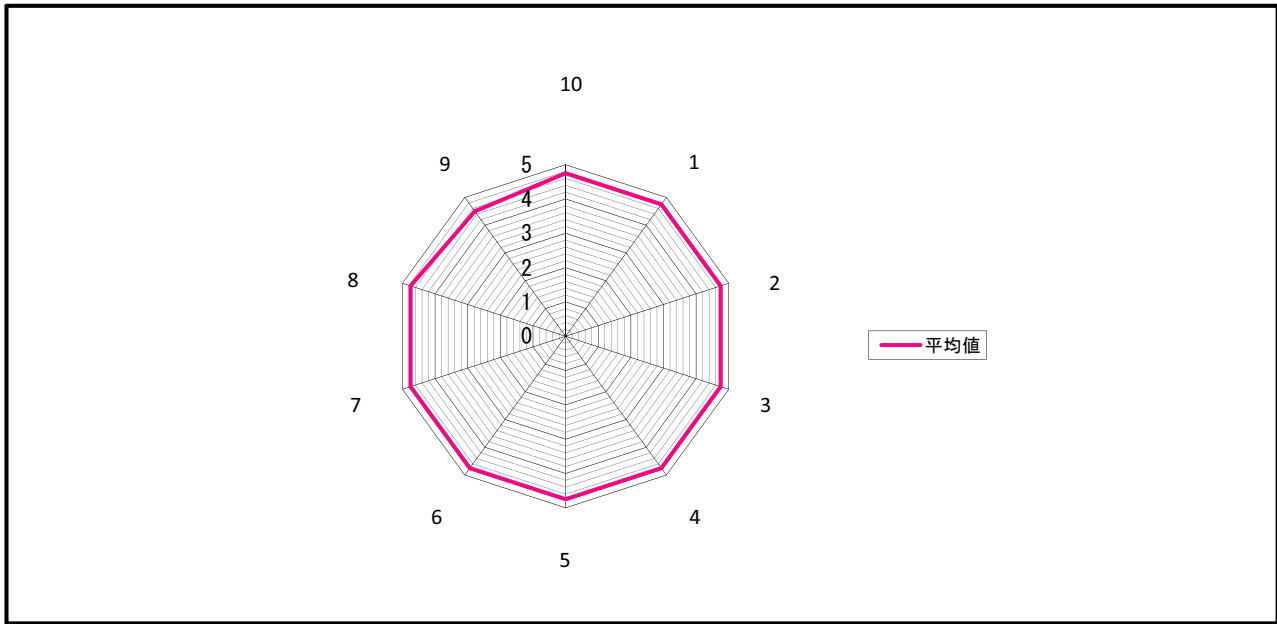
受講者は、4人で、例年より少なかった。今年度入学の大学院生は、長期プログラムの学生が多かったことと関係があると思われる。アンケートが3枚しか提出されていないのは、一人の学生が、採用試験のため、最後の週に出席できなかったためである。全ての評価項目について、ほとんどが⑤④であった。(10)「この授業を総合的に評価すると、よかったと思う」は、3人とも⑤であった。受講者が4人というのは、一人ひとりに目を向ける、という意味では良い。しかし、アンサンブルを通して音楽を学ぶという点からすると、受講者はもう少し多い方が望ましい。

結果報告書

授業科目名 指揮法基礎演習
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 山田 啓明

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



教員のコメント

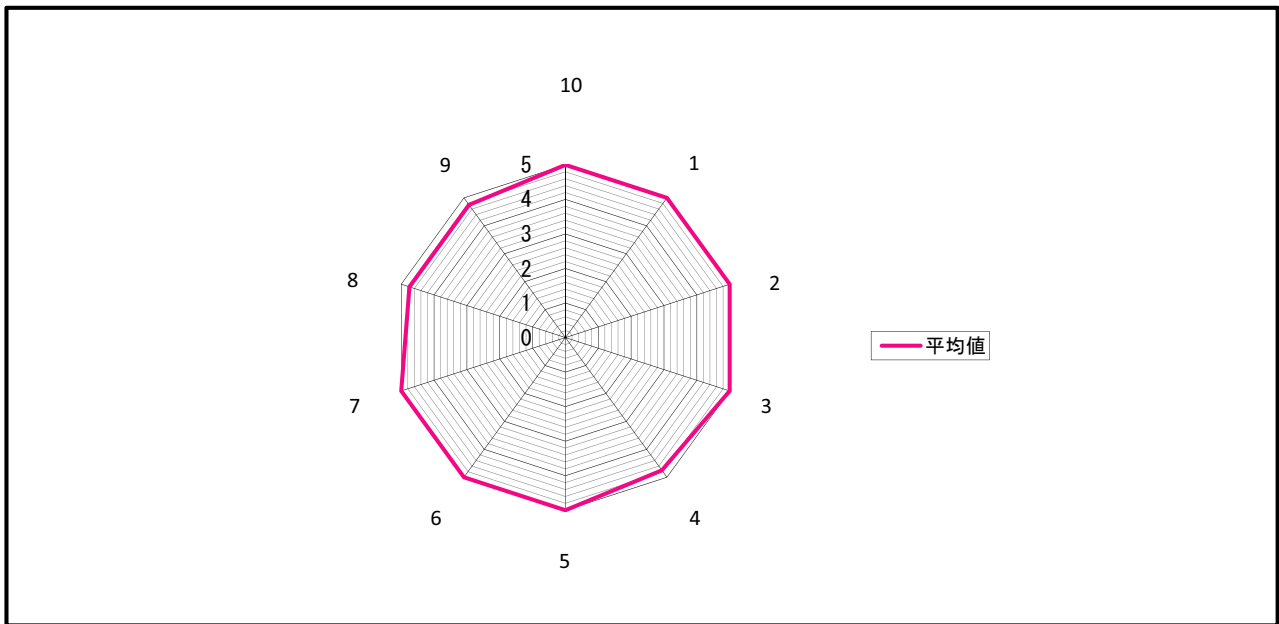
アンケートの結果は学生によるコメントを含めて非常に好評であった。だが、今年は極端に受講生の人数が少なく、授業者としては例年と比較するとやや盛り上がりを欠く授業だったと言わざるをえない。

結果報告書

授業科目名 楽曲分析研究
 評価実施日 平成24年7月31日
 担当教員名 松岡 貴史

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

授業では、楽曲分析の方法を提示し、学校教材を含め、受講生が希望するさまざまな様式の楽曲について実際に分析と楽曲解釈を行い、演奏表現にそれをどう生かすか、演奏を交えながら検討を行った。受講者は終始積極的に取り組み、このような授業内容が求められていることがひとしと感じられた。実際、毎回の授業において学ぶ意欲と内容の深まりが強く感じられ、その結果、総合評価5.0となり、満足度の高い授業であったといえよう。

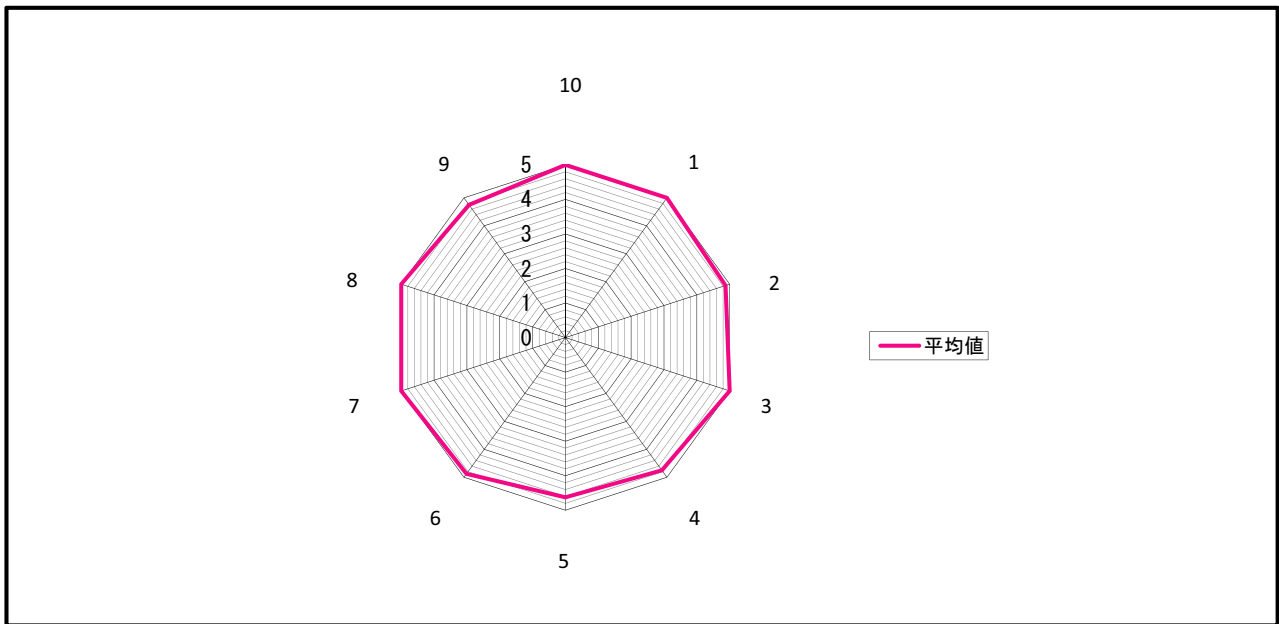
自由記述は次のような内容であった。「楽曲分析において、どこに着目すればよいか分かり、大変有意義であった。」「演奏するためには楽曲を分析することが必要だということを改めて考えることができた。分析をすることで、今まで気づくことのできなかった小さなことでも、演奏へと繋げることができる。最初は苦手だったが、とても好きになった。」「自分が興味を持っている曲を分析できたのが良かった。また、他の人の曲を授業で分析したら、その曲が好きになりました。」「いろいろな曲に触れることができ、勉強になりました。私たちのリクエストにも答えてくださって、ありがたかったです。」

結果報告書

授業科目名 音楽教育史研究
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 長島 真人

回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	3				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



教員のコメント

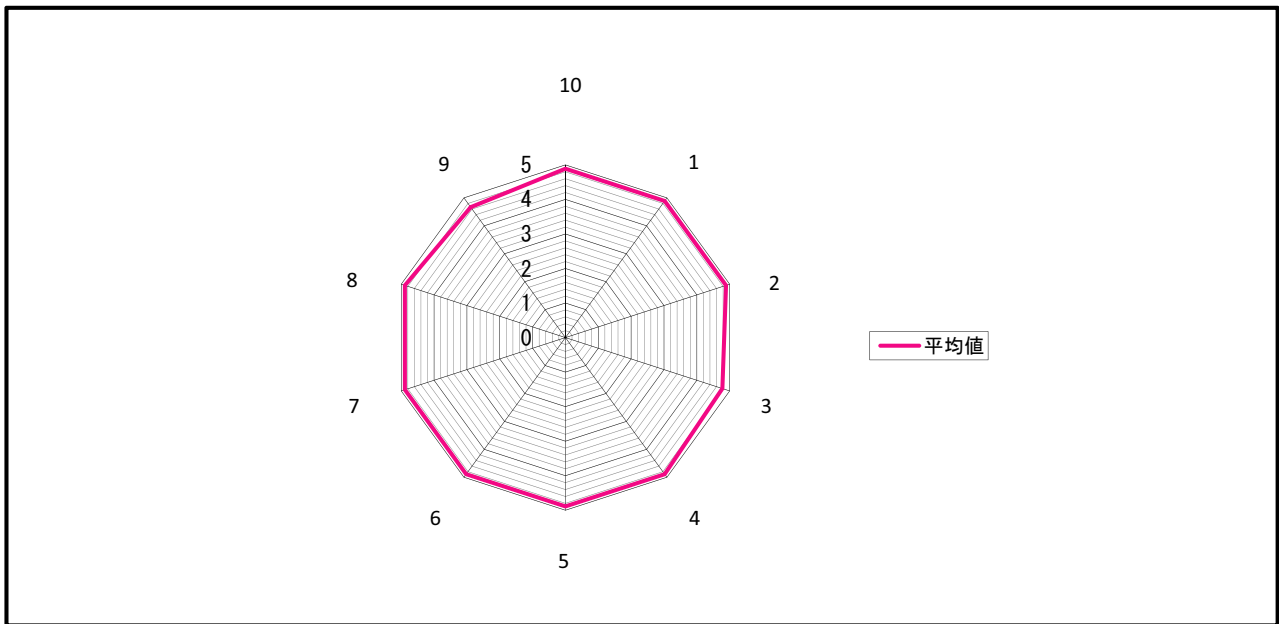
今年度の受講生は、音楽教育実践についての課題意識が強く抱えている院生が多いように思われた。授業は、できるだけ史料を紹介し、授業者が史料を読み解いていくという典型的なレクチャーのスタイルで展開していったが、毎時間、熱心に受講している姿が確認された。最終的なレポートには、以下のような指摘がみられた。「これまで見えていなかった「音楽とは何か」や「音楽を学校で教えることの意味」を深く考えることができた」「歴史的事実に伴随する思想や背景を紹介していただき、音楽教育に対する考えを深めることができ、とても有意義であった」「自分一人では到底読み解けなかったであろう書物をレクチャーしていただき、知識の幅を広げることができた」「先人たちの偉大な精神や知恵、これまでの変遷の中に、音楽教育の問題の解決に関わる手がかりが多くあると感じた」「教育現場で体験し、漠然と感じたり疑問に思ったりしていたことが、音楽教育の歴史や偉人たちの思想や理論から明確になり、これから現場に帰って私たちがしなければならないことは何かということが、はっきりみえてきた」「先人たちが築き上げてきた理論と実績の上に今の音楽教育があるということが良くわかり、それを受け継いで私たち音楽教師は何をしなければならないかという問題意識と使命感をもつことができた」「音楽教育史の歴史を紐解くということは、音楽の理想に立ち返ろうとするこゝいである。そこから未来への示唆を受けることができると感じている」このように、院生のレポートからは、歴史的事実を通して、音楽と子どもと教育についての思索が一步深められたことが確認された。

結果報告書

授業科目名 音楽科教育研究
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 長島 真人

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	1				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1	1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1				4.9



教員のコメント

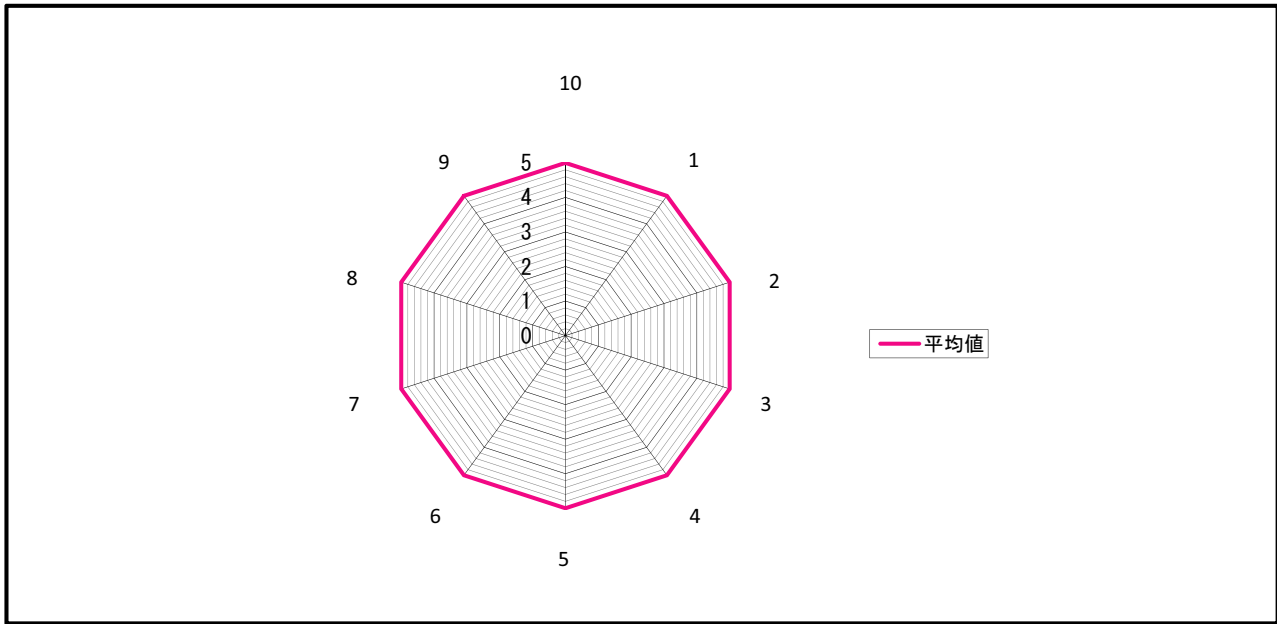
今年度も、できるだけシンプルな教材を例示しながら、音楽科教育の本質論と学習論、授業論について、演習と講義を展開した。例年通りの教材を用いたが、今年度も探究活動を促す上で有効であった。院生たちは、興味や課題意識を持って、授業に参加していたように思われた。この授業は、音楽の授業実践の経験を有する現職の院生と、学部で教育実習を経験した後に直ちに進学してきた院生と、これから初めて教育実習に臨む院生、という多様な立場にある院生が混在している授業である。そのため、授業の内容を総括的にとらえ直し、自分自身の教育実践力上の課題を省察するように促したレポートでは、この三つの立場によって、記述される内容が明確に異なっていた。現職の院生は、自分自身の授業実践を詳細に振り返ることができたようであった。教育実習経験を有する院生は、音楽教育に関する基本的な認識を確かめ、課題意識を高めることができたようであった。本格的な教師教育に初めて触れ、これから教育実習に臨む院生は、講義の内容を要約すると同時に、音楽教育の基礎となる音楽それ自体に関する認識や音楽の学習行為に関する認識を組み替えることができたようであった。このように、立場が異なる院生が混在してくる授業なので、今後も、授業の展開方法やレポートの課題設定に関して、さらに工夫が必要とされているように思われた。

結果報告書

授業科目名 音楽科授業演習
 評価実施日 平成24年9月17日
 担当教員名 宮下 俊也

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

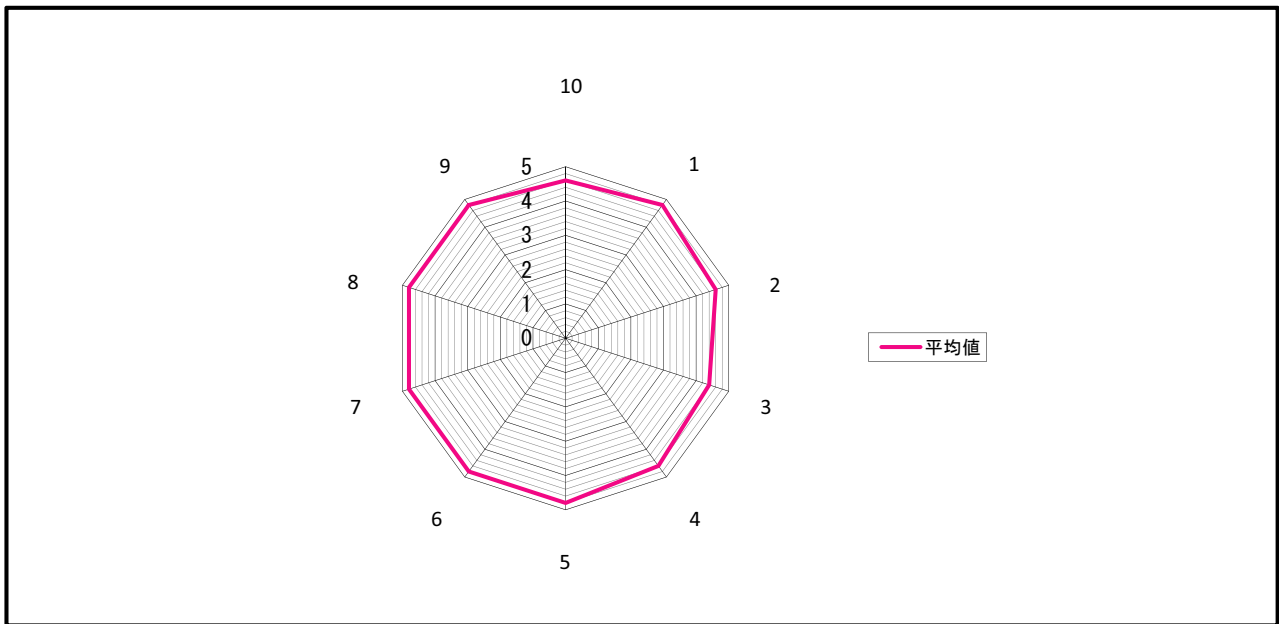
到達目標、シラバスの内容等、実現できてよかった。

結果報告書

授業科目名 絵画制作研究
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 鈴木 久人

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2				4.6



教員のコメント

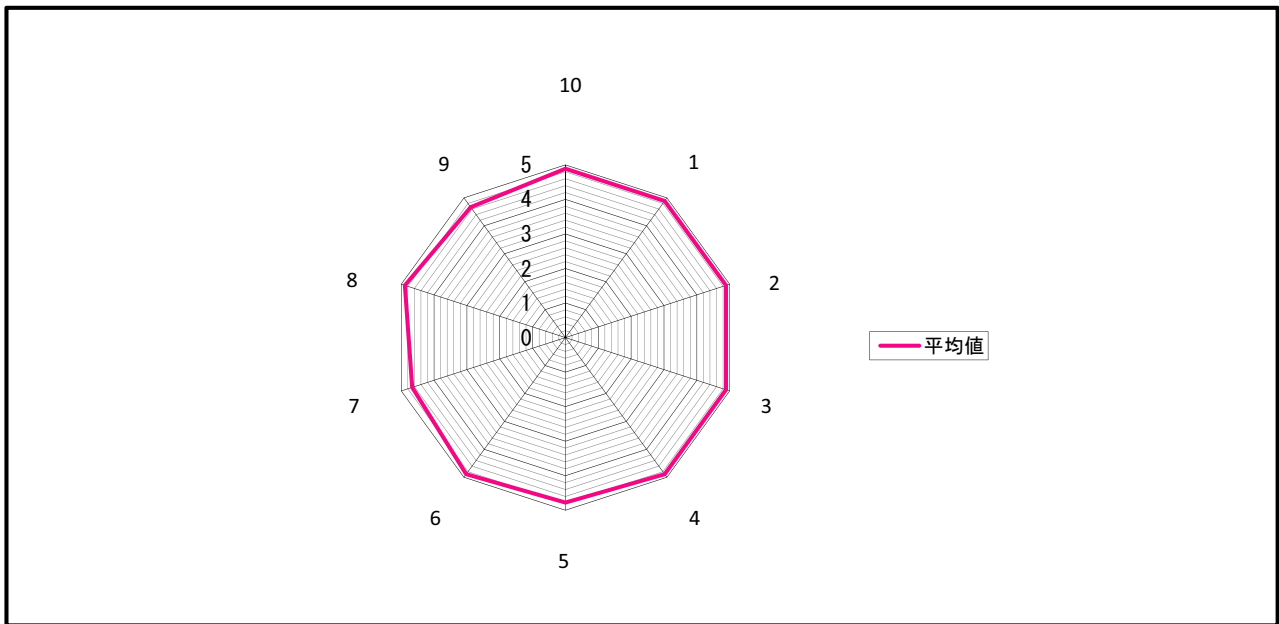
概ね、質問事項(1)から(10)では本授業の内容が好意的に受け取られていると考える。より授業の内容、進め方について丁寧な検討をくわえ、この授業の内容・経験が教育現場でどのように生かせるのかもより取り上げていきたい
 自由筆記でも「生徒の要望を取り入れて授業展開をして下さってました。(原文のまま)」という表記があったことは授業者としてはありがたい。

結果報告書

授業科目名 版画制作演習
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 武市 勝

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	3				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1	1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1				4.9



教員のコメント

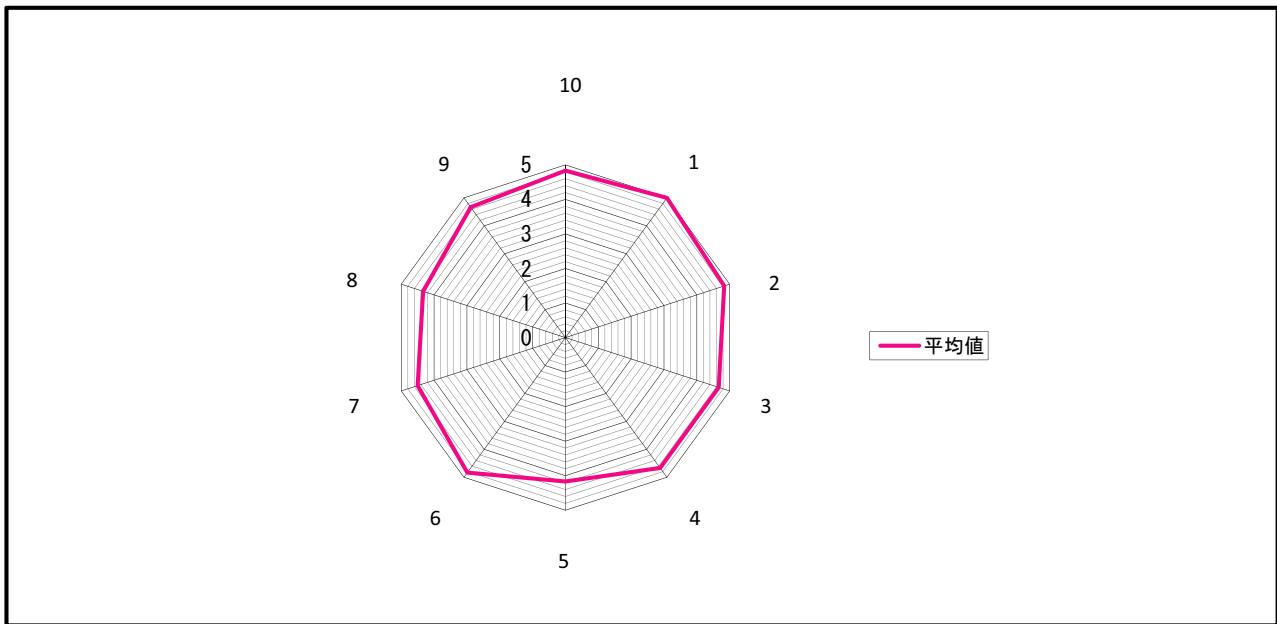
今年度は正直言えばもう少し厳しい評価になるかと思っていた。
 内容としてのコラグラフにせよ、木版凹版にせよ、力作は少しはあったものの、全体としての盛り上がりには充実感が少ない気がしたためである。
 教師としては、最初のオリエンテーション時に、「この授業で学ぶ内容は初めてという人が多いと思うので必ずしも傑作が目標ではなく、その技能習得に重点を置く、と言った。そのためもあって個々人としては技能を学んだという手応えは感じたのかもしれない。
 しかし教師は結果として生まれた作品を観たとき、「もう少し夢中にさせたかった」と感じてしまう。作品制作への没入感が弱いのである。
 これは次年度の課題としたい。

結果報告書

授業科目名 石彫制作演習
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 野崎 窮

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1			1	4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1	1			4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1		1		4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



教員のコメント

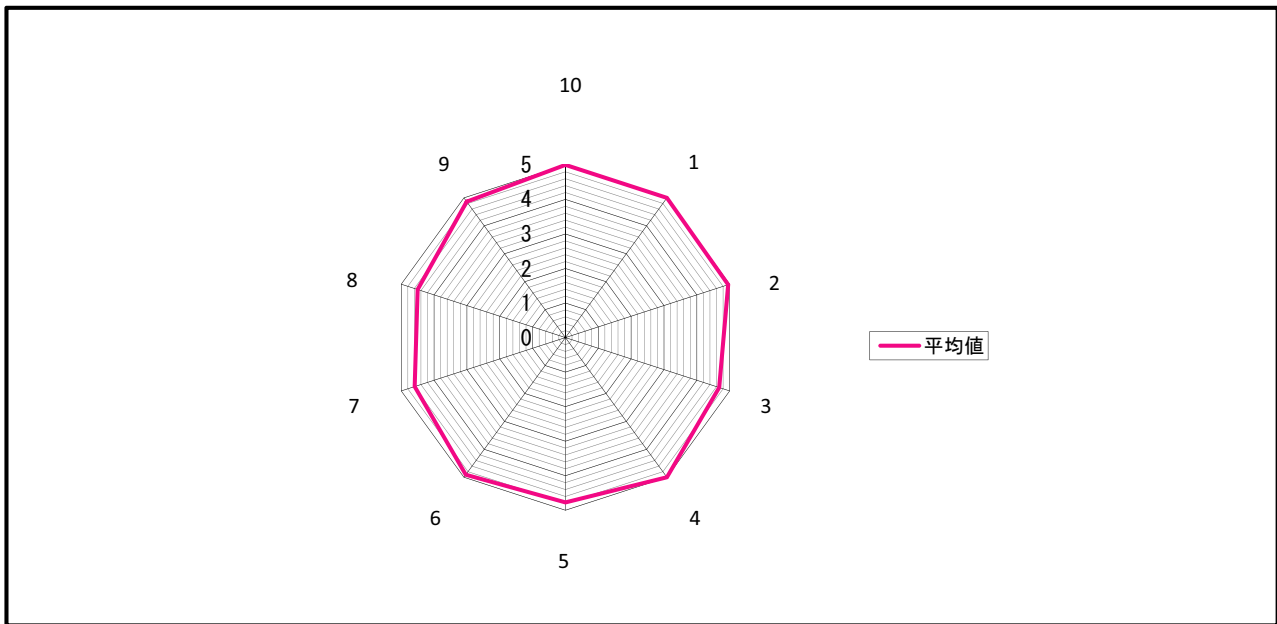
総合評価として「4.8」を得ているので特に大きな問題はないと考えている。但し、例年よりも全体的にやや評価は落ちている。学生に対して、この教材がどのような目的で、あるいは難易度として何故これぐらいのレベルの課題に取り組むのか等の説明を十分に行いたい。また、視聴覚機器の適切な使用をこころがけ、特にパワーポイントによる鑑賞教育では、その内容を充実させていきたい。

結果報告書

授業科目名 陶芸制作演習
 評価実施日 平成24年8月3日
 担当教員名 栗原 慶

回答者数 22 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	22					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	21	1				5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	16	5	1			4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	22					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	17	5				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	20	2				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	14	7	1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	15	4	2	1		4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	19	3				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	22					5.0



教員のコメント

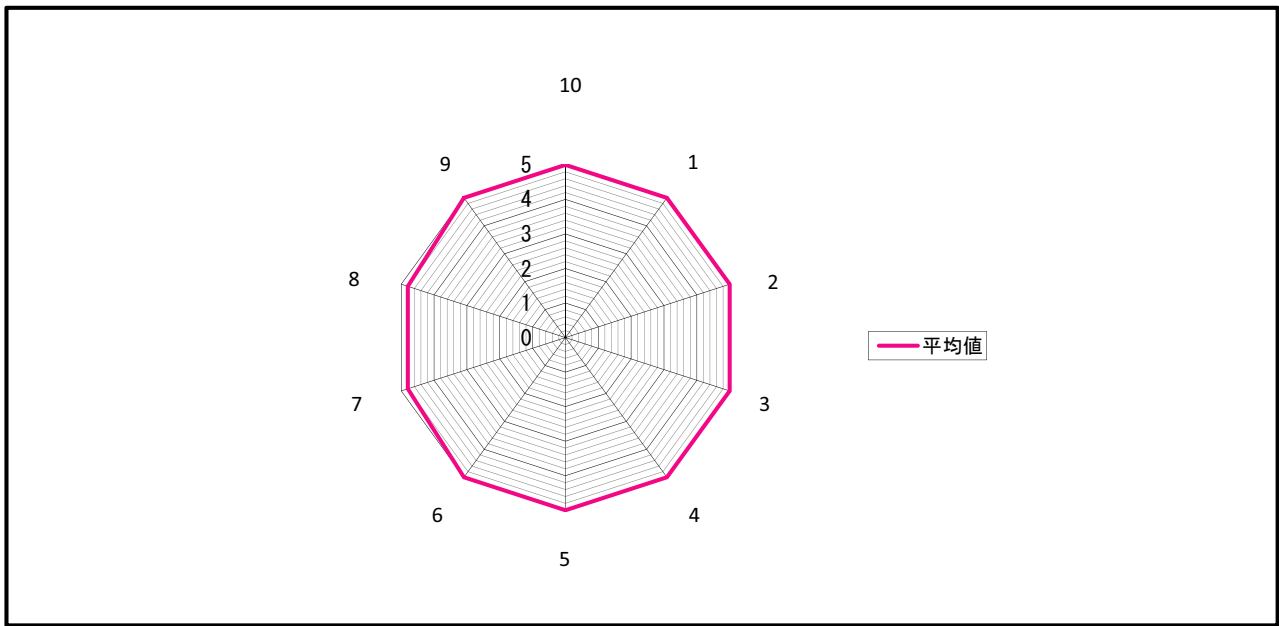
回答者22名から総合評価で5.0の評価を得たことは、授業者としてうれしく思う。(3)の項目に関しては陶芸の専門的授業の為、授業実践に活かすイメージを持ちにくい面もあり4.7となったと思われるが、「土と向き合うことは教育や支援に通ずるものがある」といった感想もあり素材の持つ可能性を見出した側面もあったようだ。(7)(8)の配布資料や板書等に関しては、実際の制作デモンストレーションと実技実践に重点を置いた結果と受け止めているが、今後資料を基にした講義を増やす等して改善していきたい。

結果報告書

授業科目名 総合造形研究
 評価実施日 平成24年9月16日
 担当教員名 池垣 禎彦

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

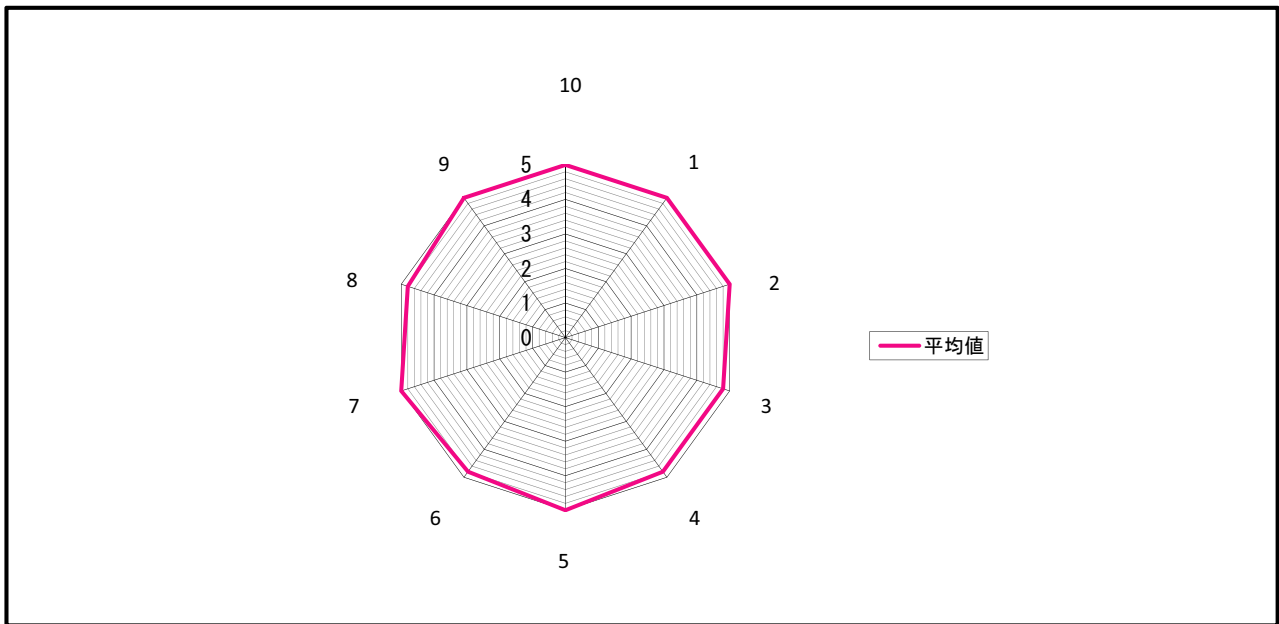
はじめから欠席していた学生を除いて、全員、たいへん集中して充実した実習、演習がおこなえました。課題への取り組み姿勢も積極的に成果からも授業を行った意義を感じました。私自身初めて貴学で授業を担当したこともあり、学生からも指摘があった実習の用意、視聴覚機材の利用などで不手際が有った事はいなめません。私自身、本務校が京都の精華大学に有り、そこでの学生の現在の状況を話した事等にも興味を持って聞いてもらえました。状況論や世代論、現状そしてこれからといったテーマで現在の美術の潮流を探るといった授業の可能性も感じました。

結果報告書

授業科目名 芸術学研究
 評価実施日 平成24年7月31日
 担当教員名 小川 勝

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



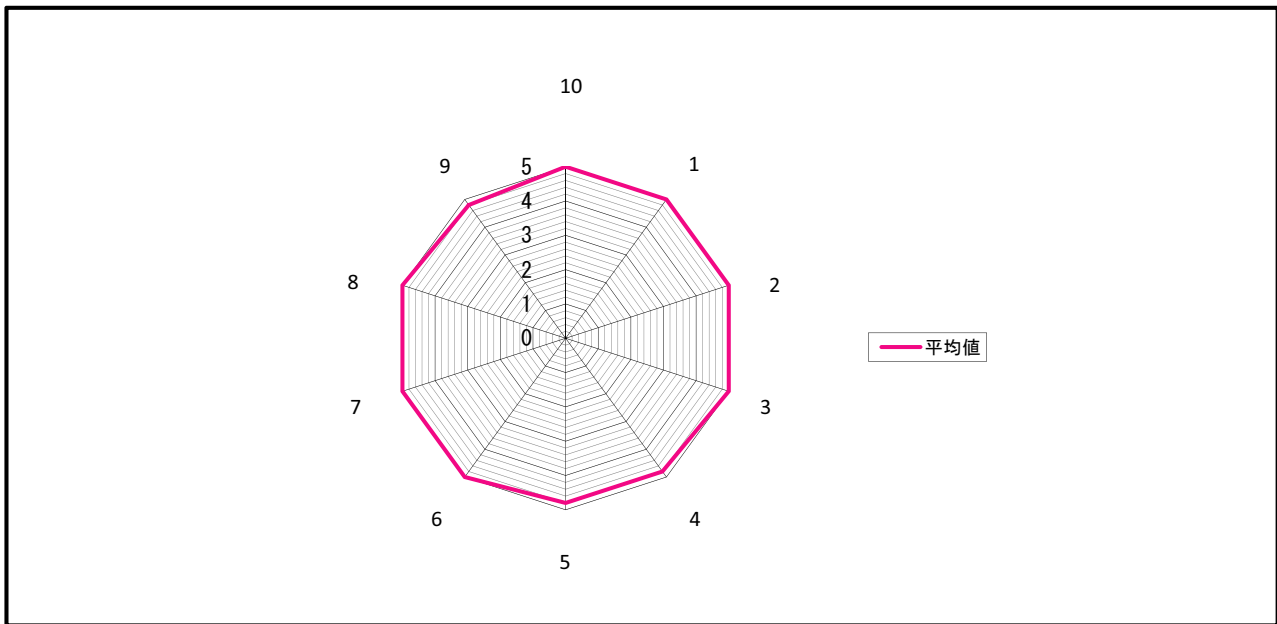
教員のコメント

結果報告書

授業科目名 美術科授業研究
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 山木 朝彦

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

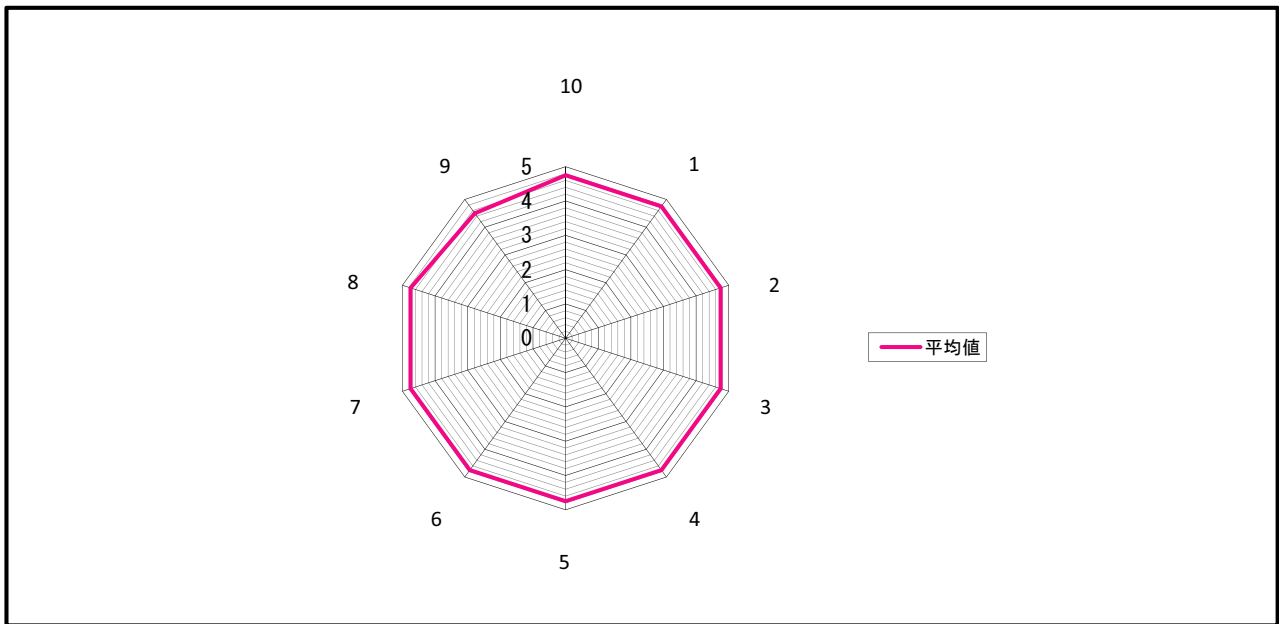
今年の授業では、教育実践の背後にある理論的な根拠やものの見方・考え方について深く学ぶために、ヴィクター・ローウェンフェルドやエリオット・アイスナーなどによる著書(翻訳書)の本文を精読することを学生に求めた。はじめは、受講生にとって難解な文章にみえたテキストも、適切な説明を加えることで、理解の進捗がみられた。そうした理論的な枠組みから、現代日本の美術教育の成果と課題を意識化させることで、自分自身が教師として果たすべき役割と教材研究の方法について深く学ぶことができたと思う。一部、5の評価とならなかったのは、評価方法についての箇所であるが、これは、PowerPointによるプレゼンという手法に馴染みが無かった学生がやや困難を感じたためであろう。この点は、引き続き、分かり易い指導を心がけたいと思う。

結果報告書

授業科目名 美術科教材開発研究
 評価実施日 平成24年7月23日
 担当教員名 山田 芳明

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1				4.8



教員のコメント

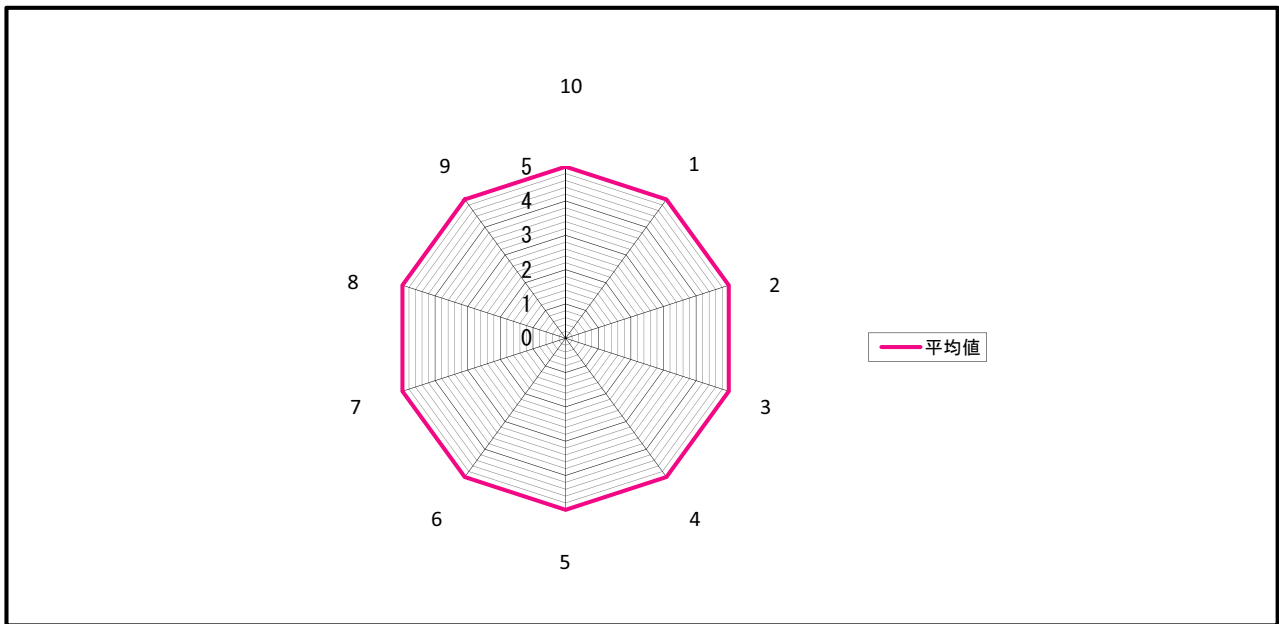
本授業は、図画工作科美術科という教科において重要な教材開発について理解を深めるとともに、学生自らが教材を開発することを課題としている。
 本授業の受講者が4名ということから、統計的な検討を行うことは適さないが、受講者はおおむね本授業に対して満足していると読み取ることができるだろう。今後も、基本的な授業構成は継続しつつも、さらに学生にとってよりよい授業となるように改善に努めたい。

結果報告書

授業科目名 美術科教育研究法演習
 評価実施日 平成24年7月31日
 担当教員名 山木 朝彦, 山田 芳明

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



教員のコメント

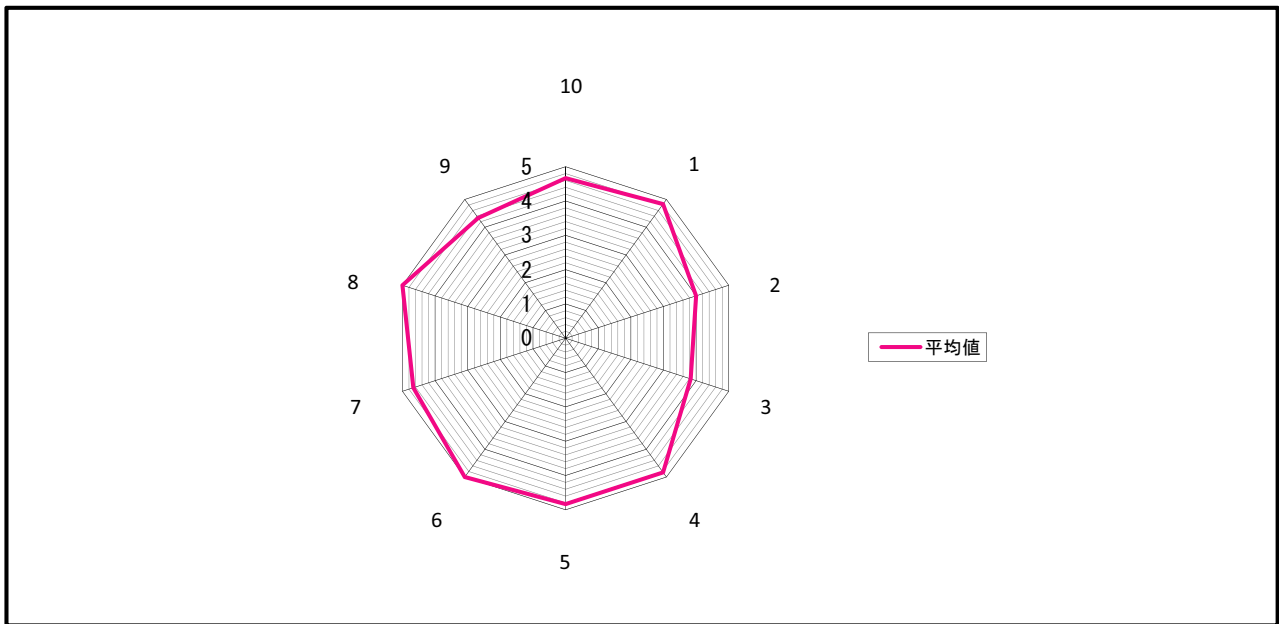
この授業では、何よりも主体的な研究意欲を喚起し、自ら進んで教材研究を行う実践的研究力の育成に努めた。鳴門教育大学と大塚国際美術館が取り結んでいる「地域文化財教育活用プロジェクト」の枠組みを用いて、絵画作品に関する知識を美術館にて学んだことも、リアルな教材研究に繋がったと思う。もちろん、主体的な教材研究を促す課題(ワークシートづくり)に特化するのではなく、現代のさまざまな鑑賞教育の指導方法について幅広く学ぶパートを充実させたことが、高い評価に繋がったと思う。今回、全受講生から高い評価を頂いたことを励みにして、さらなる授業改善に努めたいと思う。

結果報告書

授業科目名 スポーツ社会学研究
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 木原 資裕

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	2	2			4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		5	1			3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	2				4.7



教員のコメント

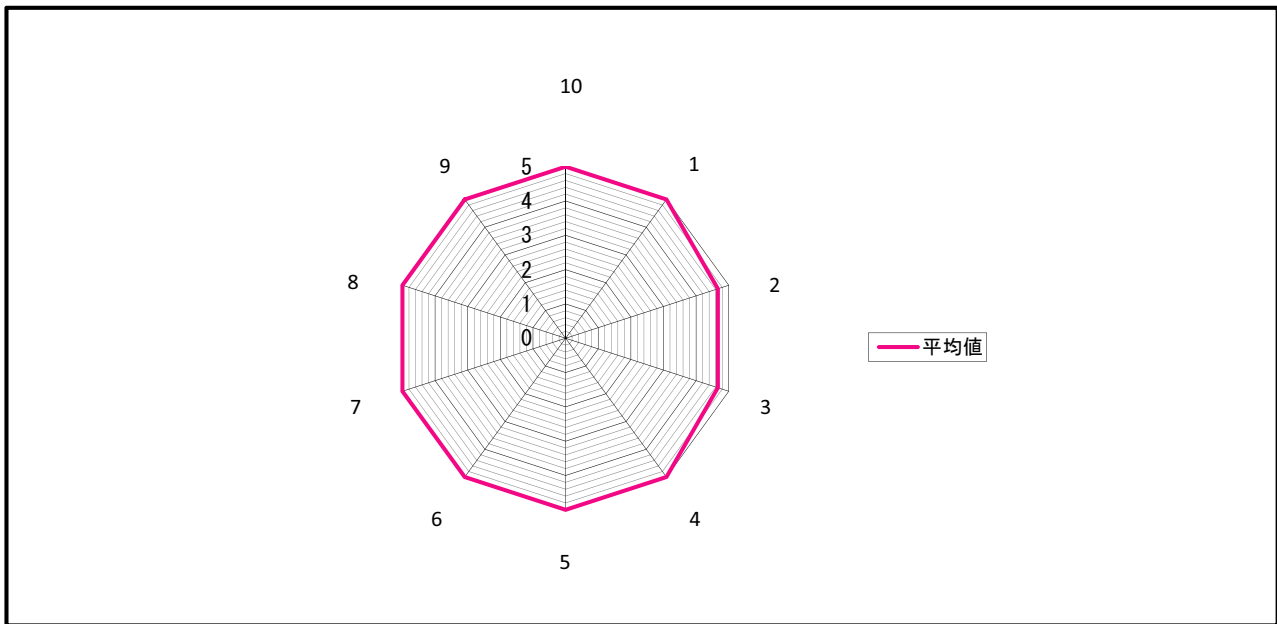
まず、アンケート当日、教員採用試験等のため、9名中3名が欠席しており、受講生全員の授業評価ではないことを指摘しておきたい。その中で、「(10)この授業を総合的に評価するとよかったと思う」が、4.7であり、数値的にはよい評価がなされていたと思う。特に、視聴覚教材を多く使い、スポーツの持つ迫力や多面性を認識してもらえたことが、高評価につながっていると考えている。一方、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」においては評価が3.8で質問項目中最も低い値であった。また、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」においても評価4.0であった。このことは、昨年も、同様の傾向を示しており、この授業の持つ、その当時の社会傾向やその運動種目の特異性を中心に授業展開をしていることに起因していると思われる。教師の実践力を支える幅広い教養として、その当時の社会性や特異性を理解することが大切であると考えている。今後も、その点を省察しつつ、よい授業展開が実践できるよう心がけていきたいと思う。

結果報告書

授業科目名 学校体育経営研究
 評価実施日 平成24年7月25日
 担当教員名 藤田 雅文

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



教員のコメント

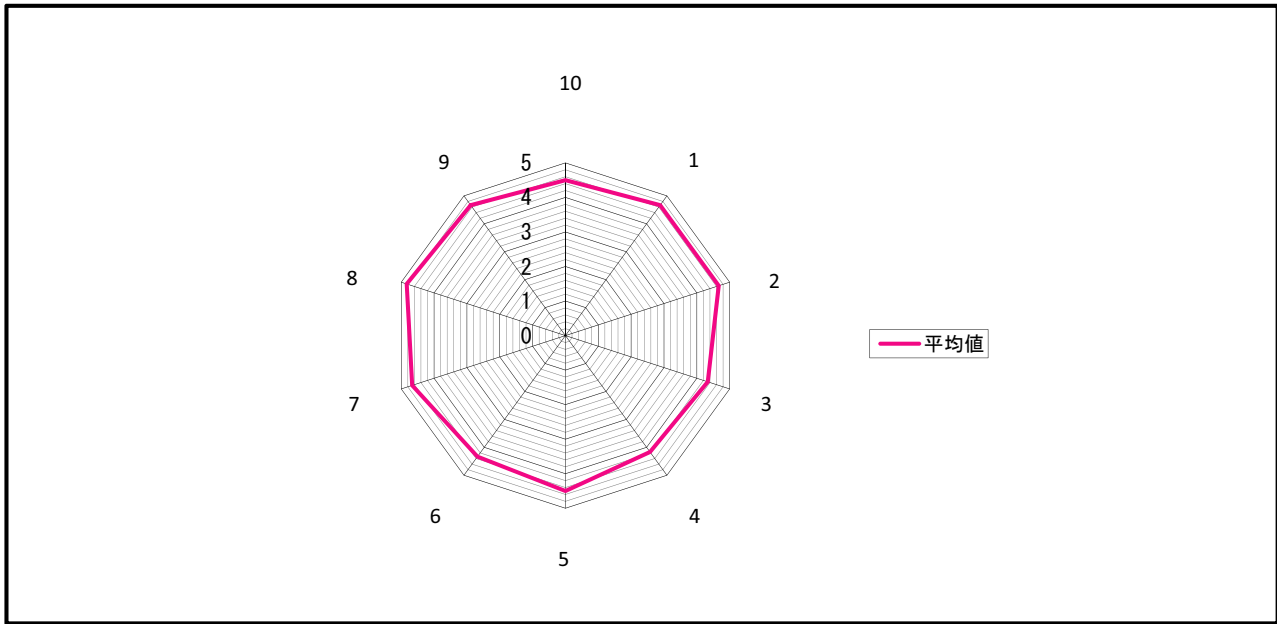
9項目の平均評価点は4.9で、総合評価も5.0であることから、高い評価を得たと考えている。テキストを紹介したが、高価であるためか、購入する者がいなかったため、プリント資料を配布し、視聴覚資料を提示しながら授業を行なった。今年度の受講生は、3名とも小学校の現職教員であったため、全員に学校体育経営の事例発表を行ってもらい、情報交換に努めた。今後も同様の授業を展開していきたいと考えている。

結果報告書

授業科目名 体育・スポーツ心理学研究
 評価実施日 平成24年7月20日
 担当教員名 賀川 昌明

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1	2			4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1	1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2	1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	2				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1	1			4.5



教員のコメント

本授業の第2週～第11週では、前もって提示したテーマに対して授業者が解説を加えた後、それらの内容に関して受講者全員で討議を行った。また、第12週～第14週では、それまでに取り扱った内容の中から受講生がもっとも関心のある課題を選択し、自己の体験や指導経験に基づいた問題提起を行った後、受講者全員で討議を行った。

その結果、受講者の評価はおおむね好意的であり、全体での平均評価は4.5となった。項目別の平均評価を見てみると、「教師の実践力の育成につながる内容であった。」「成績評価の方法の説明は、適切であった。」「受講生に分かりやすく説明した。」という項目において4.2～4.3と、比較的低い値になっているが、他の項目ではいずれも4.5～4.8の高い値であった。

比較的低い評価となった「実践力」に関わる項目については、今回の講義では研究方法やデータ分析方法に関する内容を扱ったこと、「成績評価」等の説明に関しては、その精度に関して受講生と授業者との認識に差異があったこと等が影響しているように思われる。今後、受講生のレベルにあった、より詳細な説明を心がける必要がある。

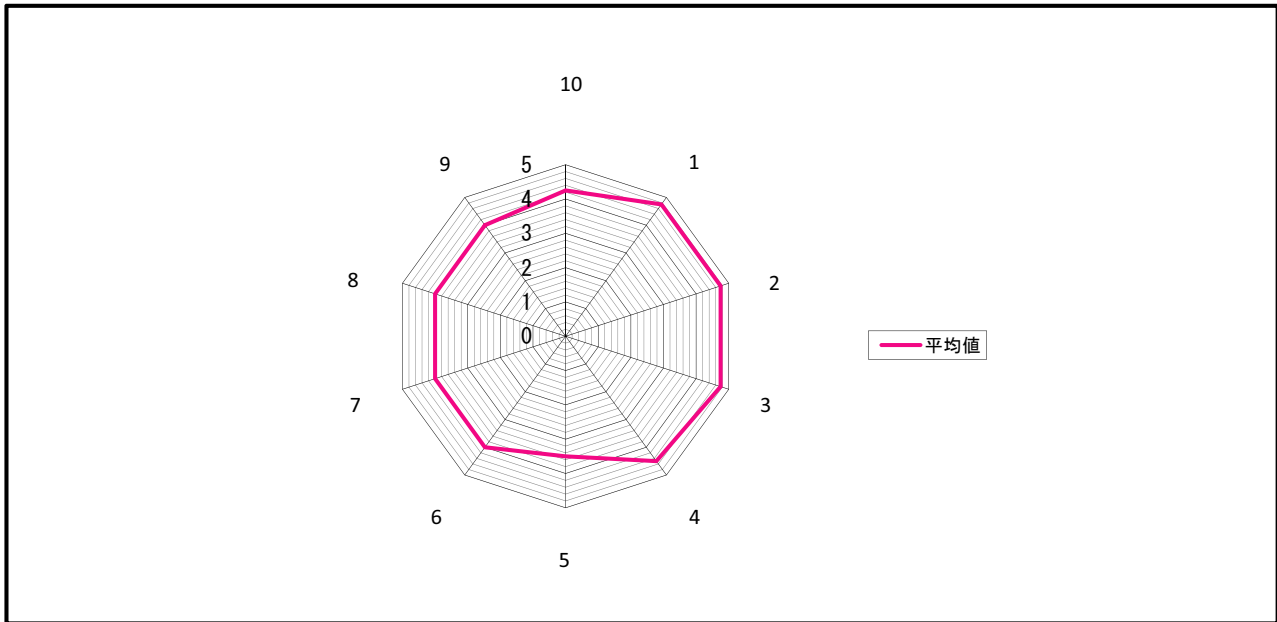
しかしながら、自由記述欄における受講生の評価は、いずれも肯定的な内容が多く、今回の授業が授業者の意図に沿った形で受け止められていることが示唆された。とくに、授業後半で行った討議や受講生による提案は好評であった。

結果報告書

授業科目名 運動学研究
 評価実施日 平成24年6月27日
 担当教員名 乾 信之

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1	1	1		3.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1		1		4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1	1			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1		1		4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1		1		4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3			1		4.3



教員のコメント

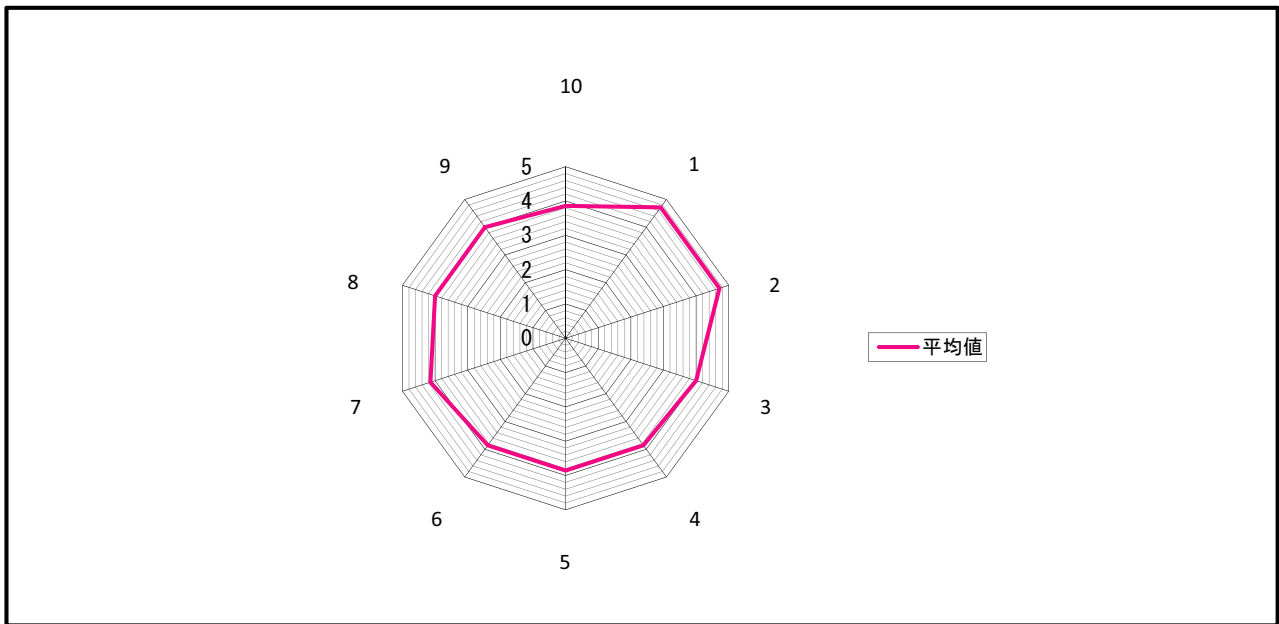
講義内容はおおむね良かったようだ。ただ、講義の進行が若干はやかったことが反省点として挙げられる。

結果報告書

授業科目名 スポーツ・バイオメカニクス研究
 評価実施日 平成24年7月23日
 担当教員名 松井 敦典

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	5	1			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	4	2			3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2	3			3.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2	3			3.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	3		1		4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2	1	1		4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	2			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		6	1			3.9



教員のコメント

本年の受講生には、現職教員としての問題意識を持ち、本授業を受講してその問題点を解決するための手だてや方法を学び取りたいという、学習動機の明確な者がある反面、体育及びスポーツ科学の専門的な内容が未習熟であるが面期教員免許取得のための単位取得を動機とする者が混在しており、それが授業の理解度に反映している。それら両者の学習を両立させるとともに、体育教材との関連性を高め、教員や指導者にとっての必要性に関する理解がすすむよう、工夫していく必要がある。

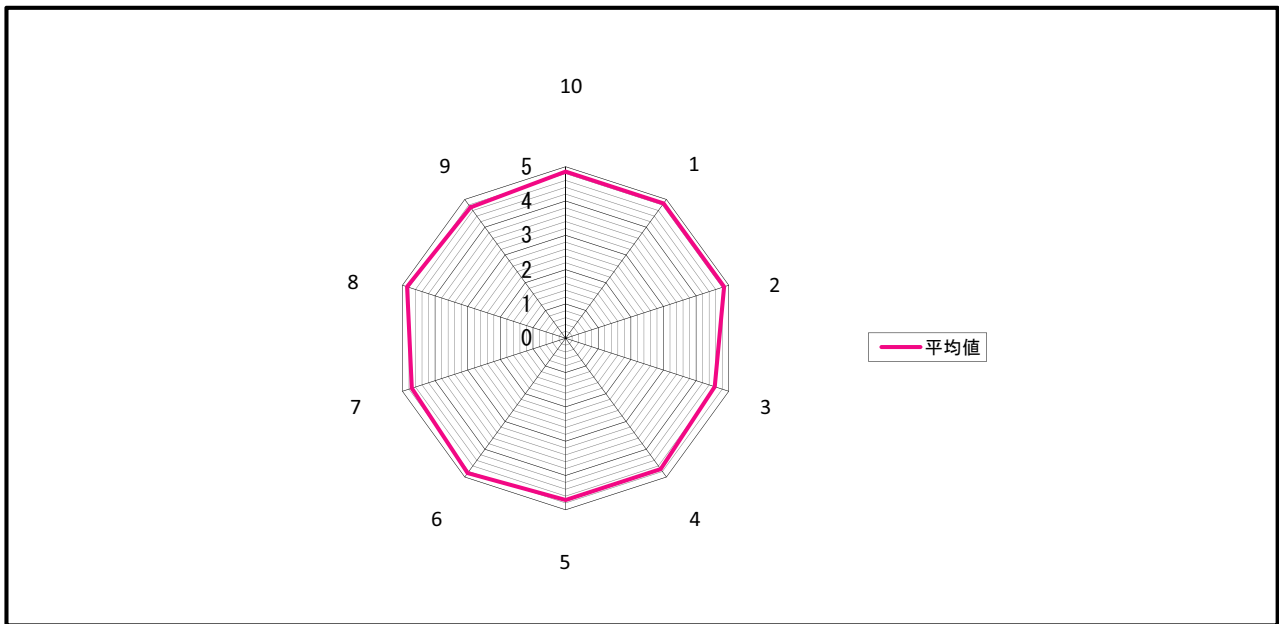
また、多くの受講生は専門のスポーツ種目を持ち、それに関する知識や経験は豊富に持っているものの、非専門の競技種目に関する知識経験は豊富とは言いがたい。本授業によって身体運動の一般的・普遍的な見方や考え方を再確認し、全ての体育・スポーツ種目に対応・応用できるよう、授業の内容と方法を精査していきたい。

結果報告書

授業科目名 スポーツ・トレーニング研究
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 南 隆尚

回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1	1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	2				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6		1			4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



教員のコメント

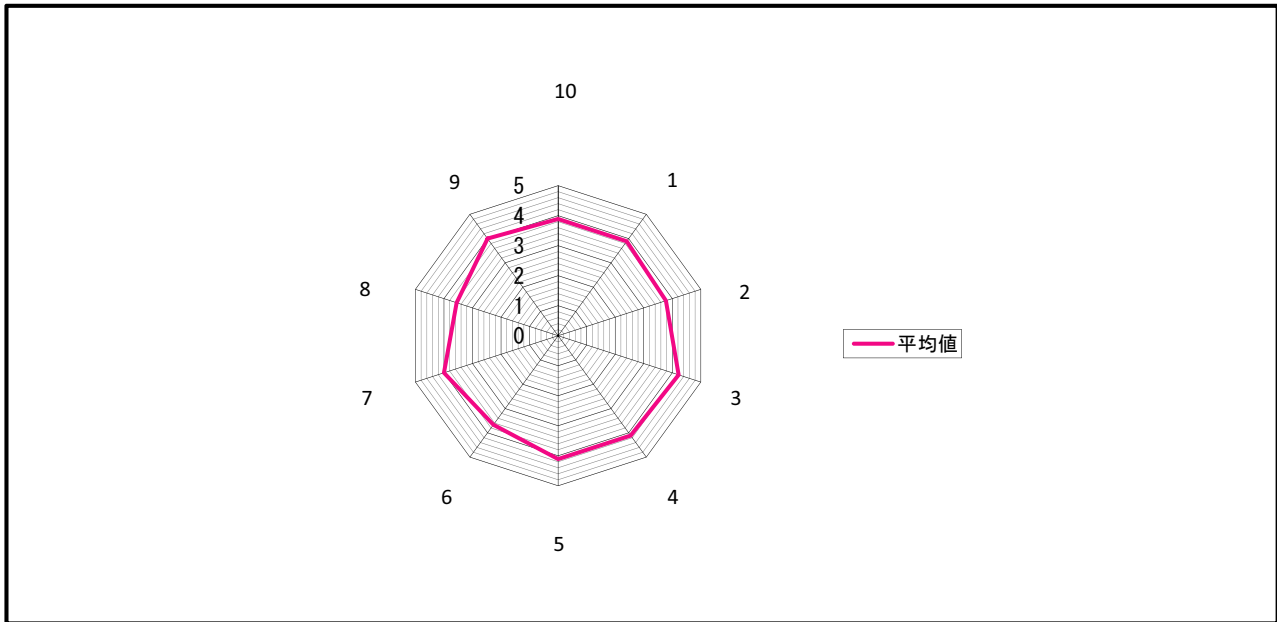
【分析】
 本授業では、授業の内容の項目では『(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。』、『(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。』、授業の進め方では『(6)受講生に分かりやすく説明した。』、『(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。』で高い評価を得られた。これらは受講生が少なかつたため、その希望する内容をシラバスから取り出し、各人の興味を元にプレゼンテーションしてもらい、それを補う形でこちらが解説するという授業形態であったため、各人の興味とその専門性が深められたと感じたからであろう。
 しかし授業内容の『(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。』の評価は比較的低く、スポーツの競技性が前面に立ち、専門性が強すぎた結果と考えられる。特に感想からは小学校の現職教員の方にその傾向が見受けられる。今後はもっと子どもの成長に合わせたスポーツの導入や展開について情報を提供すべきである。
 『(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。』は平均4.9であり、概ね良好だと考えられる。

結果報告書

授業科目名 学校保健学研究
 評価実施日 平成24年7月24日
 担当教員名 吉本 佐雅子

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	4	3			3.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	5	3			3.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	3	2			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	6	1			4.1
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	4	2			4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	4	4			3.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	5	2			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	4	3	1		3.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2	2	1		4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	6	2			3.9



教員のコメント

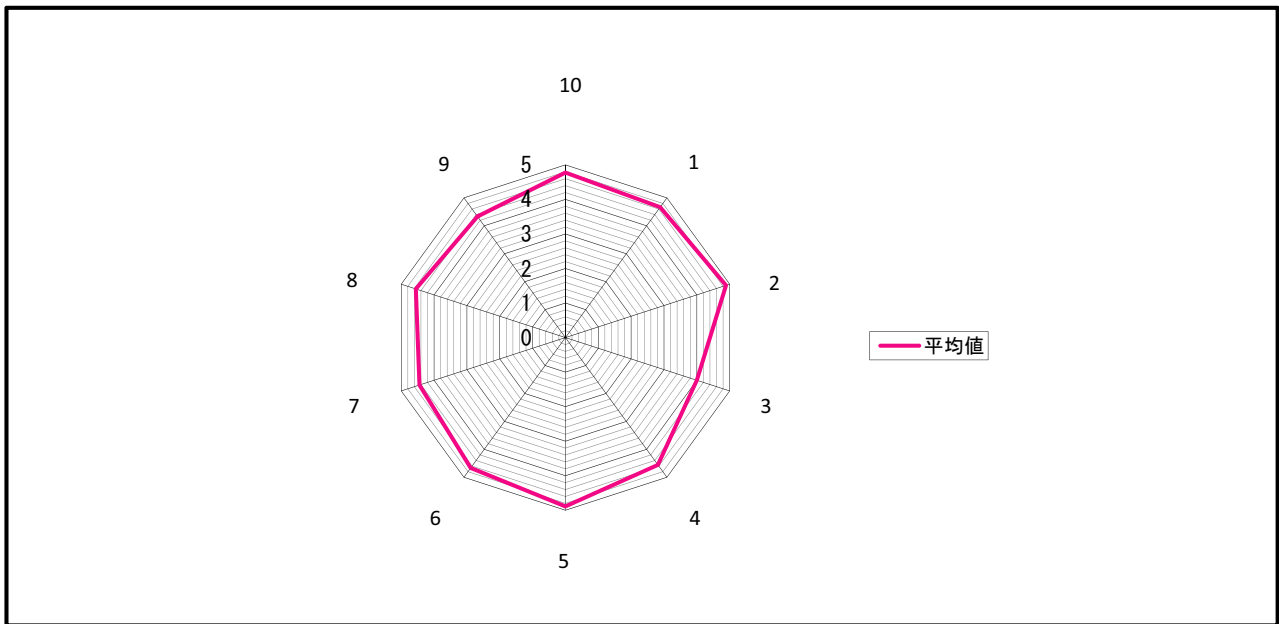
概ね良好な評価が得られたと考える。今後は視聴覚機器を使用し、また、ディベートなどの学生参加型の授業形態を取り入れた授業を行いたい。

結果報告書

授業科目名 健康科学研究
 評価実施日 平成24年7月13日
 担当教員名 廣瀬 政雄

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	3				4.7
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	1				4.9
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2	2	1		4.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	1		1		4.6
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	8	1				4.9
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	6	3				4.7
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4	5				4.4
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	4				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4	1			4.3
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	2				4.8



教員のコメント

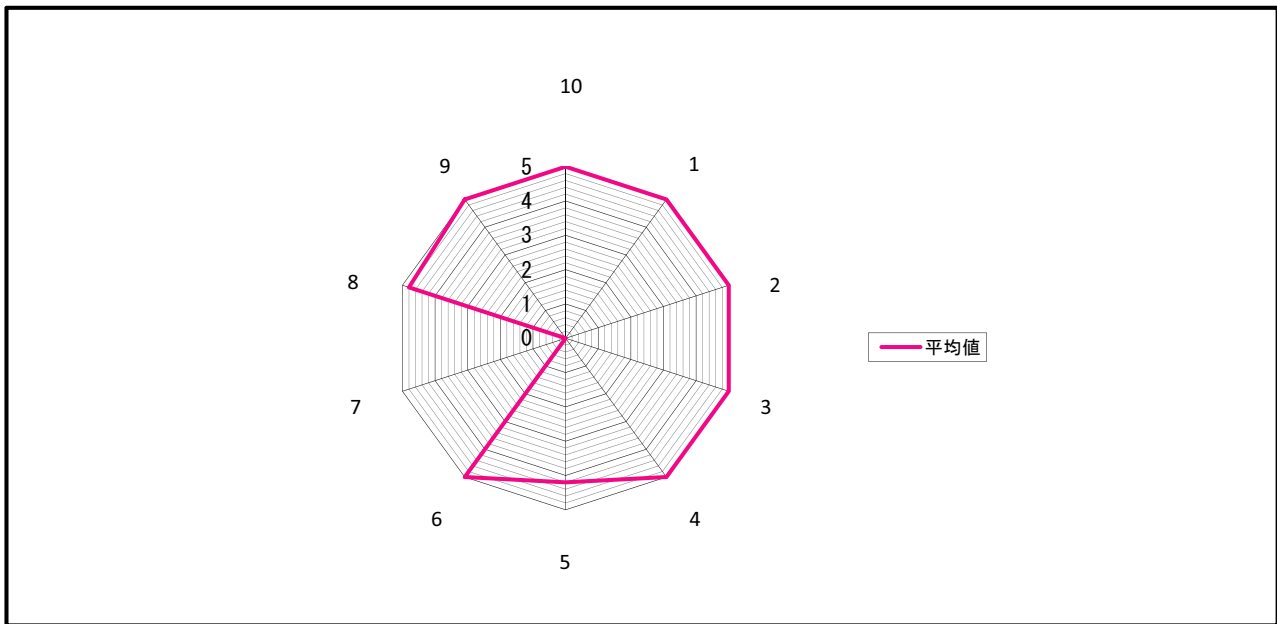
健康科学研究では、体の構造と生理代謝のしくみを実践的な面から理解させ、時事的な問題を含みつつ、健康について再考した。授業内容は、医療関係者向けの純粋な医学的のものではなく、時に話題は医学的な内容から離れることもあるが、学生に興味を持ってもらえるために行っているという側面もある。従って、学生の評価が「健康のことが深いところから理解できた」ので、内容的にはこのくらいこなれている方が適当なのかもしれない。また、評価が「面白い」とか「興味が持てた」に偏り、「教師の実践力の養成に有用」という評価では、少し低くなっている理由はこのあたりにあると思われる。後期や次年度に同じ学生が受講するわけではないが、健康科学演習では、子どもの健康問題や学校における健康問題に触れることを考えている。

結果報告書

授業科目名 運動生理学研究
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 田中 弘之

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2	1			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。						
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

評価の平均値は4.9であり、総合評価においても全員が5と判断していることから、所期の講義目的は概ね達成されたと考えられる。『授業の進む速さは、適切であった。』について、1名のみ『3』の評価があり、個人の感性の問題を包含しながらも、さらなる講義資料の精選と内容の焦点化が、次年度への検討課題であると思われる。

自由記述欄の概観では、『子どもの健康を守る上での運動生理学的知見について学ぶことができ、とてもありがたかった。』『自学自習を要する分、より真剣に授業に臨むことができた。』『真剣に取り組んでよかったと思える授業であった。』等、概ね好評であった。

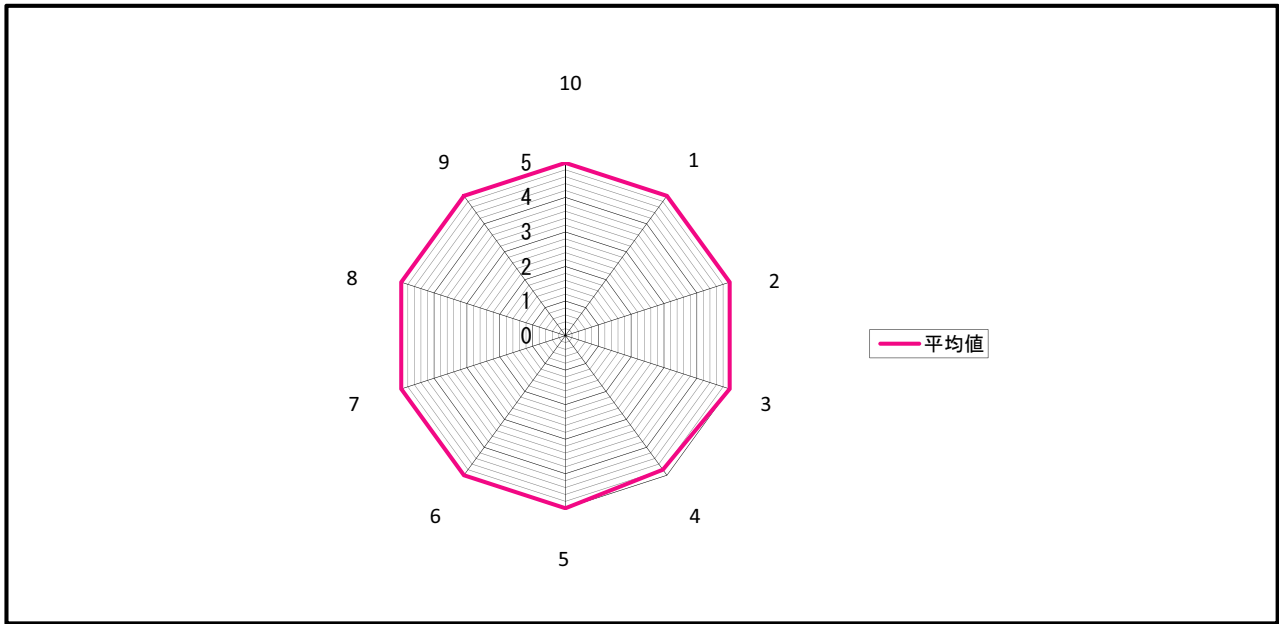
改善すべき点としては、『もう少しペースをゆるめていただけるとありがたい。』『現職教員の現場で収集しているデータも使用に耐えるものもたくさんあることをご理解いただきたい。』等の指摘があった。授業改善に向けて、真摯に受け止めて善処しつつ、授業のより実践的で、効率的な運営については今後も継続して検討を重ねたい。

結果報告書

授業科目名 保健体育科教育学研究
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 梅野 圭史

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

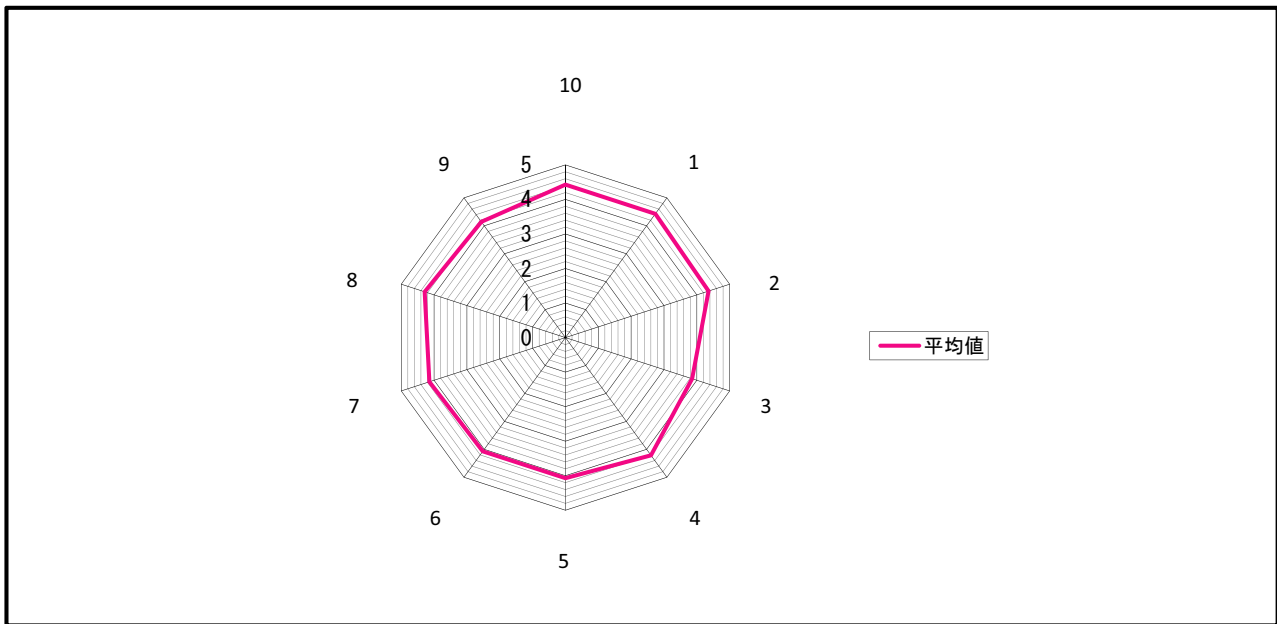
少人数の授業であったことから、密度の濃い授業が展開できた。しかも、受講生の内、3名が現職の教員であったことが、授業内容の充実につながったものと考えている。

結果報告書

授業科目名 情報処理研究
 評価実施日 平成24年7月10日
 担当教員名 菊地 章

回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	8				4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	9				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	5	4	1		3.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	4	2	1		4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	5	1	2		4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	7	3			4.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	8	2			4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5	8	1			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	9		1		4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	6	1			4.4



教員のコメント

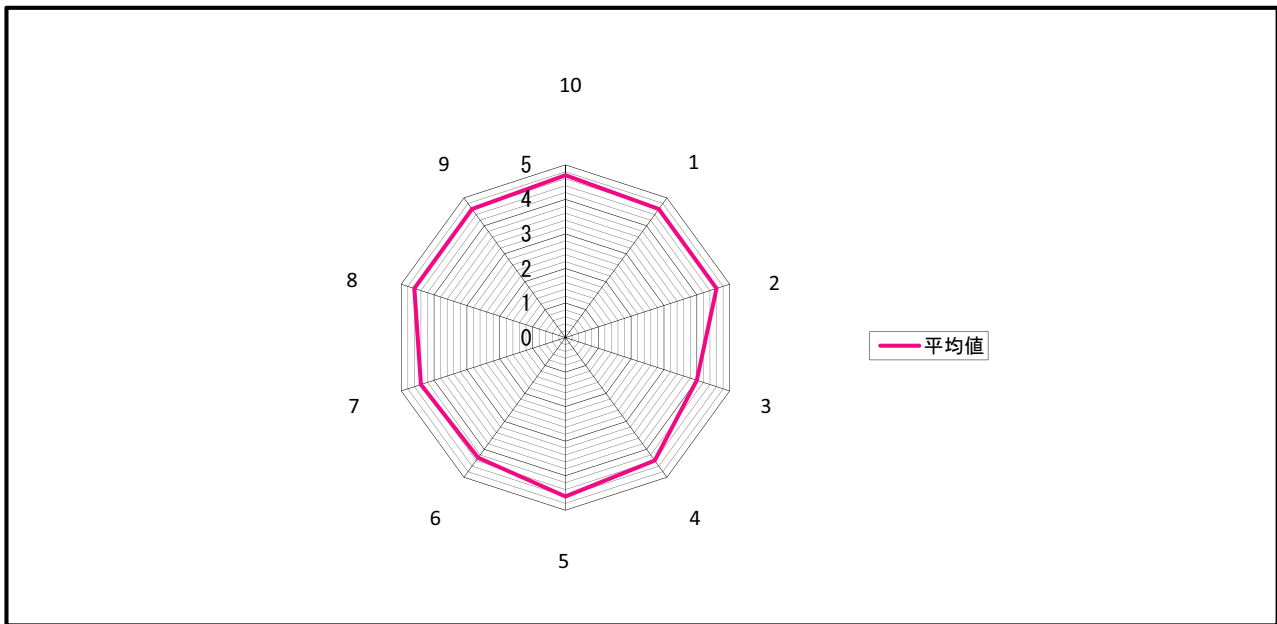
全体的に、計算の歴史に関わる数十点の機器の展示、それらの実際の操作、授業用に作成した説明資料等は非常に高い評価を得ており、概ね好評であったようである。ただ、2名程度の受講者には興味のない授業内容であったようで、そこで評価点が少なくなっている。受講者全員の興味関心を満足させる教材を揃えることは難しいが、全体的には良い評価を得た授業であったと思われる。

結果報告書

授業科目名 コンピュータ科学研究
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 宮本 賢治

回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	4				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	4				4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	4	3			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	4	1			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	4				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	5	1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	4	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	4				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1	1			4.7



教員のコメント

すべての質問項目において4点以上で、概ね好評価を得られていると思われる。ただし、今後は以下の2点に注意して一層の改善を図りたい。

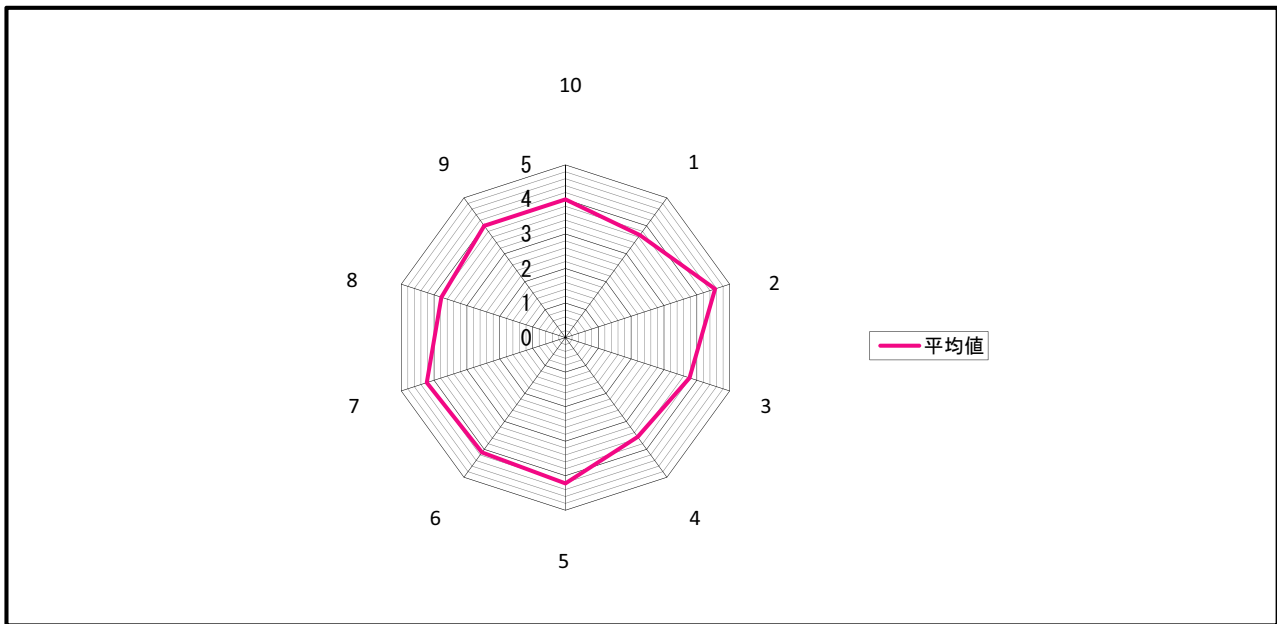
- 1) 学部での背景の違いにより、学生によっては説明がやや分かりにくいと感じることもあるので、もっと分かりやすく説明するように努める。
- 2) 初等中等の理科や技術・工業・情報と本授業とがどのように関連しているかを、もっと分かりやすく示し、教師の実践力の育成につながる内容であることを明確に伝えるように努める。

結果報告書

授業科目名 機械工学研究
 評価実施日 平成24年7月17日
 担当教員名 宮下 晃一

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	4	4			3.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	2	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	5	3			3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2	4	1		3.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	3	2			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	6	1			4.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	5	1			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	5	3			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	4	1	1		4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	3	3			4.0



教員のコメント

この講義では3次元CADならびに3次元加工機を使った教材の設計と製作についての知識と経験を学習させる内容であった。受講学生には1台/人のワークステーションを使わせることができ、殆どの学生にとって内容に興味を持つことができ理解がより良く進んだものと思う。

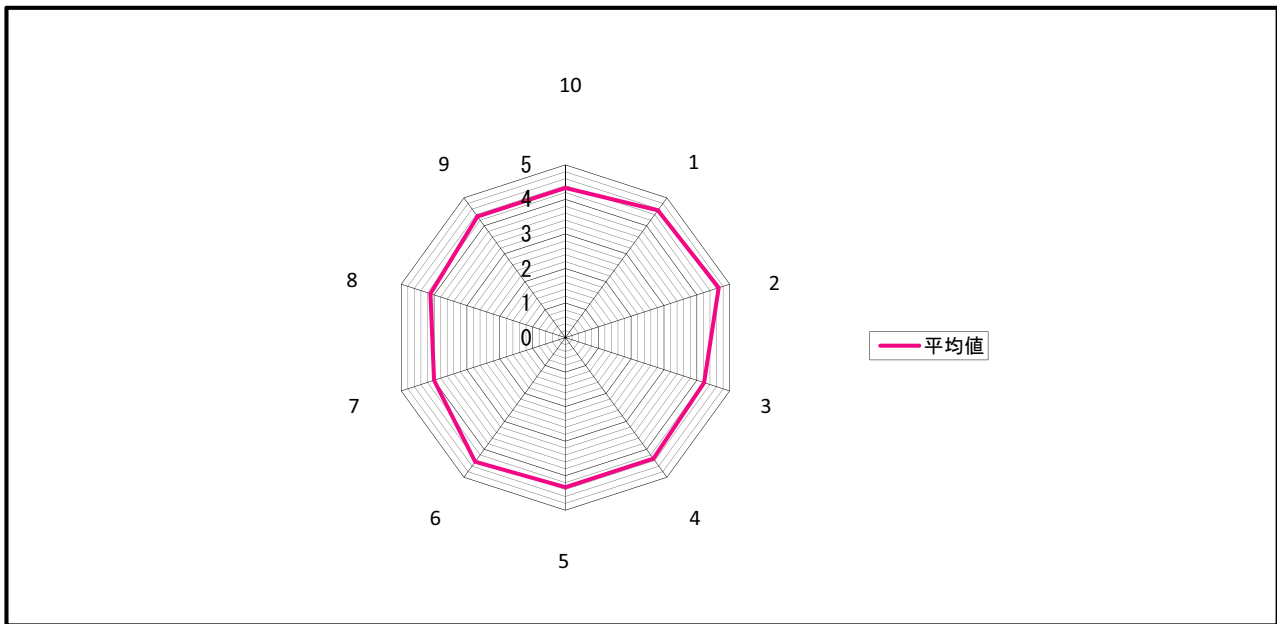
学生による授業評価は概ね良好であったと思う。評価が余り良くなかったのは、「(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。」
 「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。」の2項目であった。授業概要の内容をさらに精査するとともに、成績評価方法について1回目の講義の際に行うように心掛ける。

結果報告書

授業科目名 材料及び加工学研究
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 米延 仁志

回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	2	1			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	5	1			4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2	2			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	2	2			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	5				4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	3	3			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	6	1			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	6				4.3



教員のコメント

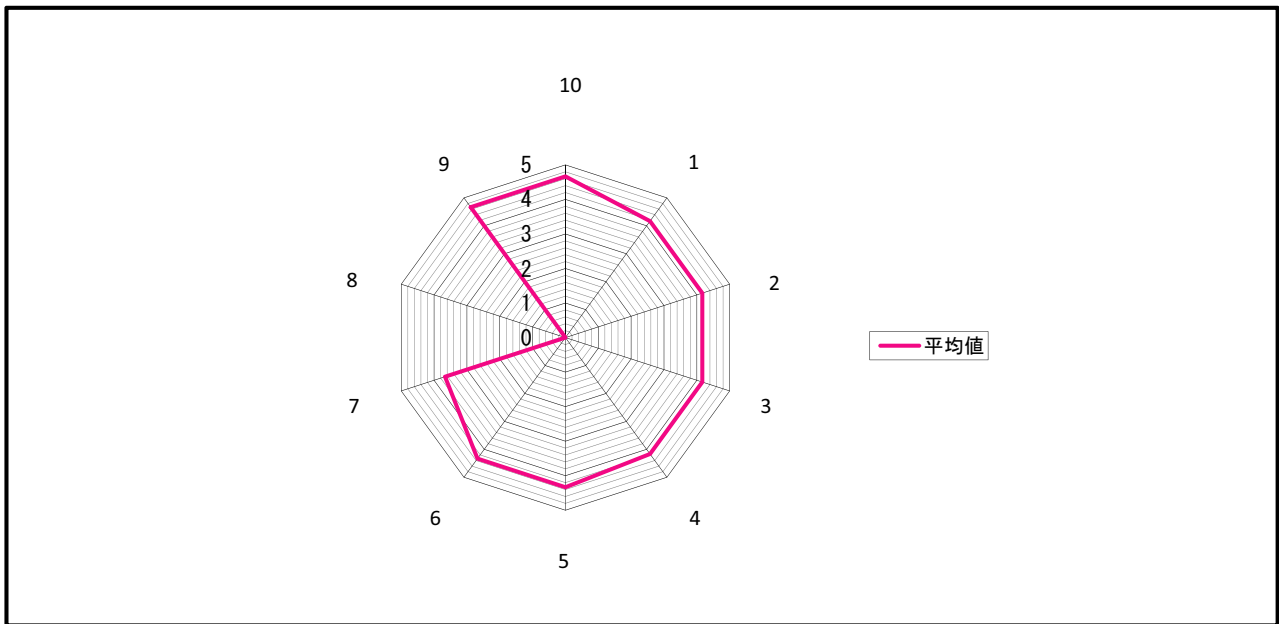
概ね良好な結果となった。教科書・資料で評価3が多いことに関しては、毎年、苦慮している。講義の内容上、購入を前提にすると高額な専門書が5冊以上は必要になる。

結果報告書

授業科目名 材料及び加工学演習
 評価実施日 平成24年7月26日
 担当教員名 米延 仁志

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	3	1			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3	1			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	5				4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2		1		4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	4				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2	1			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2	3			3.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	2				4.7



教員のコメント

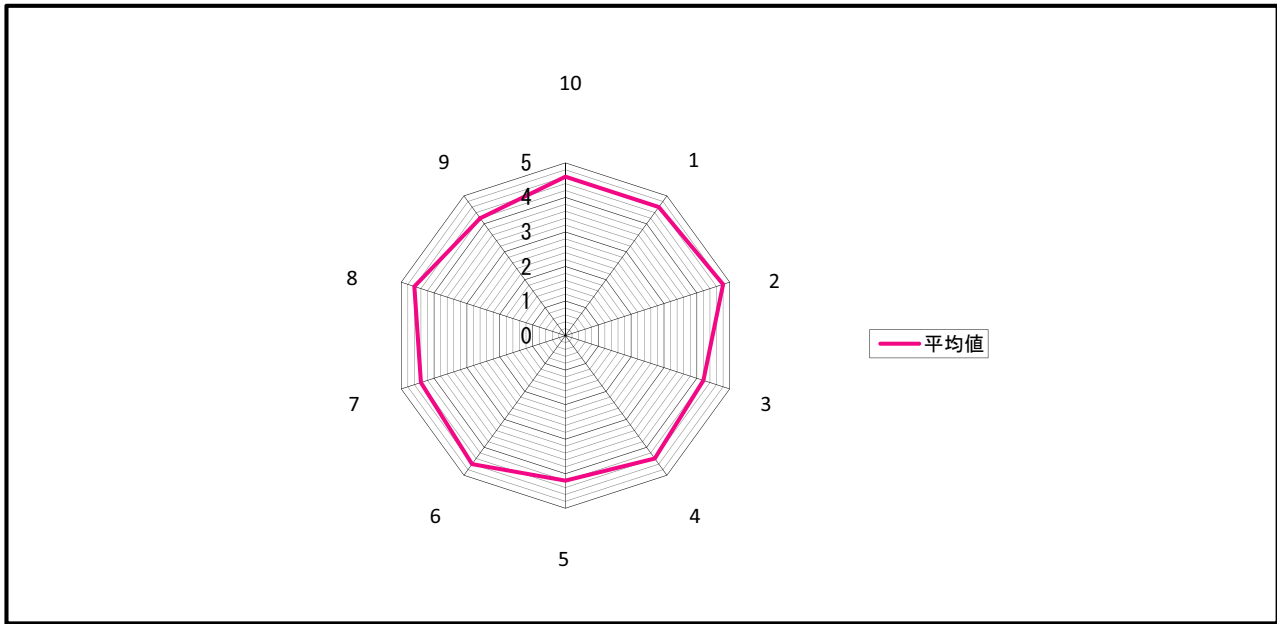
総合評価が4.7ポイントであり、概ね良好な結果となった。本講義は教科書や資料の使用を前提としていない演習であり、そのことを説明した。この項目に回答があったことは不思議である。

結果報告書

授業科目名 情報科学研究
 評価実施日 平成24年7月23日
 担当教員名 伊藤 陽介

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1		1		4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1	1			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2	1			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	2	1			4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2				4.6



教員のコメント

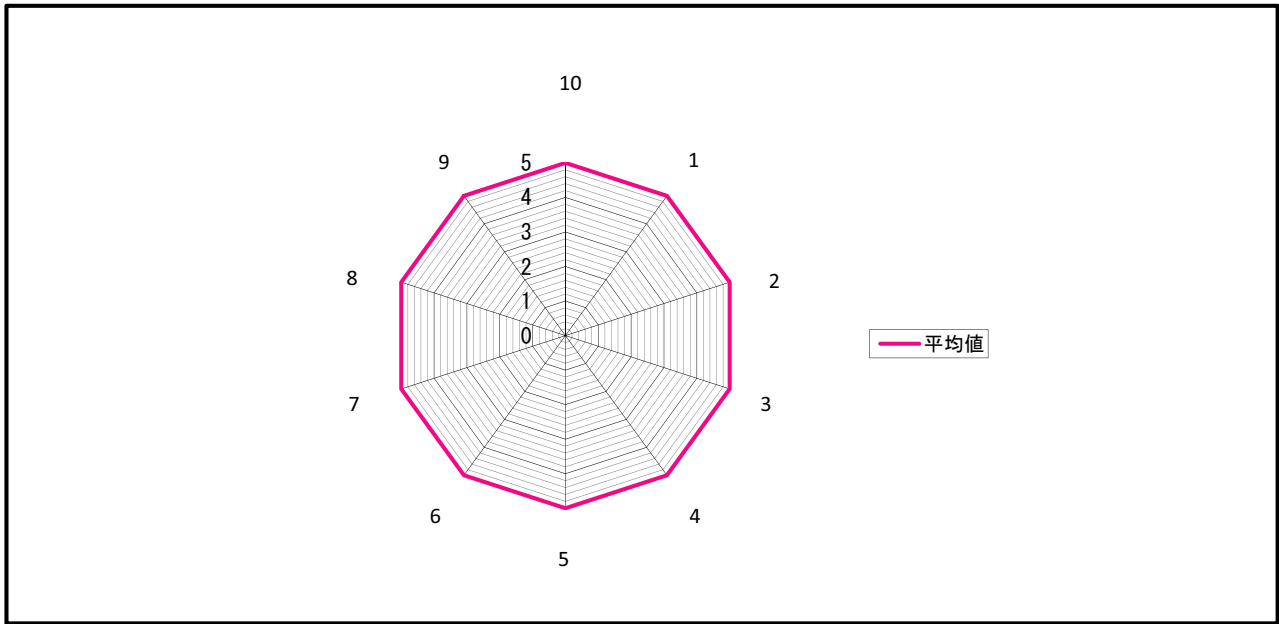
総合評価ならびに各項目の評価のバランスがよく、受講生のコメントからも授業内容に関する評価は高く、概ね本授業は満足されているのではないかと推測される。

結果報告書

授業科目名 信号情報処理研究
 評価実施日 平成24年7月19日
 担当教員名 菊地 章

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



教員のコメント

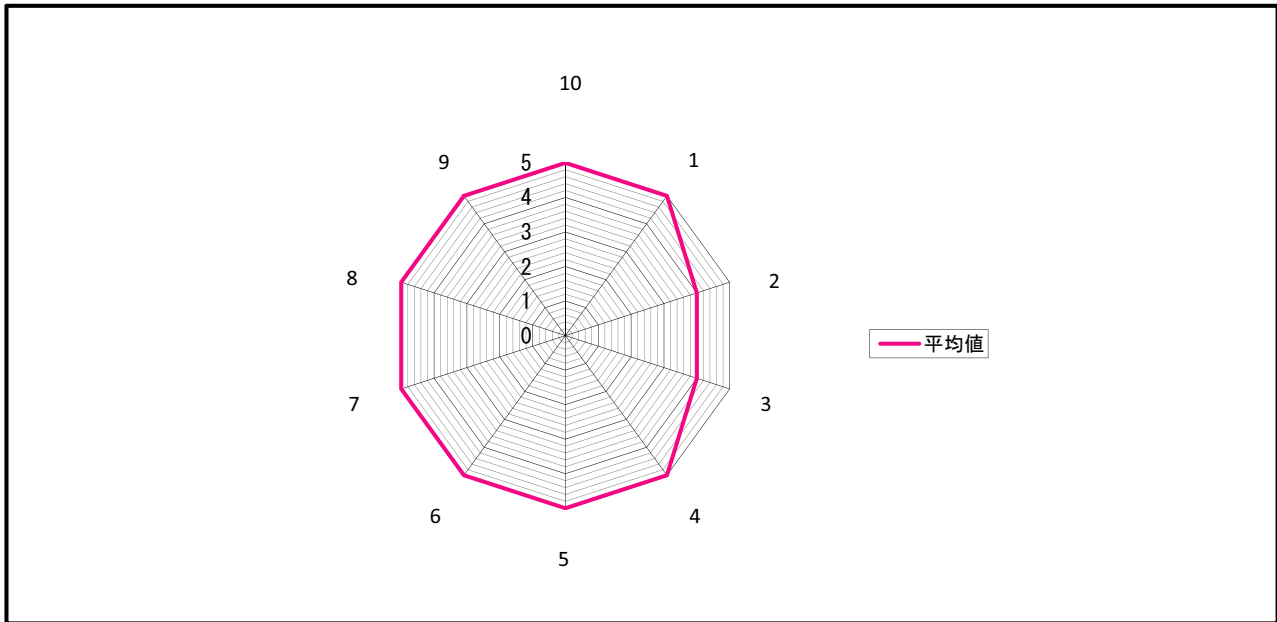
受講者が一人であったために、受講者の要望に合わせた授業ができた。また非常に優秀な学生であったために授業進行がスムーズで、本学開学時からの授業で最も充実した授業となった。

結果報告書

授業科目名 シミュレーション研究
 評価実施日 平成24年9月21日
 担当教員名 高曾 徹

回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



教員のコメント

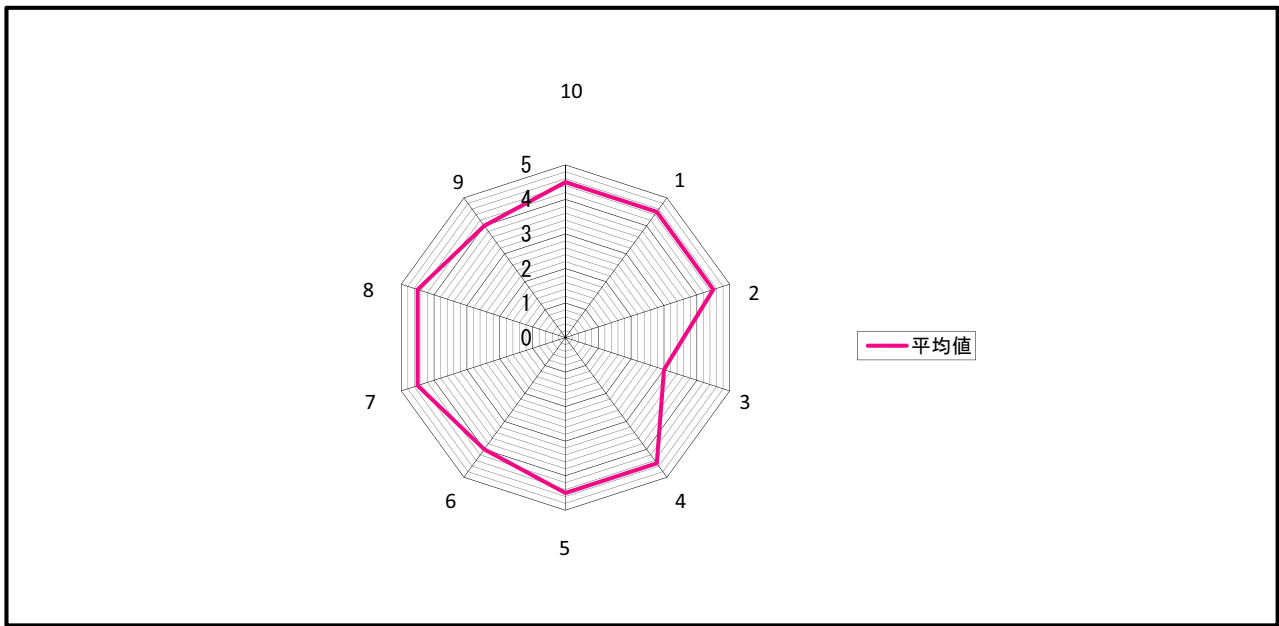
熱心に聴講していたように思います。この講義で得たことを授業でどうかすか、という観点を今後の講義には含めるか検討したいと思います。

結果報告書

授業科目名 計算力学研究
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 畑中 伸夫

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1		1		3.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		2				4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



教員のコメント

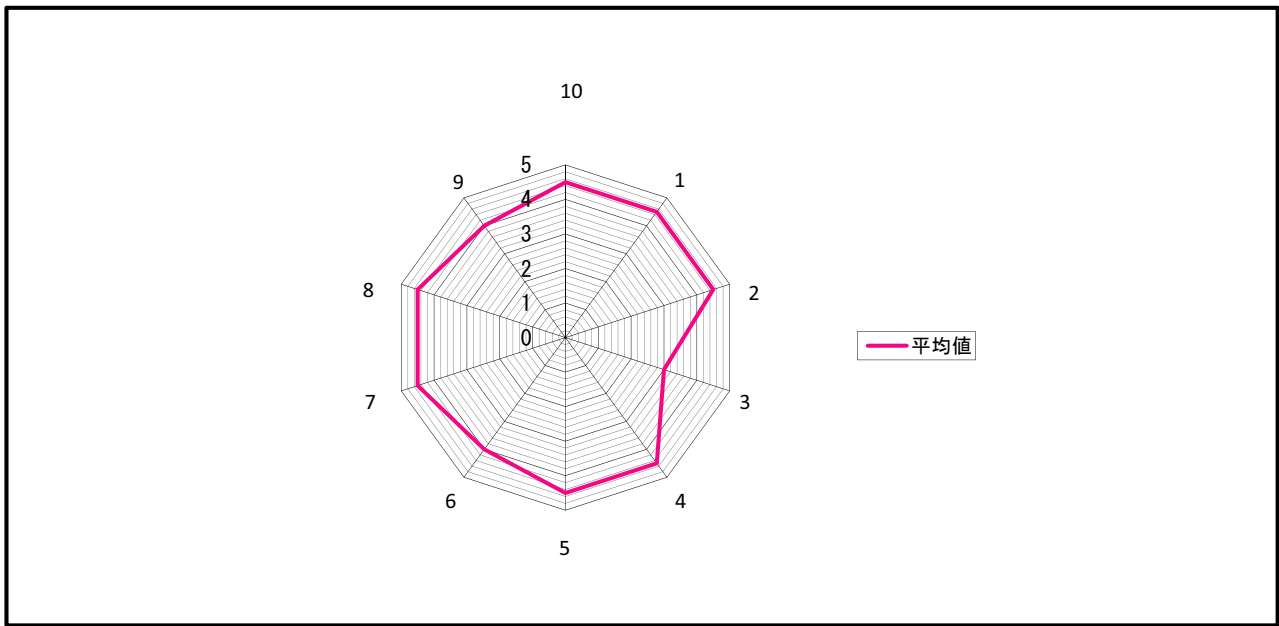
受講者数が2名であり、ともに他の授業も担当したこともあることから、アンケートの成績が良い方に出ている傾向がある。
 項目3に関しては、本アンケートの持っている弱点であるが、「評価2」は改善を求められている。当該授業の専門性の高さから「教師の実
 践力の育成」に結びつけることを軽視していたことを反省し、来年への糧としたい。
 項目6の分かりやすい説明については、確かに科目の性格上「数式」を使って展開する内容も多いが、大学院生であるからこれくらいは
 自ら学習して理解することを望む。大学院の授業が講義だけで理解できると考えるのは甘えである。院生に反省を求めたい。

結果報告書

授業科目名 計算力学演習
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 畑中 伸夫

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1		1		3.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		2				4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



教員のコメント

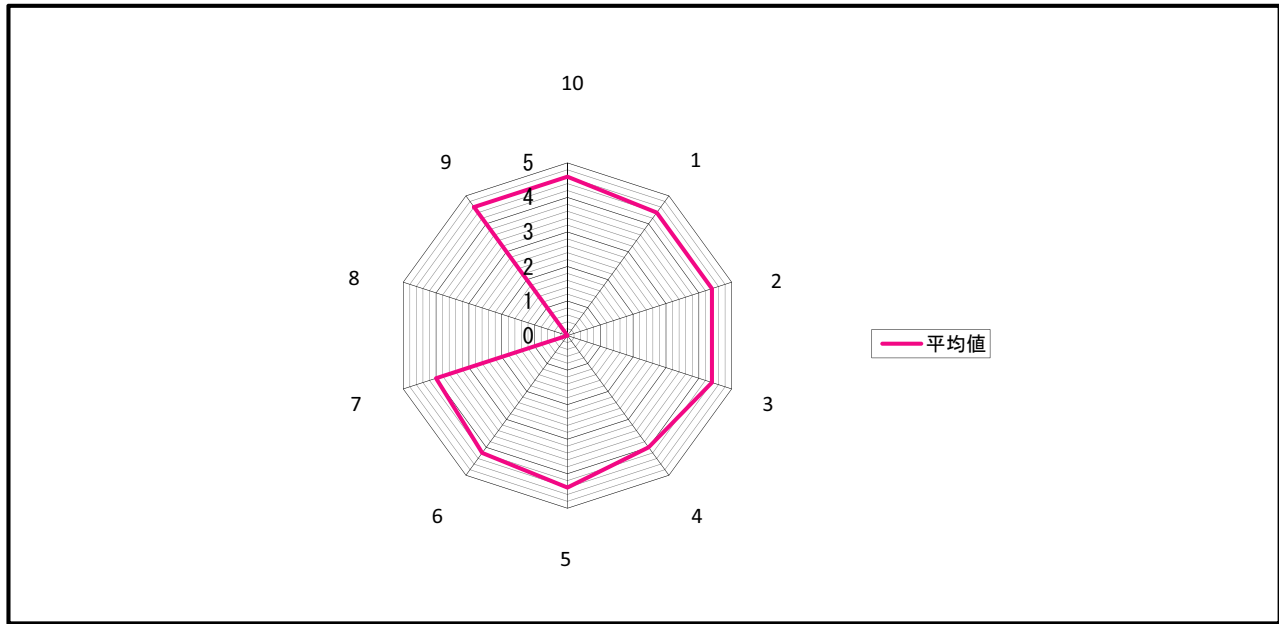
受講者数が2名であり、ともに他の授業も担当したこともあることから、アンケートの成績が良い方に出ている傾向がある。項目3に関しては、本アンケートの持っている弱点であるが、「評価2」は改善を求められている。当該授業の専門性の高さから「教師の実践力の育成」に結びつけることを軽視していたことを反省し、来年への糧としたい。項目9については、授業が演習であり学生は課題に取り組んでいたと思っていたが、彼ら自身の自己評価が少し厳しすぎると考える。

結果報告書

授業科目名 木質材料加工法演習
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 米延 仁志, 尾崎 士郎

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2		1		4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	3				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2	1			4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1	2			4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2				4.6



教員のコメント

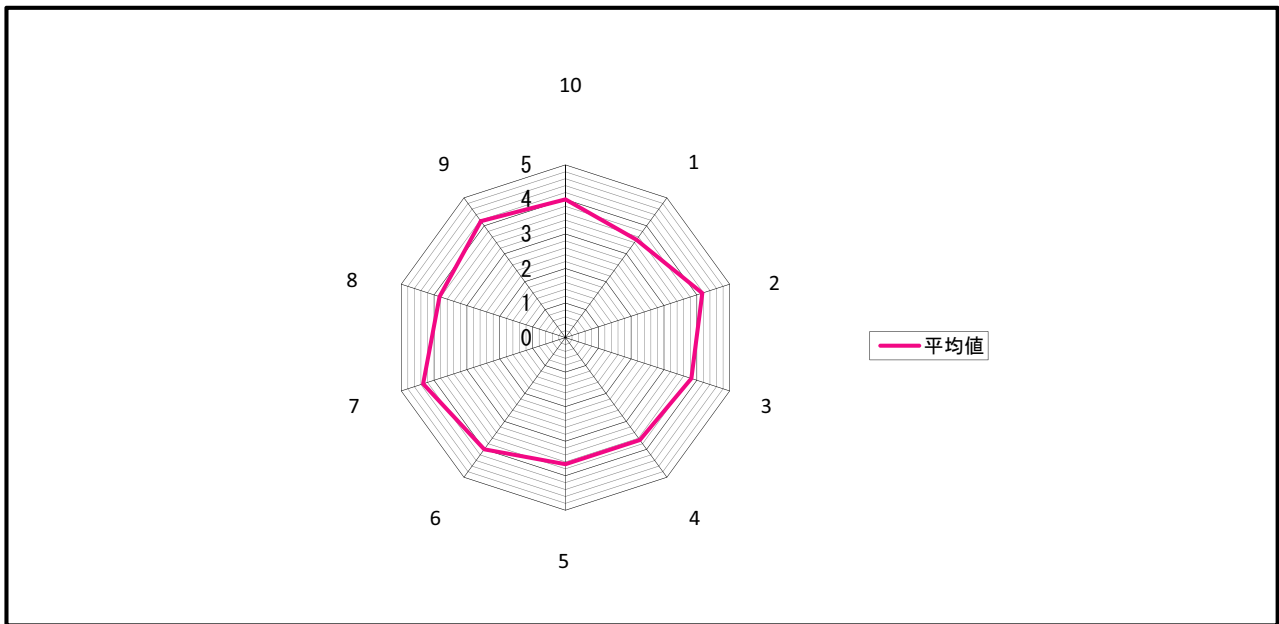
総合評価が4.6ポイントであり、おおむね良好な結果であった。

結果報告書

授業科目名 技術科教育研究
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 尾崎 士郎, 宮下 晃一

回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2	2	1		3.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3	1			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	3	2			3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2		2		3.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	3	1	1		3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	3		1		4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2	1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1	3			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	3	1			4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	3	1		1	4.0



教員のコメント

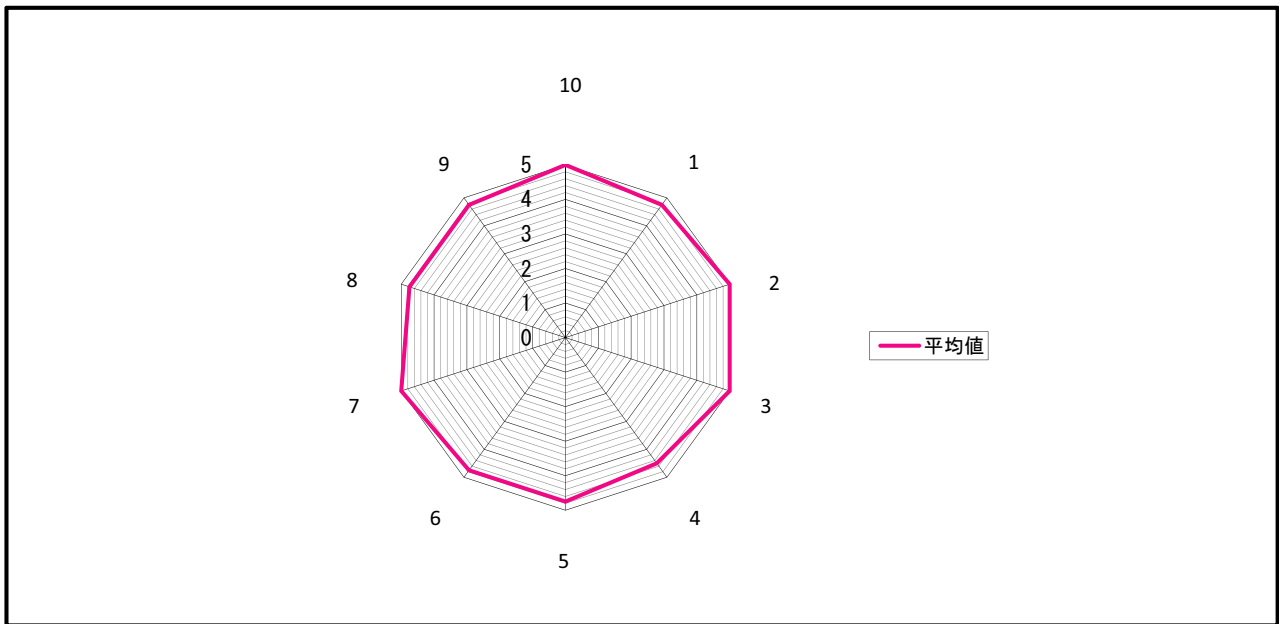
平均点が約4.0である。例年であれば、かなり高い評価をえていたが、今年度は相対的に低い。間接的な理由として、今年度から出張が多くなり、6月と7月に集中して補講を繰り返して、15コマを確保して講義したことが影響しているように感じる。「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。」「(7)教科書や配布された資料は、適切であった。」「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。」ほかで評価が高く、研究論文を整理して利用し、調べ学習を行ってもらい、ディスカッションを多く取り入れたことに好感を持ってくれた可能性がある。一方で、例年に比較して、演習課題が少なかったことが、例えば「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」などで評価が低調であった可能性がある。改善したい。

結果報告書

授業科目名 教育と情報活用
 評価実施日 平成24年9月26日
 担当教員名 益子 典文

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

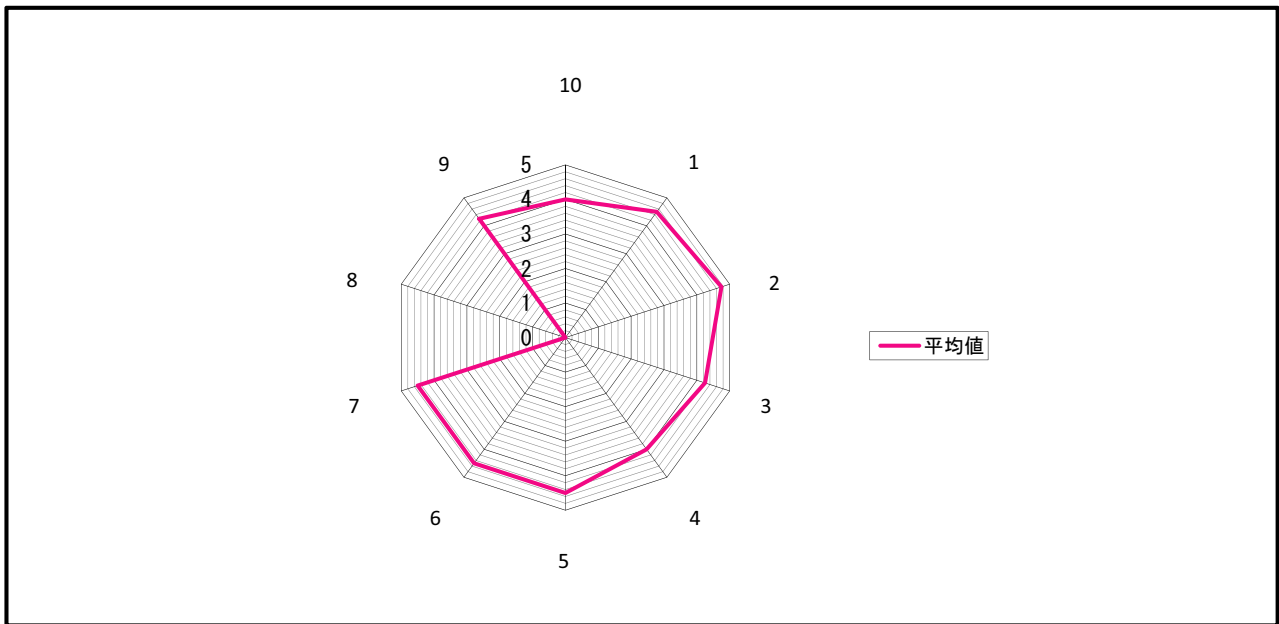
総合的によい授業であったとの反応であったので安堵いたしました。
 受講生が全員、熱心に取り組んでくれたためだと思います。
 また、私の立場から考えると、受講生が様々な場面で反応を返してくれたため、受講生の理解度に応じながら授業を展開することができ
 からと思われまます。

結果報告書

授業科目名 家族・ジェンダー研究
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 黒川 衣代

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	2				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2	1			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。						
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3			1		4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	2	1			4.0



教員のコメント

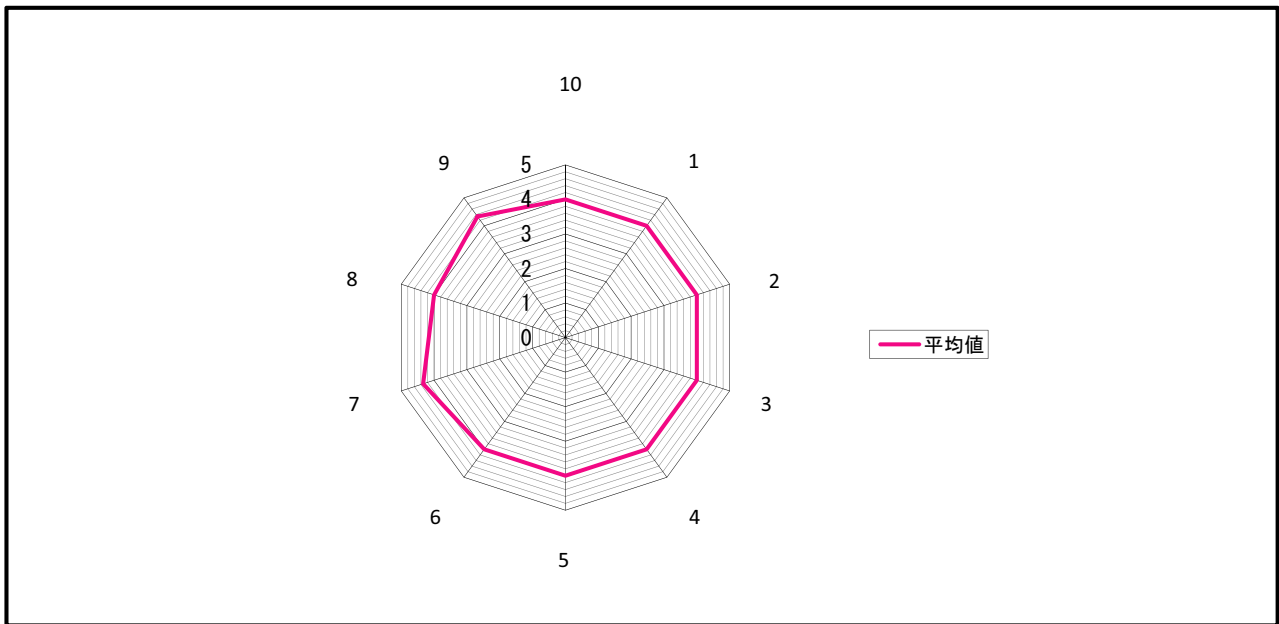
成績評価の方法については第1回目の授業時に説明をしているが、記憶に残っていないことが考えられるので、最後に再度説明をするなど説明方法の工夫が必要である。専門科目であるので授業実践そのものが授業内容の中心にはならないが、実践力の背後には専門的知識が必要であることをふまえ、実践との関連に考慮して内容を再考したい。授業への取り組みにばらつきが見られるので、受講生の意欲や取り組み姿勢にさらに気を配りながら、授業改善を図りたい。

結果報告書

授業科目名 衣生活学研究
 評価実施日 平成24年7月31日
 担当教員名 福井 典代

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		3				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。		3				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		3				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		3				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1	1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。		3				4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		3				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。		3				4.0



教員のコメント

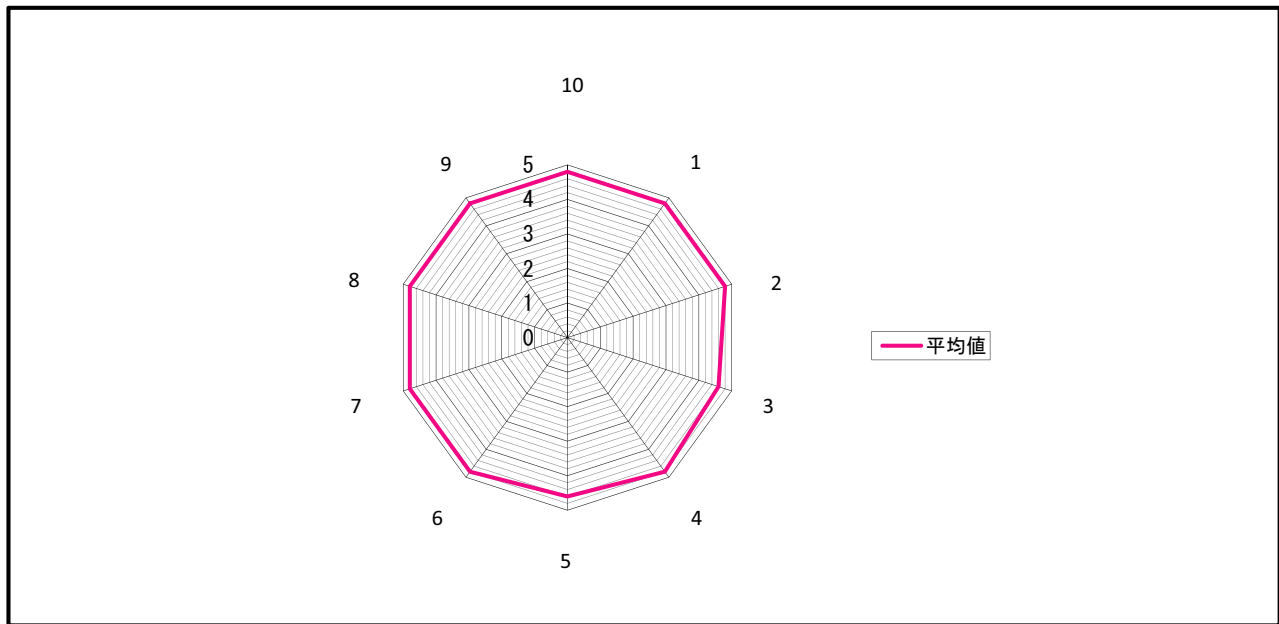
この授業では、衣生活に関する基本的な知識を学習するとともに、関連する実験・実習を行った。少人数ではあるが、大学時代に学習した内容の違いが大きく、どのレベルに合わせたらいいか苦慮した。学生全員が教員になることをめざしているの、なるべく基礎的な専門知識を繰り返して学習することに力を入れた。その結果、良好な授業評価を得た。授業でよかったことでは、「藍染めが体験できた」、「実験をたくさんやったこと」であり、この授業で力を入れている実験・実習に関する内容であった。改善すべき点として、「3人しか学生がいないので、そんなに声をはりあげなくても大丈夫です。」という意見が寄せられた。これからの授業で改善したい。

結果報告書

授業科目名 食生活学研究
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 前田 英雄, 西川 和孝

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



教員のコメント

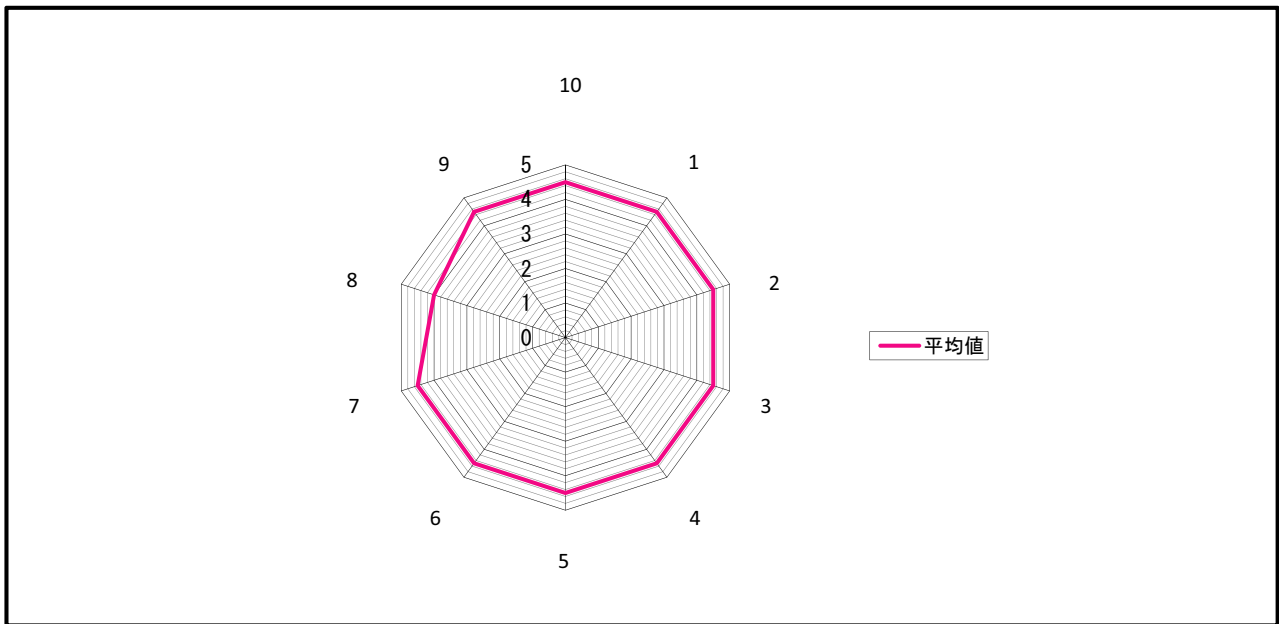
平成24年度前期に開催されるこの授業科目には6名が受講したが、アンケートの回収は5名分であった。受講生の3名は現職教諭、3名は他大学出身であり、1名は管理栄養士養成校の出身者であり、管理栄養士と栄養教諭を所得している学生であった。この授業の基礎となる食品学、栄養学および調理学を学んだことのない学生や学んでいてもその深さの程度が多様である。そのため専門的用語は必要最低限にして授業をすすめた。授業担当者としては限られた授業時間内に講義内容をどこに焦点を合わせるかが難しい点があったが、「授業内容について」「教員の授業の進め方について」の評価は概ね良かった。一方、受講者による「あなたの授業への取り組みについて」も良く、積極的に授業を受けているように思われた。オムニバスのため授業評価は、それぞれの教員が行い、課題の発表形式と筆記試験の両方で行った。簡単な実験や実習も取り入れて授業をすすめたため、自由記述でその点の評価があった。

結果報告書

授業科目名 住生活学研究
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 金 貞均

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1		1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



教員のコメント

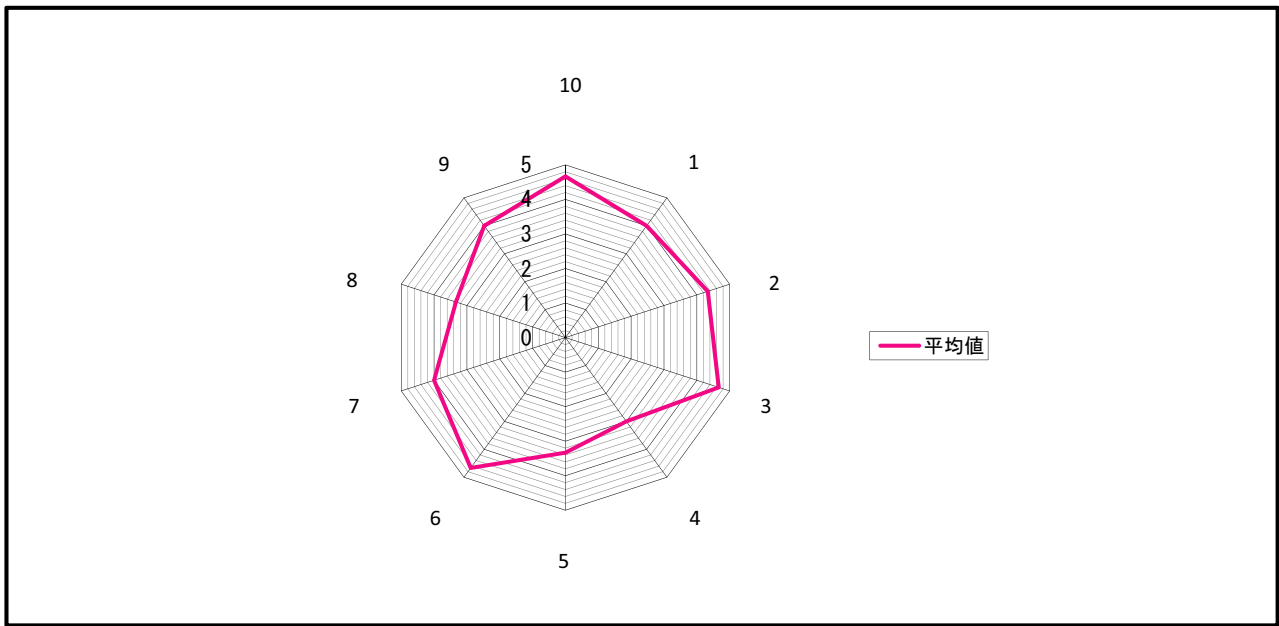
本授業の総合評価は4.5ポイントで、受講生2人とも本授業に対して全般的に好評価であると判断できる。項目(8)板書や視聴覚機器の使用についてはより改善を図っていきたい。「この授業でよかったと思われる点について」の自由記述では、「オンドルについて日本と比較しながら知れたこと。苦手だった住生活の分野について勉強し、少し好きになったこと。」が書かれ、本授業の成果として捉えたい。他の自由記述欄への書き込みはなかった。本授業は少人数授業で、受講生同士で知見を述べ議論し合う場面づくりに少々難点はあるが、議論を通して深め合う授業を工夫していきたい。

結果報告書

授業科目名 家庭科教育学研究
 評価実施日 平成24年7月19日
 担当教員名 速水 多佳子

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		3				4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。			3			3.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。		1	2			3.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。		3				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。		1	2			3.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		3				4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



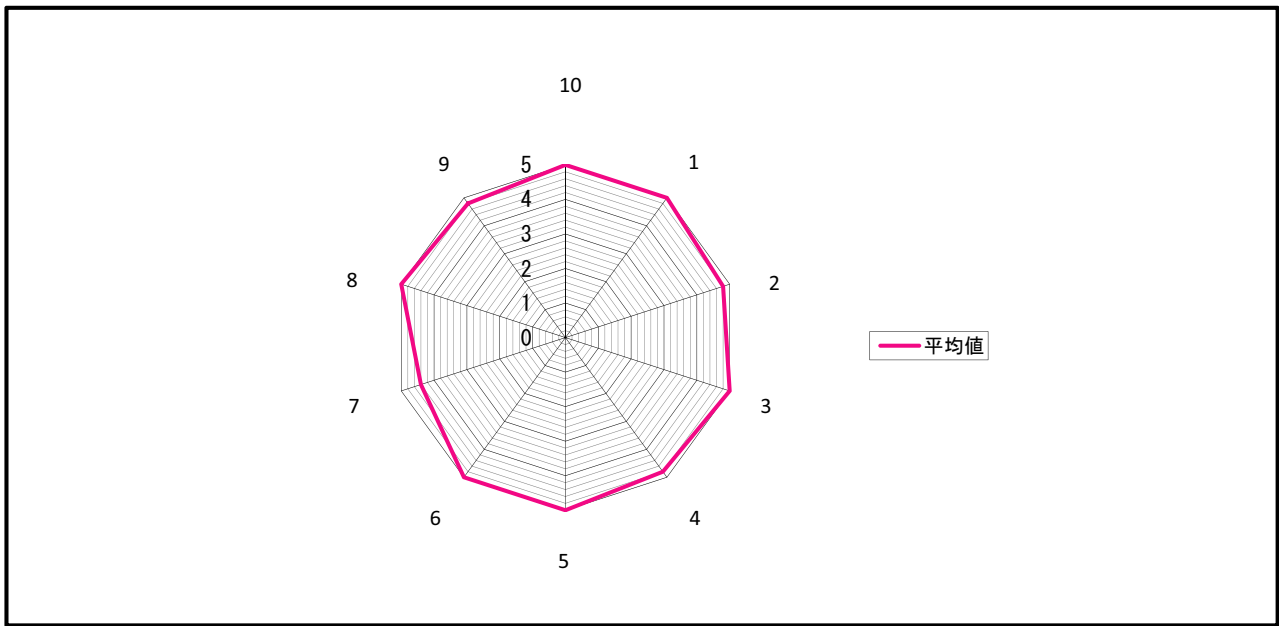
教員のコメント

受講生が3名と少なかったが、その特性を生かして意見交換の時間を十分に取るという授業を行うことができた。受講生の大学院修了後の進路が、3名とも教員(小学校・中学校)を目指していたため、学校教育現場ですぐに生かせるような内容を、私自身のこれまでの教員生活の経験に基づいて扱った。受講後の感想として、「学校現場の話をたくさん聞くことができ参考になった。」「現場での現実的な判断の仕方など、他の授業ではなかなか聞くことができなかつた気になることを知ることができた。」などの感想があった。「(4)成績評価の方法の説明は、適切であった」の項目が3.0と平均値が低い。これは、少人数の授業ということもあり、学生の様子を見てから授業の方針を決めたため、教員側からの成績評価の方法の提示を最初に行わなかつたためであると考えられる。今後は、人数にかかわらず、明確に提示するようにしたい。

結果報告書

授業科目名 国際教育人間論
 評価実施日 平成24年7月27日
 担当教員名 近森 憲助, 石村 雅雄, 小澤 大成, 石坂 広樹 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	3				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

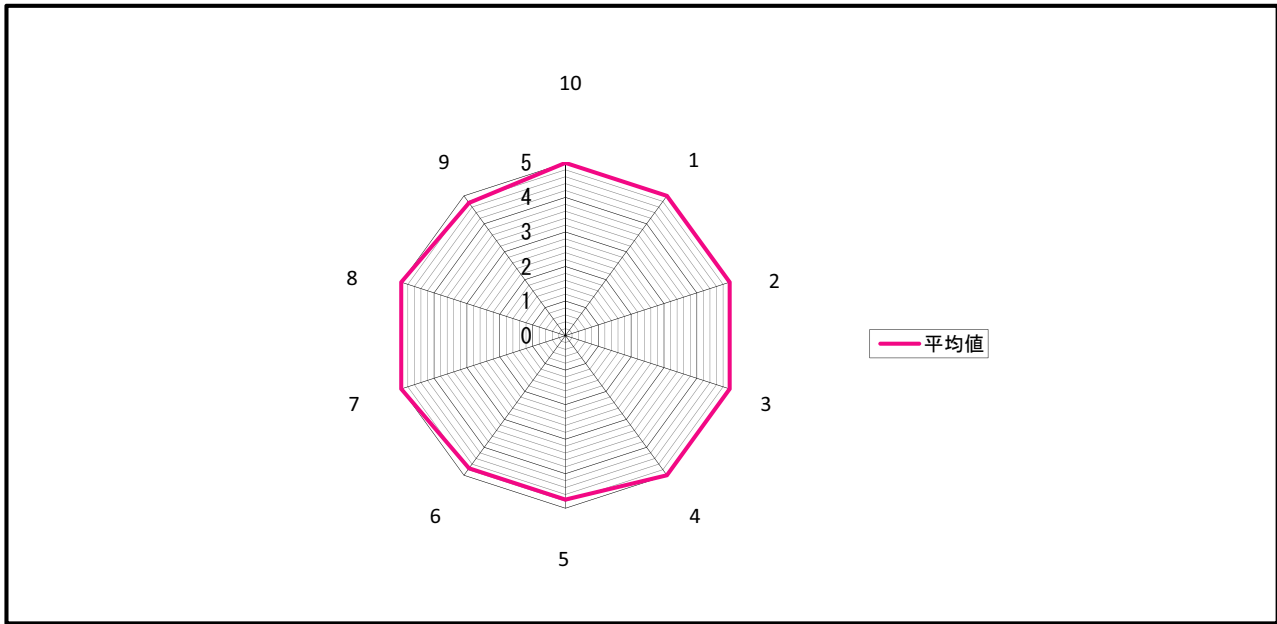
本授業は、今年度初めて開講されたものであるが、受講生の評価が極めて高かったことは、大変喜ばしい限りである。その一因は、各担当者が国際教育支援や国際理解教育に何らかの形で関わってきた経験と、そこからの学びを踏まえて授業内容をデザインしたことにあるように思われる。国際教育支援や国際理解教育に関する担当者のスタンスは必ずしも一致していないが、そのことが授業内容をより豊かにしたものと思われる。今年度の授業の成果を踏まえて、今後より良い授業展開を目指していきたい。

結果報告書

授業科目名 教育研究・調査
 評価実施日 平成24年7月20日
 担当教員名 石坂 広樹, 小澤 大成

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

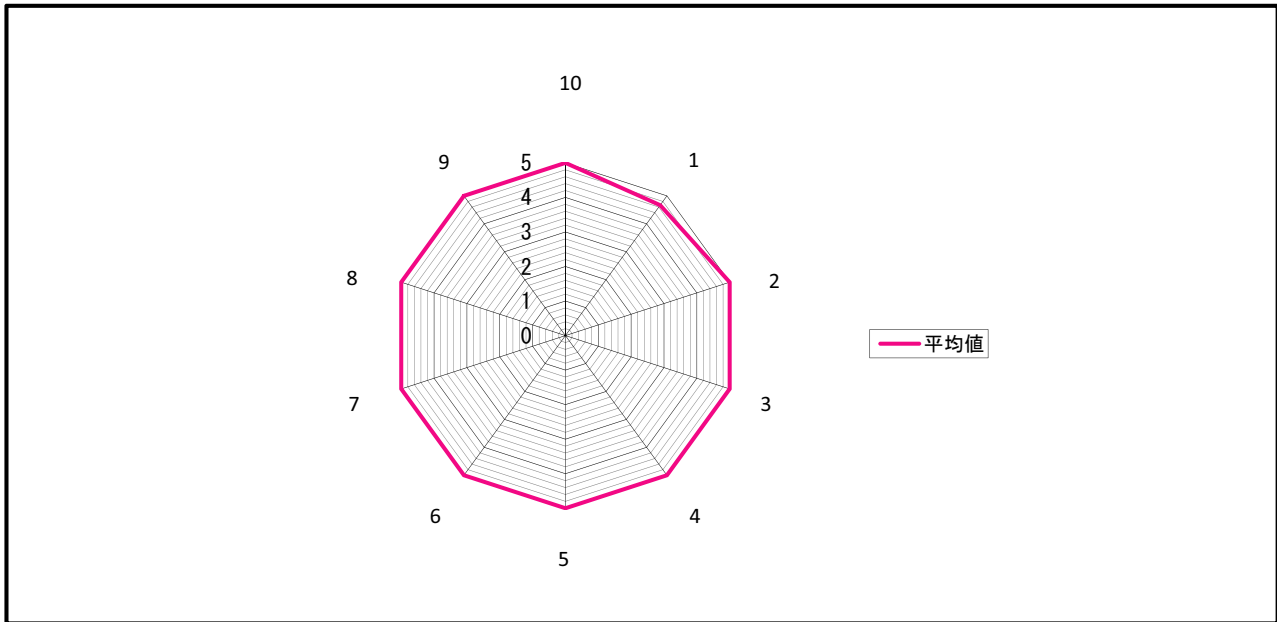
総合評価結果で示されている通り、概ね期待していた授業効果があがったものとする。今後も内容の刷新・追加に取り組んでまいりたい。

結果報告書

授業科目名 国際理解教育特論 I
 評価実施日 平成24年7月30日
 担当教員名 近森 憲助, 小澤 大成

回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



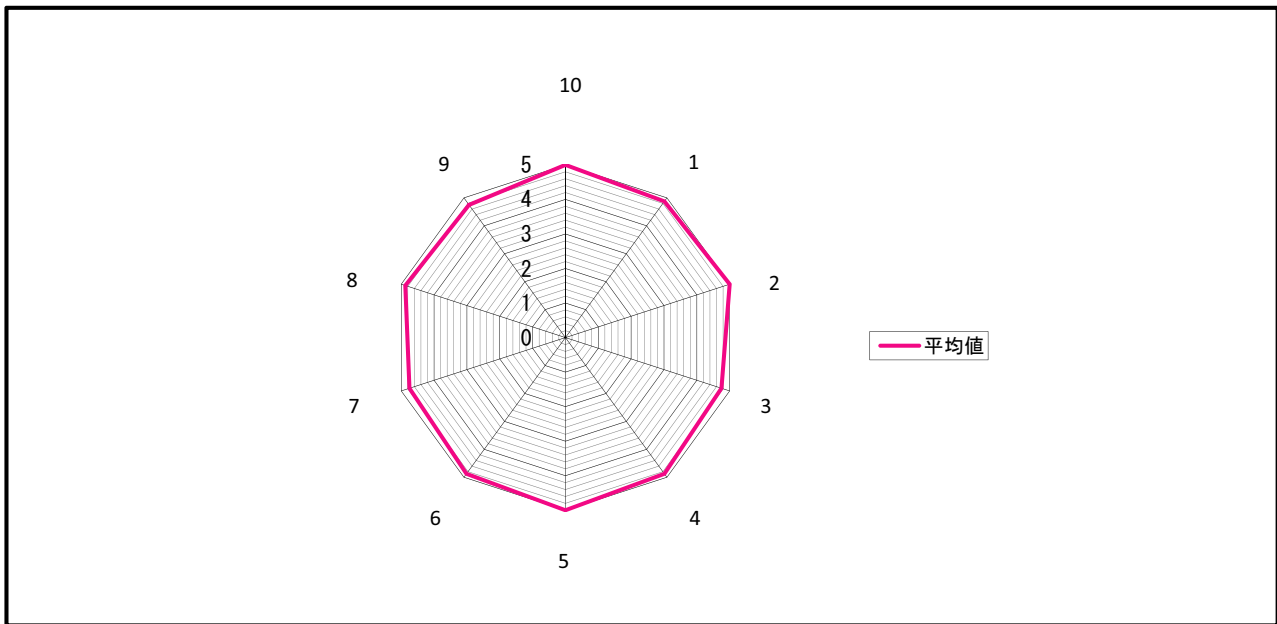
教員のコメント

受講生が3名と少ないため、極めて高い評価をそのまま受け入れてよいか、どうかについては若干の躊躇を覚える。しかし、授業では、これまでの国際理解教育に関するフォーラム等の資料を活用し、受講生自らが国際理解教育についての考え方を構築できるよう配慮した。また、実際の活動を多く取り入れ、実践に関する知を培うよう授業内容を工夫した。このような点が授業に対する極めて高い評価につながったものと考えられる。

結果報告書

授業科目名 国際教育総合セミナー I
 評価実施日 平成24年7月17日
 担当教員名 近森 憲助, 石村 雅雄, 小澤 大成, 石坂 広樹 回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7		1			4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8					5.0



教員のコメント

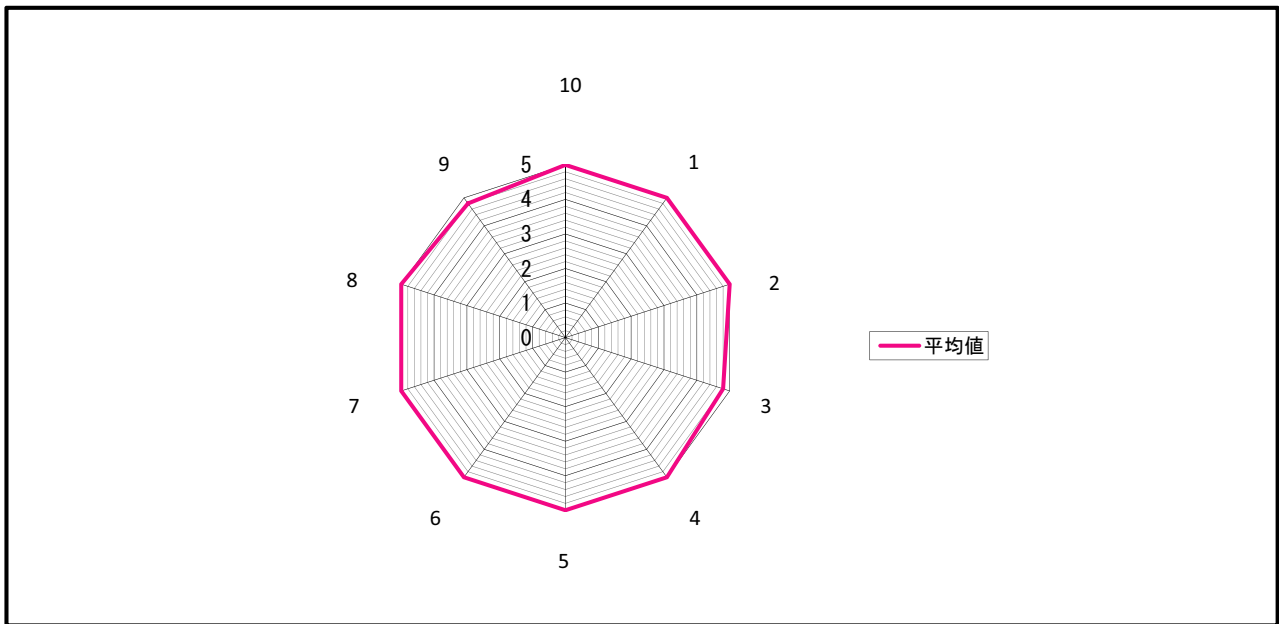
本授業では、受講生が取り組んでいる課題研究に関する発表及び発表内容に関するディスカッションを通して課題研究の質を高め、修士論文の作成へとつなげることを意図した。このような極めて高い評価を得たことは、授業担当者の意図が具体的な形で受講生に認識されていることを示唆している。課題は、発表や協議の質を今後さらに高めていくことにある。

結果報告書

授業科目名 国際教育協力研究
 評価実施日 平成24年9月26日
 担当教員名 石坂 広樹

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



教員のコメント

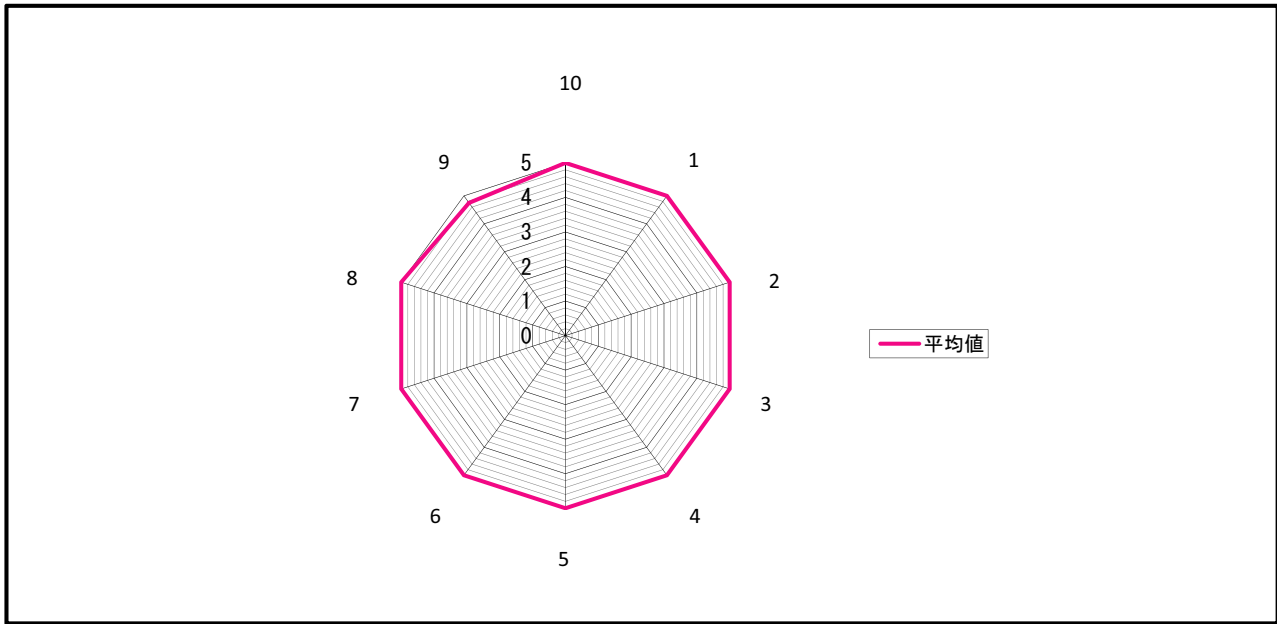
教育が教育セクター外、社会においてどのように捉えられ、また、何を期待されているかについて、かなり深い議論を交わした。経済学など、教職経験者にはなじみのない学問を取り扱ったが、総合評価にもあるように、高い評価を得ることができた。今後も、なるべくわかりやすくするように授業改善に取り組みたい。

結果報告書

授業科目名 国際教育協力演習
 評価実施日 平成24年9月29日
 担当教員名 石坂 広樹、近森 憲助

回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



教員のコメント

授業当初目標としていた、国際協力プロジェクトの作成と評価の手法をすべての学生が習得できた。授業評価もそれに伴って高い点となったものとする。今後も更なる授業改善に取り組みたい。